

中央区政世論調査

報告書

第50回 令和2年9月実施



中央区

は　じ　め　に

区政運営のための指針づくりや施策の実施にあたっては、区民の皆さまの多様な意見・要望をさまざまな手段を講じて聴取し、把握・分析したうえでの確に反映させていくことが大切です。

そのため、区では、区長への手紙、区政への提案制度など各種の広聴活動を行っています。

「区政世論調査」もその一つとして、区民の皆さまの意見を統計的に把握するもので、昭和40年から実施し今回で50回目となりました。今回の調査では、「定住性」「防災対策」「健康診査」「高齢者施策」「子育て支援」「男女共同参画社会」「防犯対策」「スポーツ」「築地魚河岸」「広報」「施策の要望・評価」の11項目についてお伺いしました。調査結果は、今後の区政運営の基礎資料として活用していきますが、多くの皆さまに参考としていただければ幸いです。

おわりに、調査にご協力いただきました区民の皆さまに厚くお礼申し上げます。

令和3年2月

中央区企画部広報課

I 調査のあらまし	1
1 調査の目的	3
2 調査の項目	3
3 調査の設計	3
4 回収結果	4
5 地域区分	4
6 この報告書の見方	4
7 調査方法略歴	6
II 回答者の属性	7
1 性別	9
2 年齢	9
3 職業	9
4 居住地域	10
5 同居家族	10
6 住居形態	10
7 家族構成	11
8 家族の状況	11
9 ライフステージ（7分類）	11
III 地域別にみた回答者の属性	13
1 年齢	15
2 職業	15
3 同居家族	15
4 住居形態	16
5 ライフステージ	16
IV 調査結果の分析	17
【1 定住性】	19
(1) 居住年数	19
(2) 愛着心	22
(3) 定住意向	25

目次

【2 防災対策】	28
(1) 家庭での災害に対する備え	28
(2) 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え	33
(3) 防災拠点の認知度	36
(4) 災害に備えた地域の協力体制	39
(5) 避難の際に心配なこと	41
(6) 災害時に協力したいと思う活動	45
(7) 災害情報を得る手段として有効だと思うもの	49
(8) ペットの飼育状況	52
【3 健康診査】	53
(1) 加入している健康保険	53
(2) 健康診査の受診状況	56
(3) 健康診査を受けなかった理由	59
(4) がん検診の受診状況	63
(5) 受診したがん検診の種類	65
(6) がん検診を受けなかった理由	67
【4 高齢者施策】	70
(1) 要介護時における暮らし方	70
(2) 区に望む高齢者保健福祉サービス	74
(3) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	77
【5 子育て支援】	79
(1) 子育てに関する悩みの相談	79
(2) 重要と考える子育て支援策	83
(3) さらに充実を図る必要がある子育て支援策	87
(4) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	91
【6 男女共同参画社会】	93
(1) 男女の地位の平等感	93
(2) ワーク・ライフ・バランスの現在の状況	106
【7 防犯対策】	110
(1) 不安に感じる犯罪	110
(2) 防犯のために行っていること	114
(3) 区に特に力を入れてほしい施策	118

【8 スポーツ】	122
(1) 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類	122
(2) 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度	127
(3) スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと	131
【9 築地魚河岸】	136
(1) 「築地魚河岸」への来場経験	136
(2) 「築地魚河岸」への来場目的	139
【10 広報】	140
(1) 広報紙の閲覧状況	140
(2) 広報紙の入手方法	143
(3) 広報紙を読まない理由	145
(4) 区政情報を得る手段	147
【11 施策の要望・評価】	151
(1) 区の施策の満足度と重要度	151
(2) 区の施策への要望	158
V 結果の数表	163
VI 使用した調査票	183

I 調査のあらまし

I 調査のあらまし

1 調査の目的

区民の生活環境への意識、区の施策に対する評価および区政への意見・要望を把握し、本区の行政施策上の参考資料とする。

2 調査の項目

今回の調査では、次の 11 項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 防災対策
- (3) 健康診査
- (4) 高齢者施策
- (5) 子育て支援
- (6) 男女共同参画社会
- (7) 防犯対策
- (8) スポーツ
- (9) 築地魚河岸
- (10) 広報
- (11) 施策の要望・評価

3 調査の設計

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査対象 | 中央区に居住する満 18 歳以上の男女（外国籍の方を除く） |
| (2) 対象者 | 2,000 人 |
| (3) 抽出方法 | 無作為抽出法
令和 2 年 8 月 1 日現在の住民基本台帳に登録された満 18 歳以上の男女 136,944 人から一定の割合で系統的に抽出 |
| (4) 調査方法 | 郵送法（郵送に準じた配布－郵送回収） |
| (5) 調査時期 | 令和 2 年 9 月 4 日（金）～10 月 14 日（水） |
| (6) 調査機関 | 株式会社エスピー研 |

4 回収結果

(1) 地域別対象者数・回収数・回収率

地域	対象者	回収数	回収率(%)
京橋地域	497	258	51.9
日本橋地域	630	353	56.0
月島地域 (無回答)	873	533	61.1
計	2,000	1,161	58.1

(2) 無効票(率)・無効内訳(率)

事故内訳	実数(率)	内訳比率
転居	46(2.3)	92.0
その他	4(0.2)	8.0
計	50(2.5)	100.0

* 宛名なしで返送されてきた調査票を転居とした。

* 高齢や病気などの理由による調査辞退者をその他とした。

5 地域区分

集計にあたっては、地域特性を把握するため、区役所、特別出張所管内別に、京橋・日本橋・月島の3地域に区分した。

6 この報告書の見方

(1) 注意事項

- ①この報告書の設問および図表中のnとは、設問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。
- ②回答の比率(%)はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までを示した。従って、合計が100%にならない場合がある。
- ③グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- ④回答者数が20に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていないものもある。
- ⑤本文中で、百分率の比較をする際には、ポイントと表記している。
- ⑥統計数値を考察するにあたっては、表現をおおむね以下のとおりとしている。

例	表現
20.0～20.4%	2割
20.5～20.9%	約2割
21.0～23.9%	2割を超える
24.0～26.4%	2割台半ば
26.5～28.9%	3割近く
29.0～29.4%	約3割
29.5～29.9%	3割

- ⑦クロス集計の図表では、分析軸となる質問（性別、性／年齢別など）に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層の n の合計が総数とは一致しない場合がある。
- ⑧複数回答の設問におけるクロス集計の分析については、タイトルに（上位10項目）や（5項目）などと書き添えているものもある。その場合、「その他」や「無回答」などは項目数として含めずに数えている。

（2）ライフステージについて

ライフステージとは、人間の一生を年齢や結婚、子どもの成長、子どもの独立、子どもの同居の有無などによっていくつかの段階に分けたものである。例えば、今回の調査で30歳代のライフステージ構成をみると、子どもがいないか未就学児のいる「家族形成期」（56.1%）が最も高いが、「独身期」（27.2%）や小・中学生の子どものいる「家族成長前期」（11.8%）もある。このように同じ30歳代でも人生段階は異なり、未就学児のいる人と小・中学生のいる人では、関心を持つ問題なども異なってくる。ライフステージによる分析は、単なる年齢別とは違う人生段階に目を向けた点に特徴がある。

今回の調査では、家族の状況を6分類して、回答者にどの段階であるかを答えてもらい、年齢を考慮して、最終的に「その他」を含む7分類にまとめた。

- ①独身期 = 独身（18～39歳、学生など：親と同居含む）
- ②家族形成期 = 子どものいない夫婦（18～39歳）、
子どもあり（一番上が小学校入学前）
- ③家族成長前期 = 子どもあり（一番上が小・中学生）
- ④家族成長後期 = 子どもあり（一番上が高・大学生）
- ⑤家族成熟期 = 64歳以下で子どもあり
（一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など）
- ⑥老齢期 = 65歳以上で子どもあり
（一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など）
独身（65歳以上）、子どものいない夫婦（65歳以上）
- ⑦その他 = 独身（40～64歳）、子どものいない夫婦（40～64歳）

(3) 標本誤差

標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ下記の通りである。等間隔抽出法、すなわち無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（n）および回答比率（P）によって異なる。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b=標本誤差 N=母集団
n=比率算出の基数（サンプル数）
P=回答比率

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,161	±1.76	±2.35	±2.69	±2.88	±2.93
700	±2.27	±3.02	±3.46	±3.70	±3.78
500	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47
300	±3.46	±4.62	±5.29	±5.66	±5.77

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数が1,161で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.88%以内（57.12～62.88%）である」とみることができる。

7 調査方法略歴

この報告書の一部の設問において過年度比較をしている。比較に用いている各調査年の調査手法をまとめた。

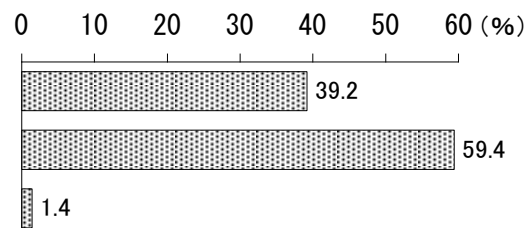
調査年	調査方法	説明	対象とした年齢
昭和63年	面接法	調査員による個別面接調査	満20歳以上
平成4年	面接法	調査員による個別面接調査	満20歳以上
平成8年	面接法	調査員による個別面接調査	満20歳以上
平成12年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成16年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成17年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成18年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成19年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成20年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成21年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成22年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成23年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成24年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成25年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成26年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成27年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成28年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
平成29年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
平成30年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和元年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上

Ⅱ 回答者の属性

II 回答者の属性

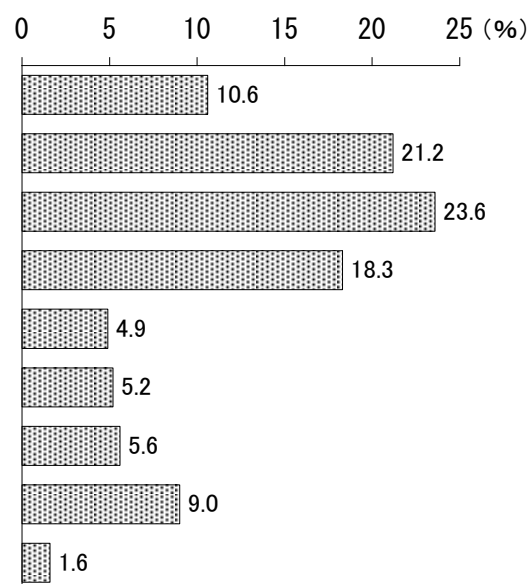
1 性別

	基数	構成比
1 男性	455	39.2%
2 女性	690	59.4
(無 回 答)	16	1.4
合 計	1,161	100.0



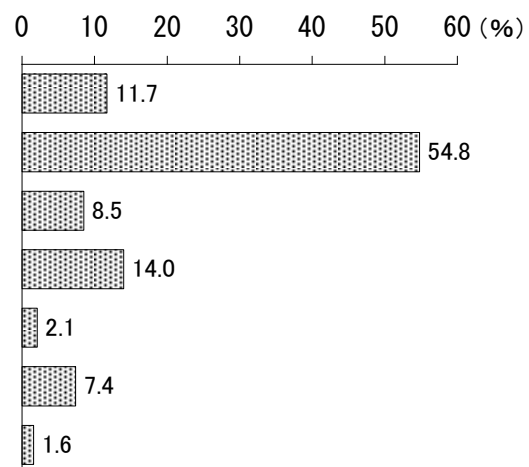
2 年齢

	基数	構成比
1 18～29歳	123	10.6%
2 30歳代	246	21.2
3 40歳代	274	23.6
4 50歳代	212	18.3
5 60～64歳	57	4.9
6 65～69歳	60	5.2
7 70～74歳	65	5.6
8 75歳以上	105	9.0
(無 回 答)	19	1.6
合 計	1,161	100.0



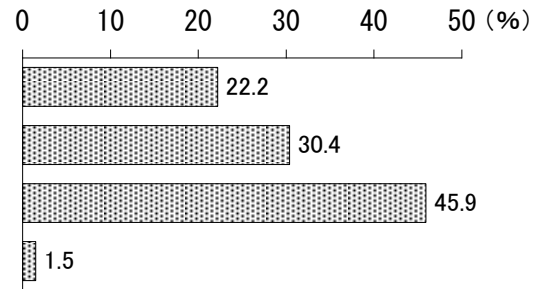
3 職業

	基数	構成比
1 自営業 (家族従業を含む)	136	11.7%
2 勤め人	636	54.8
3 アルバイト・パートタイマー	99	8.5
4 無職 (主婦)	162	14.0
5 無職 (学生)	24	2.1
6 無職 (その他)	86	7.4
(無 回 答)	18	1.6
合 計	1,161	100.0



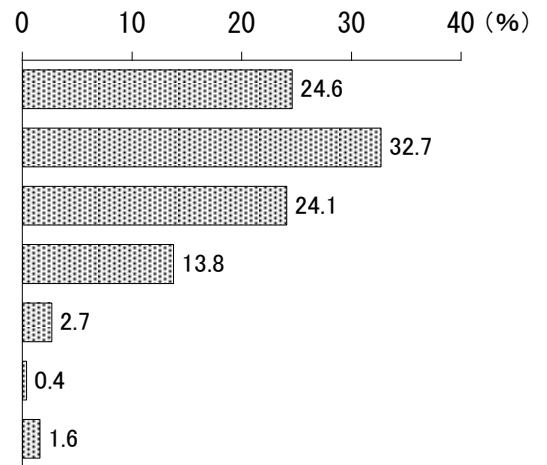
4 居住地域

	基数	構成比
1 京橋地域	258	22.2%
2 日本橋地域	353	30.4
3 月島地域	533	45.9
(無回答)	17	1.5
合計	1,161	100.0



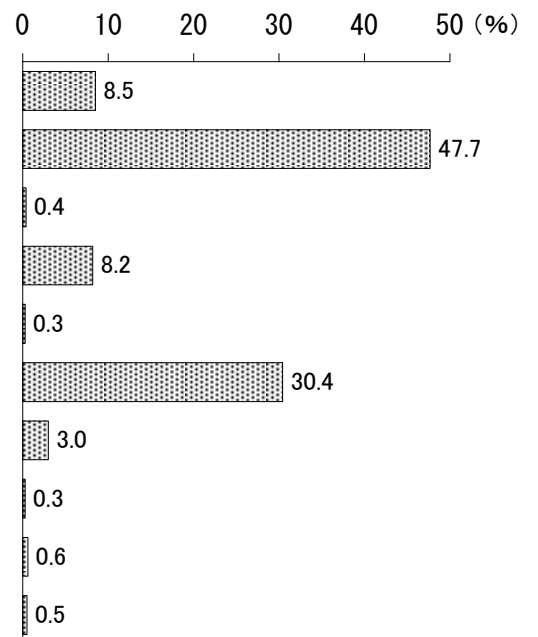
5 同居家族

	基数	構成比
1 1人	286	24.6%
2 2人	380	32.7
3 3人	280	24.1
4 4人	160	13.8
5 5人	31	2.7
6 6人以上	5	0.4
(無回答)	19	1.6
合計	1,161	100.0



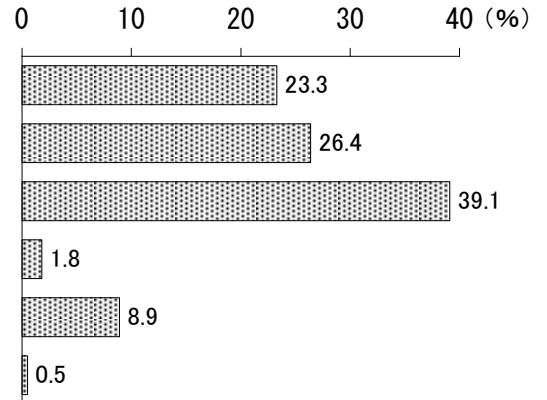
6 住居形態

	基数	構成比
1 持家 一戸建	99	8.5%
2 持家 分譲マンション	554	47.7
3 借家 一戸建	5	0.4
4 借家 公共住宅 (区立、区営、都営、公社、都市再生機構 (旧公団))	95	8.2
5 借家 民間木造アパート	4	0.3
6 借家 民間鉄筋アパート、マンション	353	30.4
7 借家 社宅、官舎、寮	35	3.0
8 借家 間借り、住込み	3	0.3
9 その他	7	0.6
(無回答)	6	0.5
合計	1,161	100.0



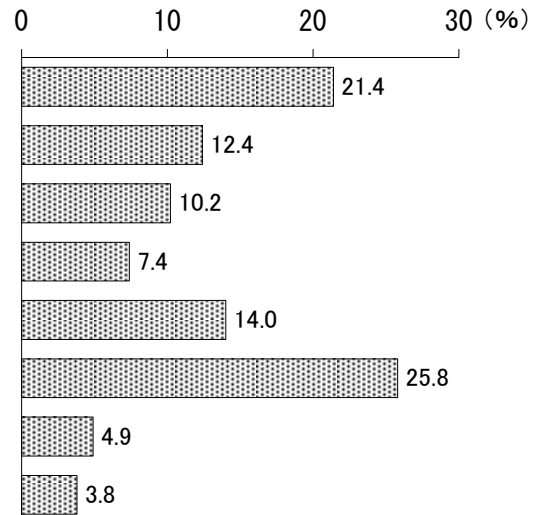
7 家族構成

	基数	構成比
1 ひとり暮らし	270	23.3%
2 夫婦だけ（1世代）	307	26.4
3 夫婦と子どもだけ（2世代）	454	39.1
4 夫婦と子どもと親（3世代）	21	1.8
5 その他	103	8.9
（無回答）	6	0.5
合計	1,161	100.0



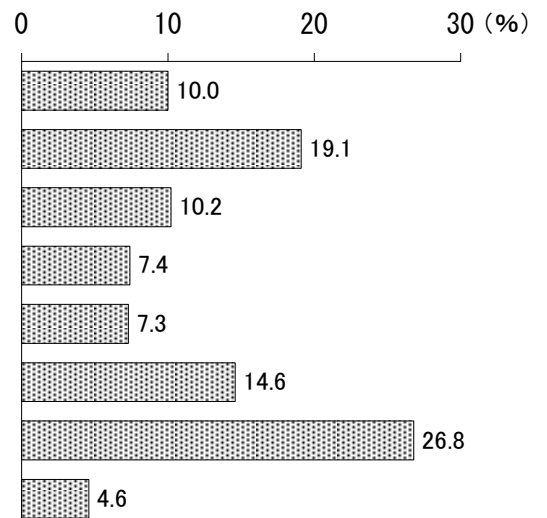
8 家族の状況

	基数	構成比
1 子どものいない夫婦	249	21.4%
2 一番上の子どもが小学校入学前	144	12.4
3 一番上の子どもが小・中学生	119	10.2
4 一番上の子どもが高校・大学生	86	7.4
5 一番上の子どもが学校卒業	163	14.0
6 独身	299	25.8
7 その他	57	4.9
（無回答）	44	3.8
合計	1,161	100.0



9 ライフステージ（7分類）

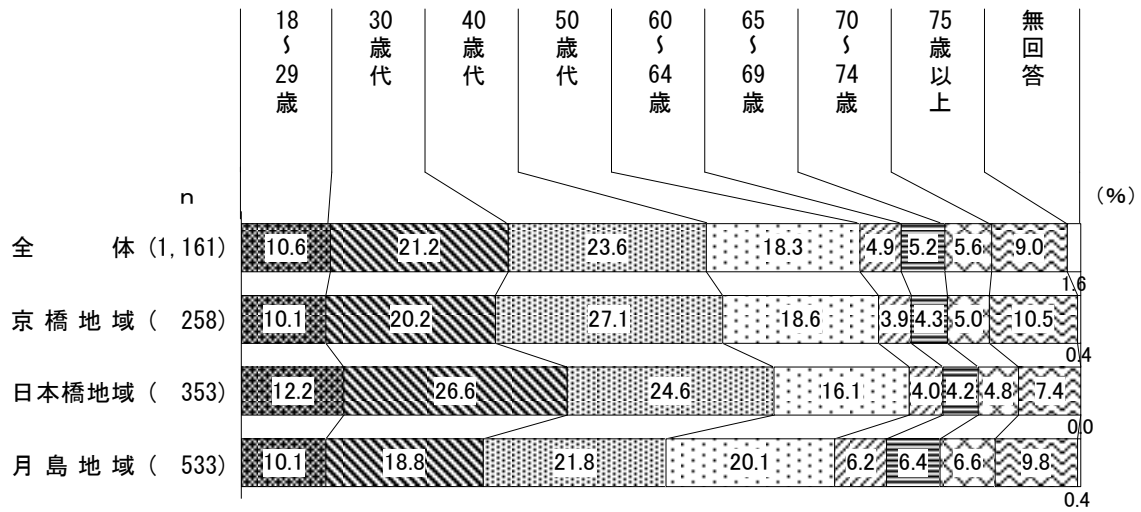
	基数	構成比
1 独身期	116	10.0%
2 家族形成期	222	19.1
3 家族成長前期	119	10.2
4 家族成長後期	86	7.4
5 家族成熟期	85	7.3
6 老齢期	169	14.6
7 その他	311	26.8
（無回答）	53	4.6
合計	1,161	100.0



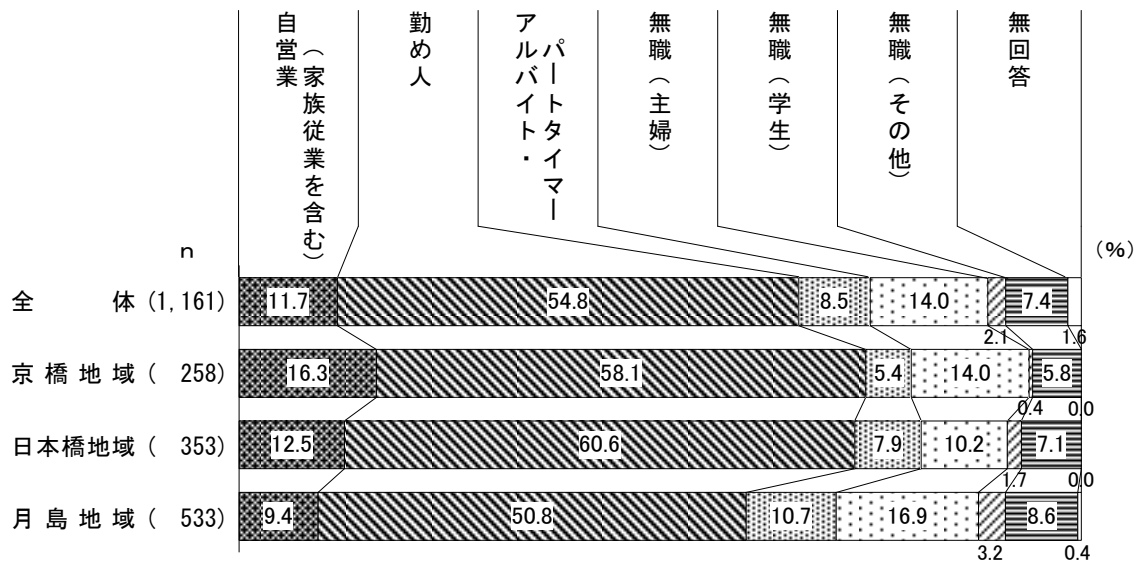
Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

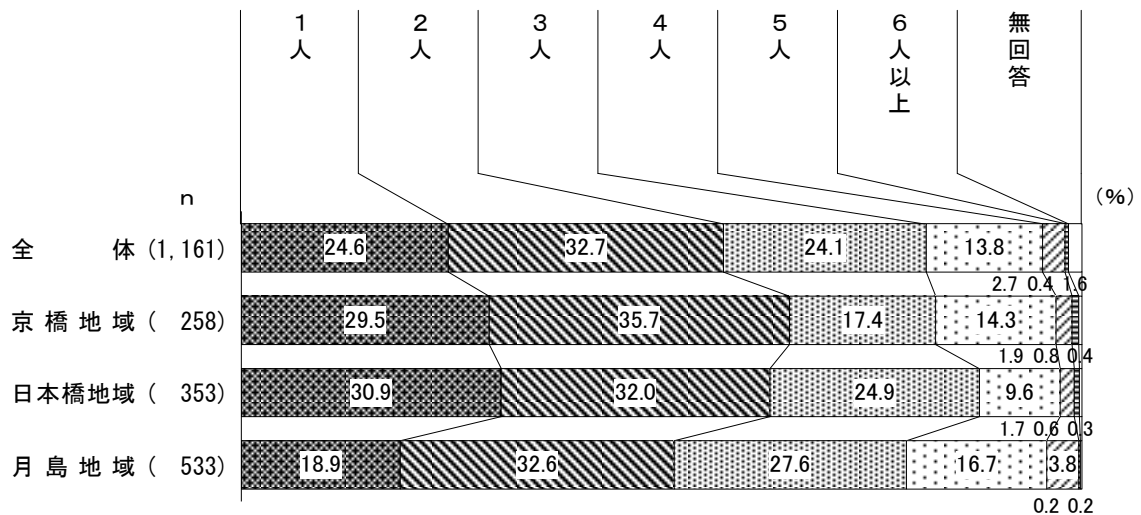
1 年齢



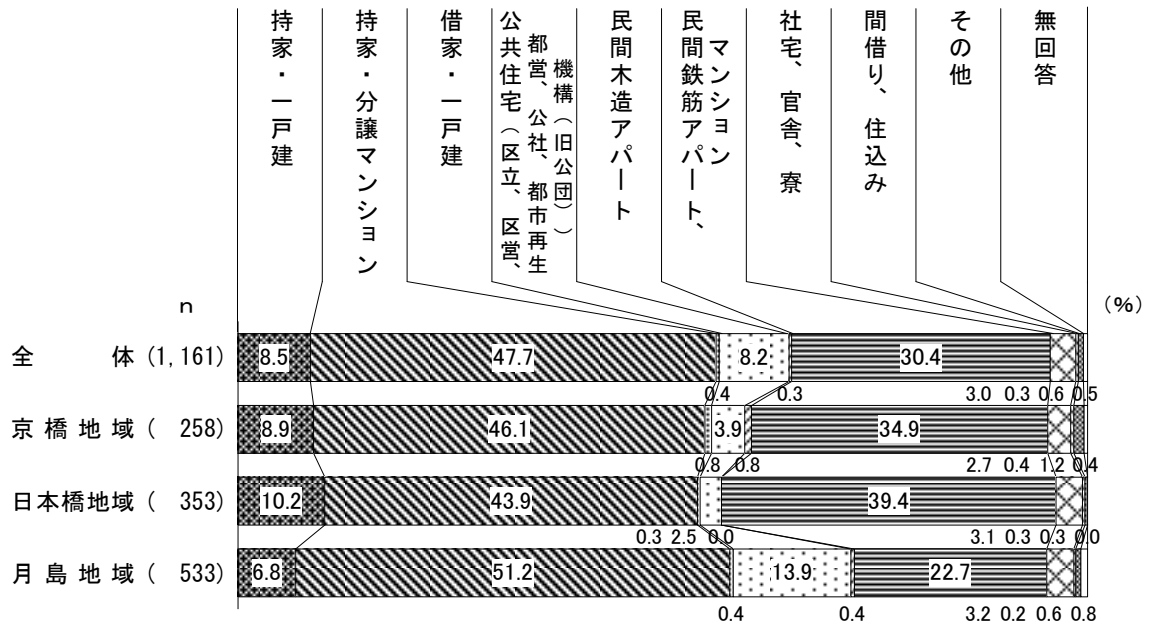
2 職業



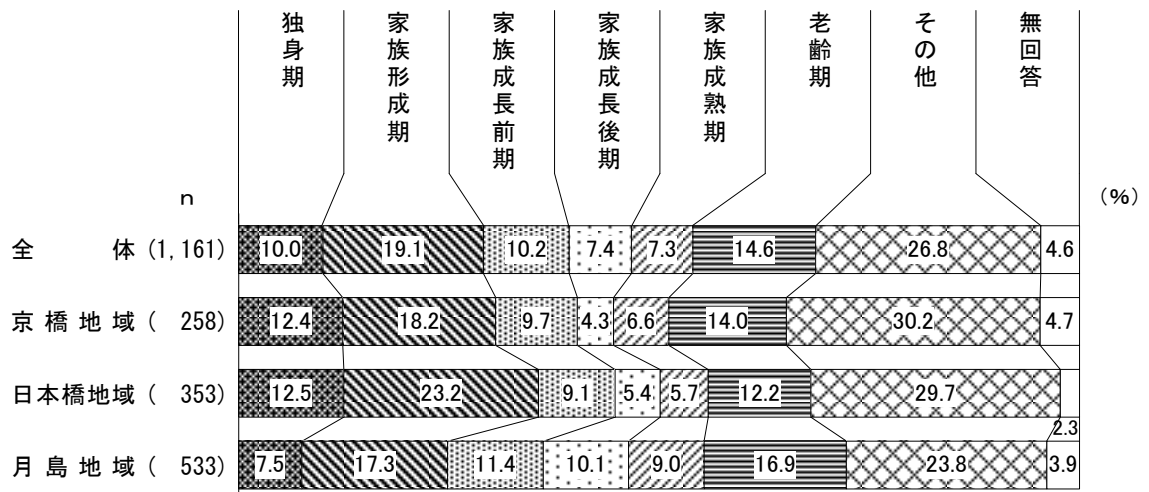
3 同居家族



4 住居形態



5 ライフステージ



IV 調査結果の分析

IV 調査結果の分析

【1 定住性】

(1) 居住年数

◇『長期居住者』が3割近く、『中期居住者』が4割近く、『短期居住者』が3割台半ば

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

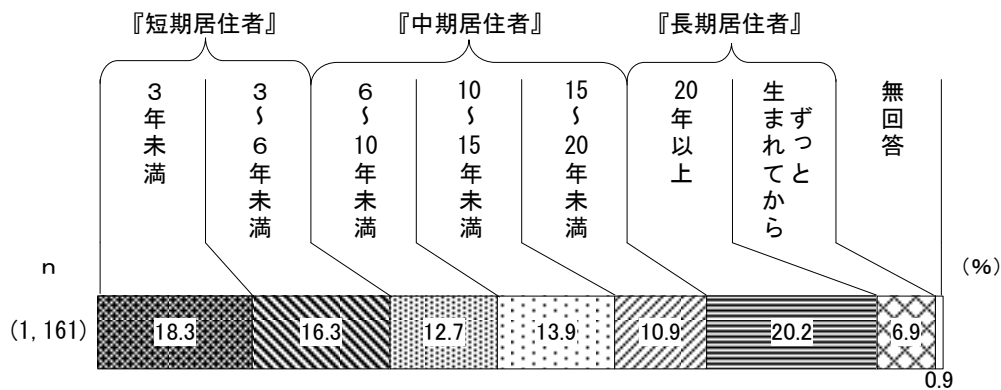
n = 1,161

1	3年未満	18.3%	5	15～20年未満	10.9
2	3～6年未満	16.3	6	20年以上	20.2
3	6～10年未満	12.7	7	生まれてからずっと	6.9
4	10～15年未満	13.9		(無回答)	0.9

居住年数は、「20年以上」(20.2%)が最も高くなっており、「生まれてからずっと」(6.9%)と合わせた『長期居住者』(27.1%)は3割近くとなっている。

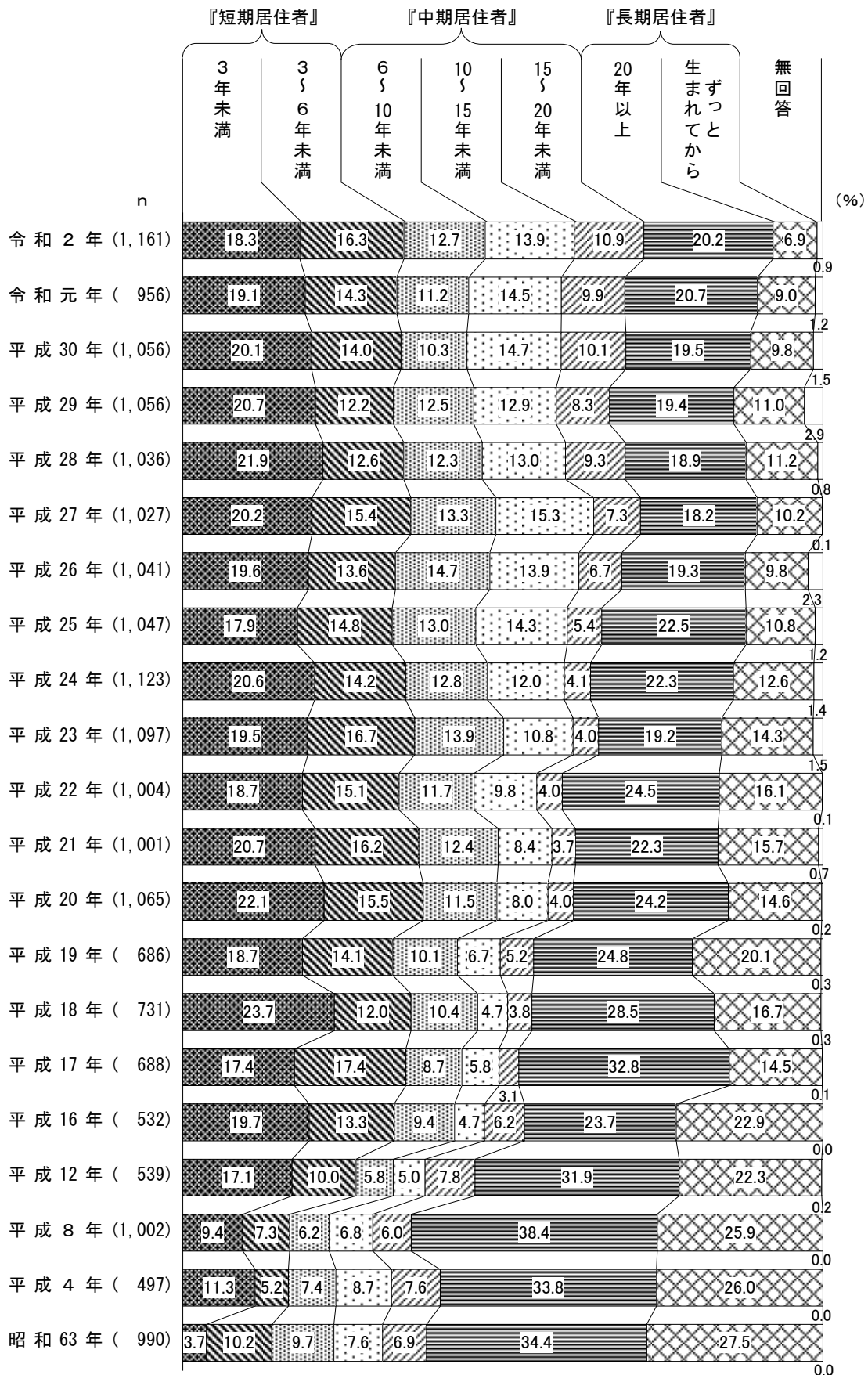
また、「6～10年未満」(12.7%)と「10～15年未満」(13.9%)、「15～20年未満」(10.9%)を合わせた『中期居住者』(37.5%)は4割近くとなっている。「3年未満」(18.3%)と「3～6年未満」(16.3%)を合わせた『短期居住者』(34.6%)は3割台半ばとなっている。(図表1-1-1)

図表1-1-1 居住年数



過去の調査結果と比較すると、平成26年以降大きな傾向の違いはみられない。(図表1-1-2)

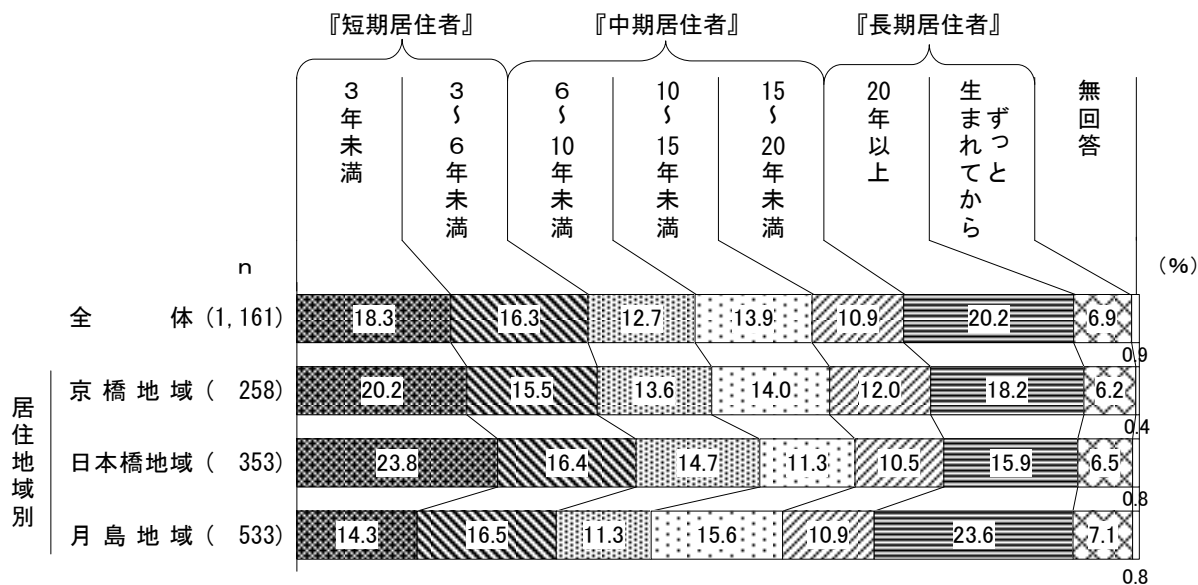
図表1-1-2 居住年数－過年度比較



居住地域別でみると、『短期居住者』は日本橋地域で4割と高くなっている。『中期居住者』は京橋地域で4割と高くなっている。『長期居住者』は月島地域で約3割と高くなっている。

(図表1-1-3)

図表1-1-3 居住年数-居住地域別



(2) 愛着心

◇愛着を『感じる』人が8割を超える

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。
(〇は1つ)

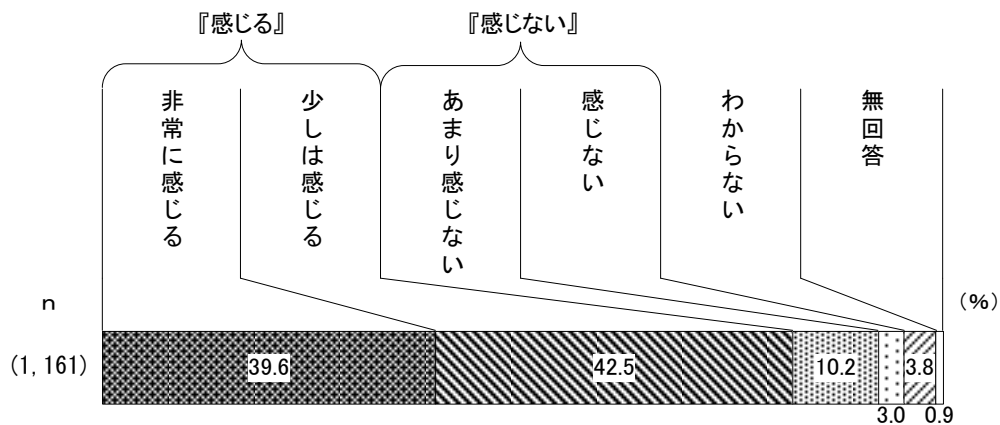
n = 1,161

1	非常に感じる	39.6%	4	感じない	3.0
2	少しは感じる	42.5	5	わからない	3.8
3	あまり感じない	10.2		(無回答)	0.9

愛着心は、「少しは感じる」(42.5%)が最も高くなっており、「非常に感じる」(39.6%)と合わせた『感じる』(82.1%)は8割を超えている。

一方、「あまり感じない」(10.2%)と「感じない」(3.0%)を合わせた『感じない』(13.2%)は1割を超えている。(図表1-2-1)

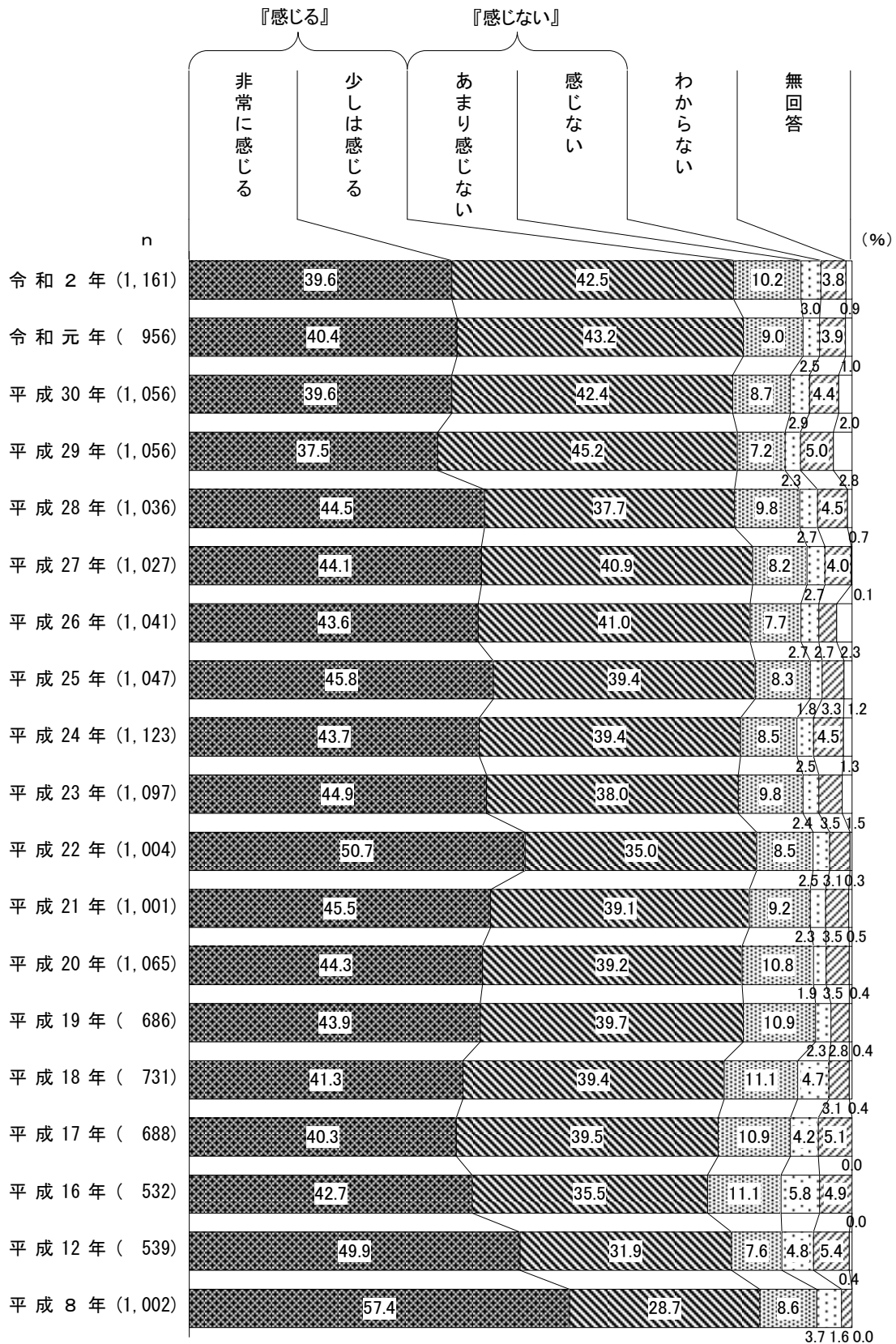
図表1-2-1 愛着心



過去の調査結果と比較すると、『感じる』は平成18年以降8割台で推移している。

(図表1-2-2)

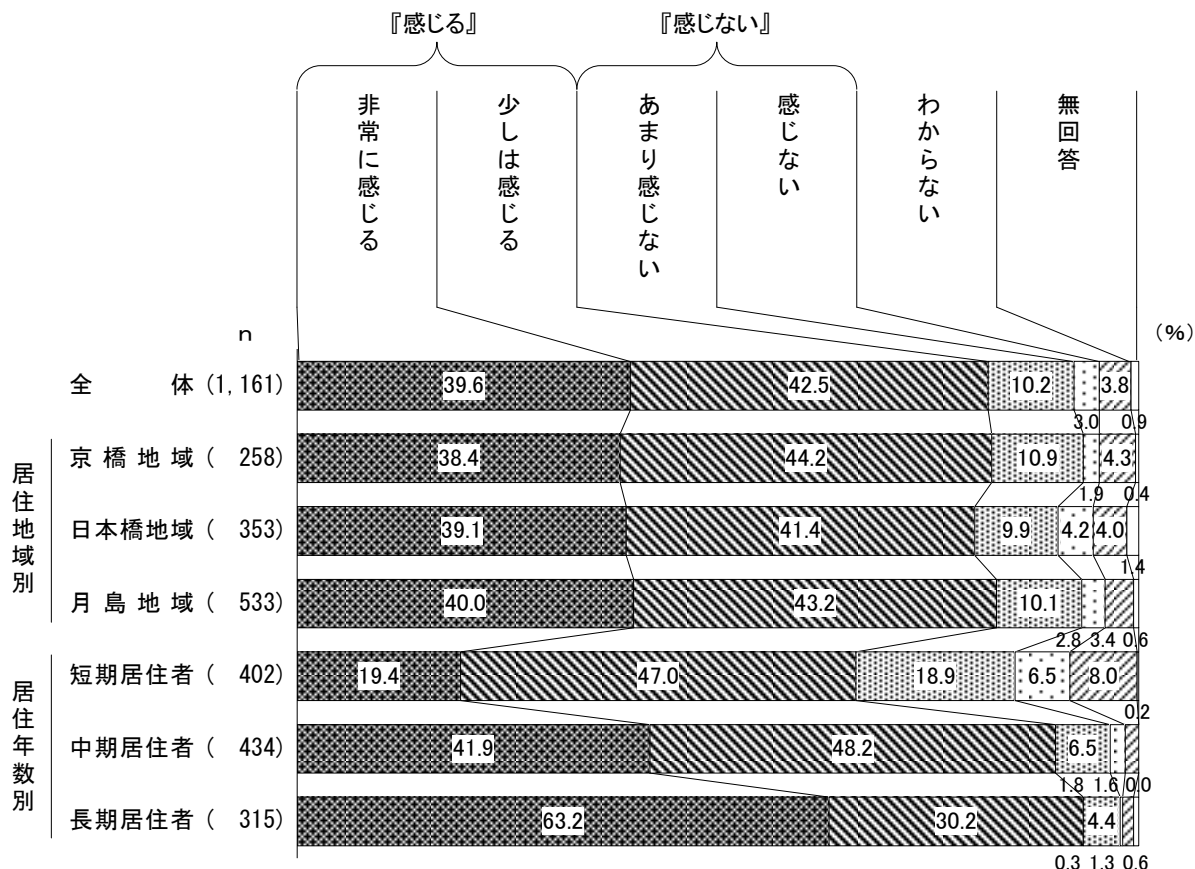
図表1-2-2 愛着心一過年度比較



居住地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

居住年数別でみると、『感じる』は長期居住者で9割を超え、中期居住者で9割と高くなっている。(図表1-2-3)

図表1-2-3 愛着心—居住地域別・居住年数別



(3) 定住意向

◇『定住意向』が8割を超える

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(○は1つ)

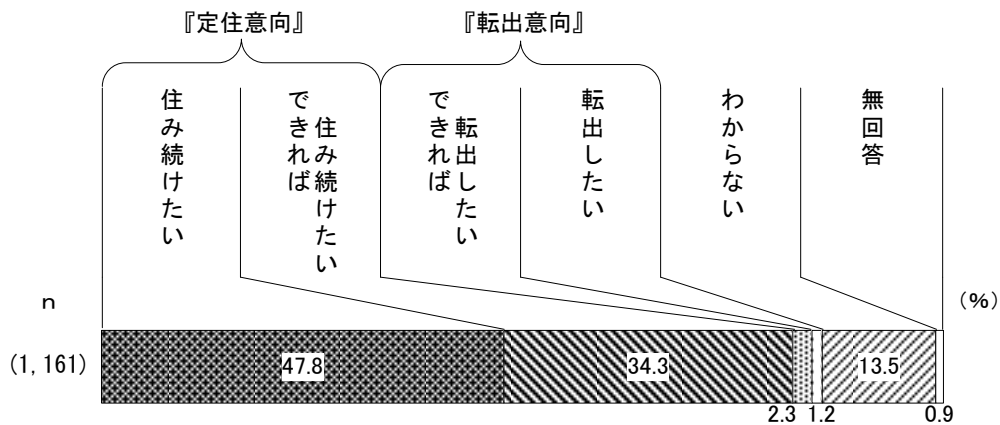
n = 1,161

1	住み続けたい	47.8%	4	転出したい	1.2
2	できれば住み続けたい	34.3	5	わからない	13.5
3	できれば転出したい	2.3		(無回答)	0.9

定住意向は、「住み続けたい」(47.8%)が最も高くなっており、「できれば住み続けたい」(34.3%)と合わせた『定住意向』(82.1%)は8割を超えている。

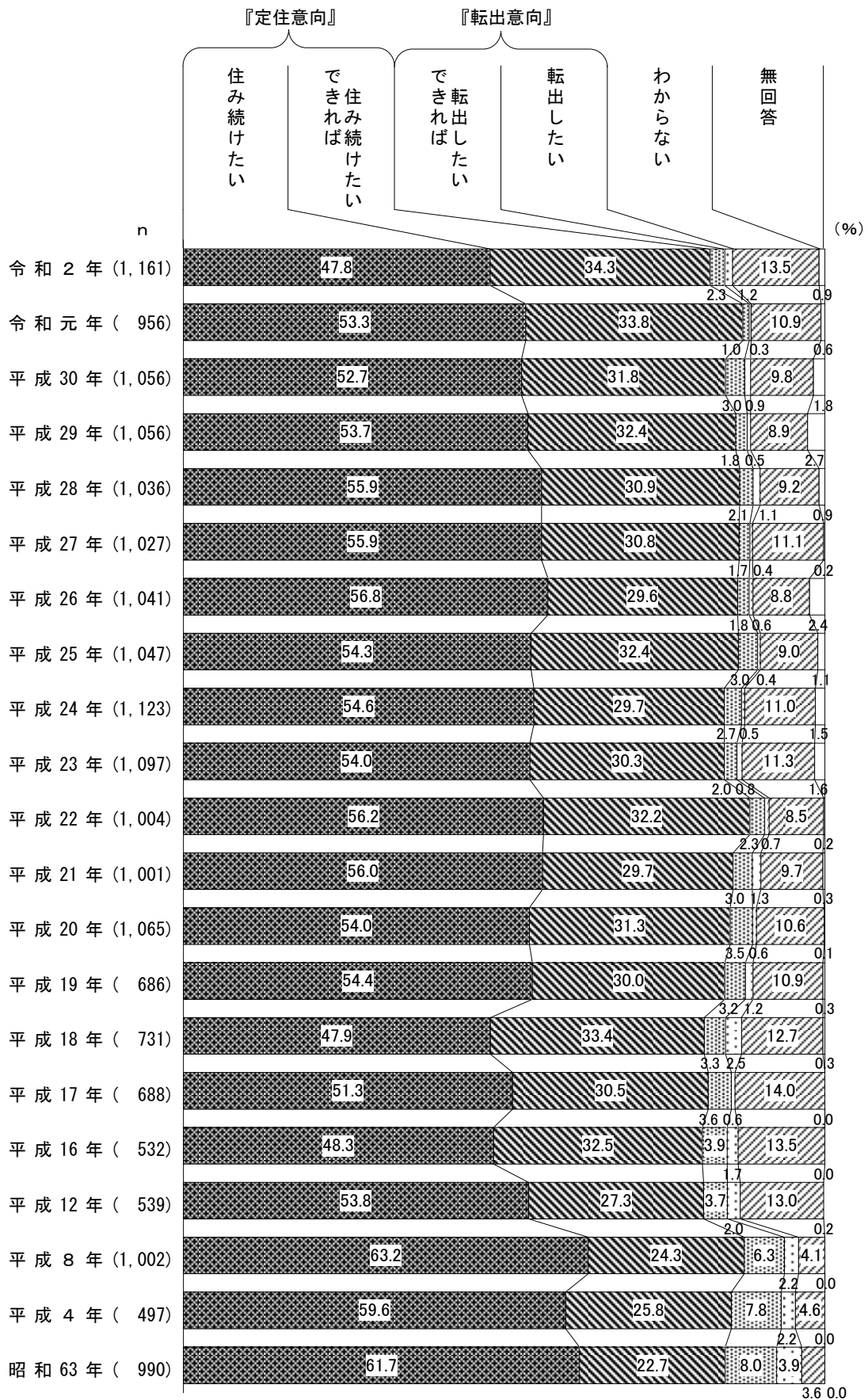
一方、「できれば転出したい」(2.3%)と「転出したい」(1.2%)を合わせた『転出意向』(3.5%)は1割に満たない。(図表1-3-1)

図表1-3-1 定住意向



過去の調査結果と比較すると、『定住意向』は令和元年と比べて5.0ポイント減少しているものの、昭和63年以降8割台で推移している。(図表1-3-2)

図表1-3-2 定住意向一過年度比較



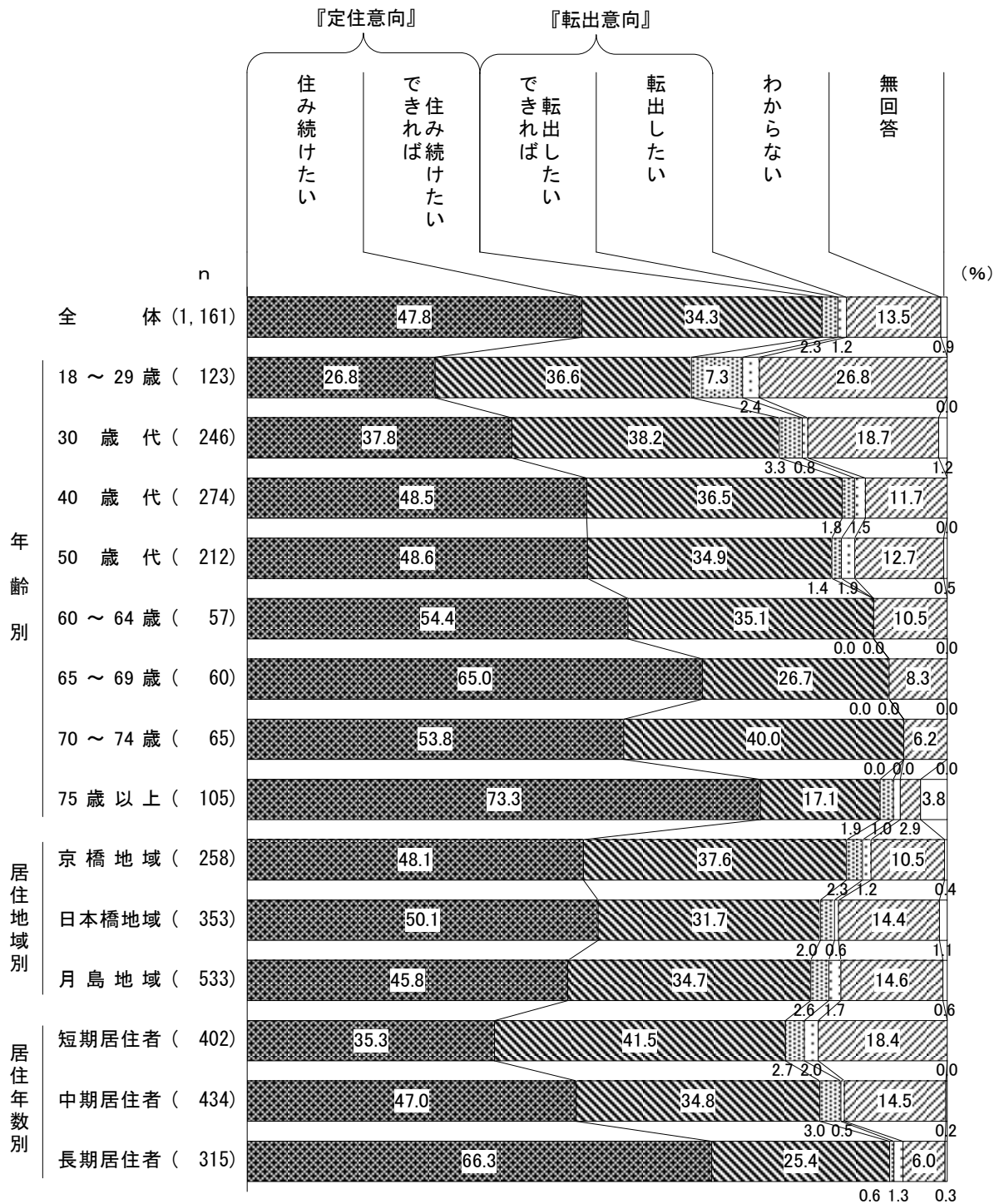
年齢別でみると、『定住意向』は65～69歳と70～74歳で9割を超えて高くなっている。

居住地域別でみると、『定住意向』は京橋地域で8割台半ばと高くなっている。

居住年数別でみると、『定住意向』は長期居住者で9割を超えて高くなっている。

(図表 1 - 3 - 3)

図表 1 - 3 - 3 定住意向一年齢別・居住地域別・居住年数別



【2 防災対策】

(1) 家庭での災害に対する備え

◇「飲料水の備蓄」が約7割

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(〇はいくつでも)

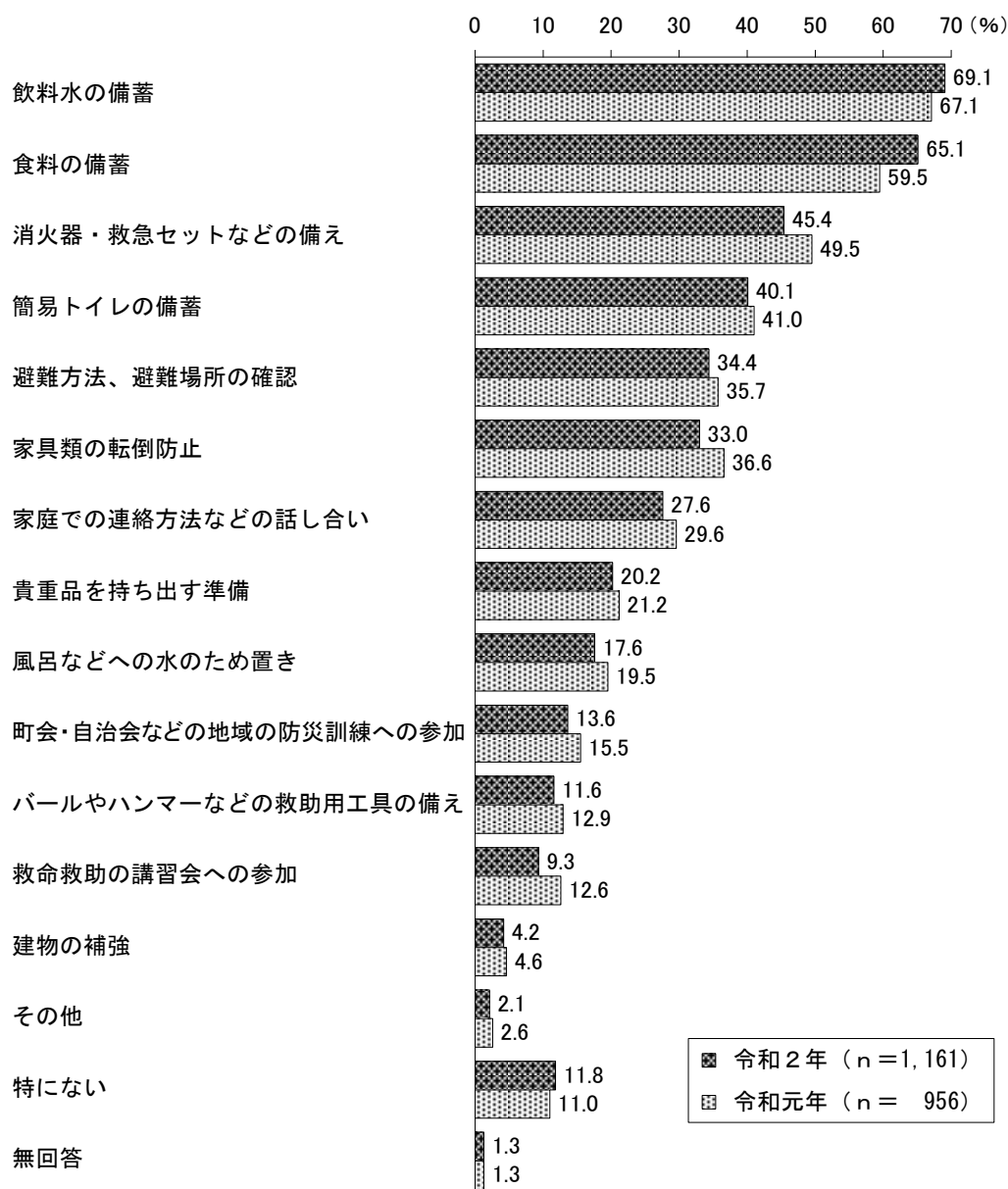
n = 1, 161

1 食料の備蓄	65.1%
2 飲料水の備蓄	69.1
3 簡易トイレの備蓄	40.1
4 家具類の転倒防止	33.0
5 消火器・救急セットなどの備え	45.4
6 バールやハンマーなどの救助用工具の備え	11.6
7 貴重品を持ち出す準備	20.2
8 風呂などへの水のため置き	17.6
9 救命救助の講習会への参加	9.3
10 町会・自治会などの地域の防災訓練への参加	13.6
11 避難方法、避難場所の確認	34.4
12 家庭での連絡方法などの話し合い	27.6
13 建物の補強	4.2
14 その他	2.1
15 特にない	11.8
(無回答)	1.3

家庭での災害に対する備えは、「飲料水の備蓄」(69.1%)が約7割で最も高くなっている。次いで、「食料の備蓄」(65.1%)、「消火器・救急セットなどの備え」(45.4%)、「簡易トイレの備蓄」(40.1%)、「避難方法、避難場所の確認」(34.4%)、「家具類の転倒防止」(33.0%)などとなっている。一方、「特にない」(11.8%)は1割を超えている。

昨年の調査結果と比較すると、「食料の備蓄」は5.6ポイント増加している。一方、「消火器・救急セットなどの備え」は4.1ポイント、「家具類の転倒防止」は3.6ポイント、「救命救助の講習会への参加」は3.3ポイント、それぞれ減少している。(図表2-1-1)

図表2-1-1 家庭での災害に対する備え（複数回答）

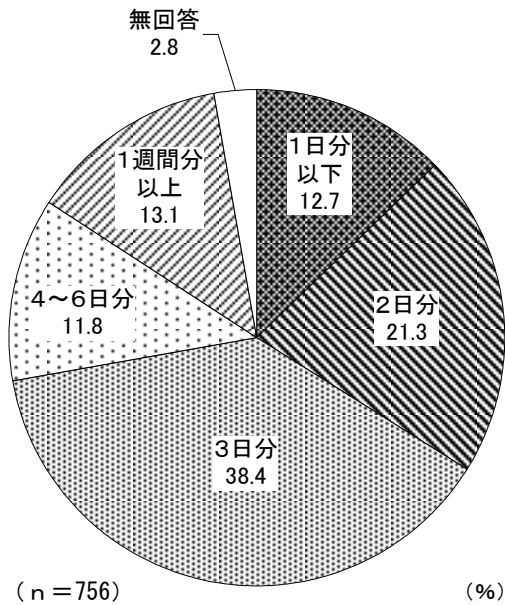


食料の備蓄日数は、「3日分」(38.4%)が4割近くで最も高く、平均備蓄日数は3.57日分となっている。(図表2-1-2)

飲料水の備蓄日数は、「3日分」(29.8%)が3割で最も高く、平均備蓄日数は4.34日分となっている。(図表2-1-3)

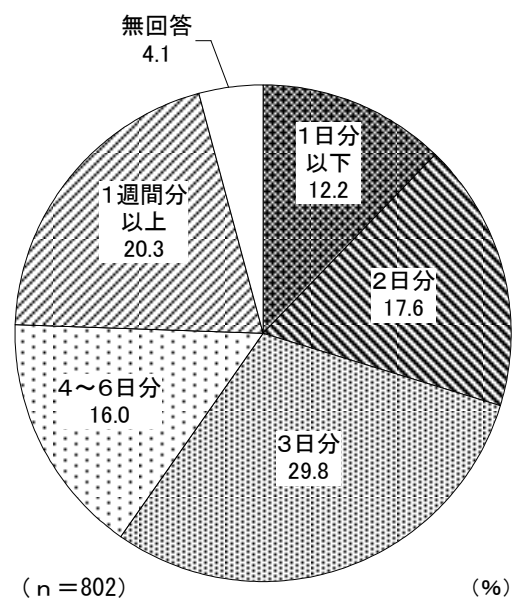
簡易トイレの備蓄日数は、「3日分」(24.7%)が2割台半ばで最も高く、平均備蓄日数は5.10日分となっている。(図表2-1-4)

図表2-1-2 食料の備蓄日数



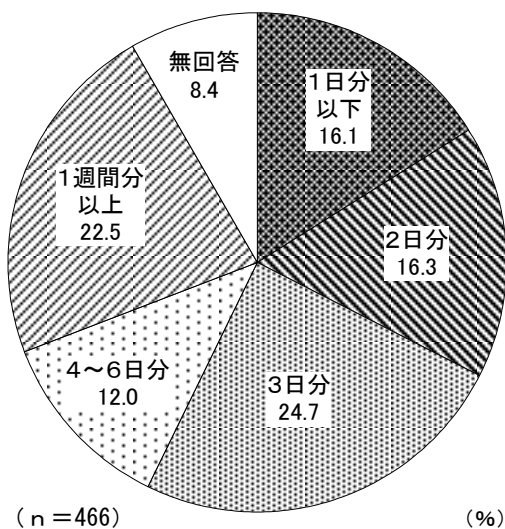
平均備蓄日数 : 3.57日

図表2-1-3 飲料水の備蓄日数



平均備蓄日数 : 4.34日

図表2-1-4 簡易トイレの備蓄日数



平均備蓄日数 : 5.10日

過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「飲料水の備蓄」と「食料の備蓄」、「消火器・救急セットなどの備え」が引き続き上位3項目となっている。

(図表2-1-5)

図表2-1-5 家庭での災害に対する備え一過年度比較

調査年	n	(%)															
		飲料水の備蓄	食料の備蓄	消火器・救急セットなどの備え	簡易トイレの備蓄	避難方法、避難場所の確認	家具類の転倒防止	家庭話しの連絡方法などの	貴重品を持ち出す準備	風呂などへの水のため置き	町会・自治会などの参加の地域	防災訓練への参加	バールやハンマーなどの救助用工具の備え	救命救助の講習会への参加	建物の補強	その他	特にない
令和2年	1,161	69.1	65.1	45.4	40.1	34.4	33.0	27.6	20.2	17.6	13.6	11.6	9.3	4.2	2.1	11.8	1.3
令和元年	956	67.1	59.5	49.5	41.0	35.7	36.6	29.6	21.2	19.5	15.5	12.9	12.6	4.6	2.6	11.0	1.3
平成30年	1,056	63.4	54.2	46.6	37.4	33.0	36.6	27.5	18.8	18.2	15.2	11.0	11.4	5.0	2.3	12.5	1.8
平成29年	1,056	66.3	58.0	47.7	38.7	32.2	35.9	30.9	21.1	20.5	15.4	12.5	10.9	4.7	1.2	11.9	2.7
平成28年	1,036	66.4	57.0	44.8	33.2	36.0	33.5	32.7	19.6	23.5	16.0	12.5	12.7	4.5	2.6	11.1	1.1
平成27年	1,027	63.5	57.7	47.0	33.9	35.3	35.2	29.9	23.8	20.4	16.6	11.3	10.5	5.6	2.5	14.4	0.5
平成26年	1,041	67.0	60.7	50.1	36.4	37.7	37.9	33.5	22.1	25.5	16.8	12.5	14.2	4.0	2.5	10.2	3.4
平成25年	1,047	67.1	60.6	49.5	30.0	36.9	37.0	34.7	24.7	28.5	18.6	13.1	11.2	4.8	3.1	8.8	1.5
平成24年	1,123	67.7	58.9	51.6	23.5	35.5	40.1	36.2	26.2	27.0	16.5	13.1	11.0	4.2	2.2	9.0	1.8
平成23年	1,097	63.1	51.0	39.5	19.3	30.5	36.7	35.1	31.6	28.4	11.5	8.5	6.2	2.3	1.9	7.1	2.0
平成22年	1,004	42.8	37.3	39.5	※	26.7	※	21.2	17.5	21.8	16.6	6.7	7.2	5.8	1.9	19.9	2.0
平成21年	1,001	41.0	36.4	37.2	※	24.3	21.0	23.1	13.4	19.9	14.2	4.7	7.5	3.0	0.9	20.3	1.4
平成20年	1,065	41.1	24.8	31.7	※	29.6	23.6	26.1	11.0	19.5	14.3	4.2	6.5	2.1	1.6	20.5	1.9
平成19年	686	42.6	26.5	36.7	※	24.3	21.3	16.9	12.8	22.6	14.0	4.5	6.0	1.6	0.7	25.8	0.7

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

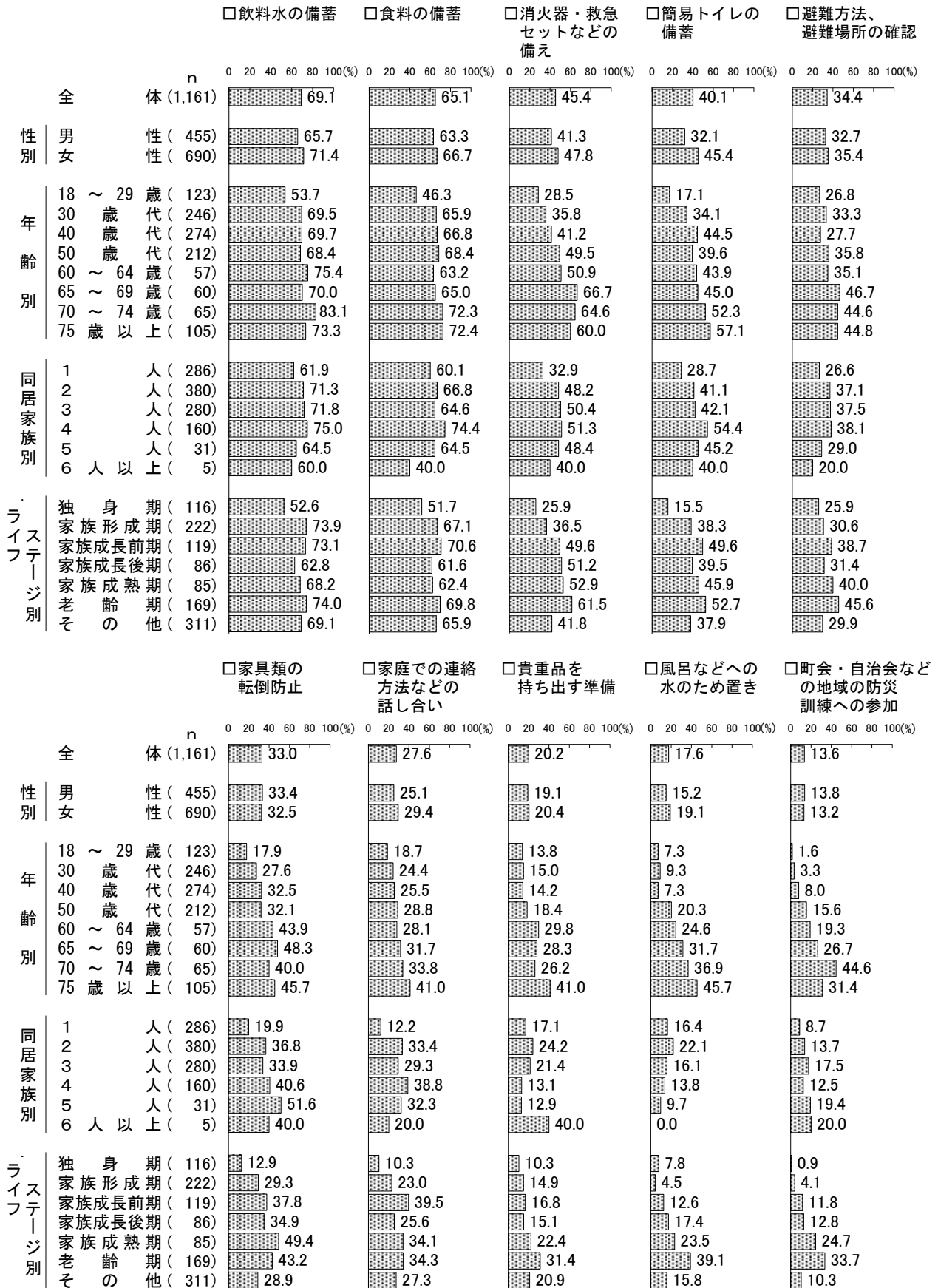
性別でみると、女性の方が男性よりも「簡易トイレの備蓄」で13.3ポイント、「消火器・救急セットなどの備え」で6.5ポイント、「飲料水の備蓄」で5.7ポイント、「家庭での連絡方法などの話し合い」で4.3ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「飲料水の備蓄」は70～74歳で8割を超えて高くなっている。「消火器・救急セットなどの備え」は65～69歳で7割近くと高くなっている。「簡易トイレの備蓄」は75歳以上で6割近くと高くなっている。

同居家族別でみると、「飲料水の備蓄」は同居家族4人で7割台半ばと高くなっている。「食料の備蓄」は同居家族4人で7割台半ばと高くなっている。「簡易トイレの備蓄」は同居家族4人で5割台半ばと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「飲料水の備蓄」は高齢期で7割台半ばと高くなっている。「食料の備蓄」は家族成長前期と高齢期で7割前後と高くなっている。「消火器・救急セットなどの備え」は高齢期で6割を超えて高くなっている。(図表2-1-6)

図表2-1-6 家庭での災害に対する備え—性別・年齢別・同居家族別・ライフステージ別
(上位10項目)



(2) 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え

◇「家具の配置を工夫している」が3割を超える

問5 大地震が発生した場合、家具の転倒やガラスの飛散により大けがをすることがあります。あなたのご自宅では、どのような備えを行っていますか。(〇はいくつでも)

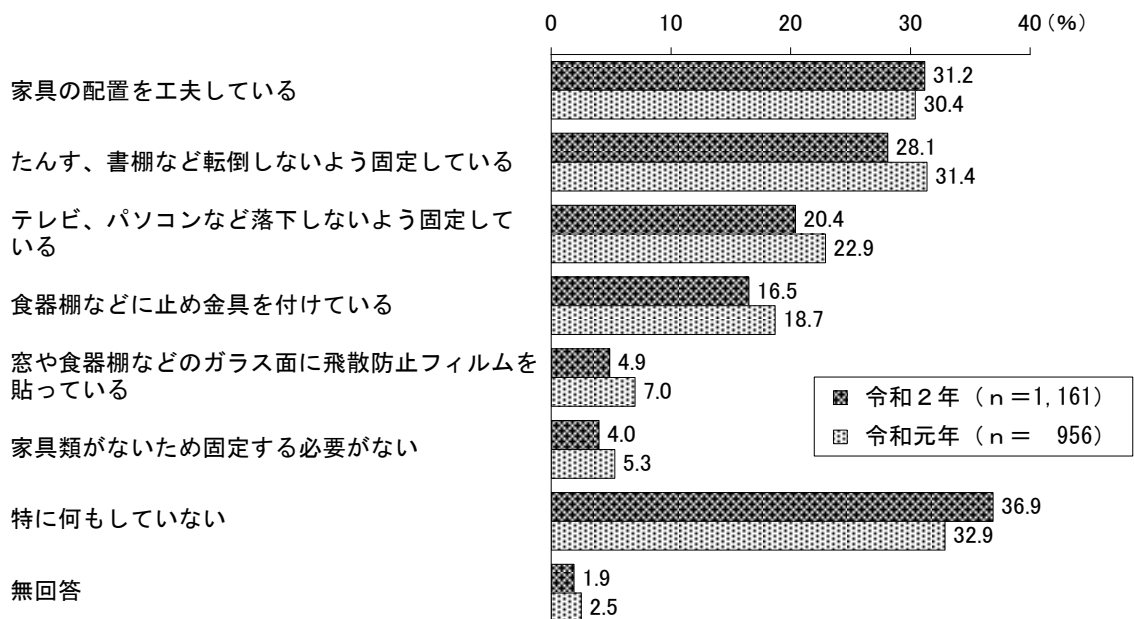
n = 1, 161

1 たんす、書棚など転倒しないよう固定している	28.1%
2 テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している	20.4
3 窓や食器棚などのガラス面に飛散防止フィルムを貼っている	4.9
4 食器棚などに止め金具を付けている	16.5
5 家具の配置を工夫している	31.2
6 家具類がないため固定する必要がない	4.0
7 特に何もしていない	36.9
(無回答)	1.9

家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備えは、「家具の配置を工夫している」(31.2%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」(28.1%)、「テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している」(20.4%)、「食器棚などに止め金具を付けている」(16.5%)などとなっている。一方、「特に何もしていない」(36.9%)は4割近くとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「特に何もしていない」は4.0ポイント増加している。また、「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」は3.3ポイント減少している。(図表2-2-1)

図表2-2-1 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、「家具の配置を工夫している」と「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」、「テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している」が引き続き上位3項目となっている。(図表2-2-2)

図表2-2-2 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え一過年度比較

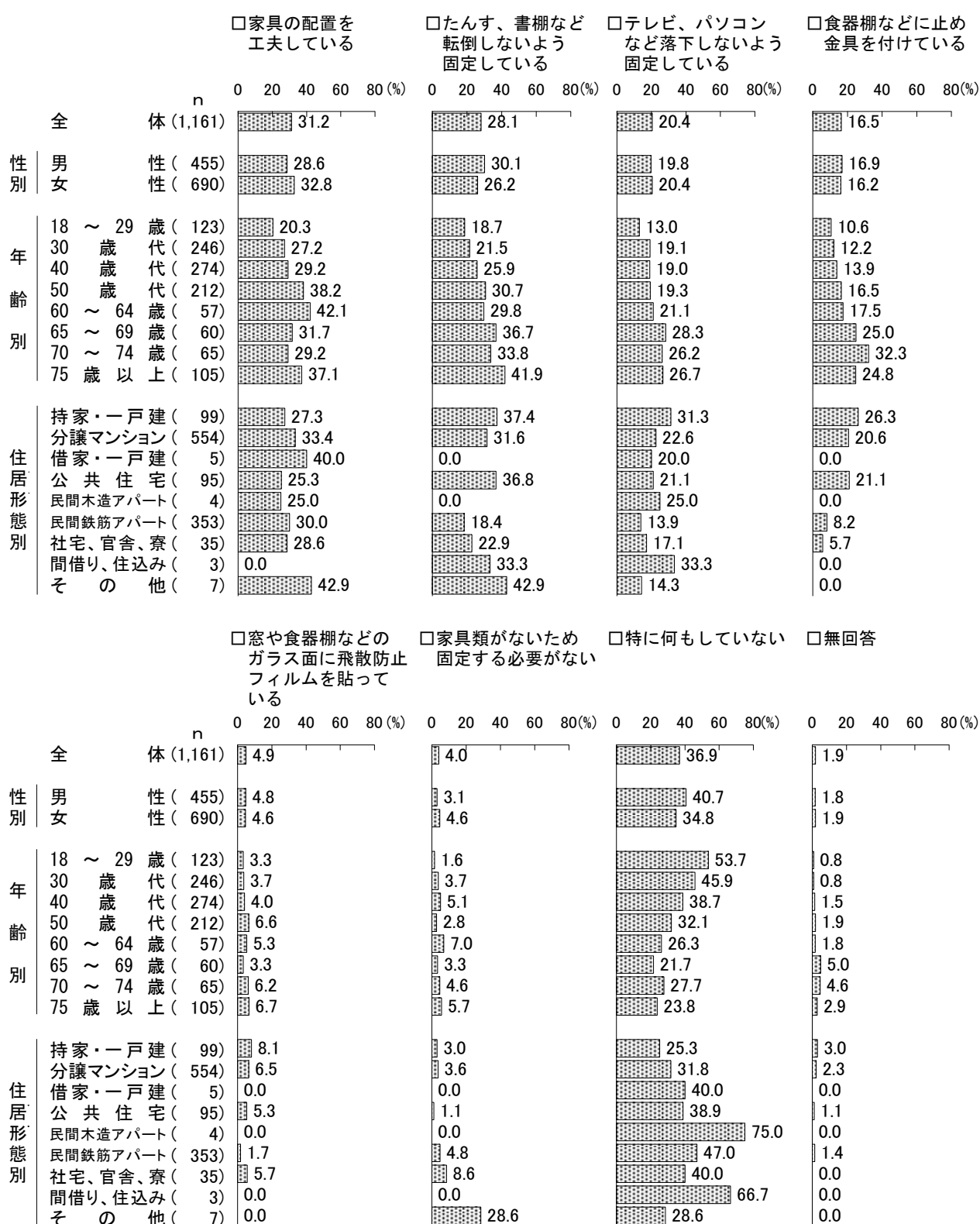
調査年	n	(%)							
		家具の配置を工夫している	たんす、書棚など転倒しないよう固定している	テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している	食器棚などに止め金具を付けている	窓や食器棚などのガラスを貼っている	家具類がないため固定する必要がある	特に何もしていない	無回答
令和2年	1,161	31.2	28.1	20.4	16.5	4.9	4.0	36.9	1.9
令和元年	956	30.4	31.4	22.9	18.7	7.0	5.3	32.9	2.5
平成30年	1,056	30.7	33.0	22.5	19.9	5.6	5.9	31.3	2.7
平成29年	1,056	31.8	33.2	22.9	20.7	7.9	3.6	29.7	4.6
平成28年	1,036	32.5	31.2	21.8	18.5	6.9	2.7	33.6	1.9
平成27年	1,027	33.3	31.9	23.5	21.1	6.7	4.8	32.4	2.0
平成26年	1,041	31.8	32.4	25.0	21.8	9.3	4.9	27.4	3.6

性別でみると、女性の方が男性よりも「家具の配置を工夫している」で4.2ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」で3.9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「家具の配置を工夫している」は60～64歳で4割を超えて高くなっている。「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」は75歳以上で4割を超えて高くなっている。「食器棚などに止め金具を付けている」は70～74歳で3割を超えて高くなっている。「特に何もしていない」は18～29歳で5割を超えて高くなっている。

住居形態別でみると、「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」は持家・一戸建と公共住宅で4割近くと高くなっている。「テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している」は持家・一戸建で3割を超えて高くなっている。(図表2-2-3)

図表 2-2-3 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備えー性別・年齢別・住居形態別



(3) 防災拠点の認知度

◇「知っている」が約6割

問6 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。
あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(〇は1つ)

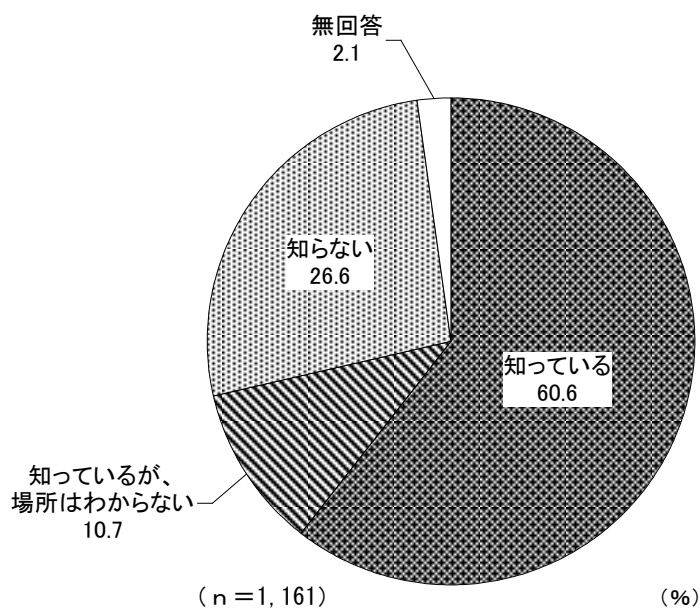
n = 1, 161

1	知っている	60.6%	3	知らない	26.6
2	知っているが、場所はわからない	10.7		(無回答)	2.1

防災拠点の認知度は、「知っている」(60.6%)が約6割で最も高くなっている。「知っているが、場所はわからない」(10.7%)は約1割で、「知らない」(26.6%)は3割近くとなっている。

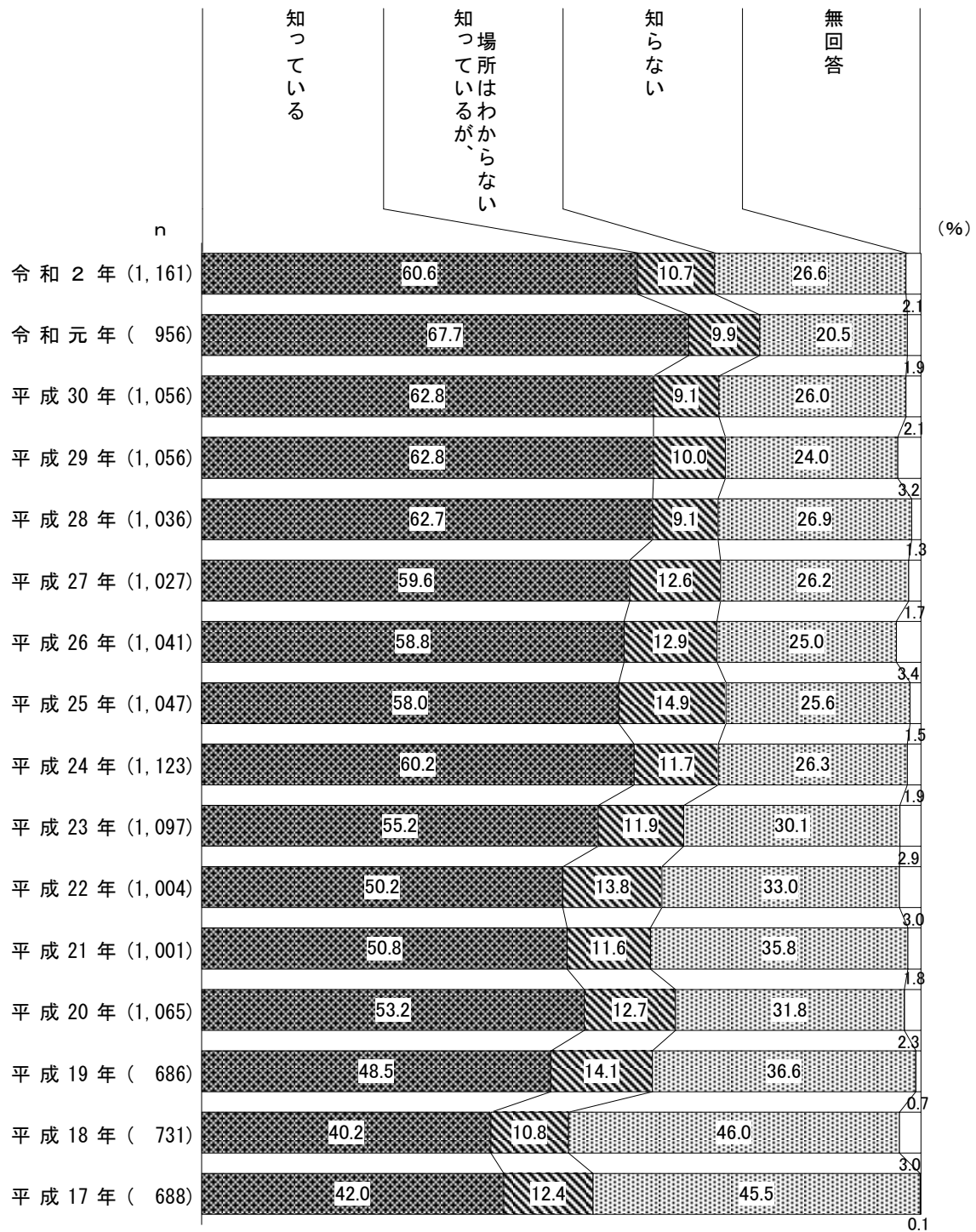
(図表2-3-1)

図表2-3-1 防災拠点の認知度



過去の調査結果と比較すると、「知っている」は令和元年と比べて7.1ポイント減少しているものの、平成28年以降6割台で推移している。(図表2-3-2)

図表2-3-2 防災拠点の認知度一過年度比較



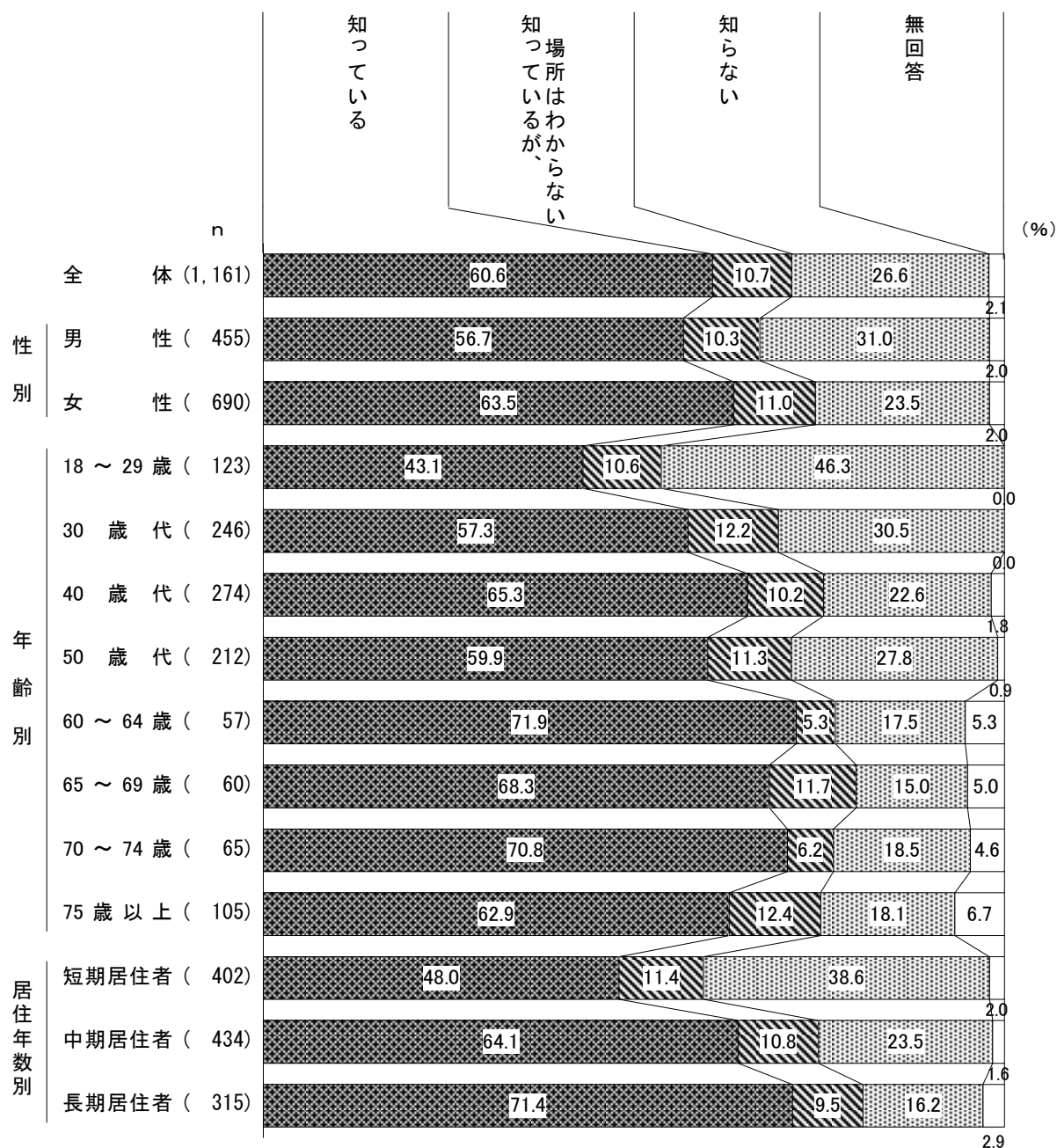
性別でみると、女性の方が男性よりも「知っている」で6.8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「知っている」は60～64歳と70～74歳で7割台と高くなっている。

居住年数別でみると、「知っている」は長期居住者で7割を超えて高くなっている。

(図表 2-3-3)

図表 2-3-3 防災拠点の認知度—性別・年齢別・居住年数別



(4) 災害に備えた地域の協力体制

◇「知っている」が約2割

(問6で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)
 問6-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が
 防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、
 災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(〇は1つ)

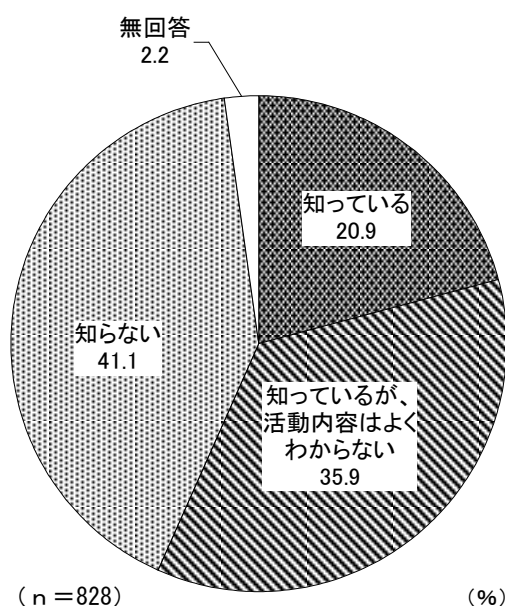
n = 828

1 知っている	20.9%	3 知らない	41.1
2 知っているが、活動内容はよくわからない	35.9	(無回答)	2.2

問6で、「知っている」または「知っているが、場所はわからない」と回答した方の、災害に備えた地域の協力体制は、「知っている」(20.9%)が約2割となっている。「知っているが、活動内容はよくわからない」(35.9%)は3割台半ばで、「知らない」(41.1%)は4割を超えている。

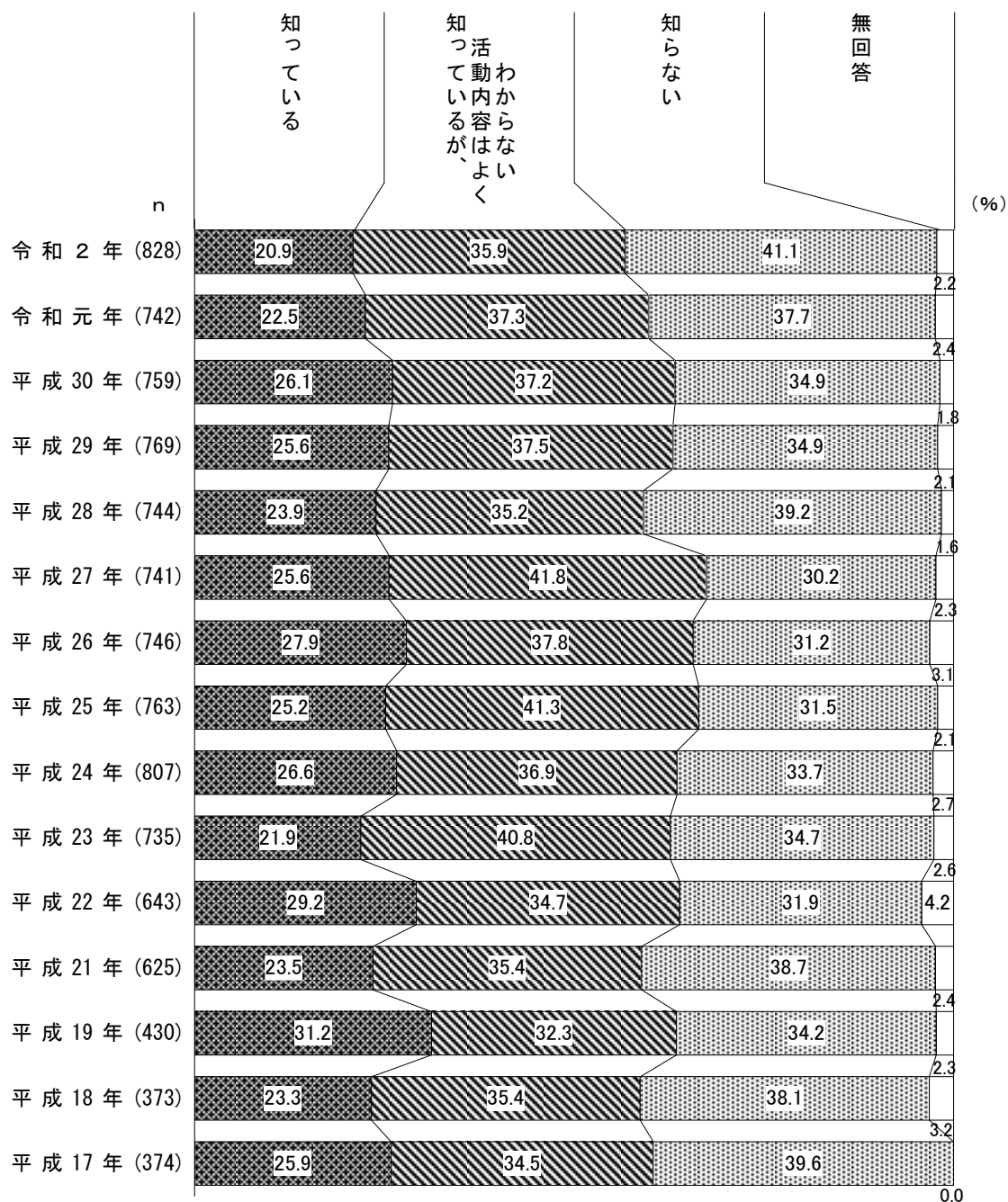
(図表2-4-1)

図表2-4-1 災害に備えた地域の協力体制



過去の調査結果と比較すると、「知らない」は令和元年と比べて3.4ポイント増加しており、今回調査が過去最高の割合となっている。(図表2-4-2)

図表2-4-2 災害に備えた地域の協力体制一過年度比較



(5) 避難の際に心配なこと

◇「トイレ」が約7割

問7 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。(〇はいくつでも)

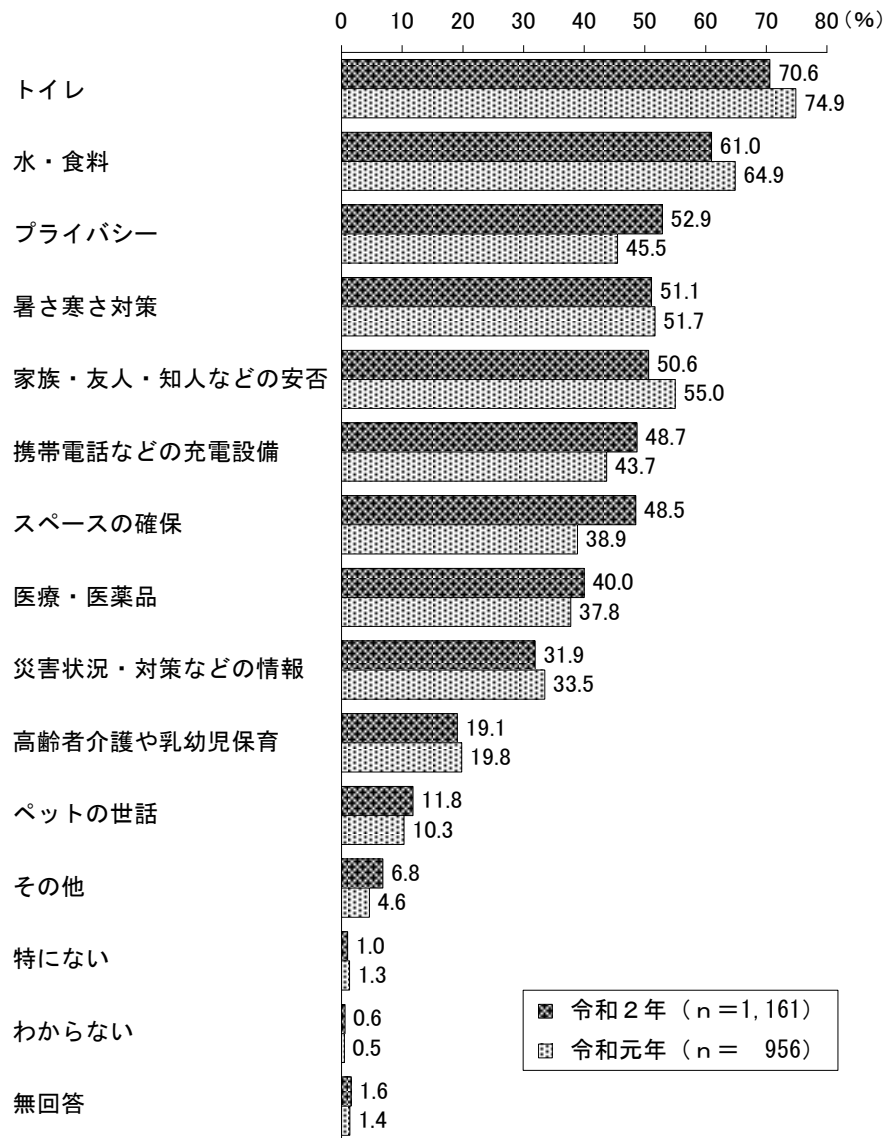
n = 1, 161

1	水・食料	61.0%	8	高齢者介護や乳幼児保育	19.1
2	トイレ	70.6	9	スペースの確保	48.5
3	プライバシー	52.9	10	暑さ寒さ対策	51.1
4	家族・友人・知人などの安否	50.6	11	ペットの世話	11.8
5	災害状況・対策などの情報	31.9	12	その他	6.8
6	携帯電話などの充電設備	48.7	13	特になし	1.0
7	医療・医薬品	40.0	14	わからない	0.6
				(無回答)	1.6

避難の際に心配なことは、「トイレ」(70.6%)が約7割で最も高くなっている。次いで、「水・食料」(61.0%)、「プライバシー」(52.9%)、「暑さ寒さ対策」(51.1%)、「家族・友人・知人などの安否」(50.6%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「スペースの確保」は9.6ポイント、「プライバシー」は7.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「家族・友人・知人などの安否」は4.4ポイント、「トイレ」は4.3ポイント、それぞれ減少している。(図表2-5-1)

図表2-5-1 避難の際に心配なこと（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「トイレ」と「水・食料」が引き続き上位2項目となっている。(図表2-5-2)

図表2-5-2 避難の際に心配なこと一過年度比較

調査年	n	(%)															
		トイレ	水・食料	プライバシー	暑さ寒さ対策	家族・友人・知人などの安否	携帯電話などの充電設備	スペースの確保	医療・医薬品	災害状況・対策などの情報	高齢者介護や乳幼児保育	ペットの世話	その他	特になし	わからない	無回答	避難スペースの確保や暑さ
令和2年	1,161	70.6	61.0	52.9	51.1	50.6	48.7	48.5	40.0	31.9	19.1	11.8	6.8	1.0	0.6	1.6	※
令和元年	956	74.9	64.9	45.5	51.7	55.0	43.7	38.9	37.8	33.5	19.8	10.3	4.6	1.3	0.5	1.4	※
平成30年	1,056	77.0	65.5	42.5	43.9	55.7	※	36.9	37.8	34.3	21.4	13.0	6.3	1.0	0.9	1.5	※
平成29年	1,056	74.5	63.4	42.3	46.4	58.1	※	36.2	39.5	35.0	20.2	12.0	5.2	1.1	0.5	2.8	※
平成28年	1,036	78.5	69.3	48.1	47.6	56.2	※	38.8	41.2	35.6	24.8	11.3	6.2	0.5	0.5	0.8	※
平成27年	1,027	75.5	67.7	38.3	46.1	61.1	※	31.5	42.7	35.9	24.0	10.3	5.4	1.4	1.5	0.4	※
平成26年	1,041	72.8	64.6	38.9	46.2	62.4	※	31.8	45.9	40.1	23.2	10.1	4.3	1.7	0.7	2.4	※
平成25年	1,047	76.6	66.5	40.4	47.7	62.6	※	30.3	43.9	37.5	20.7	12.0	4.5	1.3	0.6	0.8	※
平成24年	1,123	74.1	65.4	37.1	44.5	64.8	※	29.0	38.7	38.3	19.9	13.7	4.1	0.7	0.6	1.4	※
平成23年	1,097	77.8	72.3	45.7	53.2	55.1	※	33.2	43.4	37.9	21.2	13.3	4.9	0.8	0.3	1.2	※
平成22年	1,004	74.9	67.5	27.0	36.7	56.8	※	37.6	43.1	33.2	24.3	11.1	3.1	0.6	1.0	0.9	※
平成21年	1,001	79.6	69.5	34.6	39.8	50.2	※	40.1	41.1	33.0	24.0	11.3	2.5	0.7	1.1	0.6	※
平成20年	1,065	78.4	72.1	29.8	40.3	60.4	※	41.4	46.9	34.2	26.2	10.6	2.7	0.0	0.0	0.9	※
平成19年	686	74.9	74.2	25.9	※	62.0	※	※	48.4	40.7	24.1	10.8	1.7	0.9	2.0	0.3	45.5

* 太枠内が今回の調査の選択肢。

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

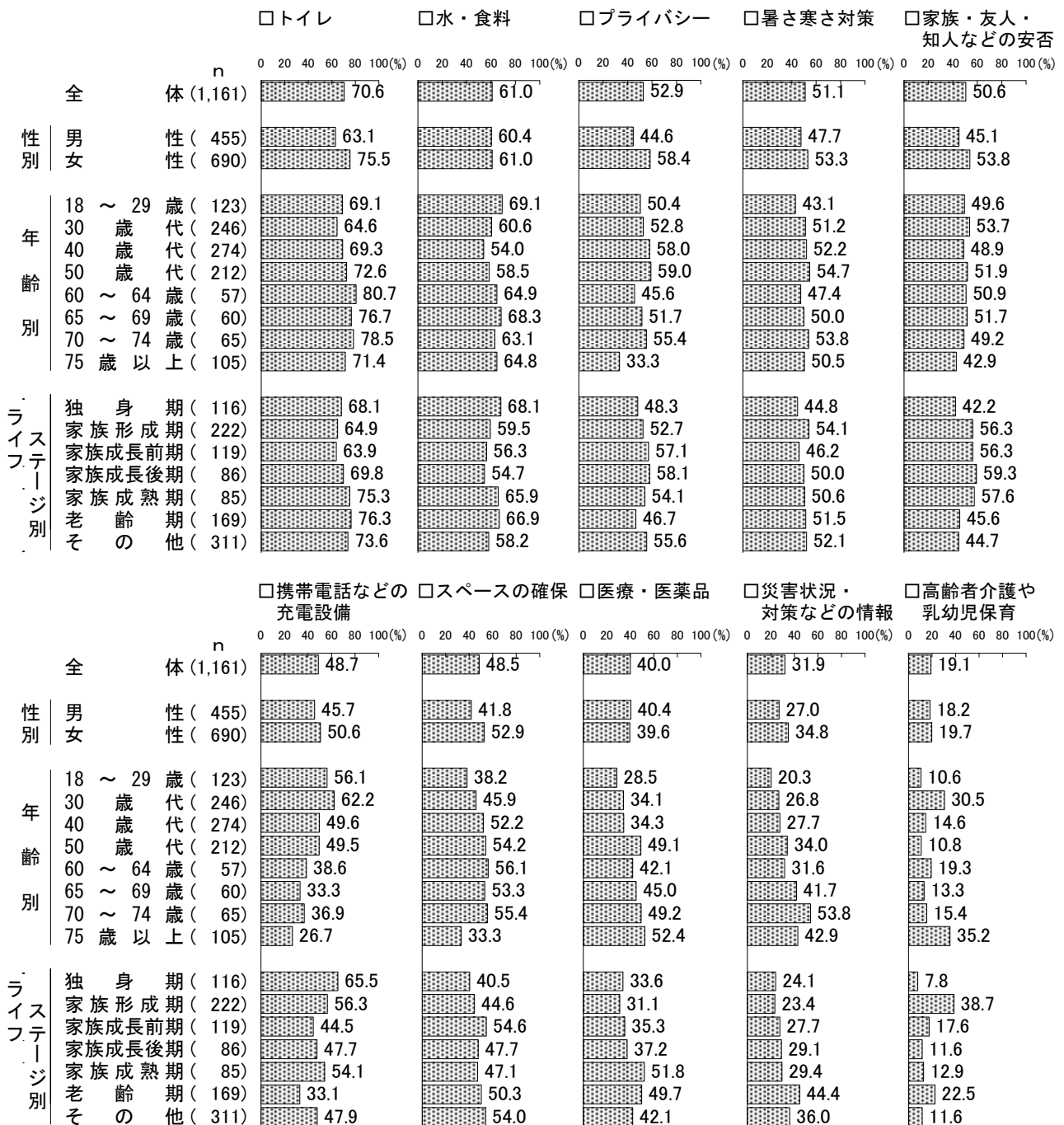
* 「スペースの確保」の選択肢は、平成22年まで「避難スペースの確保」としていた。

性別でみると、女性の方が男性よりも「プライバシー」で13.8ポイント、「トイレ」で12.4ポイント、「スペースの確保」で11.1ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「トイレ」は60～64歳で約8割と高くなっている。「水・食料」は18～29歳で約7割と高くなっている。「携帯電話などの充電設備」は30歳代で6割を超えて高くなっている。。

ライフステージ別でみると、「トイレ」は老齢期と家族成熟期で7割台半ばと高くなっている。「水・食料」は独身期と老齢期で7割近くと高くなっている。「携帯電話などの充電設備」は独身期で6割台半ばと高くなっている。(図表2-5-3)

図表2-5-3 避難の際に心配なことー性別・年齢別・ライフステージ別(上位10項目)



(6) 災害時に協力したいと思う活動

◇「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」が5割を超える

問8 大震災などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力したいと思う活動には何がありますか。(〇はいくつでも)

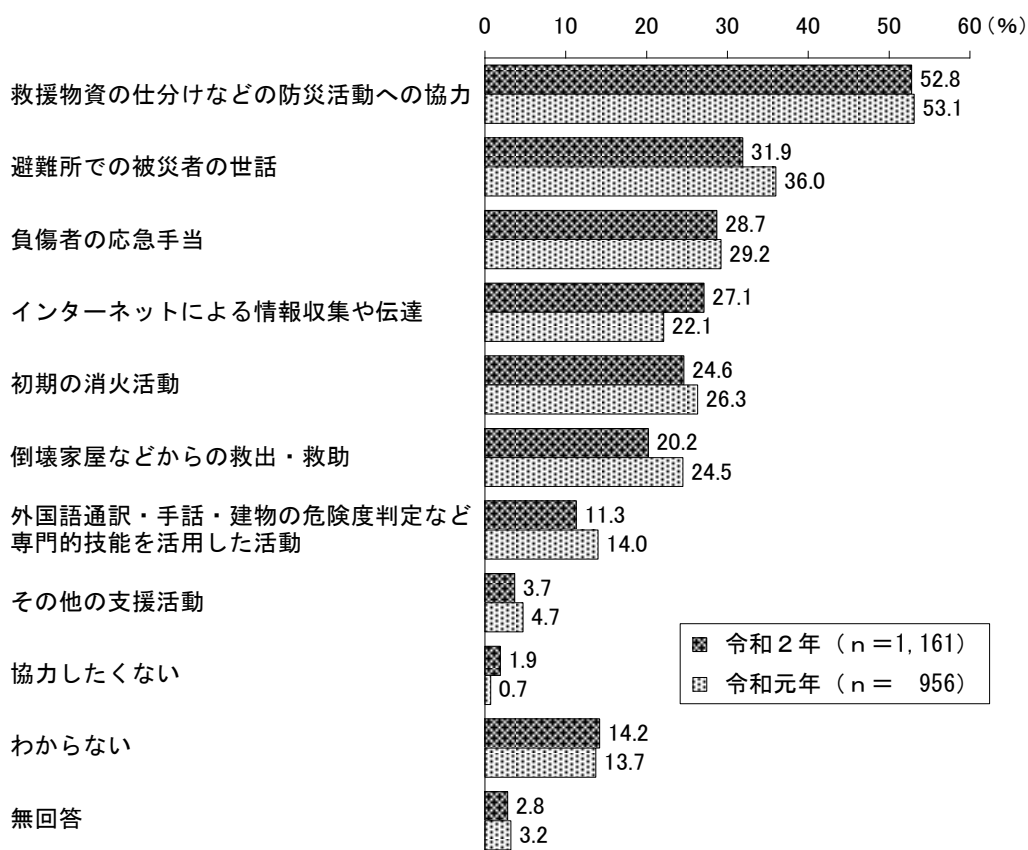
n = 1, 161

1	負傷者の応急手当	28.7%
2	倒壊家屋などからの救出・救助	20.2
3	初期の消火活動	24.6
4	避難所での被災者の世話	31.9
5	救援物資の仕分けなどの防災活動への協力	52.8
6	外国語通訳・手話・建物の危険度判定など専門的スキルを活用した活動	11.3
7	インターネットによる情報収集や伝達	27.1
8	その他の支援活動	3.7
9	協力したくない	1.9
10	わからない	14.2
	(無回答)	2.8

災害時に協力したいと思う活動は、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」(52.8%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「避難所での被災者の世話」(31.9%)、「負傷者の応急手当」(28.7%)、「インターネットによる情報収集や伝達」(27.1%)、「初期の消火活動」(24.6%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「インターネットによる情報収集や伝達」は5.0ポイント増加している。一方、「倒壊家屋などからの救出・救助」は4.3ポイント、「避難所での被災者の世話」は4.1ポイント、それぞれ減少している。(図表2-6-1)

図表2-6-1 災害時に協力したいと思う活動(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、平成30年以前の調査では、いずれも災害時に協力できると思う活動について質問していたため、単純に比較することはできないが、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」と「避難所での被災者の世話」が上位2項目となっている傾向に違いはみられない。

(図表2-6-2)

図表2-6-2 災害時に協力したいと思う活動一過年度比較

調査年	n	(%)											
		救援物資の仕分けなどの協力	避難所での被災者の世話	負傷者の応急手当	インターネットによる	初期の消火活動	倒壊家屋などからの救出・救助	外国危険判断を活用した活動の	その他の支援活動	協力したくない	わからない	無回答	協力できそうもない
令和2年	1,161	52.8	31.9	28.7	27.1	24.6	20.2	11.3	3.7	1.9	14.2	2.8	※
令和元年	956	53.1	36.0	29.2	22.1	26.3	24.5	14.0	4.7	0.7	13.7	3.2	※
平成30年	1,056	53.7	41.8	24.1	30.0	29.7	19.8	13.0	2.7	※	8.7	1.1	8.2
平成29年	1,056	57.3	42.1	22.1	23.6	29.0	22.0	11.9	2.5	※	9.8	1.9	8.0
平成28年	1,036	59.6	42.6	23.7	24.1	33.0	23.4	11.3	4.3	※	7.3	1.3	8.6
平成27年	1,027	55.6	46.5	25.0	23.7	35.5	26.2	11.9	3.4	※	10.4	1.9	8.5
平成26年	1,041	54.9	46.2	23.2	26.1	34.7	23.7	10.1	4.0	※	8.3	2.8	6.8
平成25年	1,047	59.9	48.2	26.2	25.0	34.6	26.4	10.5	3.2	※	7.2	1.5	7.1
平成24年	1,123	55.2	45.2	25.4	23.1	34.6	25.7	9.9	3.8	※	7.1	2.0	6.7
平成23年	1,097	61.7	50.9	23.3	28.1	33.2	23.8	10.9	3.4	※	6.2	2.0	7.5
平成22年	1,004	49.0	41.9	27.0	19.1	35.7	23.6	8.6	1.9	※	8.3	1.9	11.1
平成21年	1,001	52.2	41.2	27.4	17.8	35.0	25.1	9.0	1.3	※	10.1	1.6	10.8
平成20年	1,065	52.2	39.3	22.4	15.9	33.4	24.5	7.8	1.5	※	11.2	2.5	8.5
平成19年	686	43.6	41.5	31.3	15.6	37.5	29.5	5.6	1.9	※	10.1	1.6	8.5

* 太枠内が今回の調査の選択肢。

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

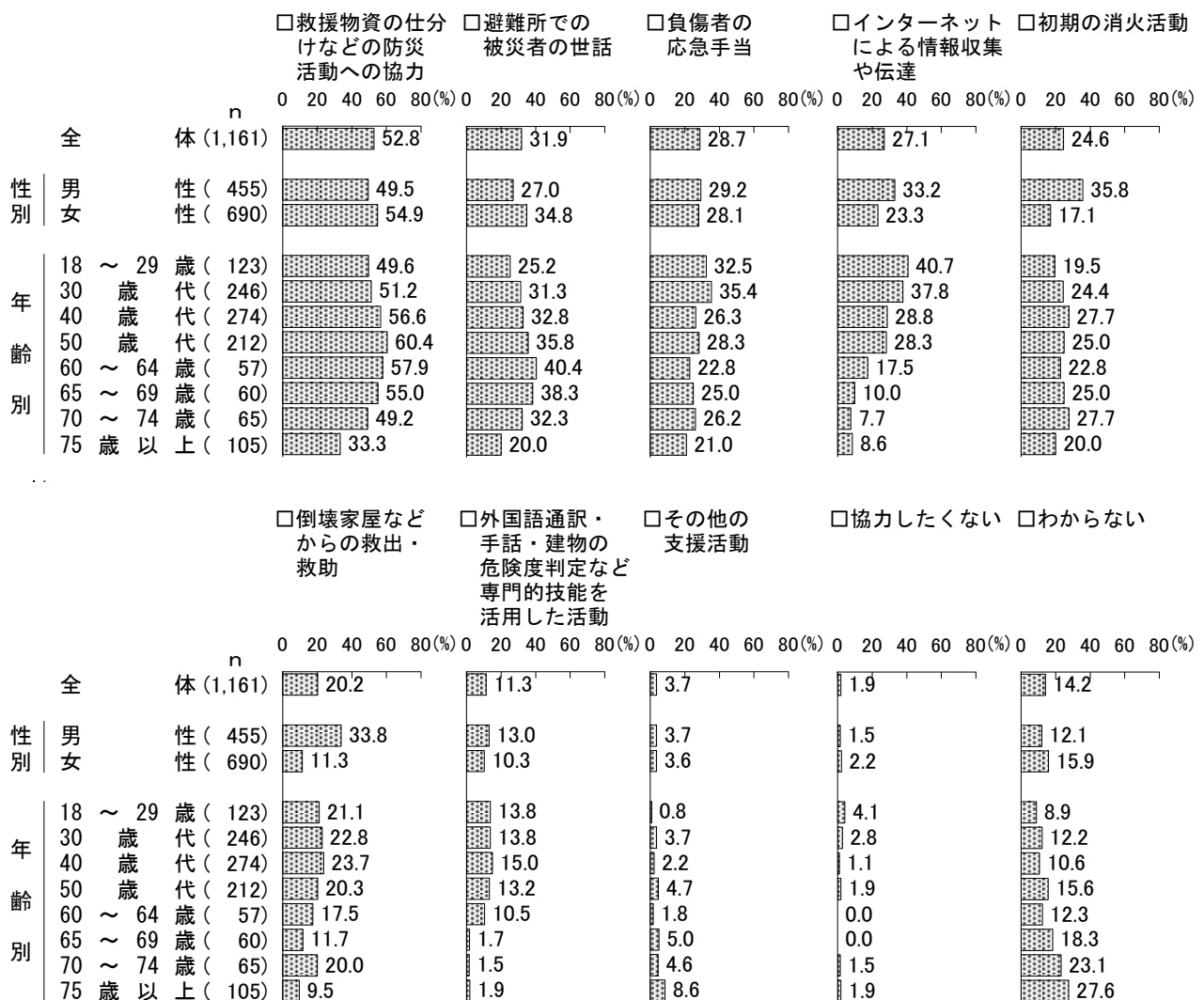
* 平成30年以前は、「大震災などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力できると思う活動には何がありますか。(〇はいくつでも)」と質問していた。

性別でみると、男性の方が女性よりも「倒壊家屋などからの救出・救助」で22.5ポイント、「初期の消火活動」で18.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「避難所での被災者の世話」で7.8ポイント、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」で5.4ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」は50歳代で6割と高くなっている。「避難所での被災者の世話」は60～64歳で4割と高くなっている。「インターネットによる情報収集や伝達」はおおむね低い年代ほど割合が高くなっており、18～29歳で約4割と高くなっている。

(図表2-6-3)

図表2-6-3 災害時に協力したいと思う活動—性別・年齢別



(7) 災害情報を得る手段として有効だと思うもの

◇「インターネット」が5割台半ば

問9 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

n = 1, 161

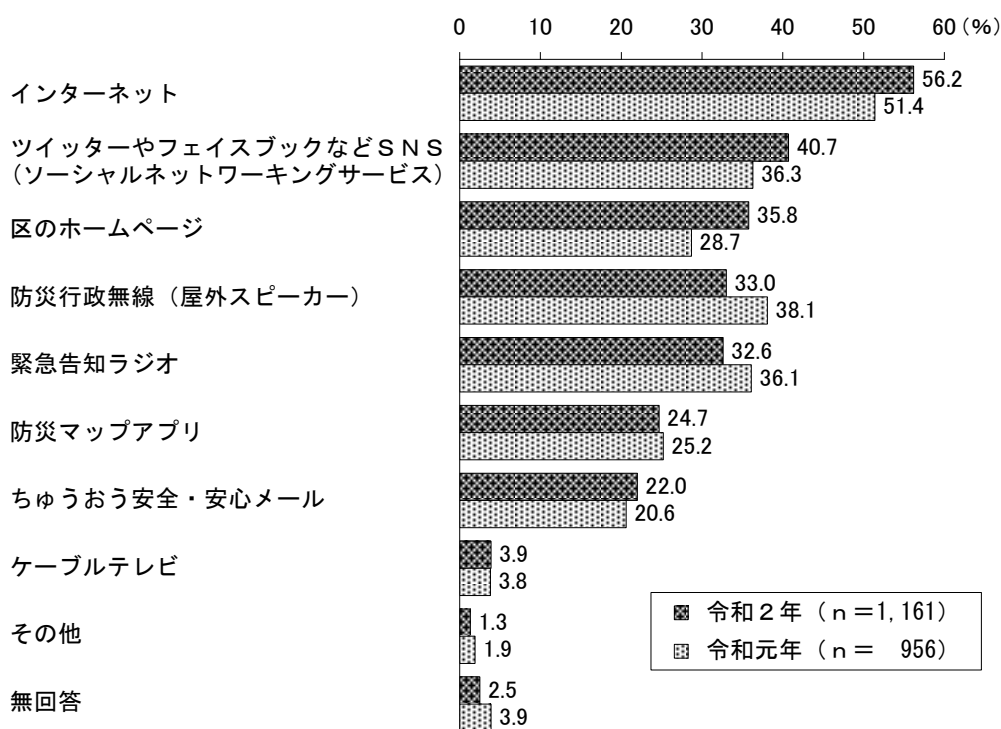
1	区のホームページ	35.8%
2	防災マップアプリ	24.7
3	ちゅうおう安全・安心メール	22.0
4	インターネット	56.2
5	ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)	40.7
6	防災行政無線(屋外スピーカー)	33.0
7	緊急告知ラジオ	32.6
8	ケーブルテレビ	3.9
9	その他	1.3
	(無回答)	2.5

(※) 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、地域コミュニティFM放送局(中央エフエム)を活用して災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さまへ有償頒布を実施しています。

災害情報を得る手段として有効だと思うものは、「インターネット」(56.2%)が5割台半ばで最も高くなっている。次いで、「ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)」(40.7%)、「区のホームページ」(35.8%)、「防災行政無線(屋外スピーカー)」(33.0%)、「緊急告知ラジオ」(32.6%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「区のホームページ」は7.1ポイント増加している。一方、「防災行政無線（屋外スピーカー）」は5.1ポイント減少している。（図表2-7-1）

図表2-7-1 災害情報を得る手段として有効だと思うもの（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「インターネット」は平成27年以降5割台で推移している。（図表2-7-2）

図表2-7-2 災害情報を得る手段として有効だと思うもの—過年度比較

調査年	n	インターネット	ツイッタークやフェイスブックなどSNS	区のホームページ	防災行政無線 (屋外スピーカー)	緊急告知ラジオ	防災マップアプリ	ちゅうおう安全・安心メール	ケーブルテレビ	その他	無回答
令和2年	1,161	56.2	40.7	35.8	33.0	32.6	24.7	22.0	3.9	1.3	2.5
令和元年	956	51.4	36.3	28.7	38.1	36.1	25.2	20.6	3.8	1.9	3.9
平成30年	1,056	54.6	38.9	29.9	37.2	37.3	19.0	18.4	6.0	1.8	3.2
平成29年	1,056	52.0	38.9	26.9	38.8	42.0	※	19.0	4.6	1.8	3.0
平成28年	1,036	52.7	38.3	27.5	40.6	40.2	※	18.5	6.9	2.4	2.2
平成27年	1,027	50.1	31.6	28.6	39.6	42.7	※	14.1	7.9	1.9	3.7
平成26年	1,041	49.4	30.5	25.4	40.7	45.6	※	16.5	7.0	2.3	4.1
平成25年	1,047	46.7	29.5	26.7	47.3	47.3	※	16.1	9.9	2.8	2.9
平成24年	1,123	45.5	27.6	22.1	44.5	48.8	※	15.0	7.2	3.0	3.9

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

(8) ペットの飼育状況

◇「飼っていない」が8割台半ば

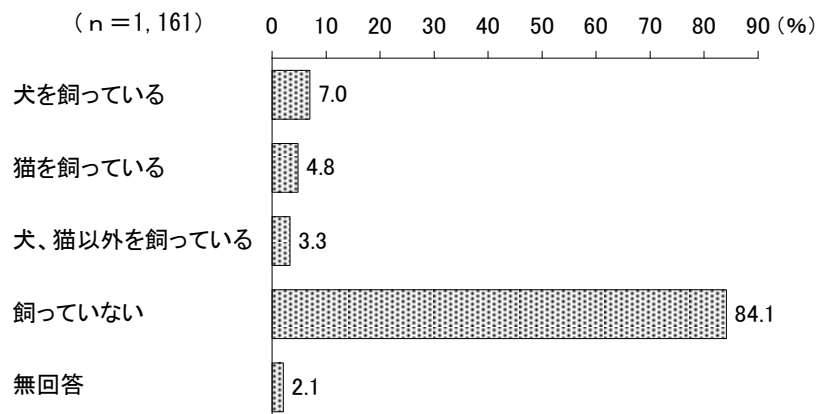
問10 区では、災害時に被災した区民が犬や猫のペットと一緒に避難所（防災拠点）に避難できる「ペット同行避難」の取り組みを進めています。あなたのご自宅ではペットを飼っていますか。（〇はいくつでも）

n = 1,161

1	犬を飼っている	7.0%	3	犬、猫以外を飼っている	3.3
2	猫を飼っている	4.8	4	飼っていない	84.1
				(無回答)	2.1

ペットの飼育状況は、「犬を飼っている」(7.0%)、「猫を飼っている」(4.8%)、「犬、猫以外を飼っている」(3.3%) はいずれも1割に満たない。一方、「飼っていない」(84.1%) が8割台半ばとなっている。(図表2-8-1)

図表2-8-1 ペットの飼育状況（複数回答）



【3 健康診査】

(※) 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。

(1) 加入している健康保険

◇「健康保険組合」が5割近く

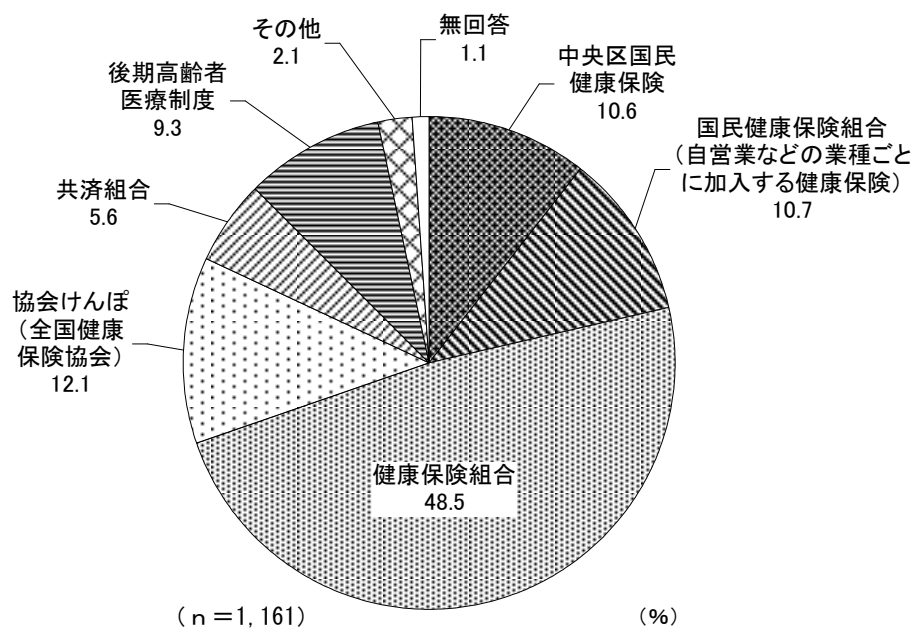
問11 あなたが加入している健康保険は次のどれですか。(○は1つ)

n = 1, 161

1	中央区国民健康保険	10.6%
2	国民健康保険組合（自営業などの業種ごとに加入する健康保険）	10.7
3	健康保険組合	48.5
4	協会けんぽ（全国健康保険協会）	12.1
5	共済組合	5.6
6	後期高齢者医療制度	9.3
7	その他	2.1
	（無回答）	1.1

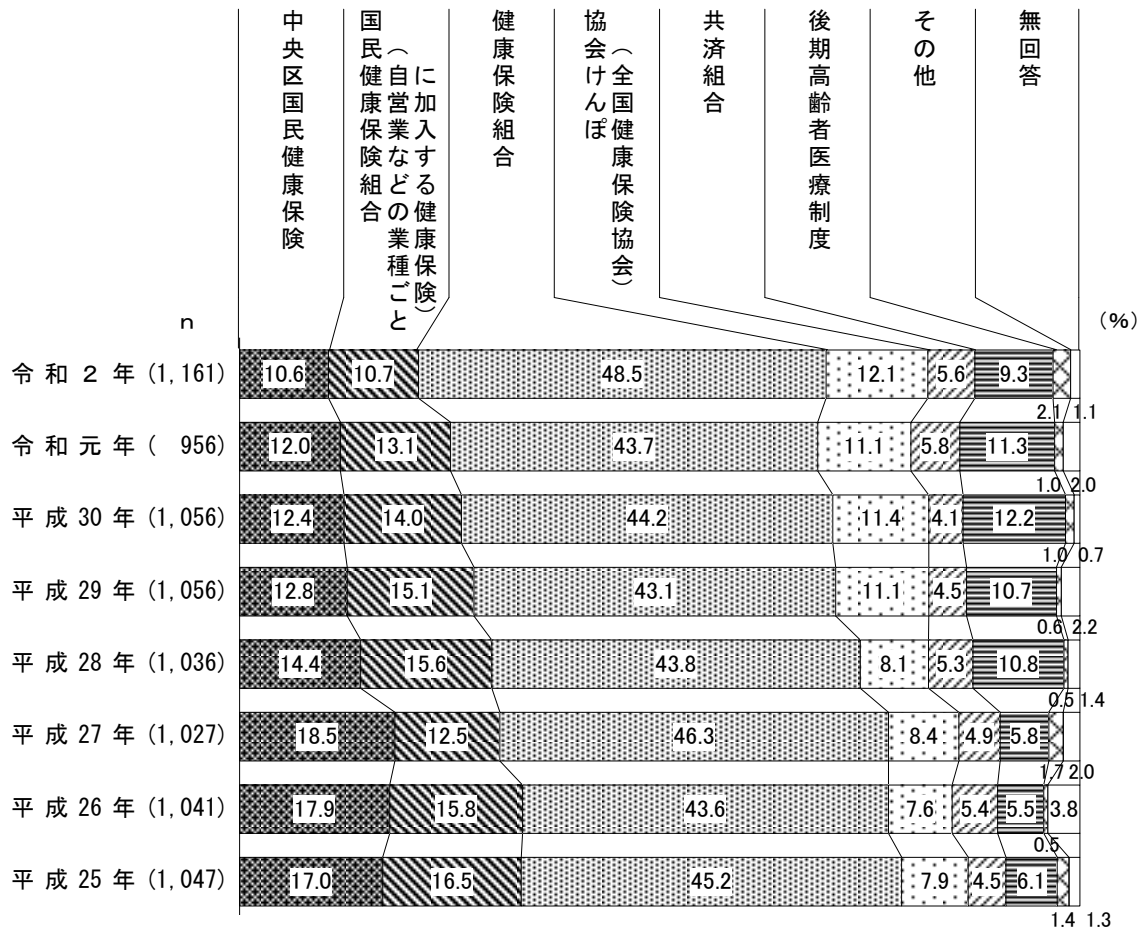
加入している健康保険は、「健康保険組合」（48.5%）が5割近くで最も高くなっている。次いで、「協会けんぽ（全国健康保険協会）」（12.1%）、「国民健康保険組合（自営業などの業種ごとに加入する健康保険）」（10.7%）、「中央区国民健康保険」（10.6%）、「後期高齢者医療制度」（9.3%）などとなっている。（図表3-1-1）

図表3-1-1 加入している健康保険



過去の調査結果と比較すると、「健康保険組合」は令和元年と比べて4.8ポイント増加しており、今回調査が過去最高の割合となっている。(図表3-1-2)

図表3-1-2 加入している健康保険一過年度比較



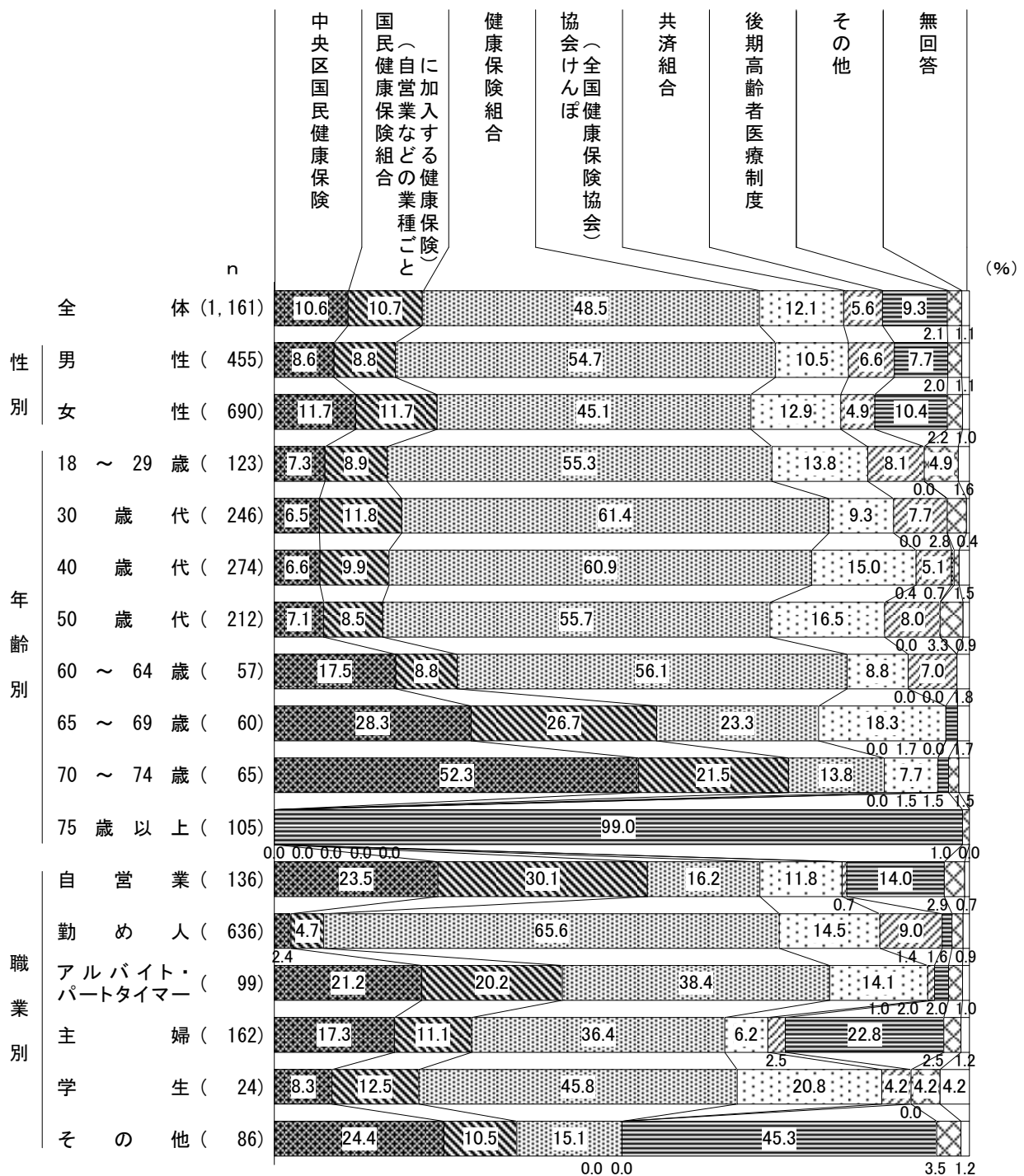
(※注) 平成28年以降の調査では、回答者の年齢を聞く質問で「75歳以上」と答えた方については、この質問で「その他」と回答した方を除いて、記入のいかんを問わず「後期高齢者医療制度」に振り替えて集計している。平成27年以前の調査では、回答者の年齢を聞く質問で「70～74歳」と「75歳以上」を区別せず、「70歳以上」の選択肢で質問していたため、前述のような処理は行っていない。

性別でみると、男性の方が女性よりも「健康保険組合」で9.6ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「中央区国民健康保険」で3.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「中央区国民健康保険」は70～74歳で5割を超えて高くなっている。「健康保険組合」は30歳代と40歳代で6割台と高くなっている。

職業別でみると、「国民健康保険組合」は自営業で3割と高くなっている。「健康保険組合」は勤め人で6割台半ばと高くなっている。「後期高齢者医療制度」はその他で4割台半ばと高くなっている。(図表3-1-3)

図表3-1-3 加入している健康保険—性別・年齢別・職業別



(2) 健康診査の受診状況

◇「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」が4割台半ば

問12 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。（○はいくつでも）

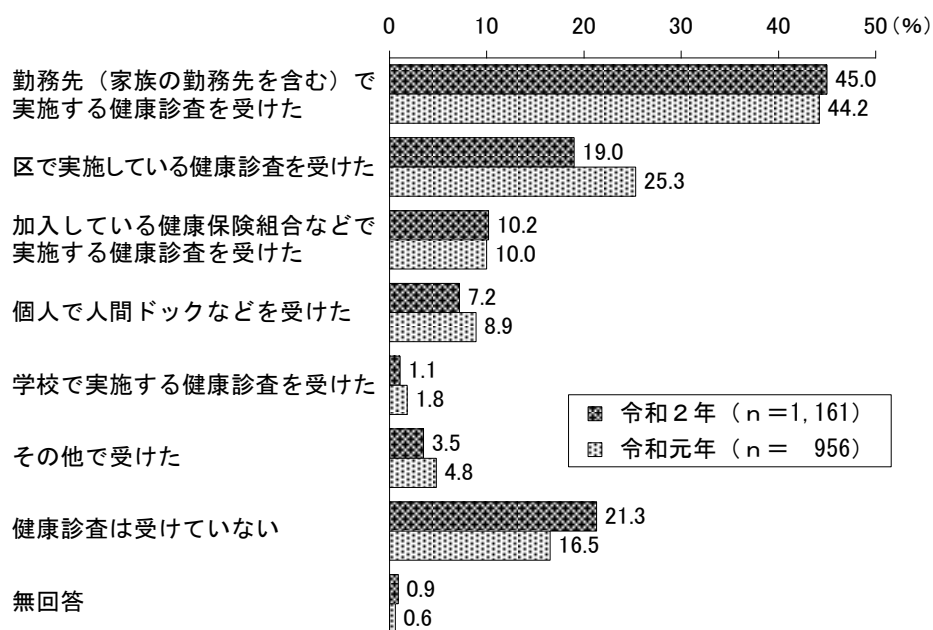
n = 1, 161

1	区で実施している健康診査を受けた	19.0%
2	勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	45.0
3	加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	10.2
4	個人で人間ドックなどを受けた	7.2
5	学校で実施する健康診査を受けた	1.1
6	その他で受けた	3.5
7	健康診査は受けていない	21.3
	（無回答）	0.9

健康診査の受診状況は、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」（45.0%）が4割台半ばで最も高くなっている。次いで、「区で実施している健康診査を受けた」（19.0%）、「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」（10.2%）、「個人で人間ドックなどを受けた」（7.2%）などとなっている。一方、「健康診査は受けていない」（21.3%）は2割を超えている。

昨年の調査結果と比較すると、「健康診査は受けていない」は4.8ポイント増加している。一方、「区で実施している健康診査を受けた」は6.3ポイント減少している。（図表3-2-1）

図表3-2-1 健康診査の受診状況（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」と「区で実施している健康診査を受けた」が引き続き上位2項目となっている。（図表3-2-2）

図表3-2-2 健康診査の受診状況一過年度比較

調査年	n	(%)							
		勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	区で実施している健康診査を受けた	加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	個人で人間ドックなどを受けた	学校で実施する健康診査を受けた	その他で受けた	健康診査は受けていない	無回答
令和2年	1,161	45.0	19.0	10.2	7.2	1.1	3.5	21.3	0.9
令和元年	956	44.2	25.3	10.0	8.9	1.8	4.8	16.5	0.6
平成30年	1,056	44.7	25.7	9.8	8.8	1.3	3.4	16.1	0.6
平成29年	1,056	42.9	24.6	8.6	8.5	2.2	4.5	17.8	1.8
平成28年	1,036	42.5	27.2	8.9	9.0	1.5	4.2	17.2	0.6
平成27年	1,027	40.9	27.3	8.8	7.8	1.7	3.8	18.7	1.3
平成26年	1,041	38.9	25.8	6.8	8.1	1.5	4.7	21.1	2.0
平成25年	1,047	39.5	27.8	8.9	9.6	1.0	4.0	19.0	1.9

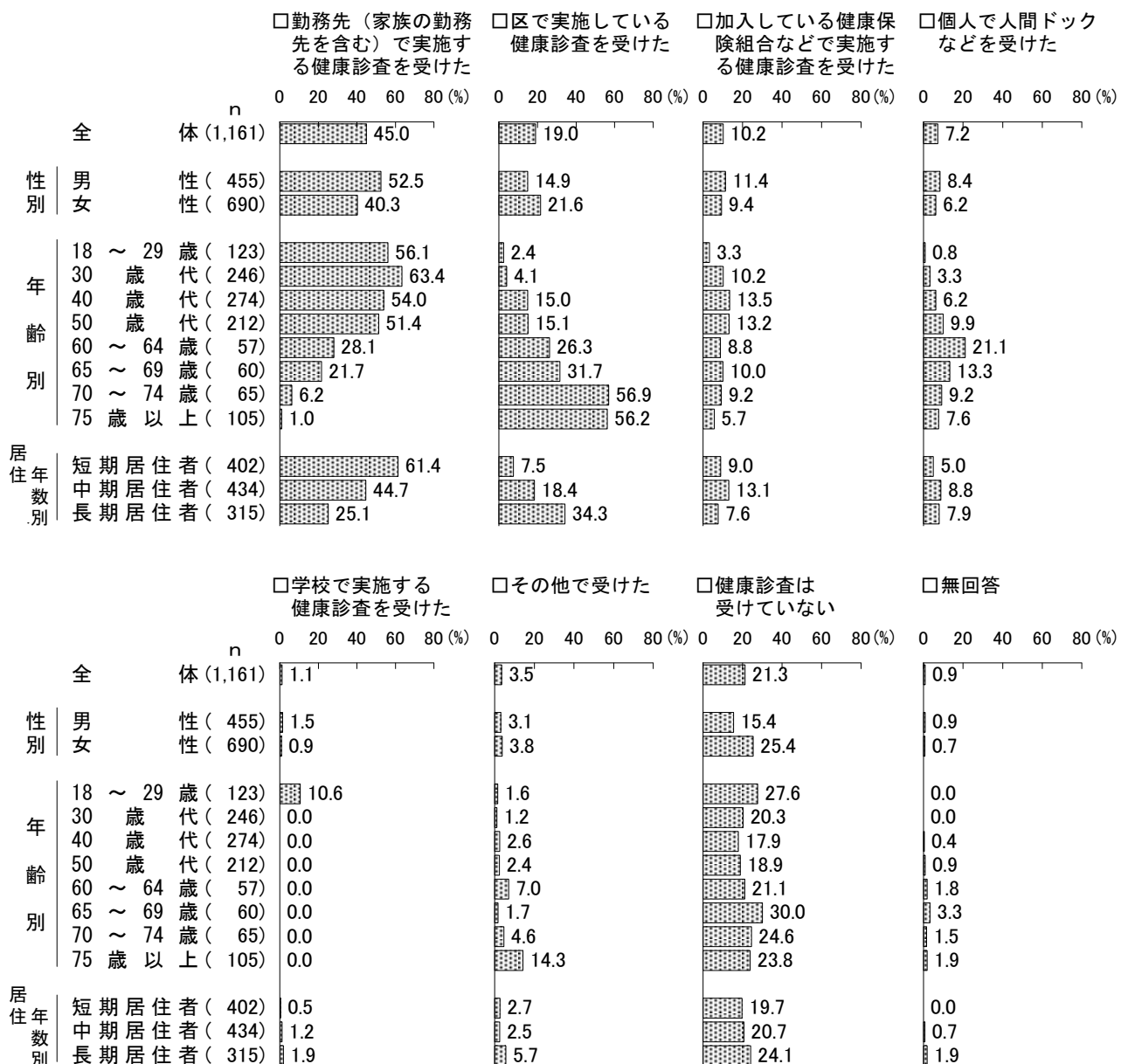
* 「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」は、平成25年は「加入している健康保険で実施する健康診査を受けた」としていた。

性別でみると、男性の方が女性よりも「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」で12.2ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「健康診査は受けていない」で10.0ポイント、「区で実施している健康診査を受けた」で6.7ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は30歳代で6割を超えて高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」は70～74歳で6割近く、75歳以上で5割台半ばと高くなっている。

居住年数別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は短期居住者で6割を超えて高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」は長期居住者で3割台半ばと高くなっている。（図表3-2-3）

図表3-2-3 健康診査の受診状況－性別・年齢別・居住年数別



(3) 健康診査を受けなかった理由

◇「時間がない」が3割近く

(問12で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に)

問12-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

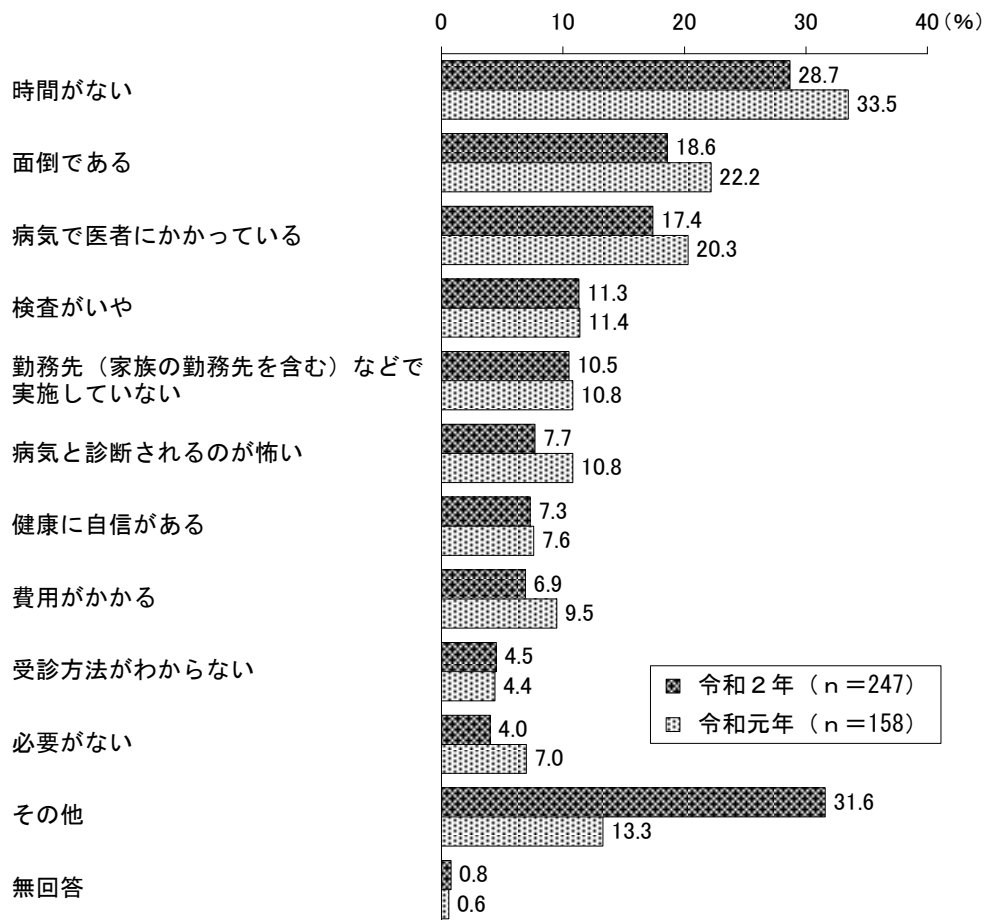
n = 247

1 勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない	10.5%
2 受診方法がわからない	4.5
3 必要がない	4.0
4 時間がない	28.7
5 面倒である	18.6
6 健康に自信がある	7.3
7 病気で医者にかかっている	17.4
8 検査がいや	11.3
9 病気と診断されるのが怖い	7.7
10 費用がかかる	6.9
11 その他	31.6
(無回答)	0.8

問12で、「健康診査は受けていない」と回答した方の、健康診査を受けなかった理由は、「時間がない」(28.7%)が3割近くで最も高くなっている。次いで、「面倒である」(18.6%)、「病気で医者にかかっている」(17.4%)、「検査がいや」(11.3%)、「勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない」(10.5%)などとなっている。また、「その他」の回答として、「新型コロナウイルス感染症の影響でまだ受けていない」などが多くあげられている。

昨年の調査結果と比較すると、「時間がない」は4.8ポイント、「面倒である」は3.6ポイント、それぞれ減少している。(図表3-3-1)

図表3-3-1 健康診査を受けなかった理由(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、第2位以下の項目の順位には変動がみられるが、「時間がない」は引き続き第1位となっている。(図表3-3-2)

図表3-3-2 健康診査を受けなかった理由一過年度比較

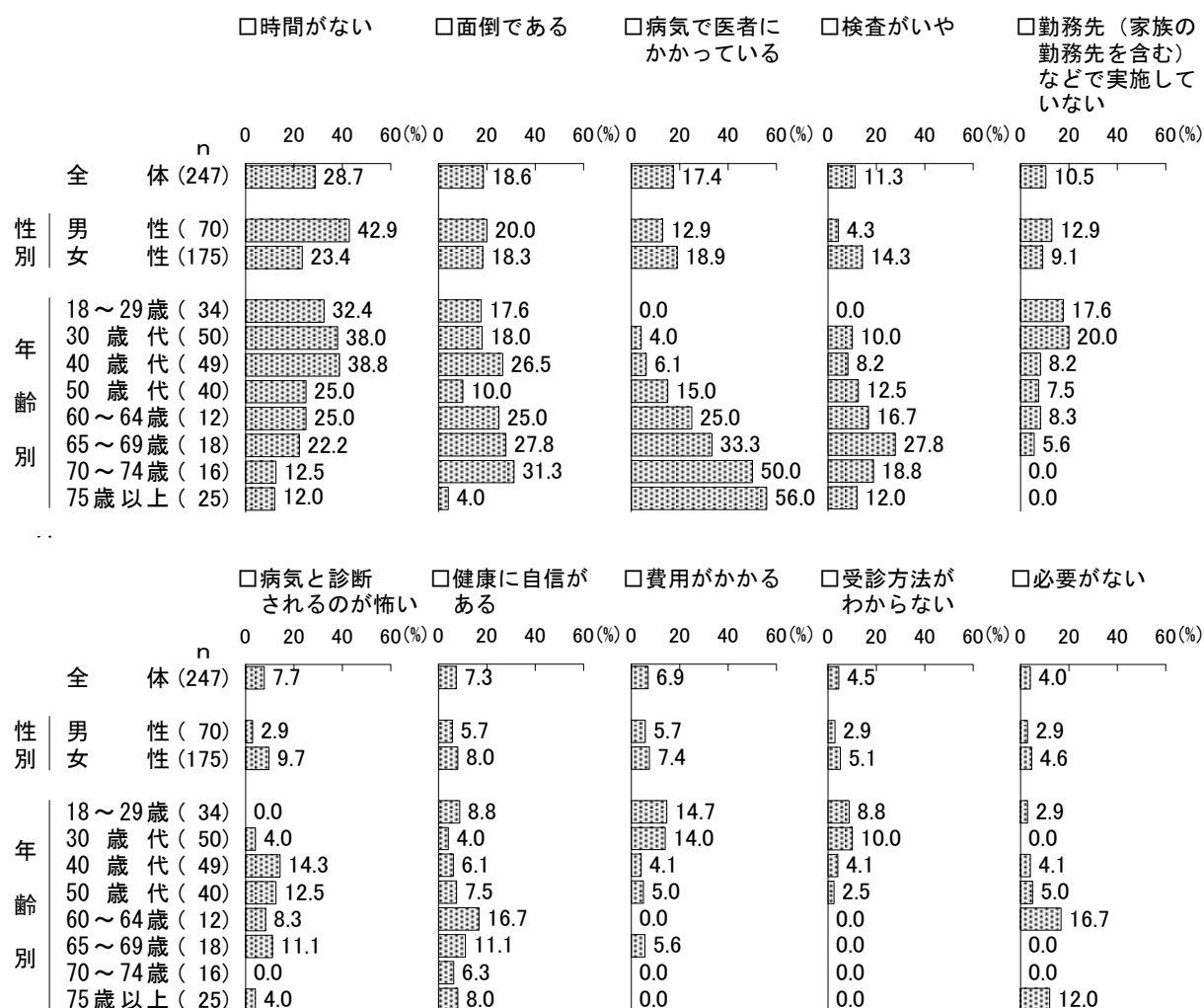
調査年	n	(%)											
		時間がない	面倒である	病気で医者にかかっている	検査がいや	勤務先などで実施していない(家族の勤務先を含む)	病気と診断されるのが怖い	健康に自信がある	費用がかかる	受診方法がわからない	必要がない	その他	無回答
令和2年	247	28.7	18.6	17.4	11.3	10.5	7.7	7.3	6.9	4.5	4.0	31.6	0.8
令和元年	158	33.5	22.2	20.3	11.4	10.8	10.8	7.6	9.5	4.4	7.0	13.3	0.6
平成30年	170	28.2	13.5	25.3	4.1	13.5	3.5	7.1	9.4	5.9	6.5	14.7	1.2
平成29年	188	26.1	21.3	22.3	12.8	10.1	10.1	8.0	12.2	5.9	6.9	17.0	2.1
平成28年	178	27.5	19.1	16.9	14.6	14.6	6.2	8.4	12.9	4.5	6.7	16.9	1.1
平成27年	192	32.3	23.4	15.6	14.1	9.9	9.9	9.4	14.6	6.3	7.3	12.0	3.1
平成26年	220	29.1	14.5	18.2	12.3	15.0	6.8	4.1	14.1	6.4	5.9	18.2	0.0
平成25年	199	34.7	17.1	16.6	7.5	12.6	6.0	7.0	9.5	6.5	7.5	19.1	0.5

性別でみると、男性の方が女性よりも「時間がない」で19.5ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「検査がいや」で10.0ポイント、「病気と診断されるのが怖い」で6.8ポイント、「病気で医者にかかっている」で6.0ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「時間がない」は30歳代と40歳代で4割近くと高くなっている。「病気で医者にかかっている」は高い年代ほど割合が高くなっており、75歳以上で5割台半ばと高くなっている。

(図表3-3-3)

図表3-3-3 健康診査を受けなかった理由—性別・年齢別



(4) がん検診の受診状況

◇「区で実施しているがん検診を受けた」が2割台半ば

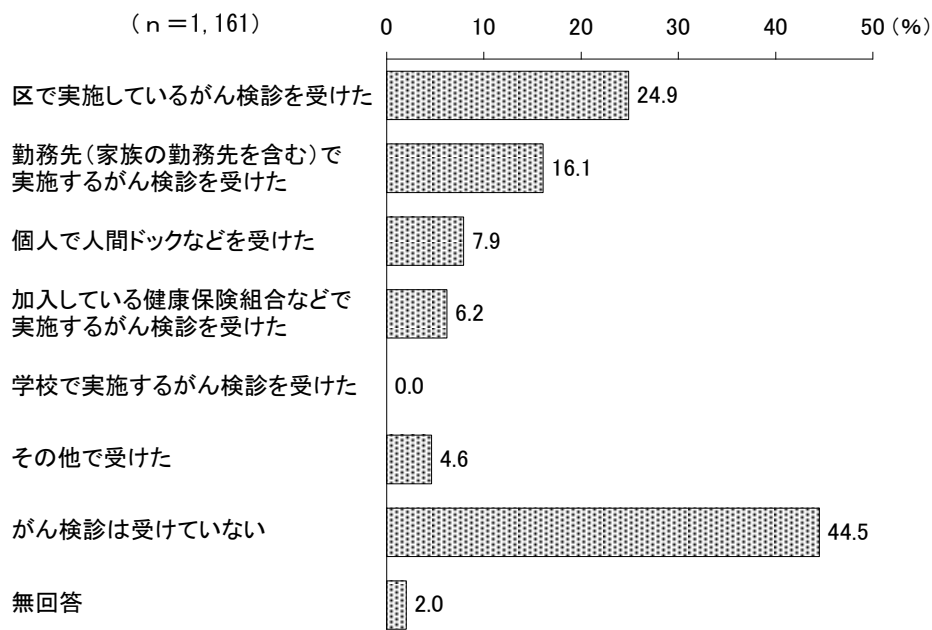
問13 あなたは、この1年間（婦人科は2年間）にがん検診を受けましたか。（○はいくつでも）

n = 1,161

1	区で実施しているがん検診を受けた	24.9%
2	勤務先（家族の勤務先を含む）で実施するがん検診を受けた	16.1
3	加入している健康保険組合などで実施するがん検診を受けた	6.2
4	個人で人間ドックなどを受けた	7.9
5	学校で実施するがん検診を受けた	0.0
6	その他で受けた	4.6
7	がん検診は受けていない	44.5
	（無回答）	2.0

がん検診の受診状況は、「区で実施しているがん検診を受けた」（24.9%）が2割台半ばで最も高くなっている。次いで、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施するがん検診を受けた」（16.1%）、「個人で人間ドックなどを受けた」（7.9%）、「加入している健康保険組合などで実施するがん検診を受けた」（6.2%）などとなっている。一方、「がん検診は受けていない」（44.5%）は4割台半ばとなっている。（図表3-4-1）

図表3-4-1 がん検診の受診状況（複数回答）



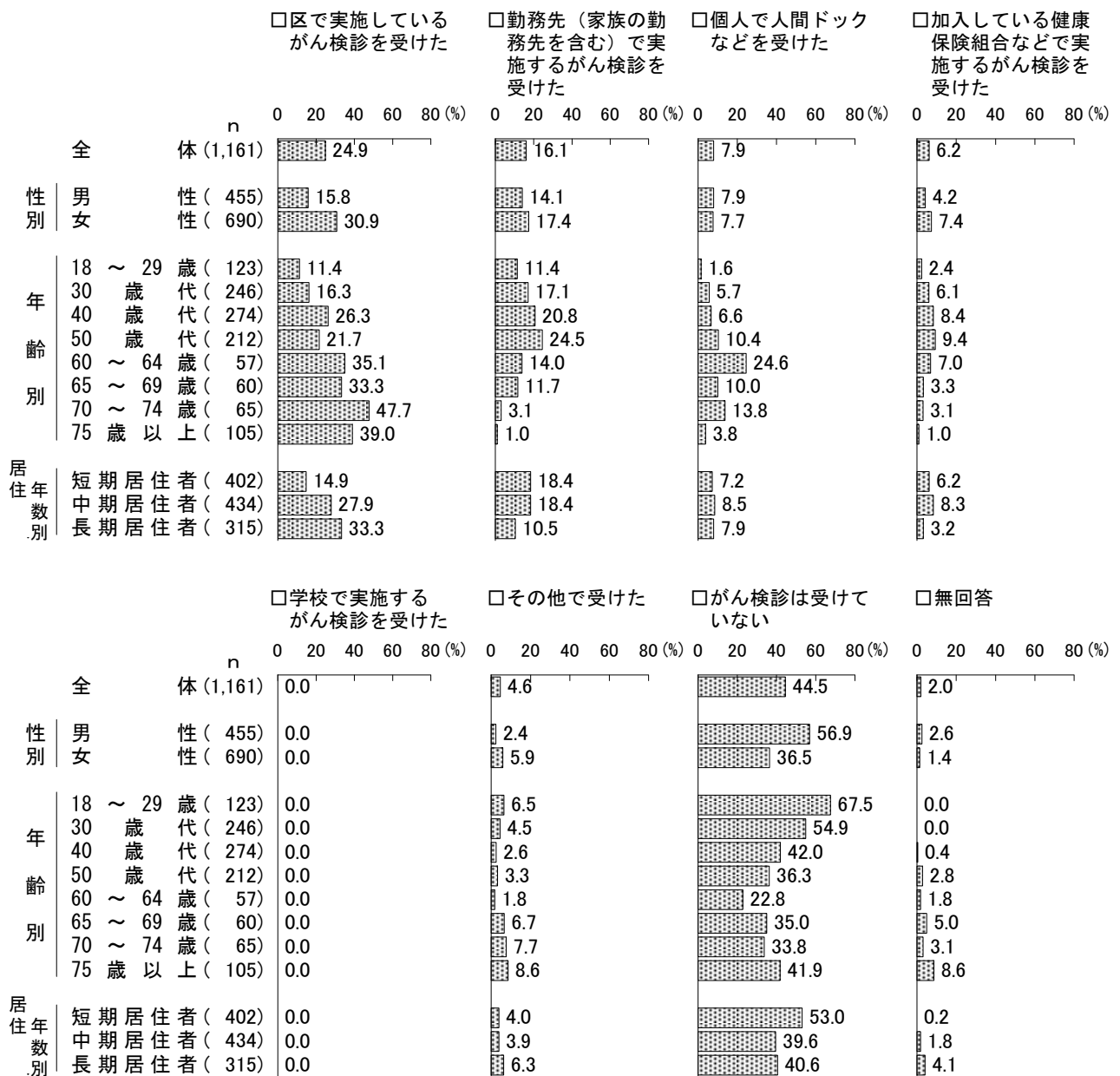
性別でみると、男性の方が女性よりも「がん検診は受けていない」で20.4ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「区で実施しているがん検診を受けた」で15.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「区で実施しているがん検診を受けた」は70～74歳で5割近くと高くなっている。「個人で人間ドックなどを受けた」は60～64歳で2割台半ばと高くなっている。「がん検診は受けていない」は18～29歳で7割近くと高くなっている。

居住年数別でみると、「区で実施しているがん検診を受けた」は長期居住者で3割を超えて高くなっている。「がん検診は受けていない」は短期居住者で5割を超えて高くなっている。

(図表3-4-2)

図表3-4-2 がん検診の受診状況—性別・年齢別・居住年数別



(5) 受診したがん検診の種類

◇「子宮頸がん」が5割を超える

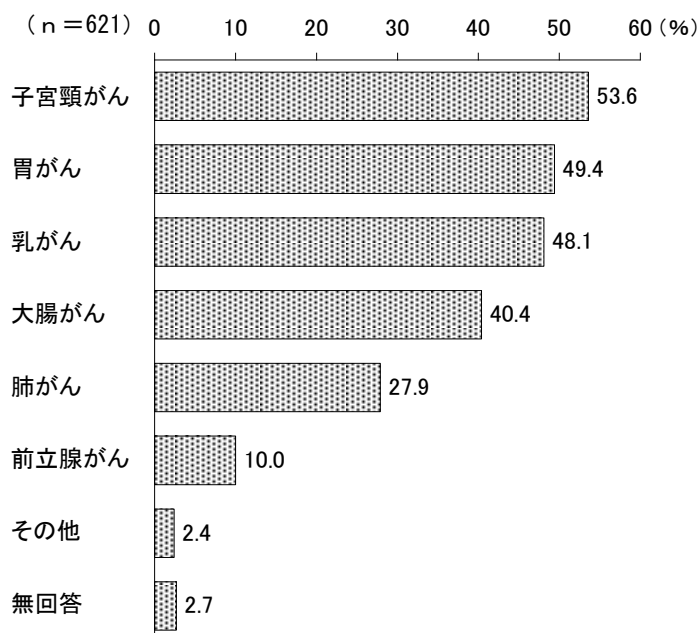
(問13で、「1」から「6」のがん検診を受けたとお答えの方に)
問13-1 がん検診の内容は次のどれですか。(〇はいくつでも)

n = 621

1	胃がん	49.4%	5	乳がん	48.1
2	肺がん	27.9	6	前立腺がん	10.0
3	大腸がん	40.4	7	その他	2.4
4	子宮頸がん	53.6		(無回答)	2.7

問13で、がん検診を受けたと回答した方の、がん検診の内容は、「子宮頸がん」(53.6%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「胃がん」(49.4%)、「乳がん」(48.1%)、「大腸がん」(40.4%)、「肺がん」(27.9%)などとなっている。(図表3-5-1)

図表3-5-1 受診したがん検診の種類(複数回答)

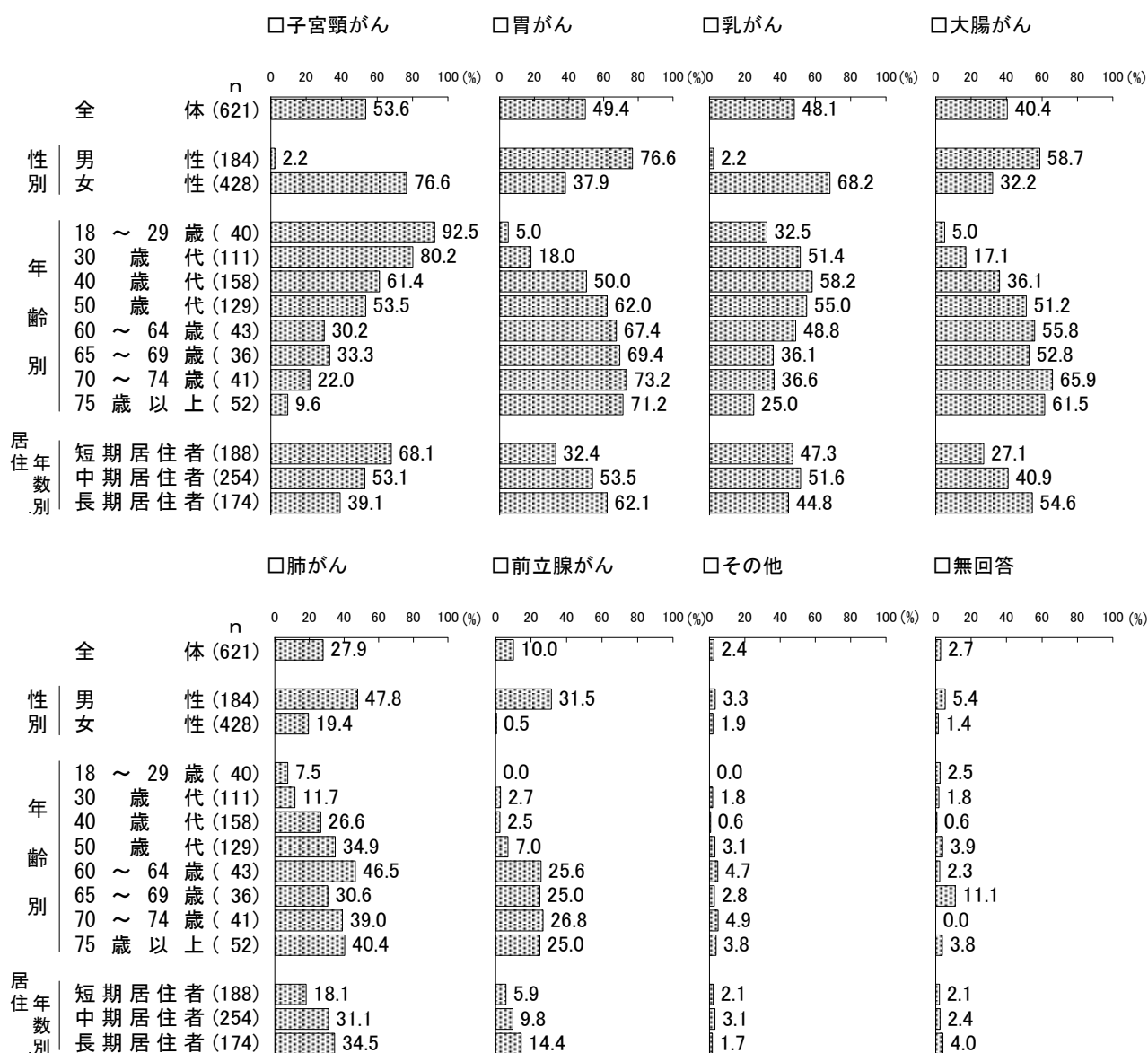


性別でみると、女性のみ、または男性のみを対象とする検診をのぞくと、男性の方が女性よりも「胃がん」で38.7ポイント、「肺がん」で28.4ポイント、「大腸がん」で26.5ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「子宮頸がん」はおおむね低い年代ほど割合が高くなっており、18～29歳で9割を超えて高くなっている。「胃がん」は70～74歳と75歳以上で7割を超えて高くなっている。「大腸がん」は70～74歳で6割台半ばと高くなっている。

居住年数別でみると、「子宮頸がん」は短期居住者で7割近くと高くなっている。「胃がん」は長期居住者で6割を超えて高くなっている。「大腸がん」は長期居住者で5割台半ばと高くなっている。(図表3-5-2)

図表3-5-2 受診したがん検診の種類－性別・年齢別・居住年数別



(6) がん検診を受けなかった理由

◇「勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない」が3割を超える

（問13で、「7 がん検診は受けていない」とお答えの方に）

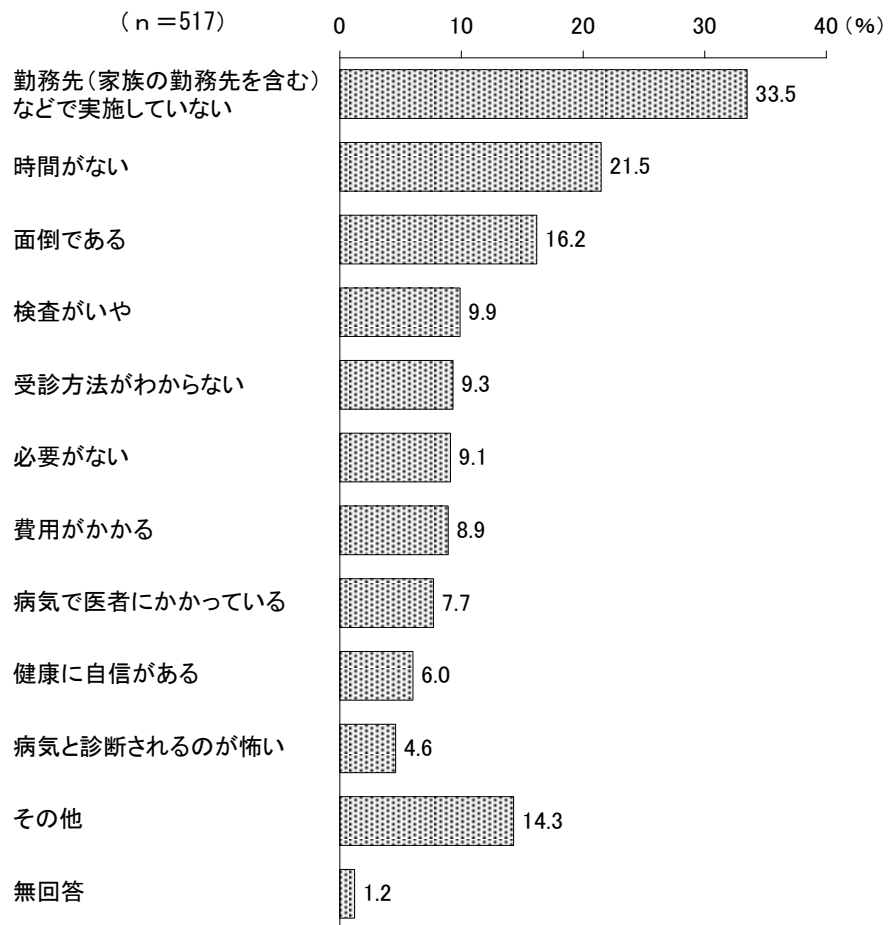
問13-2 あなたががん検診を受けなかった理由は何ですか。（○はいくつでも）

n = 517

1 勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない	33.5%
2 受診方法がわからない	9.3
3 必要がない	9.1
4 時間がない	21.5
5 面倒である	16.2
6 健康に自信がある	6.0
7 病気で医者にかかっている	7.7
8 検査がいや	9.9
9 病気と診断されるのが怖い	4.6
10 費用がかかる	8.9
11 その他	14.3
（無回答）	1.2

問13で、「がん検診は受けていない」と回答した方の、がん検診を受けなかった理由は、「勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない」（33.5%）が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「時間がない」（21.5%）、「面倒である」（16.2%）、「検査がいや」（9.9%）、「受診方法がわからない」（9.3%）などとなっている。（図表3-6-1）

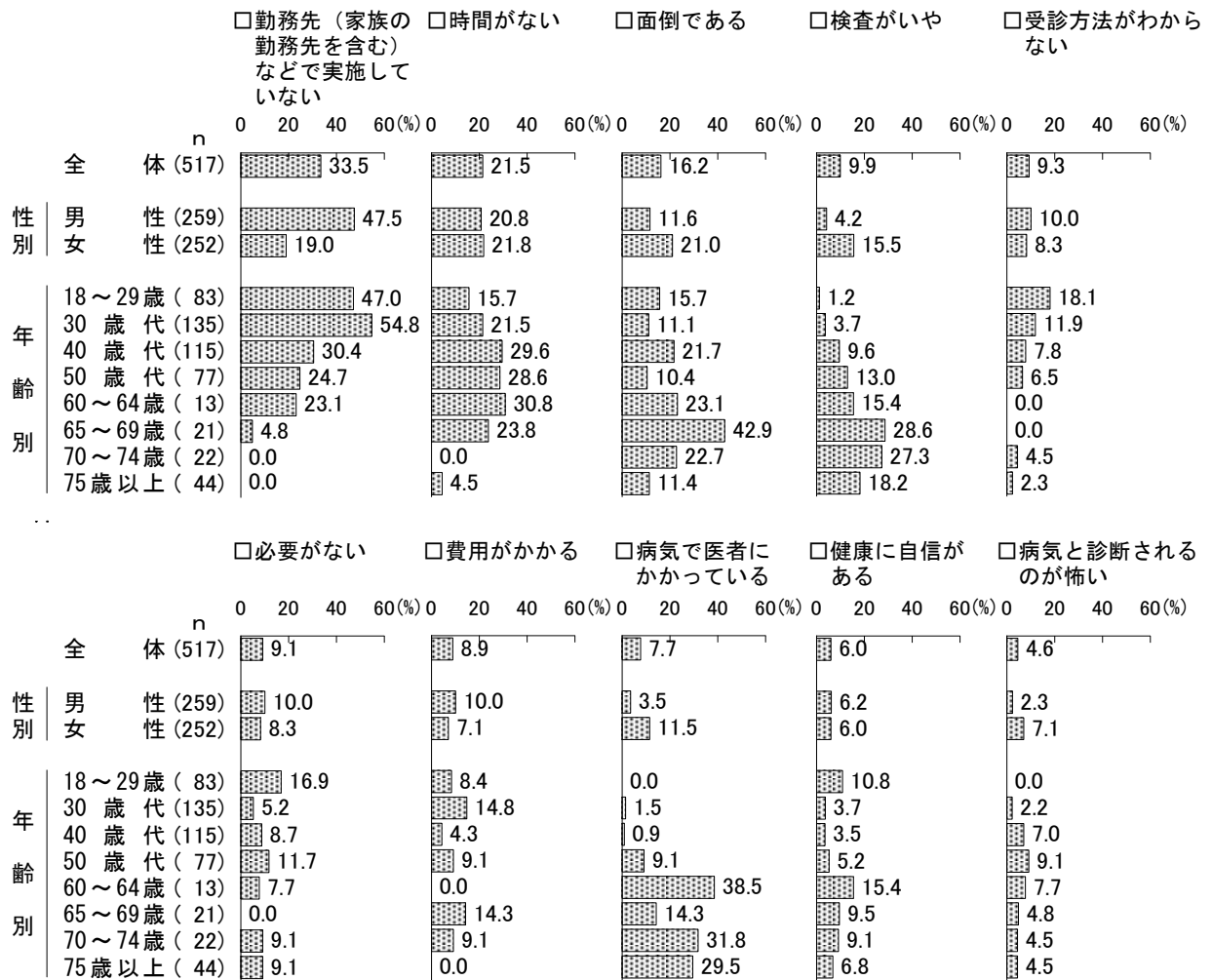
図表 3-6-1 がん検診を受けなかった理由（複数回答）



性別でみると、男性の方が女性よりも「勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない」で28.5ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「検査がいや」で11.3ポイント、「面倒である」で9.4ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない」は30歳代で5割台半ばと高くなっている。「面倒である」は65～69歳で4割を超えて高くなっている。（図表3-6-2）

図表3-6-2 がん検診を受けなかった理由—性別・年齢別



【4 高齢者施策】

(1) 要介護時における暮らし方

◇「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」が3割台半ば

問14 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

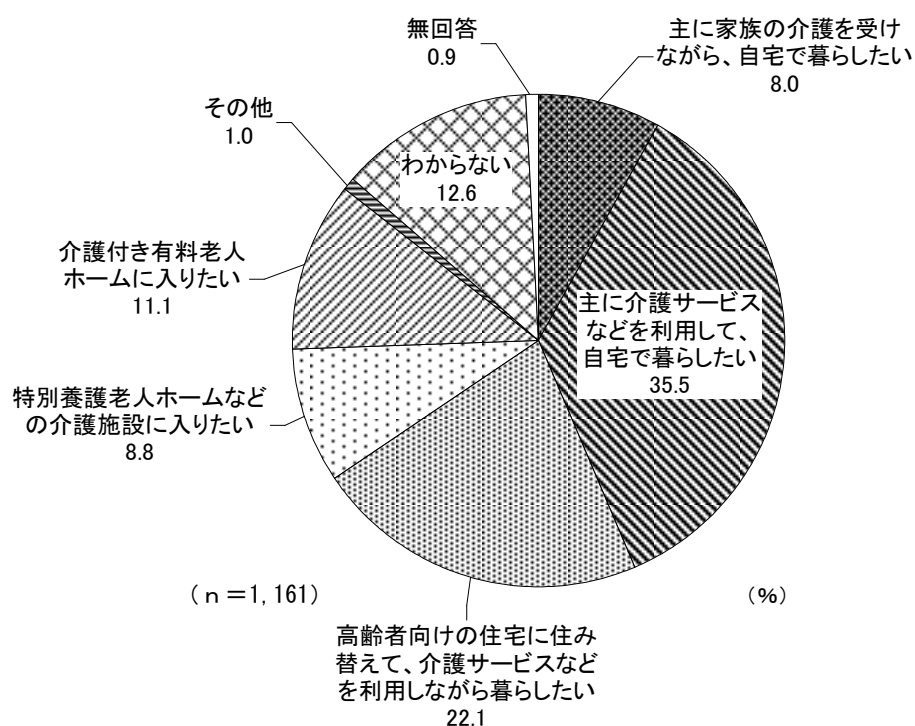
(もっとも近い考え1つに○)

n = 1, 161

1	主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい	8.0%
2	主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい	35.5
3	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい	22.1
4	特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	8.8
5	介護付き有料老人ホームに入りたい	11.1
6	その他	1.0
7	わからない	12.6
	(無回答)	0.9

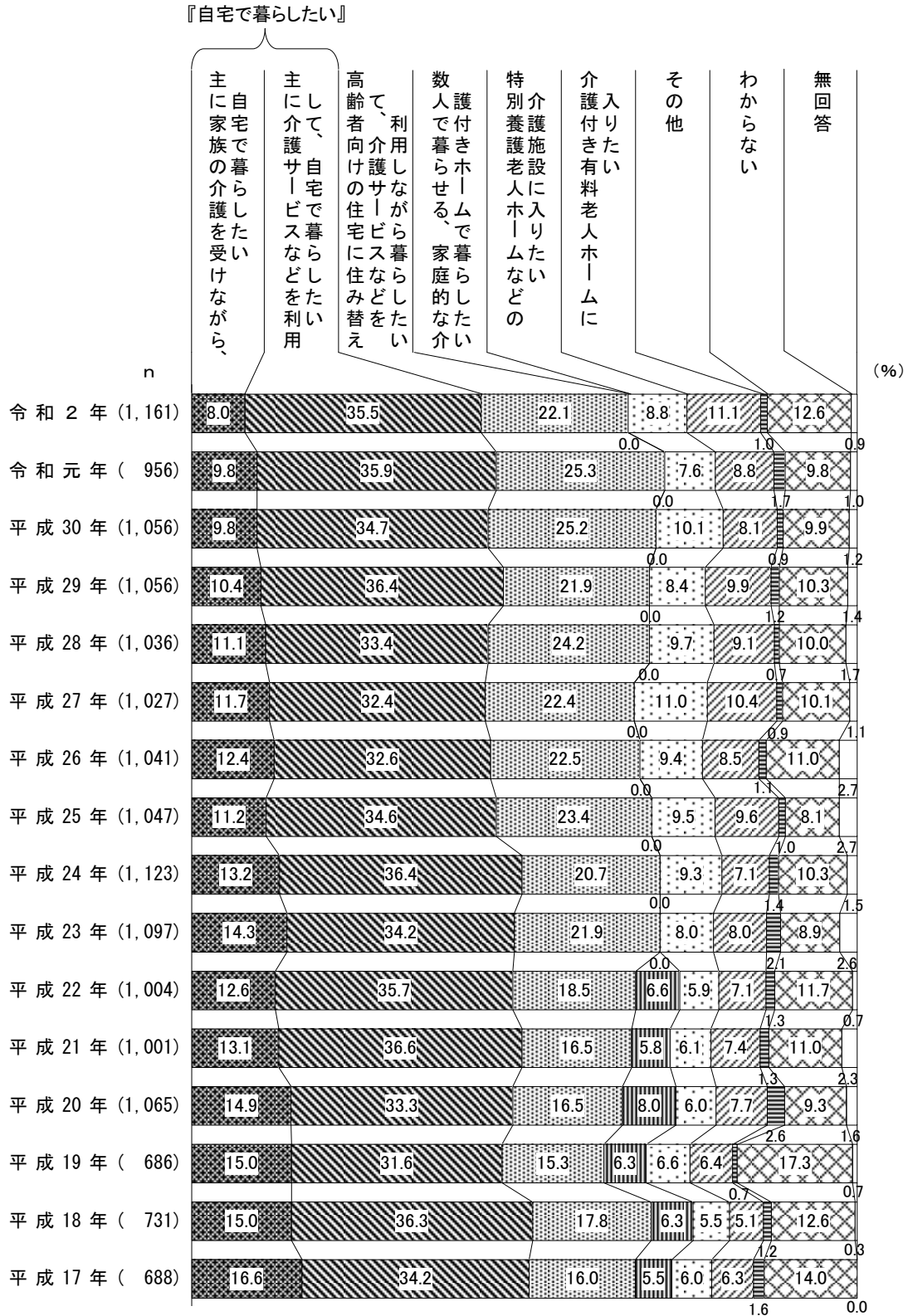
要介護時における暮らし方は、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」(35.5%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」(22.1%)、「介護付き有料老人ホームに入りたい」(11.1%)、「特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」(8.8%)などとなっている。(図表4-1-1)

図表4-1-1 要介護時における暮らし方



過去の調査結果と比較すると、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は令和元年と比べて3.2ポイント減少している。(図表4-1-2)

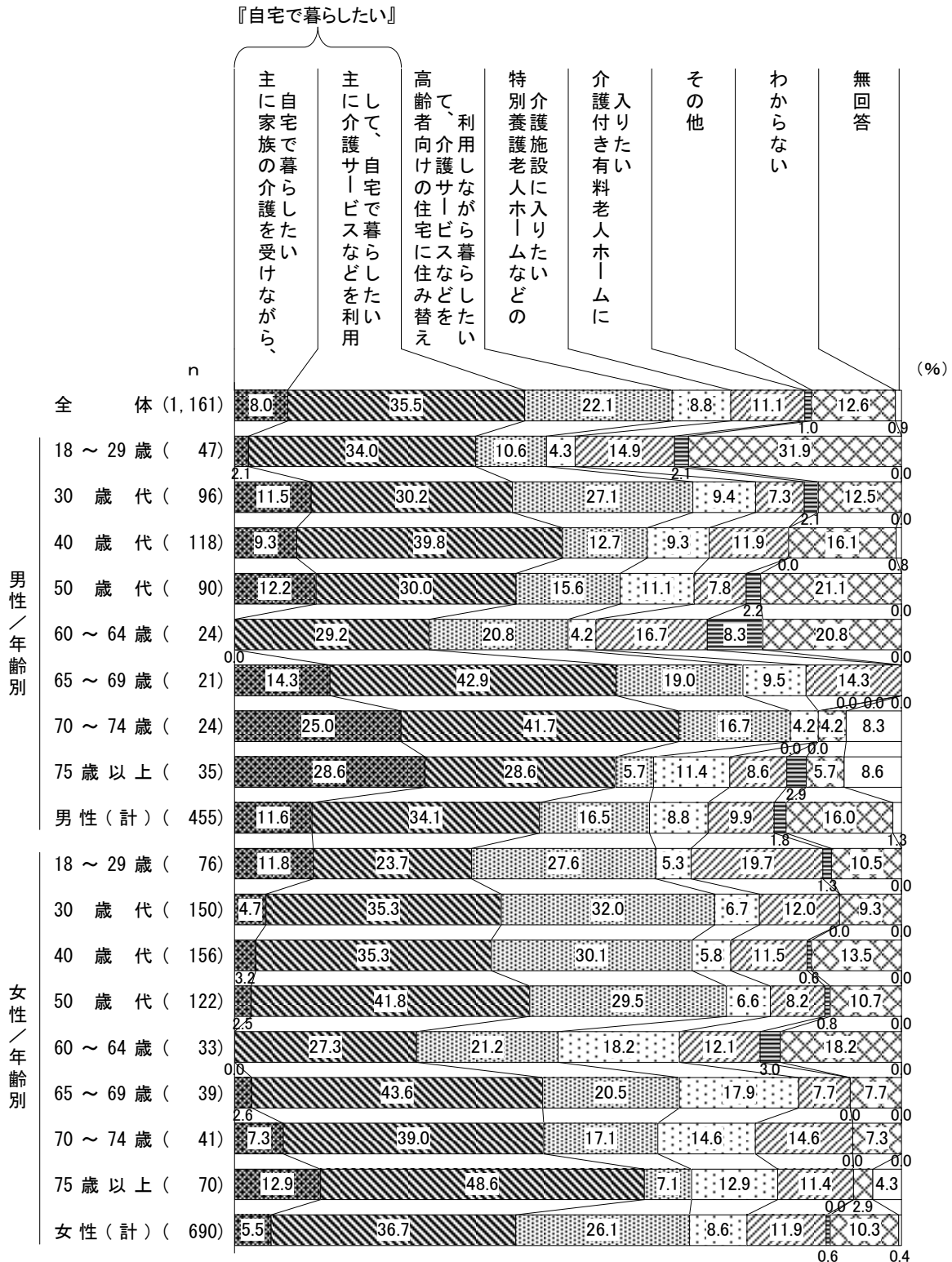
図表4-1-2 要介護時における暮らし方一過年度比較



* 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホームで暮らしたい」は、平成23年以降選択肢に含まれていない。

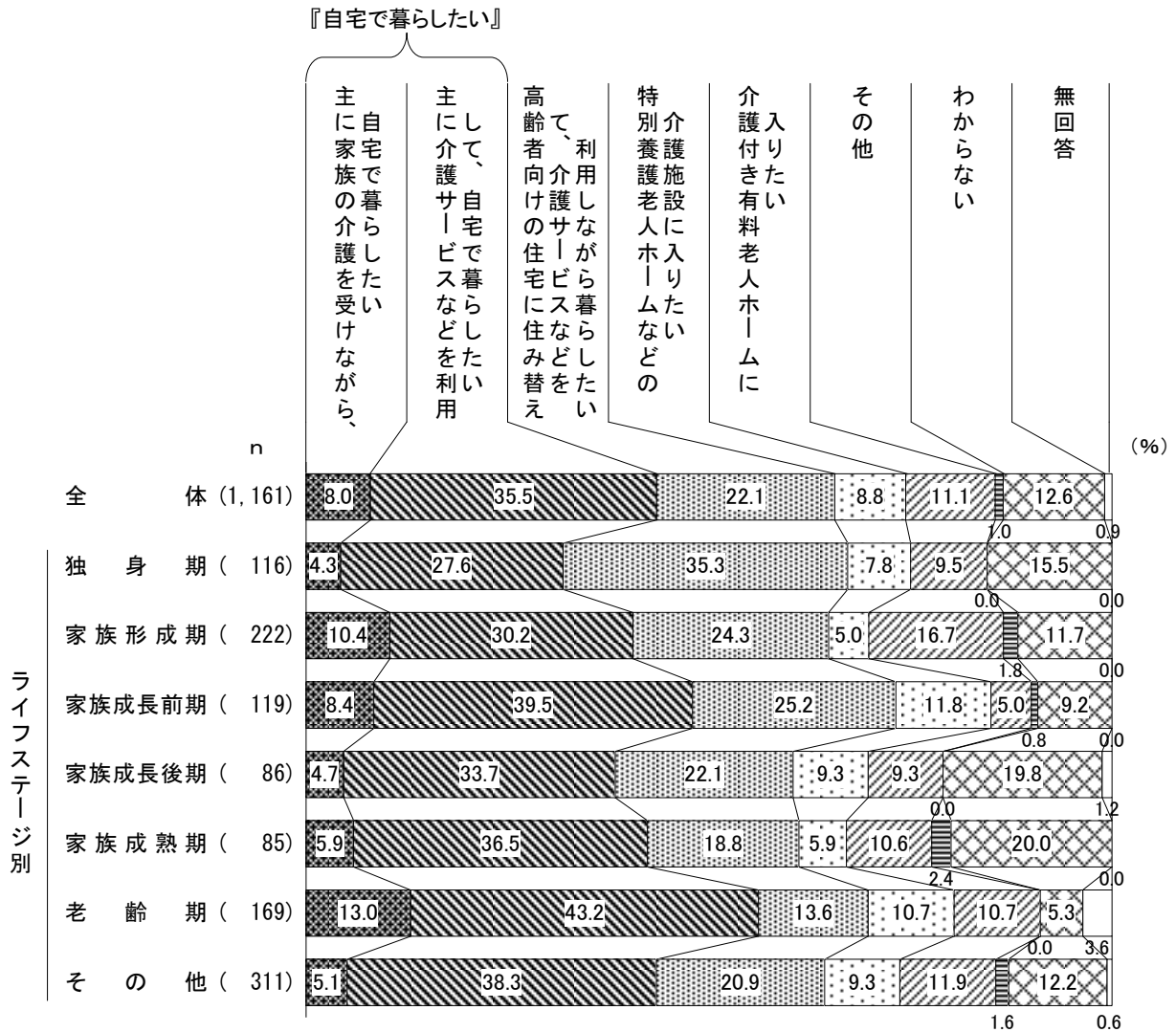
性／年齢別でみると、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」は男性の75歳以上で3割近くと高くなっている。「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は女性の75歳以上で5割近くと高くなっている。「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は女性の30歳代で3割を超えて高くなっている。(図表4-1-3)

図表4-1-3 要介護時における暮らし方—性／年齢別



ライフステージ別で見ると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は高齢期で4割を超えて高くなっている。「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は独身期で3割台半ばと高くなっている。(図表4-1-4)

図表4-1-4 要介護時における暮らし方—ライフステージ別



(2) 区に望む高齢者保健福祉サービス

◇「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」が5割を超える

問15 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これから高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思えますか。（〇はいくつでも）

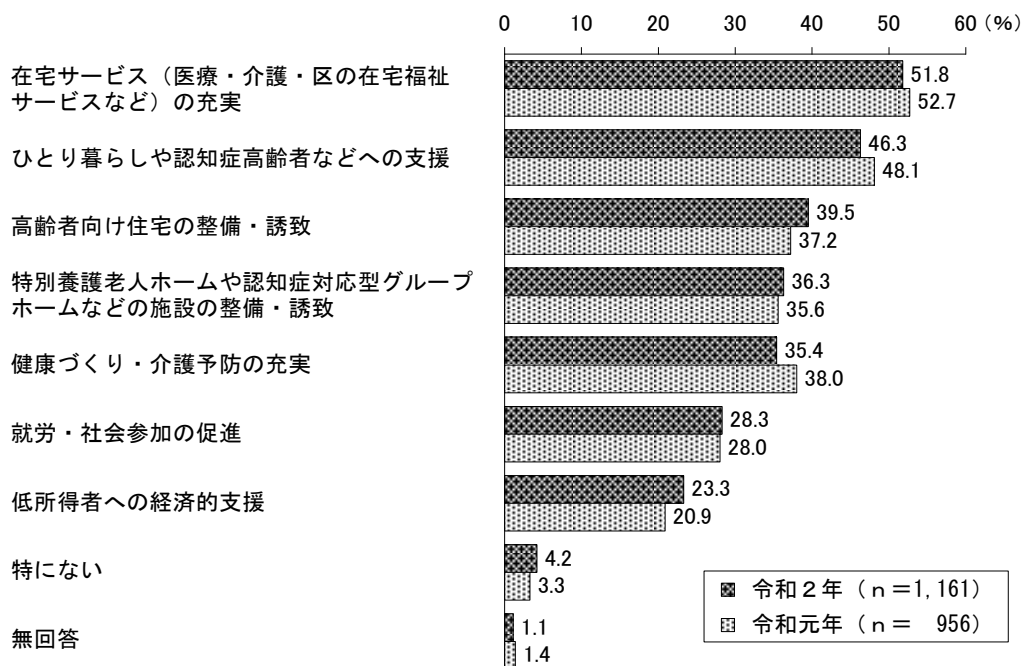
n = 1, 161

1	健康づくり・介護予防の充実	35.4%
2	就労・社会参加の促進	28.3
3	在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実	51.8
4	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致	36.3
5	高齢者向け住宅の整備・誘致	39.5
6	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	46.3
7	低所得者への経済的支援	23.3
8	特にない	4.2
	（無回答）	1.1

区に望む高齢者保健福祉サービスは、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」（51.8%）が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」（46.3%）、「高齢者向け住宅の整備・誘致」（39.5%）、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」（36.3%）、「健康づくり・介護予防の充実」（35.4%）などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図表4-2-1）

図表4-2-1 区に望む高齢者保健福祉サービス（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」と「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」が引き続き上位2項目となっている。

(図表4-2-2)

図表4-2-2 区に望む高齢者保健福祉サービス一過年度比較

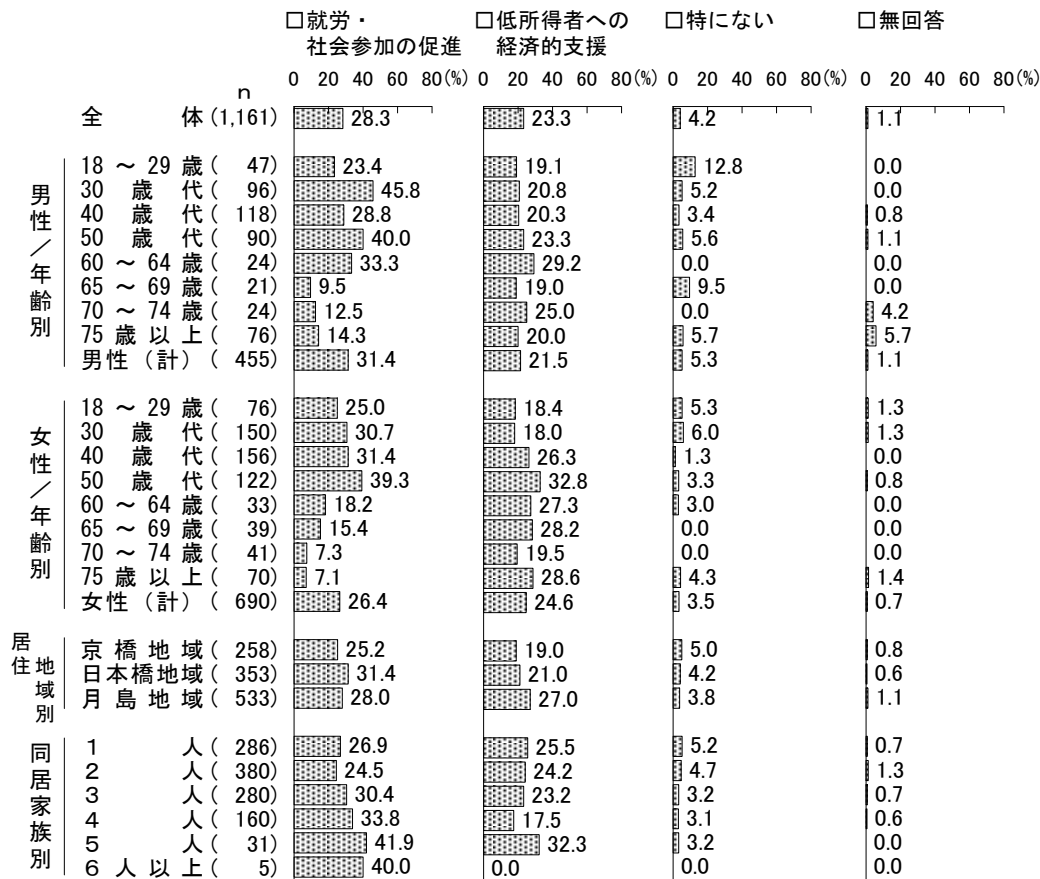
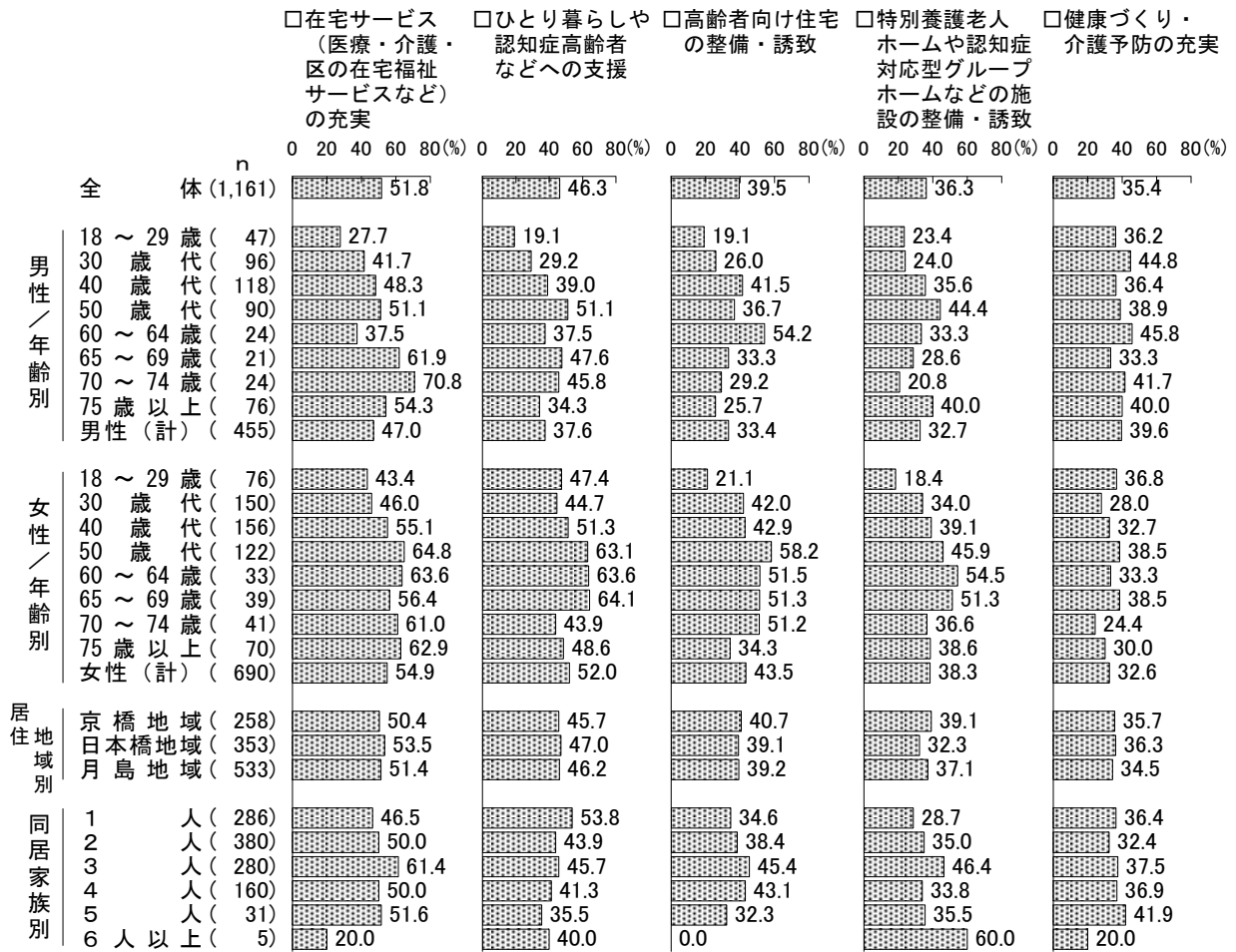
調査年	n	(%)								
		在宅福祉サービス（医療・介護・区の充実）	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	高齢者向け住宅の整備・誘致	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致	健康づくり・介護予防の充実	就労・社会参加の促進	低所得者への経済的支援	特になし	無回答
令和2年	1,161	51.8	46.3	39.5	36.3	35.4	28.3	23.3	4.2	1.1
令和元年	956	52.7	48.1	37.2	35.6	38.0	28.0	20.9	3.3	1.4
平成30年	1,056	49.5	44.4	41.1	37.5	41.3	27.1	21.3	2.9	1.2
平成29年	1,056	54.5	44.3	36.9	38.9	35.0	26.5	21.5	2.6	1.7
平成28年	1,036	50.8	46.1	40.5	40.7	37.2	28.3	23.4	2.8	2.0
平成27年	1,027	48.7	45.8	38.5	37.8	37.9	28.1	21.9	3.5	1.4
平成26年	1,041	54.9	47.0	39.1	39.9	34.7	28.1	24.7	2.2	3.1

性／年齢別でみると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は男性の70～74歳で約7割と高くなっている。「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」は女性の65～69歳で6割台半ば、女性の50歳代と60～64歳で6割を超えて高くなっている。「高齢者向け住宅の整備・誘致」は女性の50歳代で6割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」は京橋地域で約4割と高くなっている。「就労・社会参加の促進」は日本橋地域で3割を超えて高くなっている。

同居家族別でみると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は同居家族3人で6割を超えて高くなっている。「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」は同居家族1人で5割を超えて高くなっている。(図表4-2-3)

図表 4-2-3 区に望む高齢者保健福祉サービス—性／年齢別・居住地域別・同居家族別



(3) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問15-1 問15で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、362人から延べ396件の回答が寄せられた。問15の区に望む高齢者保健福祉サービスにおおむね沿った形で整理した。

(ご意見の一部)

■健康づくり・介護予防の充実 (39件)

- ・健康促進のための区での運動などのイベント、取りくみなどをインターネットやYoutubeを通じて見られたら良いと思います。
- ・健康づくりや介護予防、社会参加などを通して、仲間づくり、友人づくりをしやすい環境があれば高齢者も住み続けやすいと思う。
- ・健康な高齢者向けのスポーツイベント、健康イベントの実施。
- ・高齢者に特化した健康診断の実施。

■就労・社会参加の促進 (43件)

- ・元気で体力のある高齢者の方がたくさんいらっしゃると思います。社会へ積極的に参加できる制度を通して、多少の収入を得たり、交流したりすることは大切なことだと思います。
- ・物価が高騰しているので、年金だけでは生活苦の人が増えてしまう。高齢者だからといって、体力や仕事量によっては働けると思う。若年層と同等の賃金を支払ってくれば、経済的支援の負担は軽減されるように思います。
- ・車椅子の方、ベビーカーの方、杖をお使いの方が気軽に立ち寄れるような、広くて綺麗なcafe方式の区の施設。多年齢の方々との情報交換や、引きこもりをつくらない安心で優しい中央区であって頂きたいと存じます。
- ・何歳になっても働ける場所の確保。少しでも人に役に立てるという意識をもてて、実践できる場所の確保。人が気軽に集まれる場所の確保（コロナ対策をした上で）。

■在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実 (50件)

- ・病院への送り迎えなど。
- ・訪問医療の充実を希望します。老々介護になりつつある現在、在宅でケア出来る様な具体的な仕組みの確立を望みます。
- ・高齢者が自活できる環境づくり。
- ・弱者に優しいお買い物サービス（ご近所で、お買い物からデリバリー迄）。
- ・24時間、緊急時に連絡がとれる仕組みの充実（訪問看護や、医療機関など）。

■特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致（46件）

- ・ 特養老人ホーム入居希望者は、条件が揃えば全員入居できる様にしてほしい。
- ・ 医療、介護スタッフの就業環境、給料等の改善。
- ・ 高齢者が集まれる場や助け合って生活できる老人ホーム（年金の収入内で生活できる）などの施設を整備して欲しいです。子供達に迷惑をかけずに老後を過ごしたいので金銭面でも生活面でもできる限り自分で生活していける環境があると嬉しいです。

■高齢者向け住宅の整備・誘致（28件）

- ・ 高齢者向け住宅の整備、誘致を増やす。
- ・ 比較的安価で入居ができる高齢者向け住宅サービスが欲しいです。
- ・ 高齢者が自立した生活～介護を必要とする過程で、その度合いや生活水準、経済的状况に合わせた、高齢者向け住まいや施設の充実。

■ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援（39件）

- ・ 認知症になってしまった時、老人ホーム等なドスムーズに入れるようになってほしい。
- ・ ウェアラブル端末の装着推進などで高齢者の健康見守り。孤独死の防止。
- ・ ひとり暮らしや認知症高齢者のような方へ対し、1日に1回、所在確認ができる方法を考えて頂きたいです。

■低所得者への経済的支援（35件）

- ・ 低所得者への経済的支援を早急に実施してほしい。
- ・ 所得の少ない人（預金のない人も）の入れる病院の整備。

■その他（116件）

- ・ 1つの建物ごとのサービスではなく、エリア全体で高齢者への特別支援をする場所を開発するなど（住宅、娯楽施設、病院、スーパーなど、高齢者に特化してサービスをする）そのような地区ができるといいなと思う。
- ・ ITの活用。
- ・ 介護を受ける人だけでなく、介護をする側のケアも厚くしてほしい。
- ・ 高齢者福祉を担う人材の確保と育成。現場の職員が有意義でやりがいをもって働ける環境をととのえる。
- ・ 介護のサービスなど、区民が受けることができること（もの）を、わかりやすく区民に知らせしてほしい。手続きがなるべく簡易にできることも要望します。
- ・ インターネットの利用できない高齢者にも、情報がわかりやすく公開されるとよいと思う。
- ・ 高齢者や家族のための相談窓口。

【5 子育て支援】

(1) 子育てに関する悩みの相談

◇「配偶者・パートナー」が3割台半ば

問16 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(〇は2つまで)

n = 1, 161

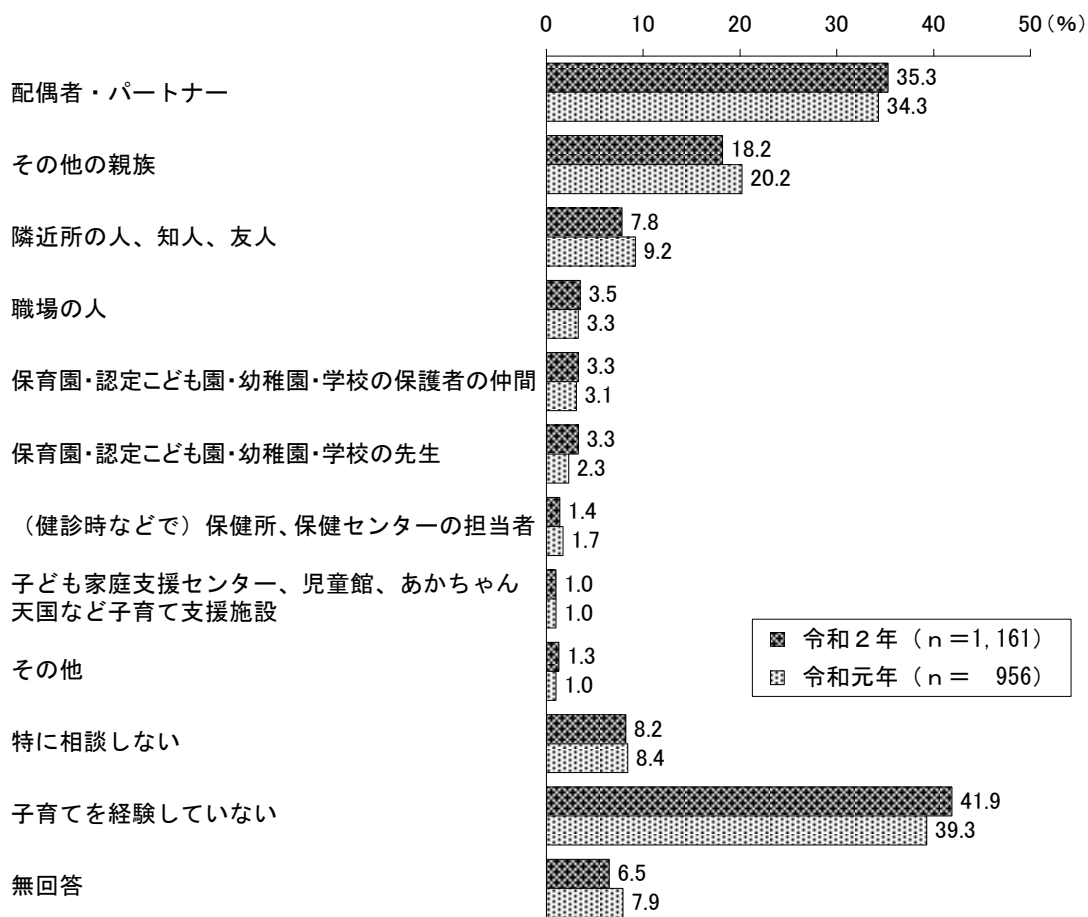
1	配偶者・パートナー	35.3%
2	その他の親族	18.2
3	職場の人	3.5
4	隣近所の人、知人、友人	7.8
5	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間	3.3
6	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	3.3
7	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設	1.0
8	(健診時などで)保健所、保健センターの担当者	1.4
9	その他	1.3
10	特に相談しない	8.2
11	子育てを経験していない	41.9
	(無回答)	6.5

(※) 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

子育てに関する悩みの相談は、「配偶者・パートナー」(35.3%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「その他の親族」(18.2%)、「隣近所の人、知人、友人」(7.8%)、「職場の人」(3.5%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表5-1-1)

図表5-1-1 子育てに関する悩みの相談(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「配偶者・パートナー」と「その他の親族」、「隣近所の人、知人、友人」が引き続き上位3項目となっている。

(図表5-1-2)

図表5-1-2 子育てに関する悩みの相談一過年度比較

調 査 年	n	(%)												
		配偶者・パートナー	その他の親族	隣近所の人、知人、友人	職場の人	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	(健診時などで)の担当者 保健所、保健センター	あかちゃん天国など子育て支援施設、児童館、	子ども家庭支援センター、児童館、	その他	特に相談しない	子育てを経験していない	無回答
令和2年	1,161	35.3	18.2	7.8	3.5	3.3	3.3	1.4	1.0	1.3	8.2	41.9	6.5	※
令和元年	956	34.3	20.2	9.2	3.3	3.1	2.3	1.7	1.0	1.0	8.4	39.3	7.9	※
平成30年	1,056	35.0	18.8	7.9	3.7	3.7	2.8	1.3	1.6	0.9	7.9	39.7	8.5	※
平成29年	1,056	33.5	20.0	8.5	4.0	4.8	2.6	1.8	1.9	0.5	6.4	38.8	10.2	※
平成28年	1,036	33.9	17.4	9.4	4.2	3.2	2.6	1.5	1.5	1.9	9.2	37.8	8.8	※
平成27年	1,027	35.7	19.2	10.7	4.4	5.7	4.2	2.7	1.9	1.9	8.9	38.0	9.0	※
平成26年	1,041	35.0	18.9	9.7	2.2	4.9	3.6	2.2	1.2	1.3	8.3	34.6	11.0	※
平成25年	1,047	34.8	19.2	10.8	2.7	4.6	3.2	2.1	2.5	1.4	8.1	33.8	11.7	※
平成24年	1,123	32.8	17.5	10.2	2.2	5.1	2.4	1.3	1.5	1.7	6.8	38.1	11.5	※
平成23年	1,097	31.4	17.1	11.8	3.0	5.7	2.6	1.5	0.9	0.9	7.6	36.6	12.9	※
平成22年	1,004	35.2	17.9	12.4	3.1	4.9	3.1	1.8	1.2	0.9	9.2	35.6	7.9	※
平成21年	1,001	31.4	15.0	9.9	2.5	3.8	3.0	2.5	※	4.1	8.9	34.0	12.5	1.0
平成20年	1,065	30.8	15.4	12.7	1.3	4.2	2.9	2.7	※	1.8	8.5	34.8	12.4	2.1
平成19年	686	28.4	13.8	11.1	2.2	8.0	5.0	※	※	1.0	13.0	38.2	6.3	1.7

* 太枠内が今回の調査の選択肢。

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

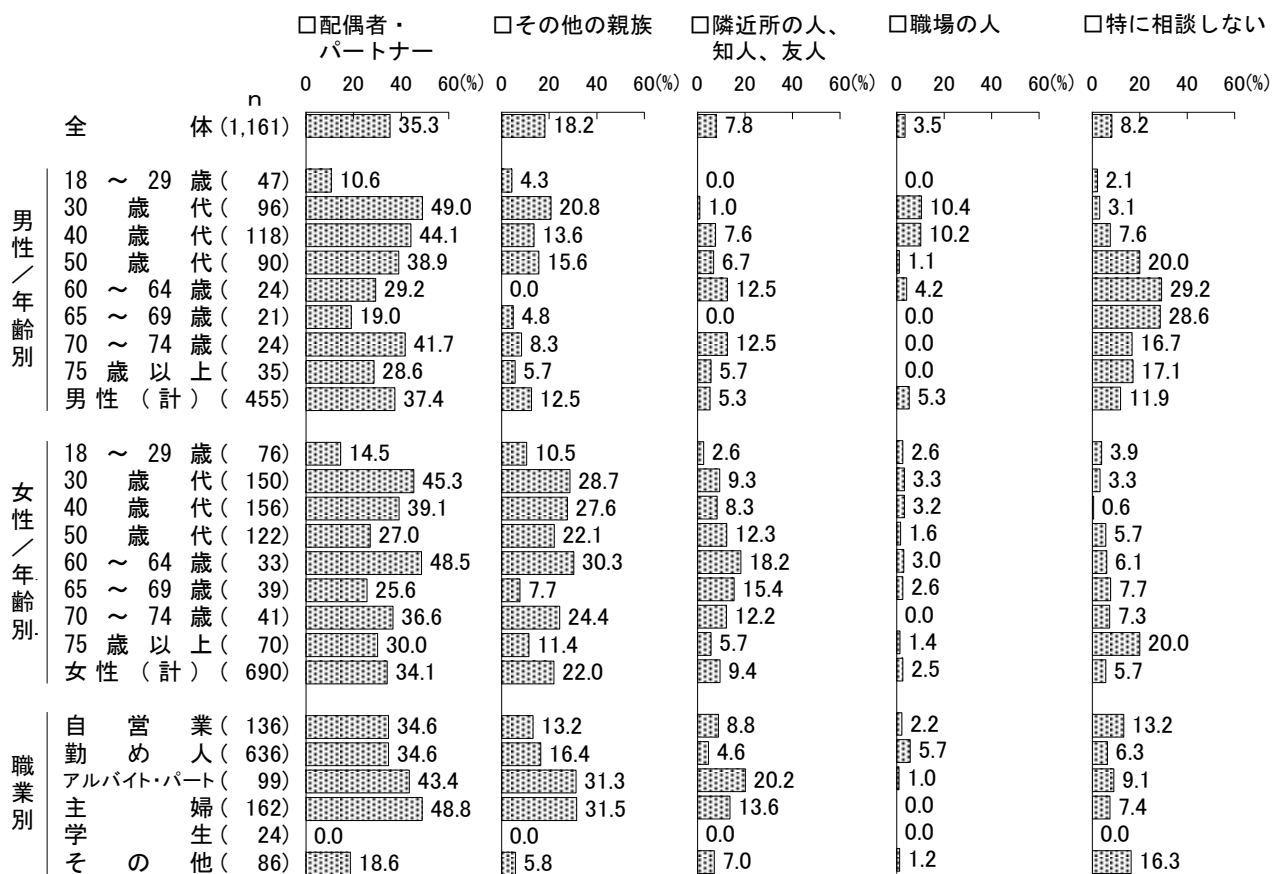
* 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」の選択肢は、平成22年以前は「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」としていた。

* 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生」の選択肢は、平成22年以前は「保育士、幼稚園・学校の先生」としていた。

性／年齢別で見ると、「配偶者・パートナー」は男性の30歳代で約5割、女性の60～64歳で5割近くと高くなっている。「その他の親族」は女性の60～64歳で3割と高くなっている。「特に相談しない」は男性の60～64歳で約3割、男性の65～69歳で3割近くと高くなっている。

職業別で見ると、「配偶者・パートナー」は主婦で5割近くと高くなっている。「その他の親族」は主婦とアルバイト・パートタイマーで3割を超えて高くなっている。「隣近所の人、知人、友人」はアルバイト・パートタイマーで2割と高くなっている。(図表5-1-3)

図表5-1-3 子育てに関する悩みの相談一性／年齢別・職業別（上位5項目）



(2) 重要と考える子育て支援策

◇「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」が4割近く

問17 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。

(○は2つまで)

n = 1, 161

1	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	38.8%
2	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	33.7
3	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	4.4
4	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	11.8
5	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	11.8
6	情報の提供や相談サービス	4.1
7	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	12.1
8	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	1.9
9	職業生活と家庭生活との両立の支援	15.1
10	児童虐待防止対策	9.0
11	経済的な支援	12.2
12	特にない	4.8
	(無回答)	14.7

(※) 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。

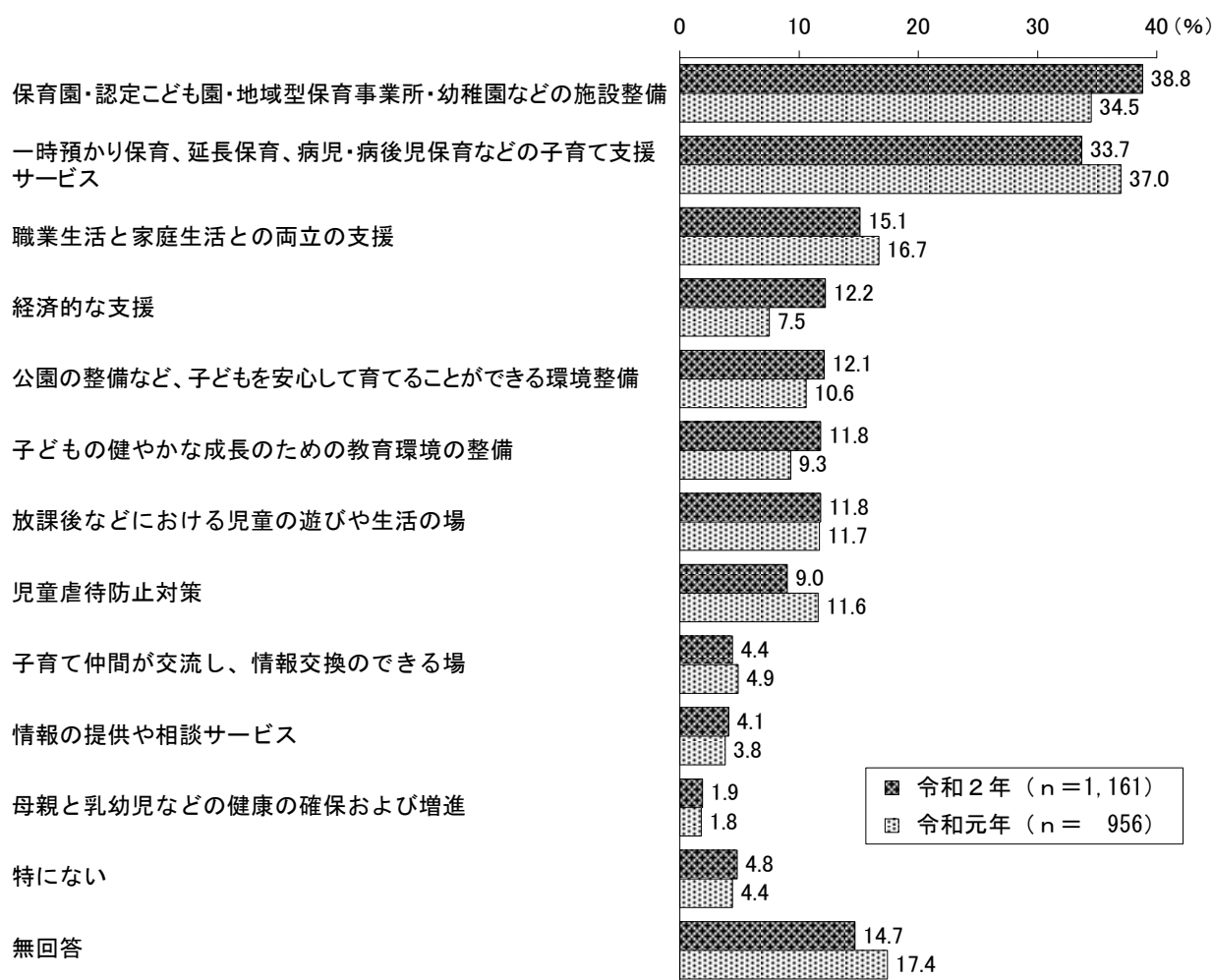
(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

重要と考える子育て支援策は、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(38.8%)が4割近くで最も高くなっている。次いで、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(33.7%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(15.1%)、「経済的な支援」(12.2%)、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」(12.1%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「経済的な支援」は4.7ポイント、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は4.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は3.3ポイント減少している。

(図表5-2-1)

図表5-2-1 重要と考える子育て支援策（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」と「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」が引き続き上位2項目となっている。(図表5-2-2)

図表5-2-2 重要と考える子育て支援策一過年度比較

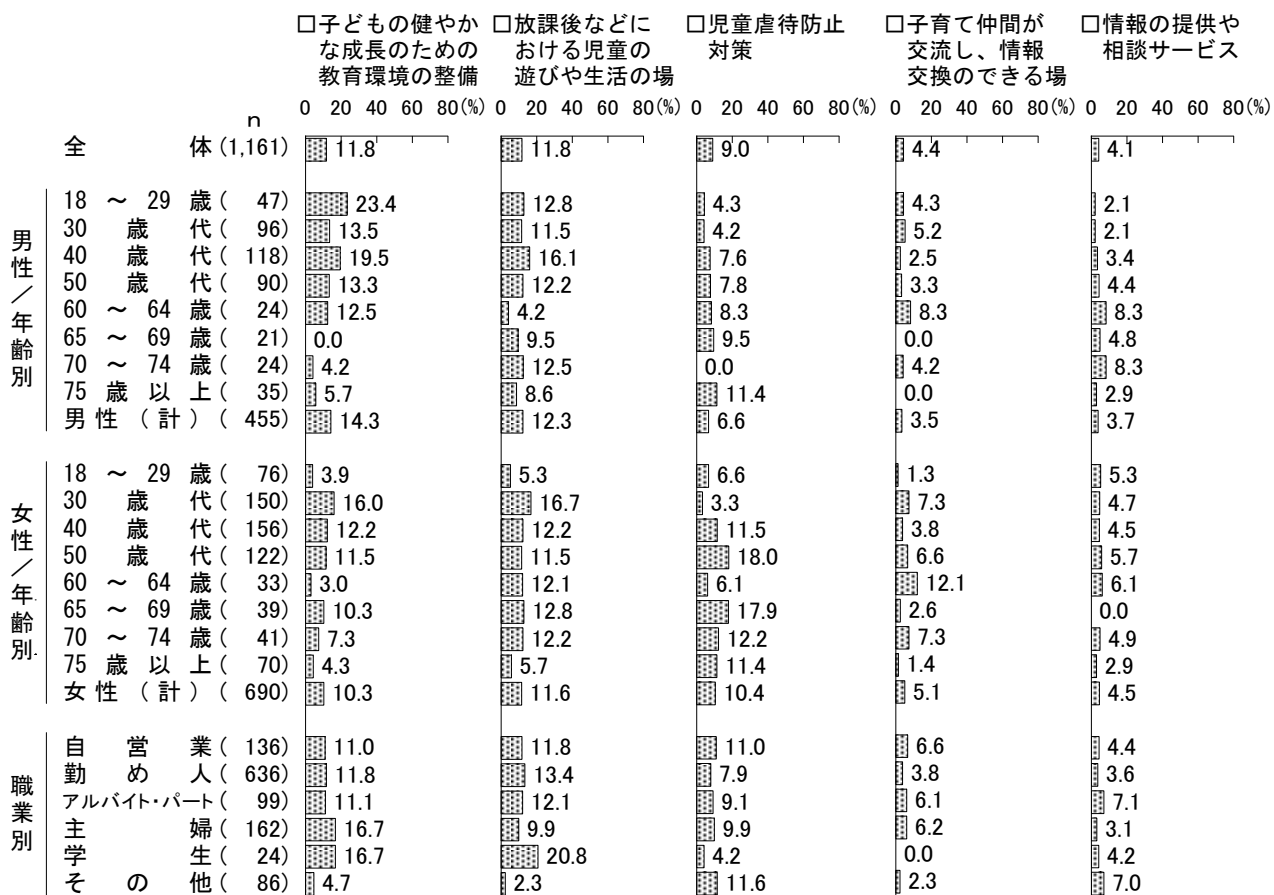
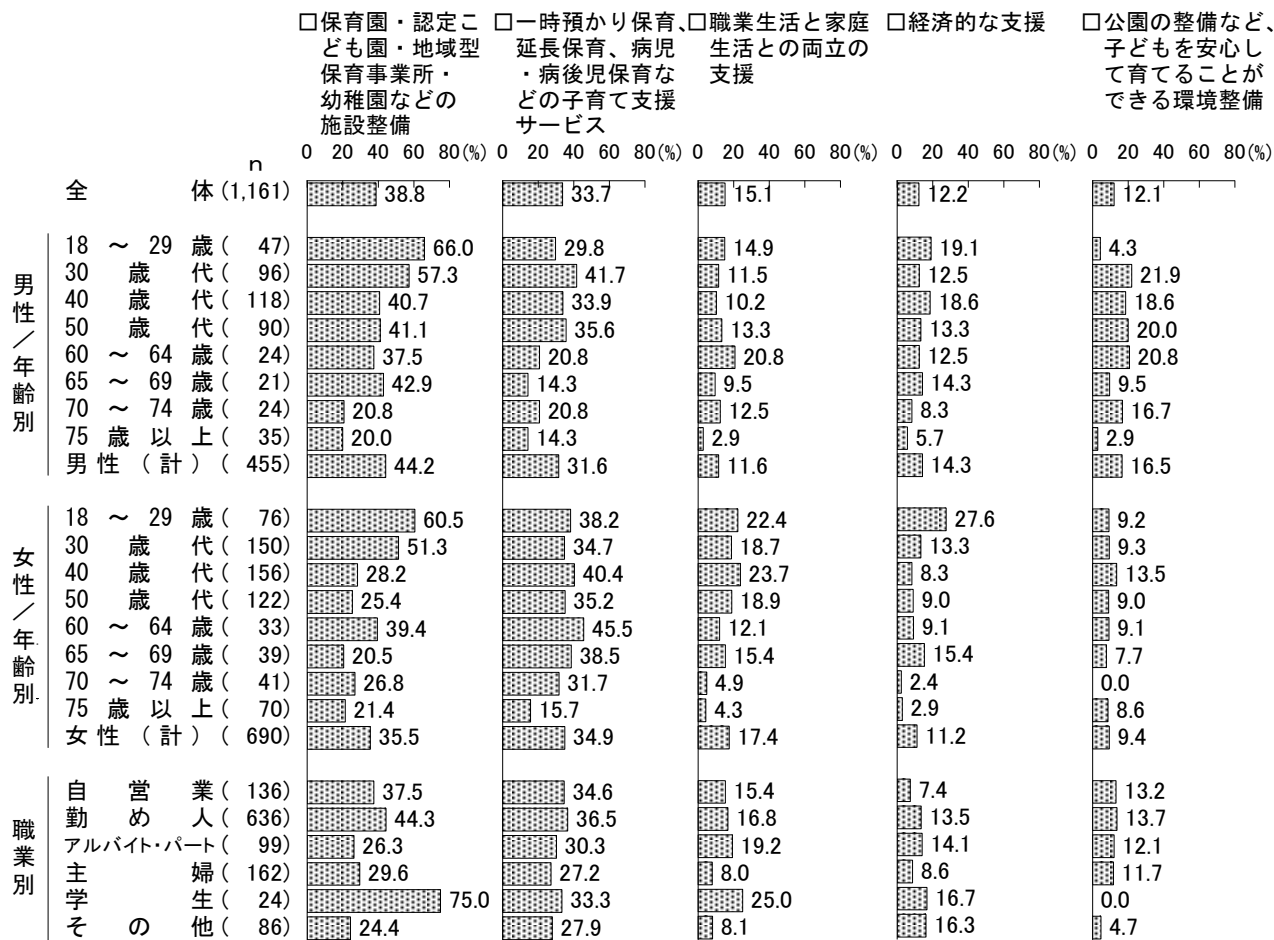
調査年	n	(%)													
		保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	職業生活と家庭生活との両立の支援	経済的な支援	公園の整備など、子どもを安心して育てる環境整備	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	児童虐待防止対策	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	情報の提供や相談サービス	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	特にない	無回答	その他
令和2年	1,161	38.8	33.7	15.1	12.2	12.1	11.8	11.8	9.0	4.4	4.1	1.9	4.8	14.7	※
令和元年	956	34.5	37.0	16.7	7.5	10.6	9.3	11.7	11.6	4.9	3.8	1.8	4.4	17.4	※
平成30年	1,056	42.8	40.2	14.6	9.7	11.3	8.5	11.3	6.6	3.0	2.8	1.6	4.4	15.8	※
平成29年	1,056	42.6	36.4	16.6	8.3	11.5	10.4	12.6	6.8	3.5	2.7	1.1	4.1	16.1	※
平成28年	1,036	44.3	36.0	15.9	10.2	11.3	8.8	12.4	7.9	4.5	1.8	2.2	3.8	15.8	※
平成27年	1,027	41.1	38.9	19.7	10.4	17.7	14.3	※	7.5	7.1	6.5	4.3	9.8	9.8	※
平成26年	1,041	40.6	42.5	14.4	8.0	12.3	11.9	※	4.2	6.3	5.0	2.3	8.5	11.6	※
平成25年	1,047	46.2	43.7	12.4	9.0	12.4	10.7	※	5.2	6.2	4.9	2.9	6.5	11.6	※
平成24年	1,123	53.7	※	28.6	15.9	15.3	17.2	※	4.9	13.4	7.5	3.7	4.7	7.5	2.8
平成23年	1,097	52.4	※	30.5	15.5	14.7	19.7	※	5.4	10.8	7.5	4.3	4.3	8.4	2.3
平成22年	1,004	59.4	※	31.9	15.4	15.7	19.9	※	7.4	9.2	6.0	3.6	3.9	4.1	3.1
平成21年	1,001	42.9	※	30.0	26.1	13.2	15.4	※	3.1	8.0	5.2	3.2	4.5	8.1	9.9
平成20年	1,065	39.6	※	31.4	22.3	18.6	20.2	※	3.7	12.5	7.8	3.2	3.3	7.1	6.1
平成19年	686	34.1	※	30.3	24.6	20.6	20.6	※	4.7	9.3	5.4	3.6	12.5	4.2	1.3

- * 太枠内が今回の調査の選択肢。
- * ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。
- * 「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」の選択肢は、平成23年から平成26年までは「保育園・認定こども園・幼稚園などの施設整備」、平成22年以前は「保育所・幼稚園などの施設整備」としていた。
- * 「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」の選択肢は、平成27年以前は「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実」としていた。
- * 「職業生活と家庭生活との両立の支援」の選択肢は、平成27年以前は「職業生活と家庭生活との両立の推進」としていた。

性／年齢別でみると、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は男性の18～29歳で6割台半ば、女性の18～29歳で約6割と高くなっている。「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は女性の60～64歳で4割台半ばと高くなっている。「経済的な支援」は女性の18～29歳で3割近くと高くなっている。

職業別でみると、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は学生で7割台半ば、勤め人で4割台半ばと高くなっている。「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は勤め人で4割近くと高くなっている。(図表5-2-3)

図表5-2-3 重要と考える子育て支援策一性／年齢別・職業別（上位10項目）



(3) さらに充実を図る必要がある子育て支援策

◇「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」が3割を超える

問17 また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。(○はいくつでも)

n = 1, 161

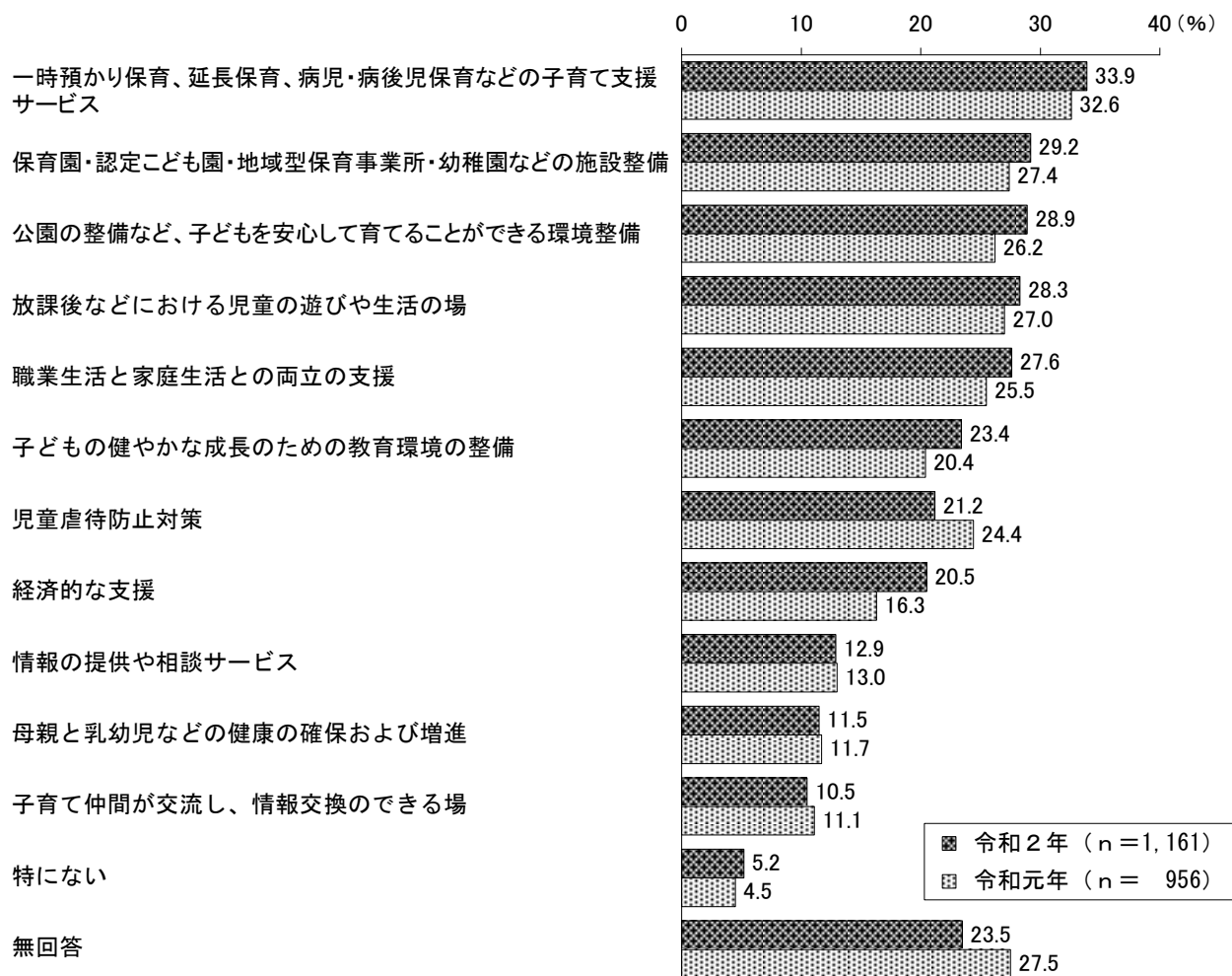
1	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	29.2%
2	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	33.9
3	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	10.5
4	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	23.4
5	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	28.3
6	情報の提供や相談サービス	12.9
7	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	28.9
8	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	11.5
9	職業生活と家庭生活との両立の支援	27.6
10	児童虐待防止対策	21.2
11	経済的な支援	20.5
12	特にない	5.2
	(無回答)	23.5

(※) 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。
(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

さらに充実を図る必要がある子育て支援策は、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(33.9%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(29.2%)、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」(28.9%)、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」(28.3%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(27.6%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「経済的な支援」は4.2ポイント、「子どもの健やかな成長のための教育環境の整備」は3.0ポイント、それぞれ増加している。一方、「児童虐待防止対策」は3.2ポイント減少している。(図表5-3-1)

図表5-3-1 さらに充実を図る必要がある子育て支援策（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」と「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」が引き続き上位2項目となっている。(図表5-3-2)

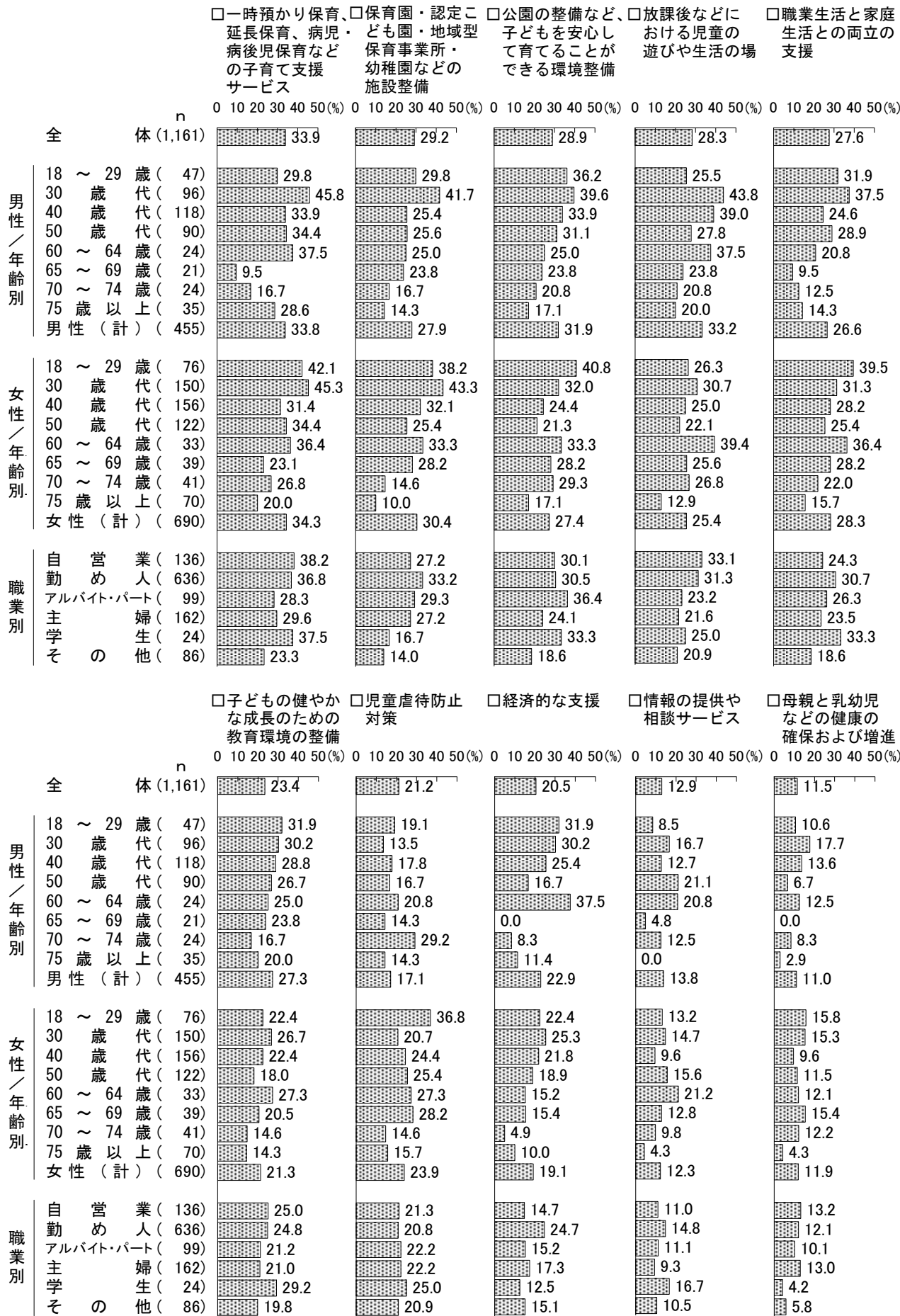
図表5-3-2 さらに充実を図る必要がある子育て支援策－過年度比較

調査年	n	(%)												
		一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	職業生活と家庭生活との両立の支援	子どもの健全な成長のための教育環境の整備	児童虐待防止対策	経済的な支援	情報の提供や相談サービス	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	特になし	無回答
令和2年	1,161	33.9	29.2	28.9	28.3	27.6	23.4	21.2	20.5	12.9	11.5	10.5	5.2	23.5
令和元年	956	32.6	27.4	26.2	27.0	25.5	20.4	24.4	16.3	13.0	11.7	11.1	4.5	27.5
平成30年	1,056	33.6	30.6	27.3	27.7	26.8	19.4	16.3	17.4	13.3	10.4	13.1	4.8	24.2
平成29年	1,056	33.3	28.5	24.6	27.7	25.8	19.2	16.0	17.1	12.5	11.5	12.5	3.4	25.9
平成28年	1,036	36.2	32.4	26.7	26.4	28.3	20.7	20.0	16.4	13.8	11.1	12.2	3.7	26.3

性／年齢別でみると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は男性の30歳代と女性の30歳代で4割台半ばと高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は女性の30歳代と男性の30歳代で4割を超えて高くなっている。「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」は男性の30歳代で4割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は勤め人で3割を超えて高くなっている。「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」はアルバイト・パートタイマーで3割台半ばと高くなっている。(図表5-3-3)

図表5-3-3 さらに充実を図る必要がある子育て支援策一性／年齢別・職業別（上位10項目）



(4) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問17-1 あなたが問17で重要と考えるものに○をした選択肢も含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、312人から延べ359件の回答が寄せられた。問17の重要と考える子育て支援策におおむね沿った形で整理した。

(ご意見の一部)

■保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備 (59件)

- ・ 低所得者や夜間労働の家庭が入りやすい保育園の拡充。
- ・ 区立保育園に、希望者を全員入園させるようお願いしたい。
- ・ 自宅に近い保育園等に入所できるように配慮してほしい。
- ・ 共働き家庭も幼稚園を利用できるよう、幼保一体型の園（特に園ごとに特色のある私立園）が区内にできるとよい。

■一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス (53件)

- ・ シングルファーザー、シングルマザーへの支援。
- ・ ベビーシッター制度の充実。
- ・ 夜まで子供を預かってくれる保育園が少ないと聞きますので増えると良いと思います。
- ・ 病児保育は近くにないと利用しにくいので数が増えると良いと思う。

■子育て仲間が交流し、情報交換のできる場 (6件)

- ・ 子育てに、親が孤立してしまわないような施策がたくさんあれば、ありがたい。赤ちゃんの時の出会いは多く感じたが、それ以降はなかなか難しい。どの年齢の子育て時にも出会いがあればと、とても思う。

■子どもの健やかな成長のための教育環境の整備 (31件)

- ・ 小学校の時から児童1人1人にタブレットを持たせてICT教育に力を入れて欲しい。
- ・ 塾に通えない子供達（経済的な理由で）も十分な教育を受けられるしくみを整えて欲しい。
- ・ 小学校の図書室や地域の図書館をもっと頻繁に、気軽に利用してもらえるようなイベント（読み聞かせや読書感想文の支援）。また、それら施設の拡充や他教育機関との連携の強化。

■放課後などにおける児童の遊びや生活の場 (27件)

- ・ 雨の日に子どもがのびのびと体を動かして遊ぶことができるような施設があるといいです。
- ・ 学童保育（プレディも含め）の充実。
- ・ 一定の広さを確保した遊び場の整備。球技のできる運動場（芝生）の整備。

■情報の提供や相談サービス（8件）

- ・ 今の子育て世代はスマートフォンを持っているので、インターネットを利用した、情報提供や相談サービスを充実してほしいと考えます。

■公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備（23件）

- ・ 遊具の錆びている箇所の修繕を早急にして頂きたい。
- ・ 公園に芝生を植えて欲しい。公園がサラリーマンの喫煙所となっているので変えて欲しい。
- ・ 公園トイレの不衛生なところを整備してほしい。

■母親と乳幼児などの健康の確保および増進（5件）

- ・ 産後支援で病院へ入所してのケア以外に、他の区で行われているように通所での日帰りケアや母乳支援のための外来ケアや訪問を導入していただきたいです。

■職業生活と家庭生活との両立の支援（23件）

- ・ 学校に子供がいる時間内で働ける業務の斡旋。
- ・ 学校や職場との情報共有などの連携強化。
- ・ 職業を持ちながら子育てをすることがあたり前となるように、男女問わず利用できるサービスの充実。

■児童虐待防止対策（22件）

- ・ 児童虐待については、発生防止策や発生した時の対応についての検討を加えて欲しいと考えます。
- ・ 徹底的な児童虐待防止対策！
- ・ 中央区に限らず、きちんとした食事、教育をみんなが受けられる環境。教育、子育て放棄をしている家庭を早く見つけて、子供達の命を守る。

■経済的な支援（48件）

- ・ 母子家庭への補助、奨学金支払い免除。
- ・ 収入に関係なく、子育て支援が受けられる様に。沢山税金を納めている人にも、困っている人にも同様に安心して子育てできる社会作り。
- ・ 小学校低学年までの経済的支援。

■その他（54件）

- ・ 通学路における路上喫煙の撤廃。通学路における安全な歩道の完備。
- ・ 保育士への賃金UP、優遇制度。
- ・ 手作りの離乳食がテイクアウトできる店ができてほしい。
- ・ 60歳～70歳くらいの方が子供と関われるコミュニケーションの場が保育園となればWINWINの関係でよいと思う。

【6 男女共同参画社会】

(※) 男女共同参画社会 男女が、その人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会です。

(1) 男女の地位の平等感

◇「平等になっている」と感じるのは、“学校教育の場では”で6割を超える

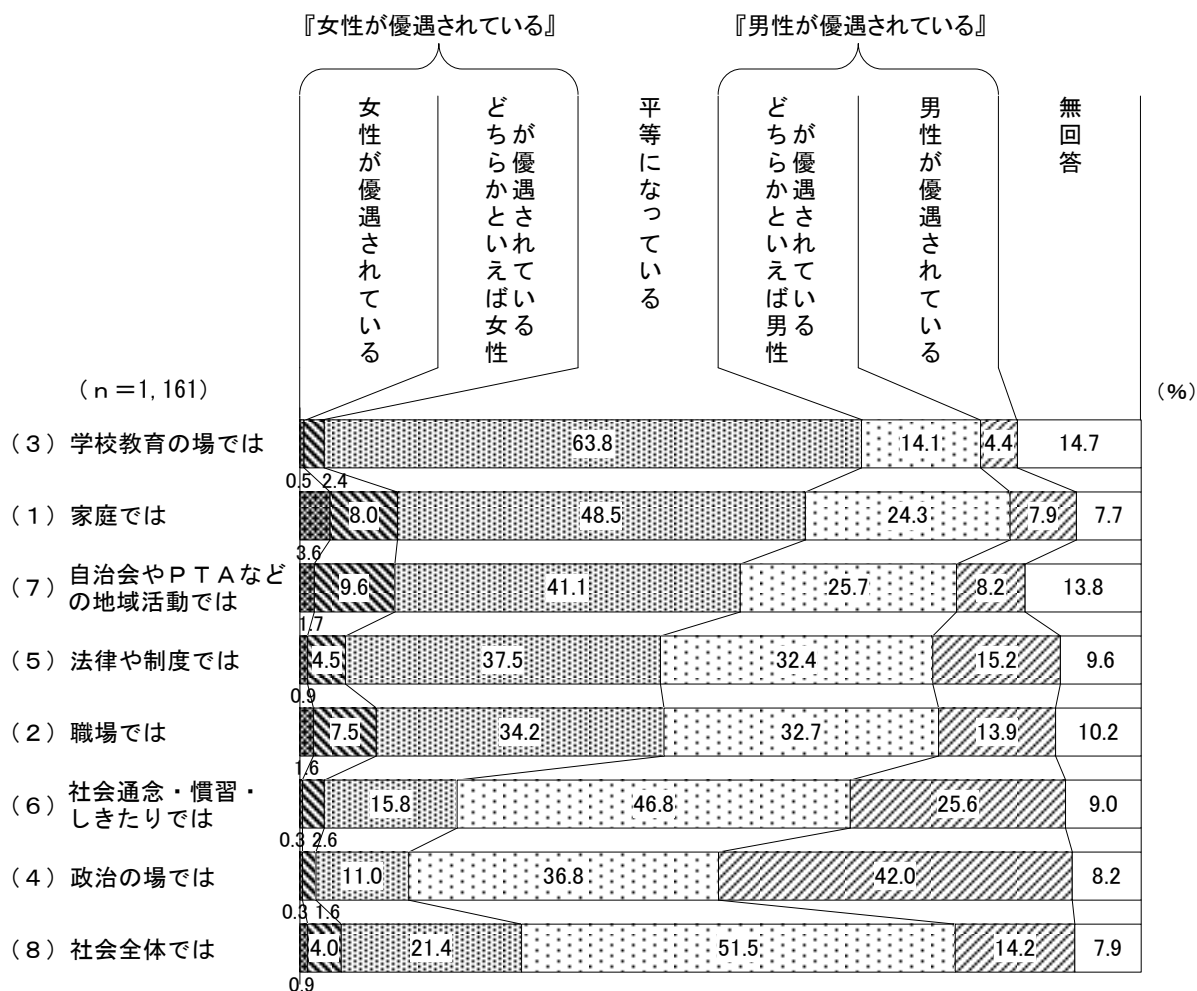
「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と感じるのは、“政治の場では”で8割近く

問18 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。		(〇はそれぞれ1つずつ)					(%)
		1 女性が優遇されている	2 どちらかといえば 女性が優遇されている	3 平等になっている	4 どちらかといえば 男性が優遇されている	5 男性が優遇されている	無回答
n = 1, 161							
(1) 家庭では		3.6	8.0	48.5	24.3	7.9	7.7
(2) 職場では		1.6	7.5	34.2	32.7	13.9	10.2
(3) 学校教育の場では		0.5	2.4	63.8	14.1	4.4	14.7
(4) 政治の場では		0.3	1.6	11.0	36.8	42.0	8.2
(5) 法律や制度では		0.9	4.5	37.5	32.4	15.2	9.6
(6) 社会通念・慣習・しきたりでは		0.3	2.6	15.8	46.8	25.6	9.0
(7) 自治会やPTAなどの地域活動では		1.7	9.6	41.1	25.7	8.2	13.8
(8) 社会全体では		0.9	4.0	21.4	51.5	14.2	7.9

男女の地位の平等感について、「平等になっている」と感じるのは、“学校教育の場では”（63.8%）で6割を超えて最も高く、次いで“家庭では”（48.5%）で5割近くとなっている。

「どちらかといえば男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』と感じるのは、“政治の場では”（78.8%）で8割近くと最も高く、次いで“社会通念・慣習・しきたりでは”（72.4%）で7割を超えている。（図表6-1-1）

図表6-1-1 男女の地位の平等感

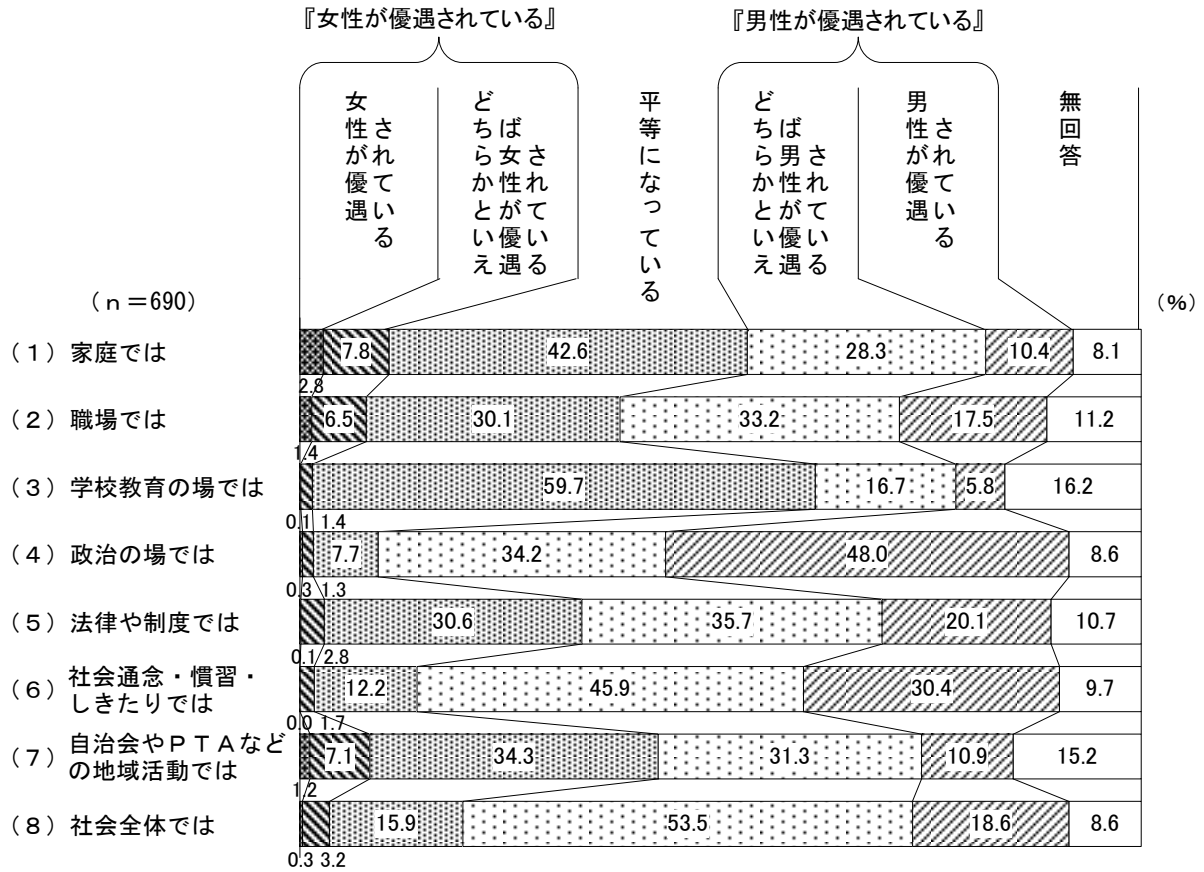


性別でみると、「平等になっている」と感じる割合は、男性の方が女性よりも“法律や制度では”で17.3ポイント、“自治会やPTAなどの地域活動では”で16.5ポイント、“家庭では”で15.0ポイント、それぞれ高くなっている。

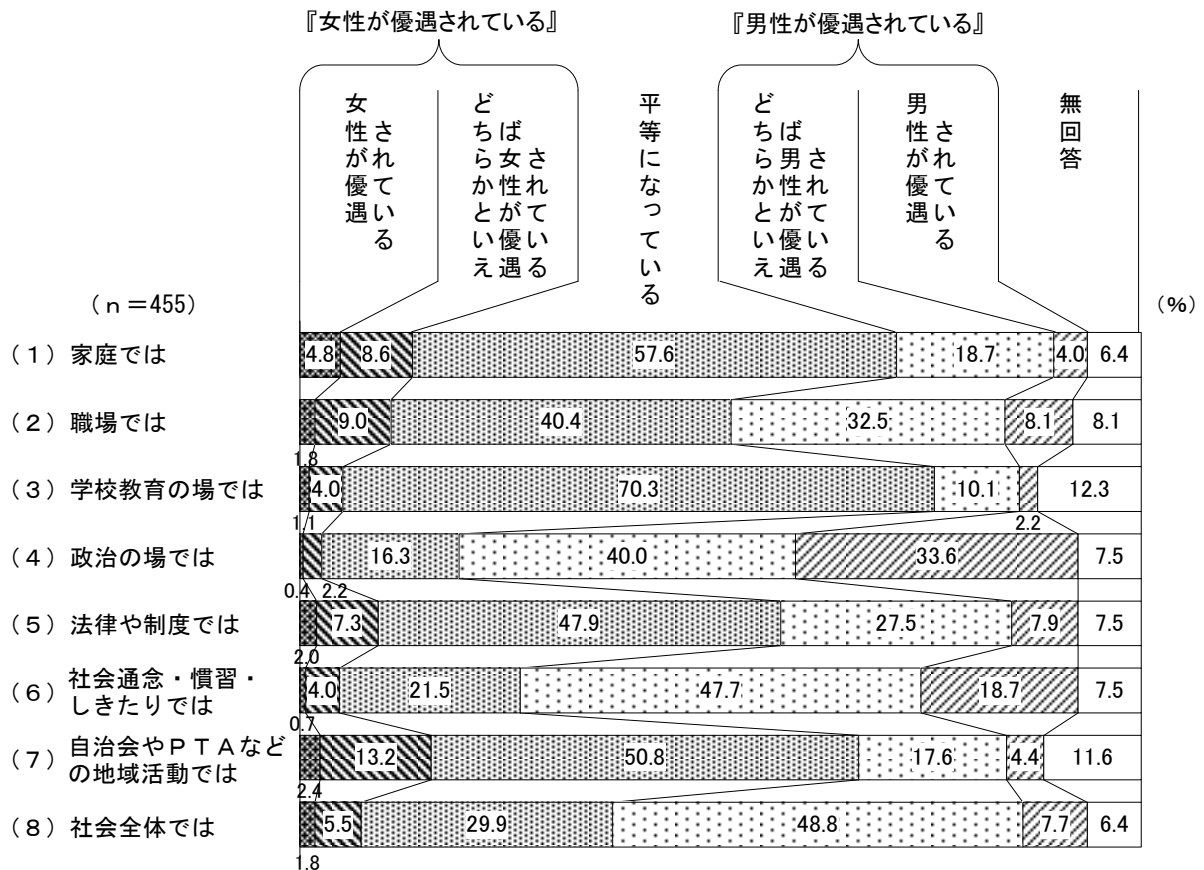
一方、『男性が優遇されている』と感じる割合は、女性の方が男性よりも“法律や制度では”で20.4ポイント、“自治会やPTAなどの地域活動では”で20.2ポイント、“家庭では”で16.0ポイント、それぞれ高くなっている。

また、“社会全体では”でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が15.6ポイント高くなっている。（図表6-1-2、図表6-1-3）

図表6-1-2 男女の地位の平等感—女性



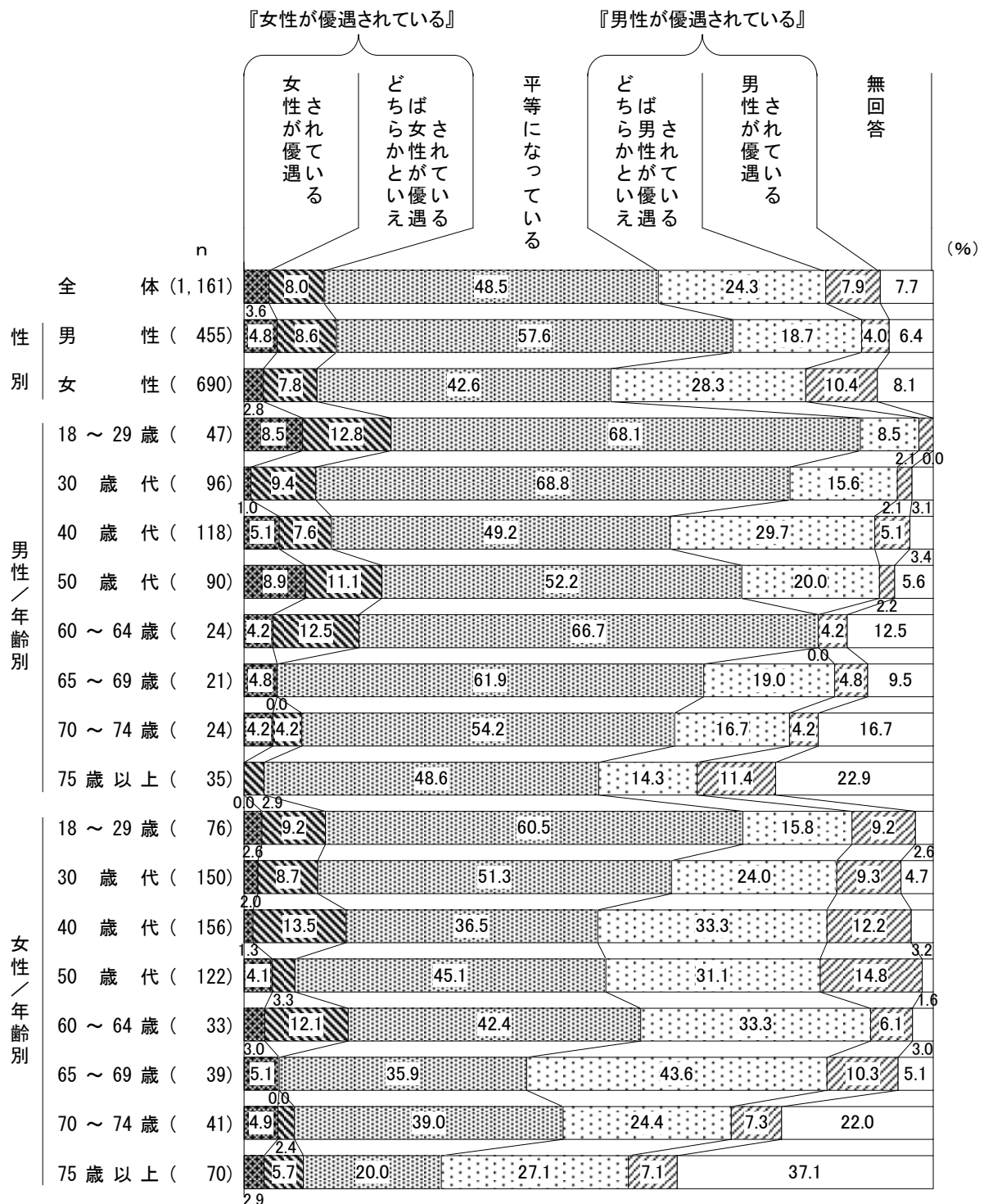
図表6-1-3 男女の地位の平等感—男性



“家庭では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が16.0ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が15.0ポイント高くなっている。

“家庭では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の65～69歳で5割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳と30歳代、60～64歳で7割近くと高くなっている。(図表6-1-4)

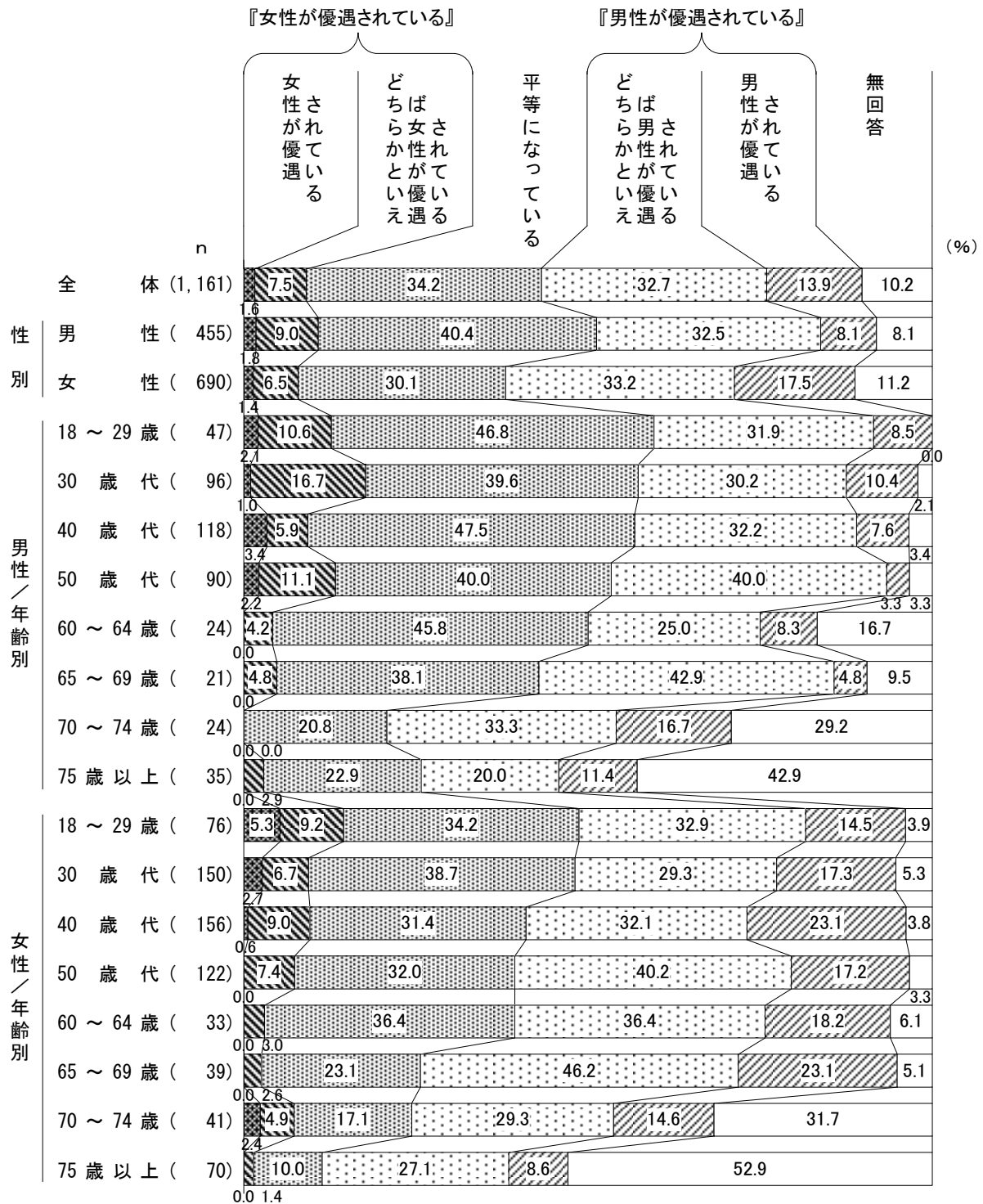
図表6-1-4 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(1) 家庭では」



“職場では”について性別でみると、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が10.3ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が10.1ポイント高くなっている。

“職場では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の65～69歳で約7割と高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳と40歳代で5割近くと高くなっている。(図表6-1-5)

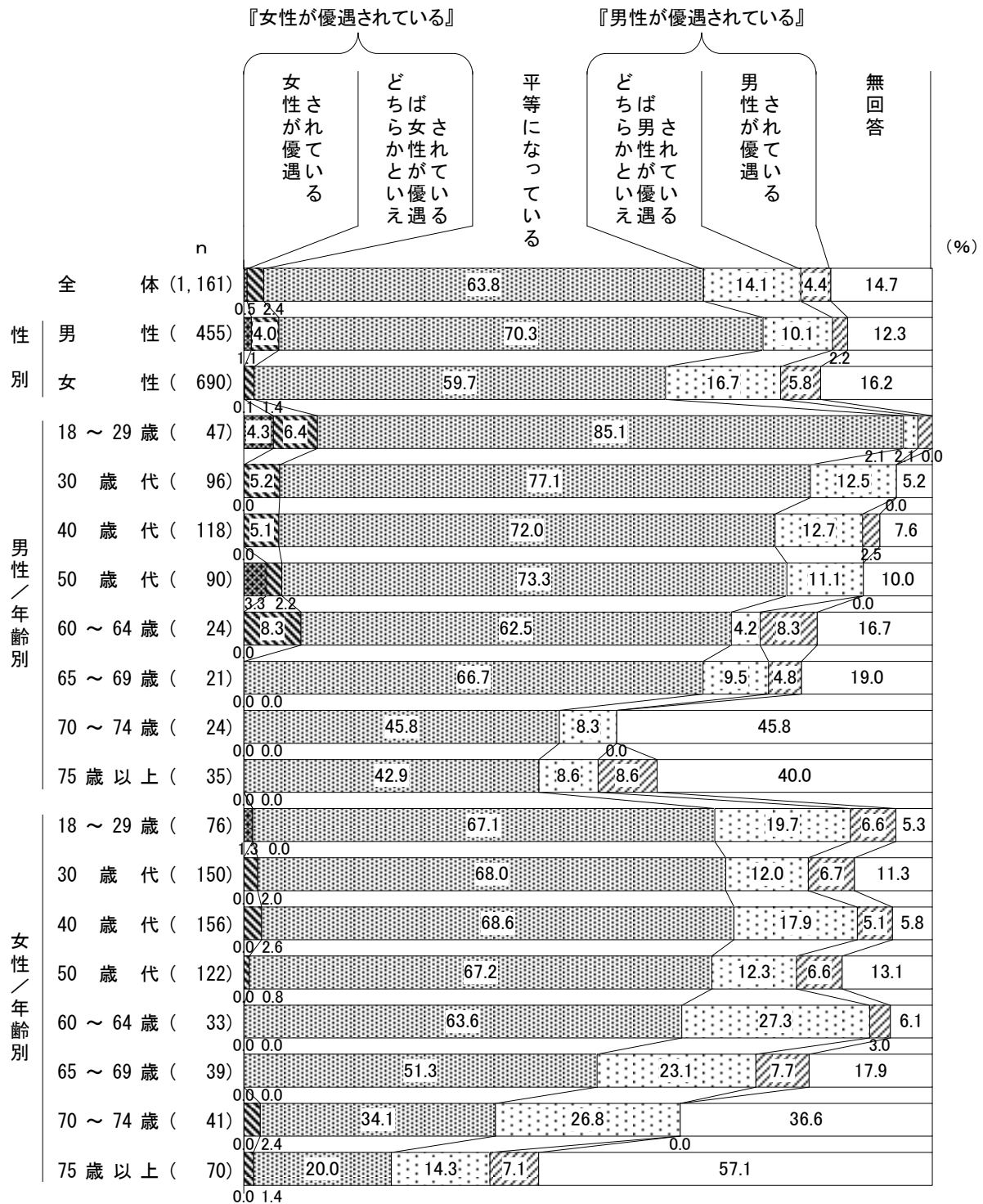
図表6-1-5 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(2) 職場では」



“学校教育の場では”について性別でみると、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が10.6ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が10.2ポイント高くなっている。

“学校教育の場では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の60～64歳と65～69歳で約3割と高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で8割台半ばと高くなっている。(図表6-1-6)

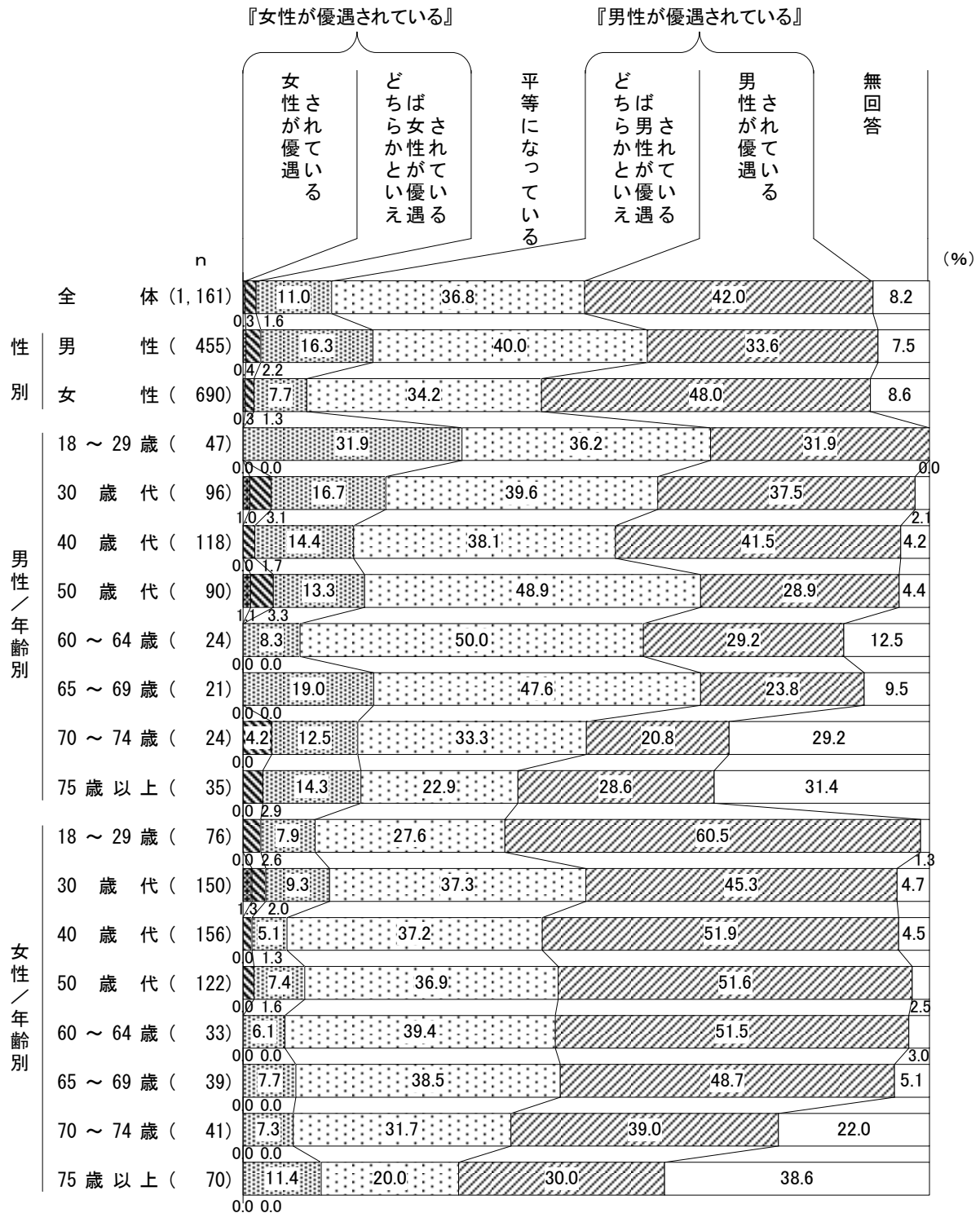
図表6-1-6 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(3) 学校教育の場では」



“政治の場では”について性別でみると、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が8.6ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が8.6ポイント高くなっている。

“政治の場では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の40歳代と60～64歳で約9割と高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で3割を超えて高くなっている。(図表6-1-7)

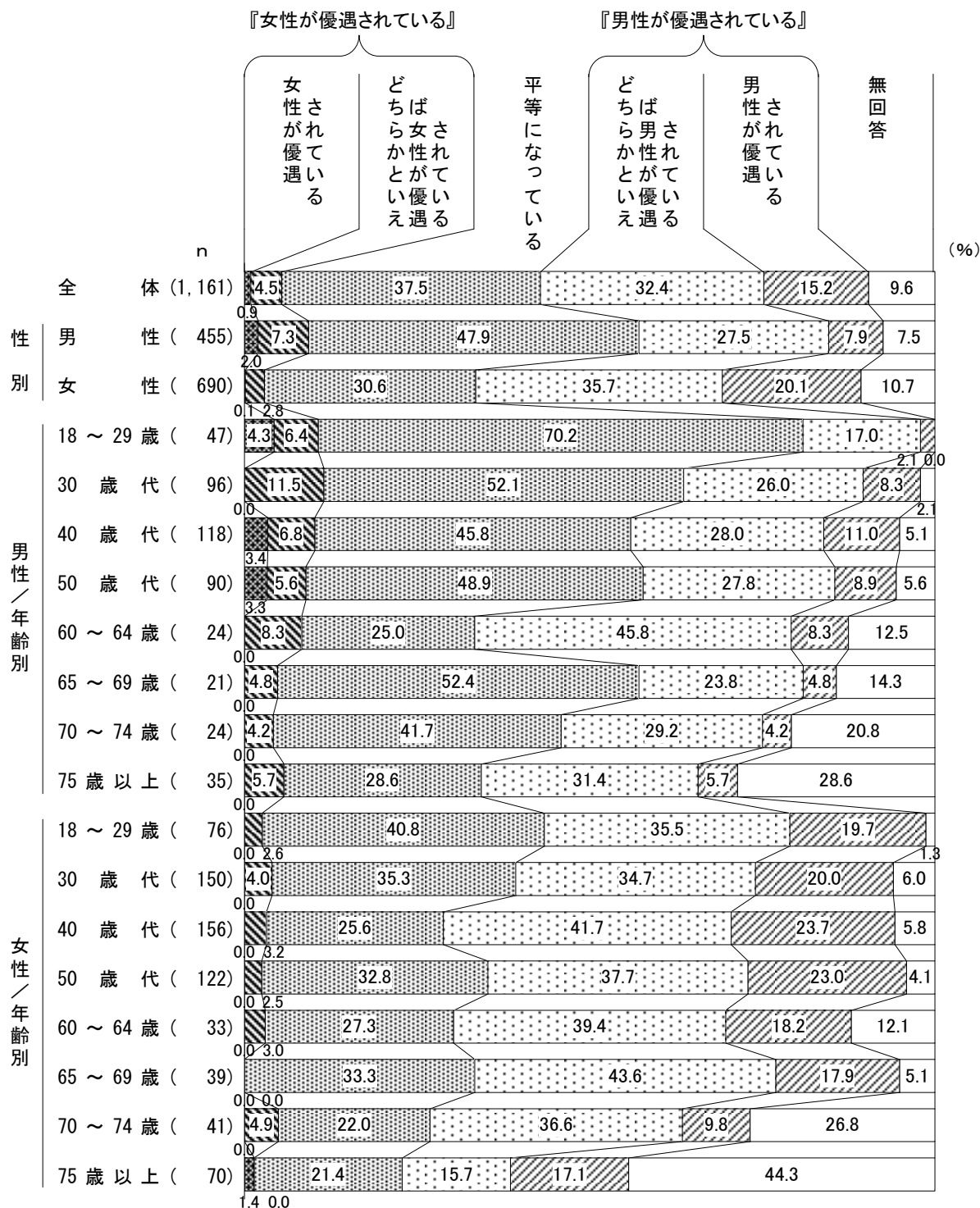
図表6-1-7 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(4) 政治の場では」



“法律や制度では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が20.4ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が17.3ポイント高くなっている。

“法律や制度では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の40歳代で6割台半ばと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で7割と高くなっている。(図表6-1-8)

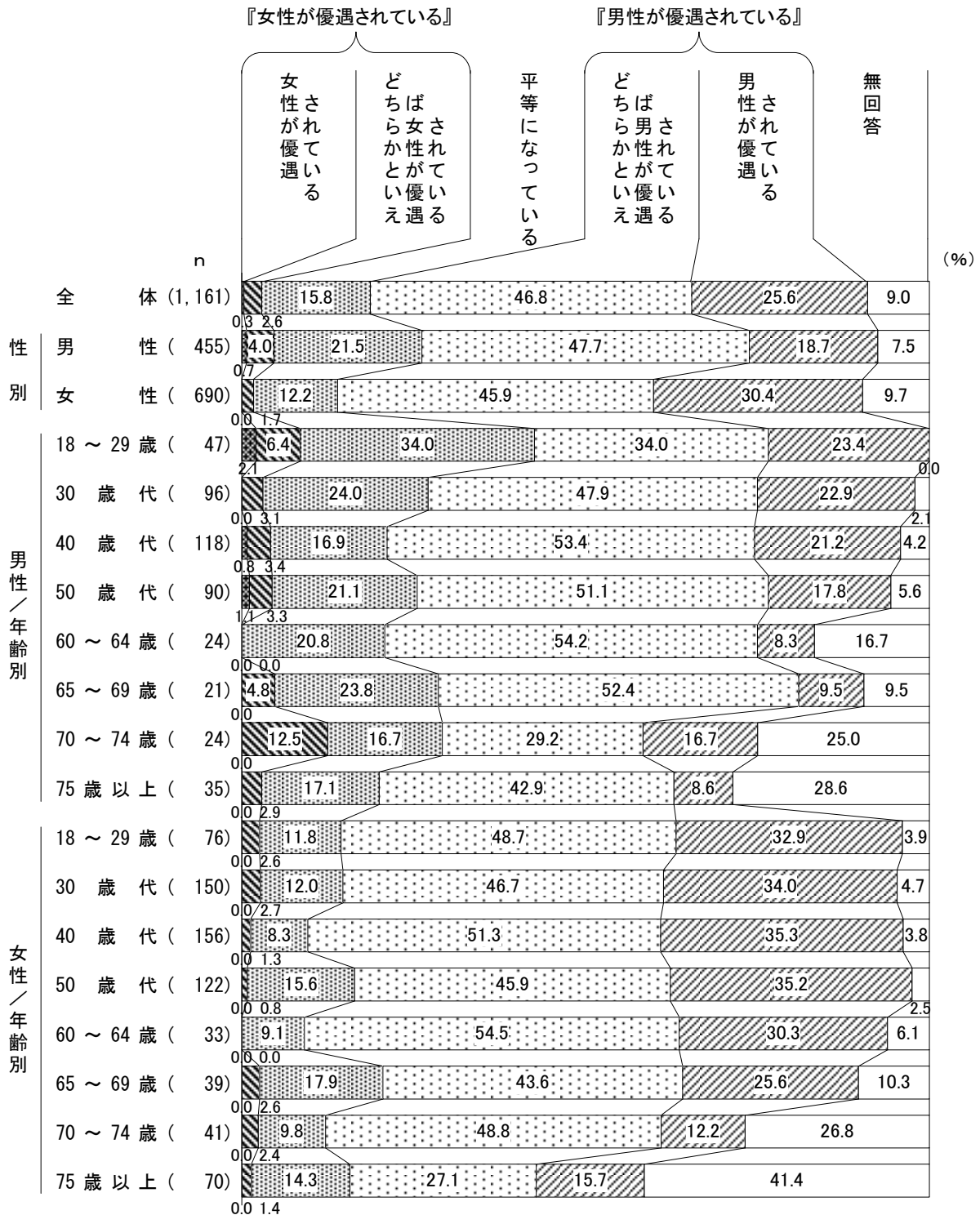
図表6-1-8 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(5) 法律や制度では」



“社会通念・慣習・しきたりでは”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が9.9ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が9.3ポイント高くなっている。

“社会通念・慣習・しきたりでは”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の40歳代で9割近く、女性の60～64歳で8割台半ばと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で3割台半ばと高くなっている。（図表6-1-9）

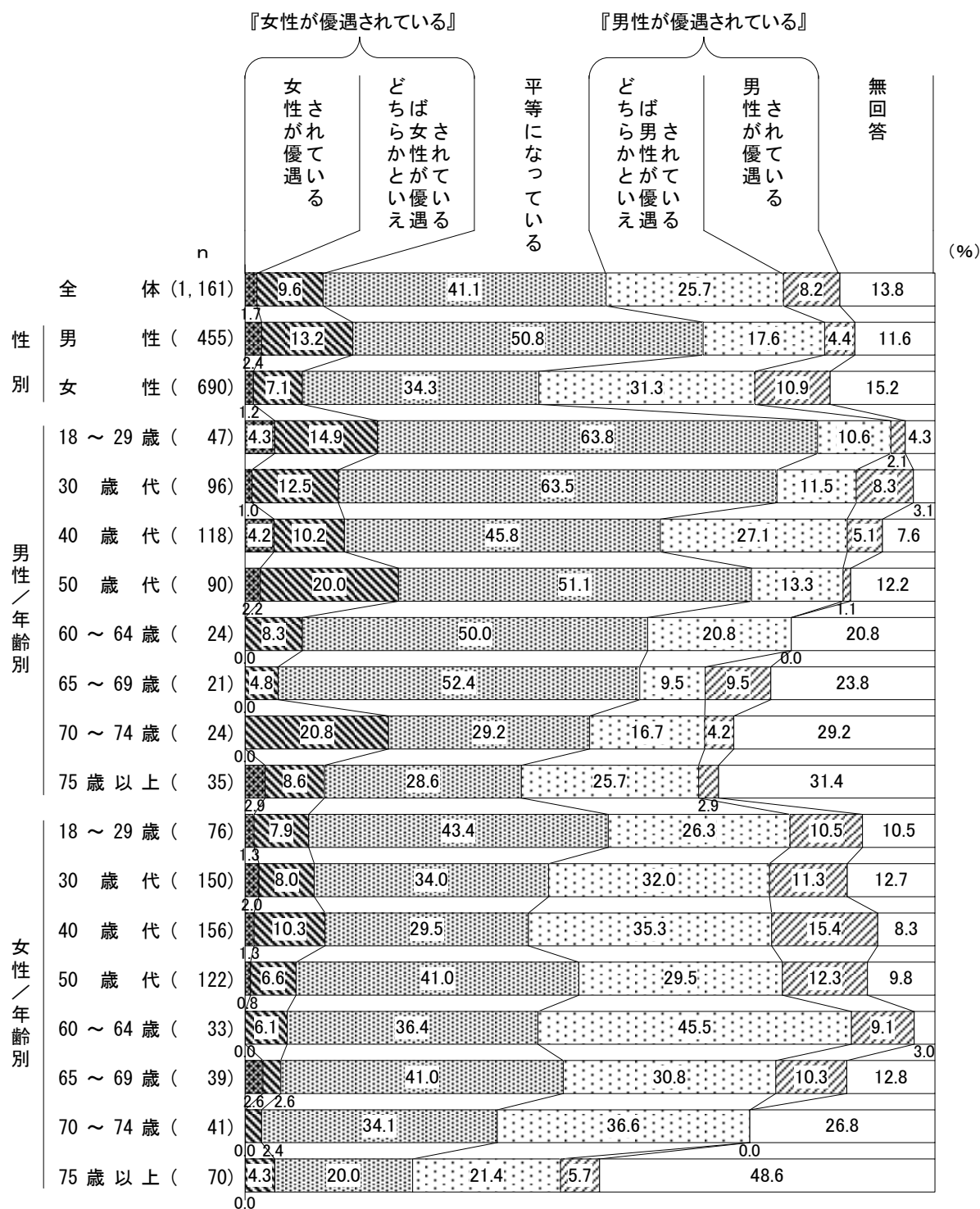
図表6-1-9 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(6) 社会通念・慣習・しきたりでは」



“自治体やPTAなどの地域活動では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が20.2ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が16.5ポイント高くなっている。

“自治体やPTAなどの地域活動では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の60～64歳で5割台半ばと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳と30歳代で6割を超えて高くなっている。(図表6-1-10)

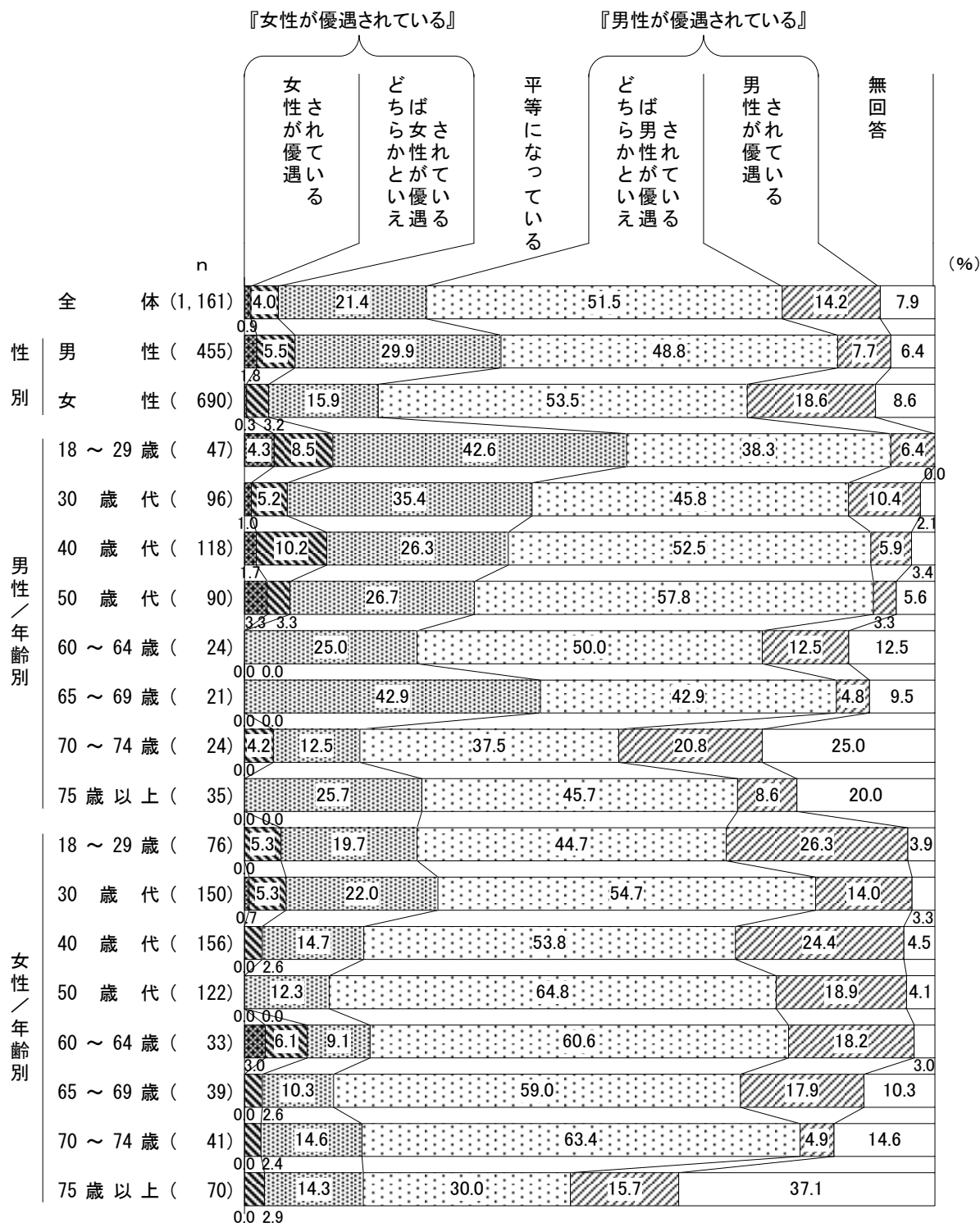
図表6-1-10 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(7)自治体やPTAなどの地域活動では」



“社会全体では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が15.6ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が14.0ポイント高くなっている。

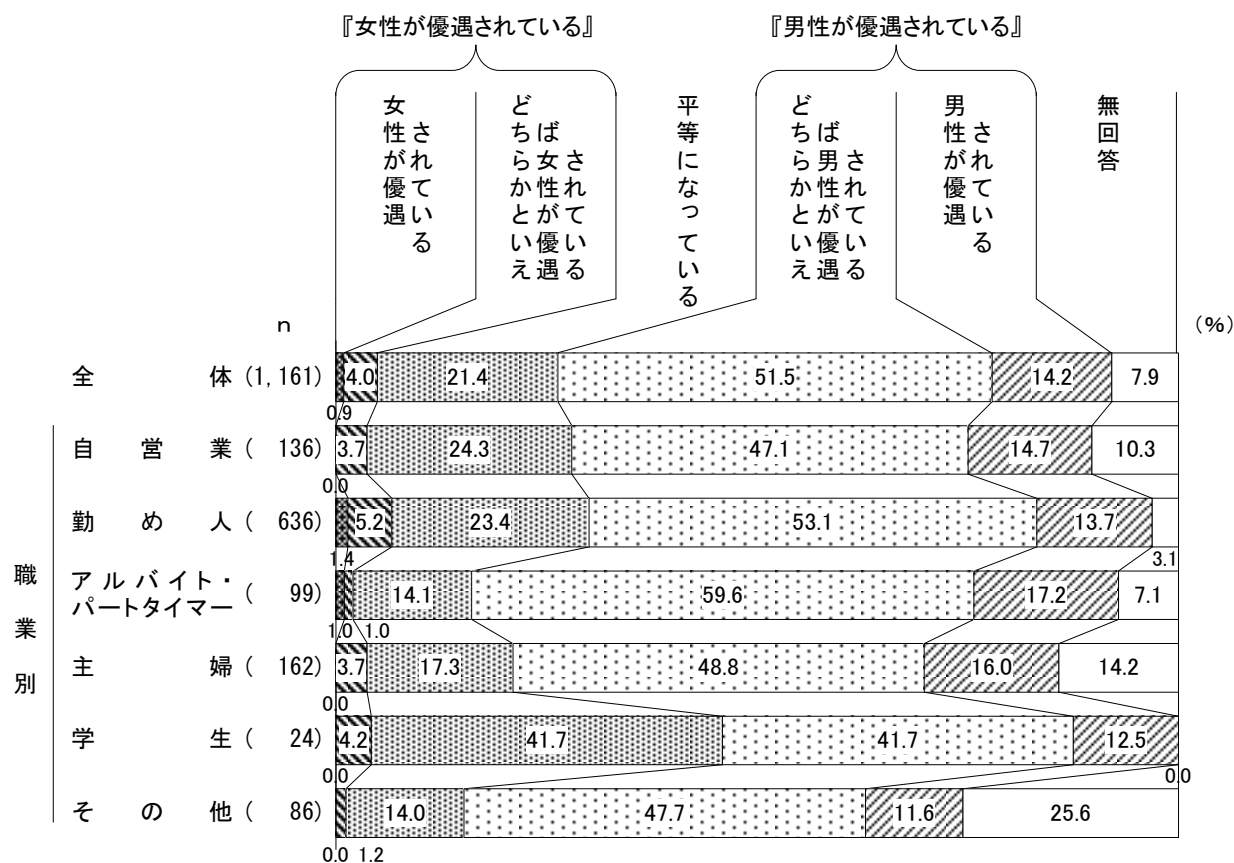
“社会全体では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の50歳代で8割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳と65～69歳で4割を超えて高くなっている。(図表6-1-11)

図表6-1-11 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(8) 社会全体では」



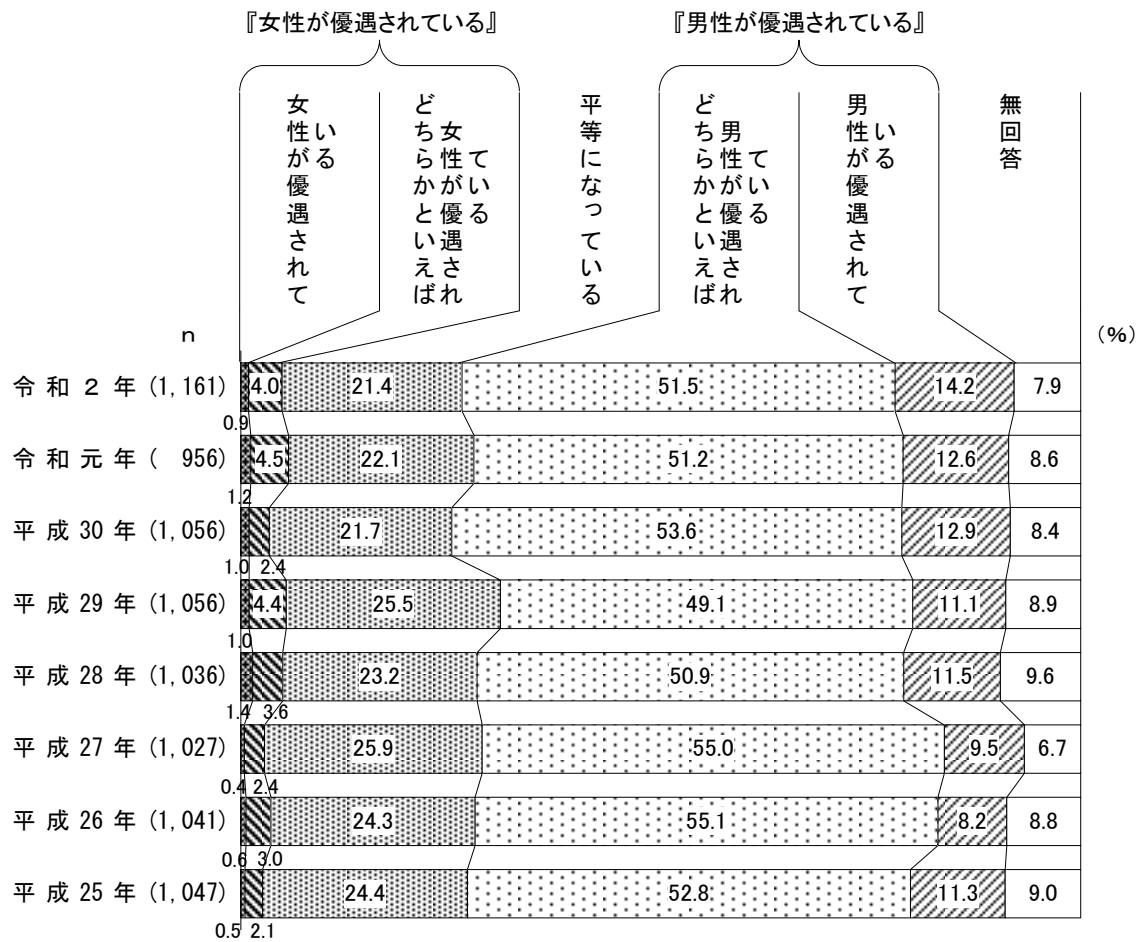
“社会全体では”について職業別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合はアルバイト・パートタイマーで8割近くと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は学生で4割を超えて高くなっている。(図表6-1-12)

図表6-1-12 男女の地位の平等感—職業別「(8) 社会全体では」



“社会全体では”について過去の調査と比較すると、『男性が優遇されている』と感じる割合は令和元年と比べて大きな傾向の違いはみられない。(図表6-1-13)

図表6-1-13 男女の地位の平等感一過年度比較「(8) 社会全体では」



(2) ワーク・ライフ・バランスの現在の状況

◇「仕事と家庭生活を同じように両立させている」が2割台半ば

問19 あなた自身の「仕事」と「家庭生活」について、現状は次のどれにあてはまりますか。

(○は1つ)

(※) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

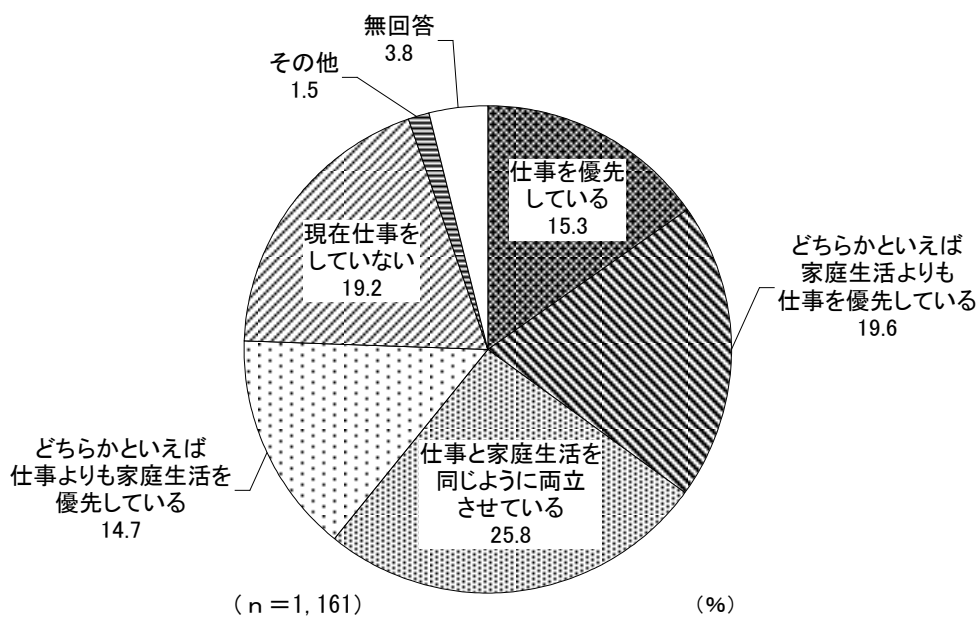
仕事と仕事以外の家庭生活とのバランスを図ることにより、家庭や地域活動などに参加できる時間を確保しながら充実した生活を送ることが重要であるという考え方です。

n = 1, 161

1	仕事を優先している	15.3%
2	どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している	19.6
3	仕事と家庭生活を同じように両立させている	25.8
4	どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している	14.7
5	現在仕事をしていない	19.2
6	その他	1.5
	(無回答)	3.8

ワーク・ライフ・バランスの現在の状況は、「仕事と家庭生活を同じように両立させている」(25.8%) が2割台半ばで最も高くなっている。次いで、「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」(19.6%)、「仕事を優先している」(15.3%) などとなっている。また、「現在仕事をしていない」(19.2%) は約2割となっている。(図表6-2-1)

図表6-2-1 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況



過去の調査結果との比較は、平成30年以前とは選択肢が異なり単純に比較することはできないが、「現在仕事をしていない」は令和元年と比べて3.2ポイント減少している。(図表6-2-2)

図表6-2-2 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況－過年度比較

(%)

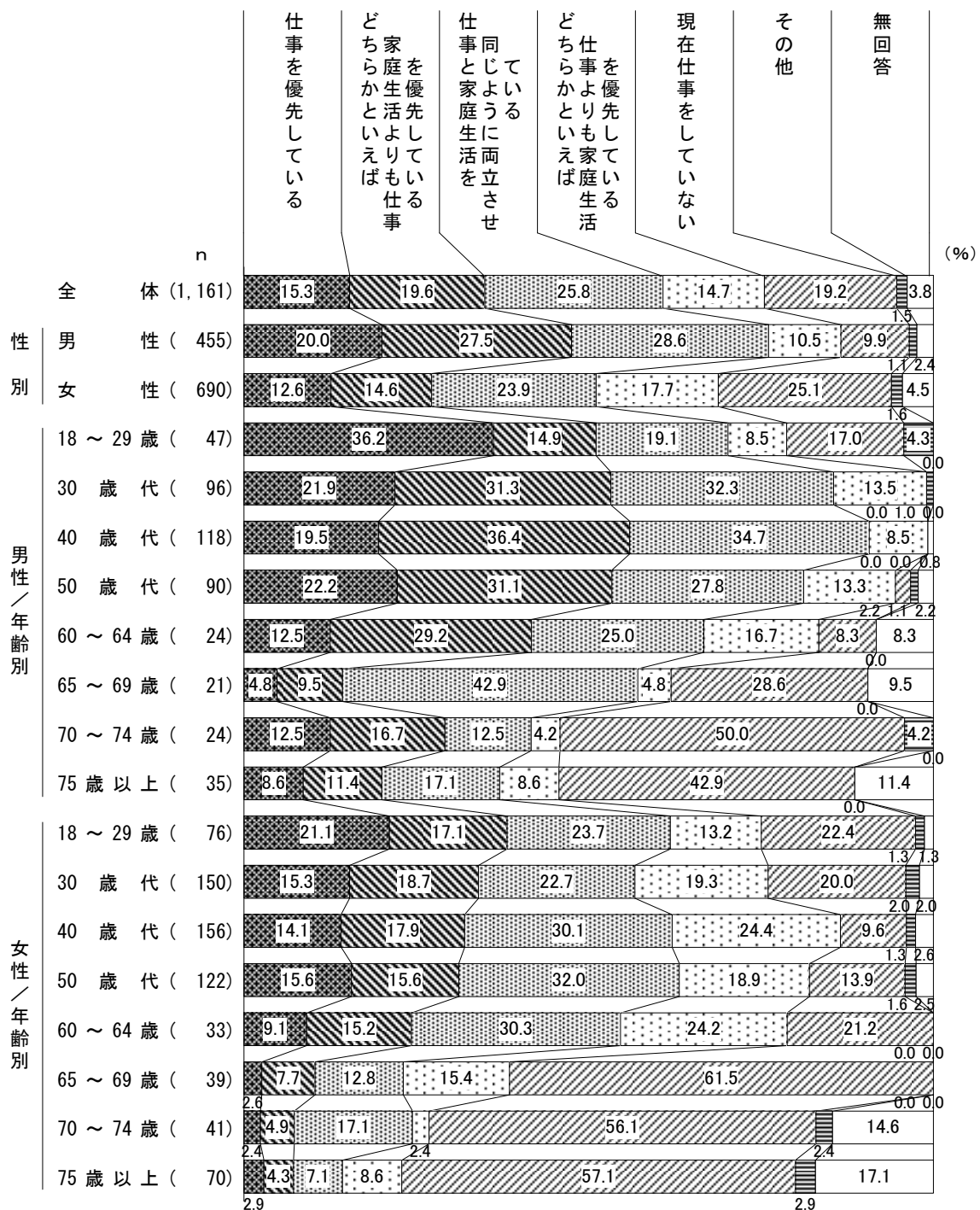
調査年	n	仕事を優先している	どちらかといえば仕事を優先している	仕事と家庭生活を同じように両立させている	どちらかといえば仕事を優先している	現在仕事をしていない	その他	無回答
令和2年	1,161	15.3	19.6	25.8	14.7	19.2	1.5	3.8
令和元年	956	15.4	21.1	23.4	13.6	22.4	0.7	3.3
平成30年	1,056	9.0	30.3	20.5	13.5	22.7	0.9	3.0
平成29年	1,056	8.1	29.8	23.9	11.2	20.6	1.5	4.8
平成28年	1,036	10.2	28.8	23.7	12.4	19.6	1.0	4.3
平成27年	1,027	9.7	30.1	20.6	12.8	21.0	2.2	3.5
平成26年	1,041	7.5	31.6	20.2	12.2	24.1	0.5	3.9
平成25年	1,047	9.1	31.6	20.2	11.3	21.0	1.6	5.2

- * 「仕事を優先している」の選択肢は、平成30年まで「仕事に専念している」としていた。
- * 「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」の選択肢は、平成30年まで「どちらかといえば、仕事の方を優先している」としていた。
- * 「仕事と家庭生活を同じように両立させている」の選択肢は、平成30年まで「仕事と生活を同じように両立させている」としていた。
- * 「どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している」の選択肢は、平成30年まで「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」としていた。

性別でみると、女性の方が男性よりも「現在仕事をしていない」で15.2ポイント、「どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している」で7.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」で12.9ポイント、「仕事を優先している」で7.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、「仕事を優先している」は男性の18～29歳で3割台半ばと高くなっている。「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」は男性の40歳代で3割台半ばと高くなっている。「仕事と家庭生活を同じように両立させている」は男性の60～69歳で4割を超えて高くなっている。(図表6-2-3)

図表6-2-3 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況－性別・性／年齢別

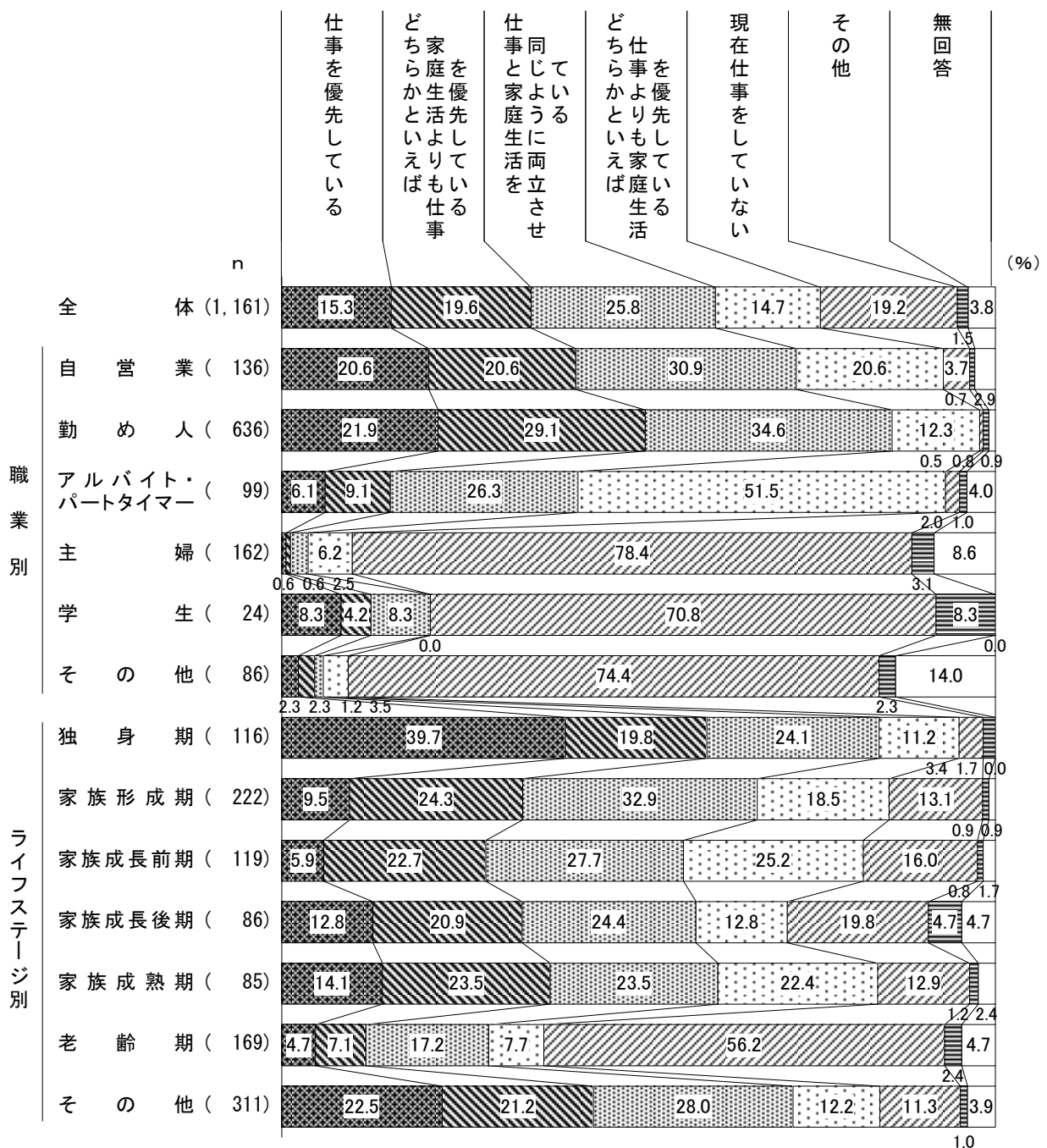


職業別でみると、「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」は勤め人で約3割と高くなっている。「仕事と家庭生活を同じように両立させている」は勤め人で3割台半ばと高くなっている。「どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している」はアルバイト・パートタイマーで5割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「仕事を優先している」は独身期で4割と高くなっている。「仕事と家庭生活を同じように両立させている」は家族形成期で3割を超えて高くなっている。

(図表6-2-4)

図表6-2-4 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況－職業別・ライフステージ別



【7 防犯対策】

(1) 不安を感じる犯罪

◇「振り込め詐欺」が2割

問20 あなたの住む地域で不安を感じる具体的犯罪は何ですか。(○は2つまで)

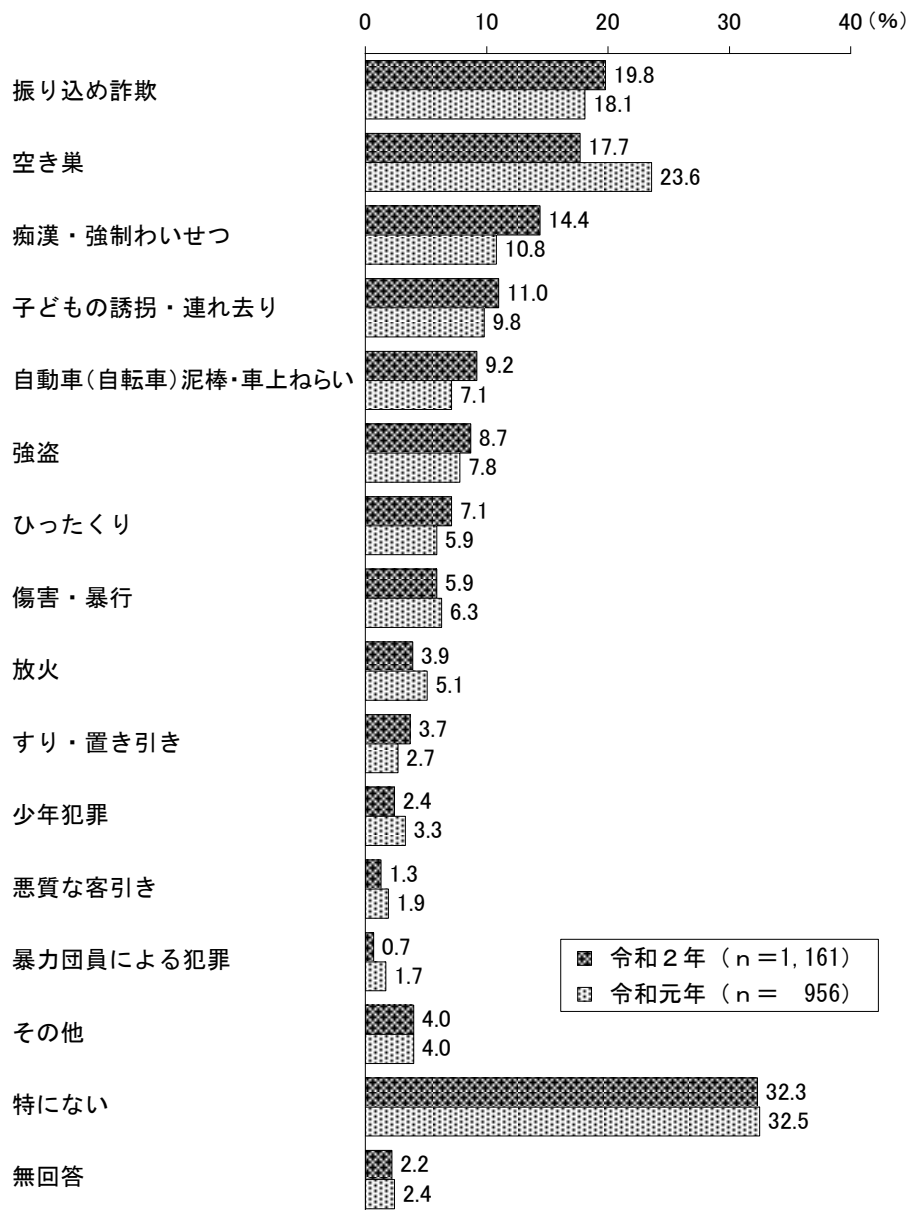
n = 1, 161

1	ひったくり	7.1%	9	痴漢・強制わいせつ	14.4
2	空き巣	17.7	10	少年犯罪	2.4
3	強盗	8.7	11	子どもの誘拐・連れ去り	11.0
4	すり・置き引き	3.7	12	暴力団員による犯罪	0.7
5	自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	9.2	13	悪質な客引き	1.3
6	振り込め詐欺	19.8	14	その他	4.0
7	傷害・暴行	5.9	15	特にない	32.3
8	放火	3.9		(無回答)	2.2

不安を感じる犯罪は、「振り込め詐欺」(19.8%)が2割となっている。次いで、「空き巣」(17.7%)、「痴漢・強制わいせつ」(14.4%)、「子どもの誘拐・連れ去り」(11.0%)、「自動車(自転車)泥棒・車上ねらい」(9.2%)などとなっている。一方、「特にない」(32.3%)は3割を超えている。

昨年との調査結果と比較すると、「痴漢・強制わいせつ」は3.6ポイント増加している。一方、「空き巣」は5.9ポイント減少している。(図表7-1-1)

図表7-1-1 不安に感じる犯罪(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「空き巣」が令和元年まで第1位となっていたが、今回調査では「振り込め詐欺」が第1位となっている。

(図表7-1-2)

図表7-1-2 不安に感じる犯罪一過年度比較

調査年	n	(%)															
		振り込め詐欺	空き巣	痴漢・強制わいせつ	子どもの誘拐・連れ去り	自動車上ねらい(自転車)泥棒・	強盗	ひったくり	傷害・暴行	放火	すり・置き引き	少年犯罪	悪質な客引き	暴力団員による犯罪	その他	特にない	無回答
令和2年	1,161	19.8	17.7	14.4	11.0	9.2	8.7	7.1	5.9	3.9	3.7	2.4	1.3	0.7	4.0	32.3	2.2
令和元年	956	18.1	23.6	10.8	9.8	7.1	7.8	5.9	6.3	5.1	2.7	3.3	1.9	1.7	4.0	32.5	2.4
平成30年	1,056	16.8	22.1	9.0	14.1	8.4	4.7	8.4	7.5	6.9	2.9	3.5	1.7	1.2	4.1	32.1	2.3
平成29年	1,056	13.6	22.2	8.3	13.2	10.6	5.9	9.8	5.2	6.4	3.0	3.1	1.7	1.0	3.3	31.5	4.0
平成28年	1,036	12.4	21.7	10.0	14.0	12.2	6.4	6.0	6.0	5.2	2.7	3.6	1.4	2.0	3.8	33.4	3.2
平成27年	1,027	15.1	26.4	7.4	14.1	10.8	6.5	7.7	6.5	8.7	3.8	7.6	0.8	1.7	4.2	29.7	2.0
平成26年	1,041	21.4	40.1	11.8	16.9	17.5	11.9	16.0	11.1	13.8	8.4	8.8	※	3.9	4.1	※	15.9
平成25年	1,047	21.5	37.8	11.4	11.4	22.1	12.0	22.6	11.9	16.4	8.2	7.6	※	4.7	4.9	※	11.7
平成24年	1,123	13.1	41.7	10.5	11.9	21.1	16.9	21.5	16.8	17.8	7.5	10.2	※	8.2	5.9	※	9.3
平成23年	1,097	14.2	43.6	9.9	12.8	23.2	15.4	23.4	11.9	15.6	7.5	7.8	※	5.7	6.3	※	10.4
平成22年	1,004	17.1	41.8	10.3	13.9	20.9	12.8	20.3	12.2	16.7	6.5	11.3	※	7.0	4.5	※	11.5
平成21年	1,001	12.2	44.8	10.2	14.2	21.1	17.7	27.7	9.7	21.9	6.3	9.5	※	4.8	6.6	※	7.4
平成20年	1,065	18.0	42.6	18.6	16.9	13.9	18.1	19.8	17.7	18.9	4.5	15.0	※	10.4	5.9	※	7.6
平成19年	686	18.4	43.7	15.9	16.5	16.0	20.6	20.6	14.0	22.6	5.0	16.3	※	8.7	1.9	※	5.4

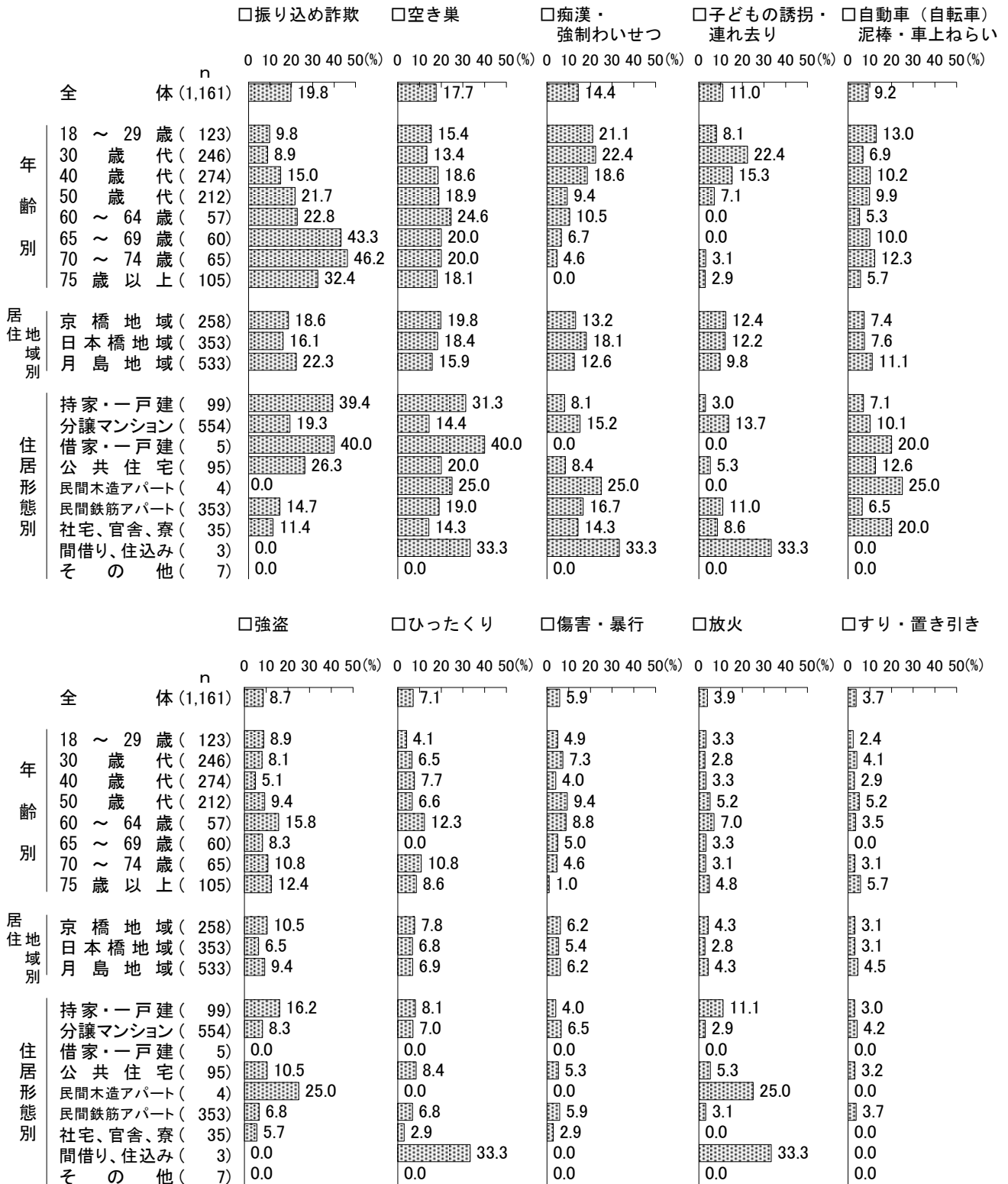
* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。
* 平成26年以前は、3つまで回答可能としていた。

年齢別でみると、「振り込め詐欺」は70～74歳で4割台半ば、65～69歳で4割を超えて高くなっている。「空き巣」は60～64歳で2割台半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、「振り込め詐欺」は月島地域で2割を超えて高くなっている。

住居形態別でみると、「振り込め詐欺」は持家・一戸建で約4割と高くなっている。「空き巣」は持家・一戸建で3割を超えて高くなっている。(図表7-1-3)

図表 7-1-3 不安に感じる犯罪一年齢別・居住地域別・住居形態別（上位10項目）



(2) 防犯のために行っていること

◇「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」が6割

問21 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。

(〇はいくつでも)

n = 1, 161

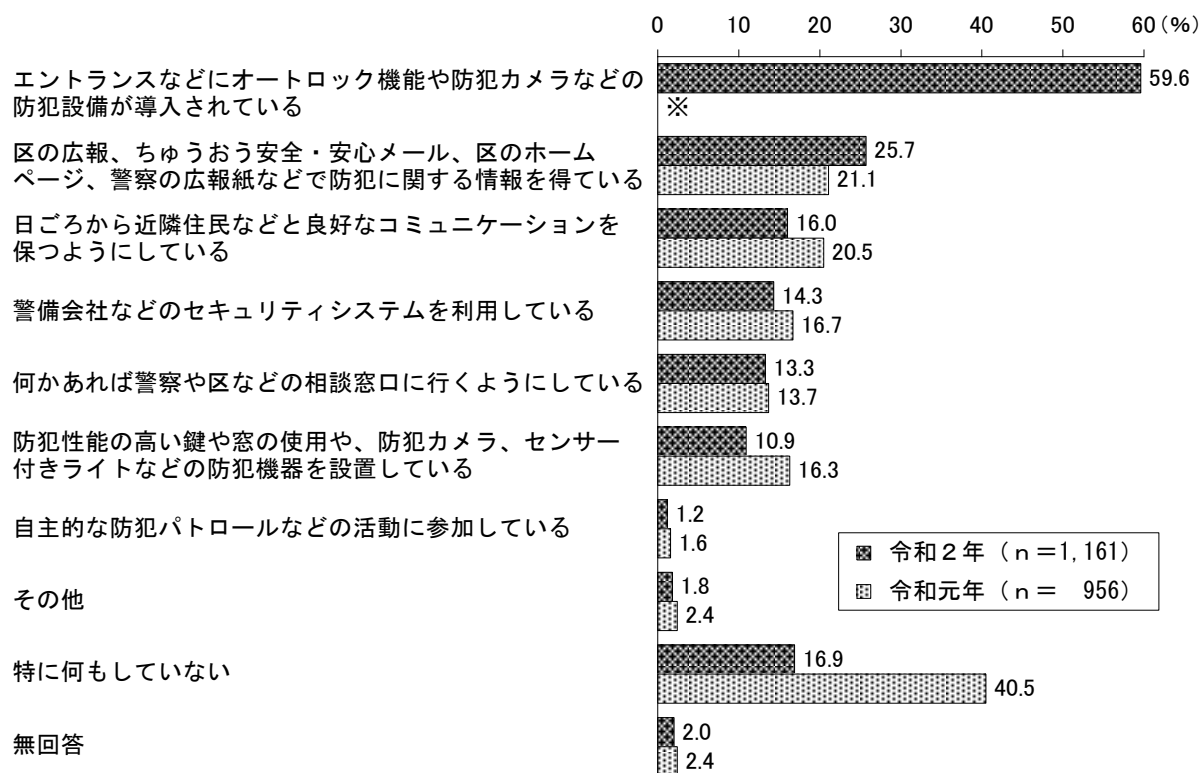
1	自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している	1.2%
2	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	25.7
3	何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている	13.3
4	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	16.0
5	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している	10.9
6	警備会社などのセキュリティシステムを利用している	14.3
7	エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている	59.6
8	その他	1.8
9	特に何もしていない (無回答)	16.9 2.0

防犯のために行っていることは、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」(59.6%)が6割で最も高くなっている。次いで、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」(25.7%)、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」(16.0%)、「警備会社などのセキュリティシステムを利用している」(14.3%)、「何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている」(13.3%)などとなっている。一方、「特に何もしていない」(16.9%)は2割近くとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」は4.6ポイント増加している。一方、「防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している」は5.4ポイント、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」は4.5ポイント、それぞれ減少している。

(図表7-2-1)

図表7-2-1 防犯のために行っていること（複数回答）



* ※印は、令和元年の調査では聞かれていない選択肢。

過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」と「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」は、平成22年以降引き続き上位項目となっている。(図表7-2-2)

図表7-2-2 防犯のために行っていること一過年度比較

調査年	n	(%)									
		エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	警備会社などのセキュリティシステムを利用している	何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラを設置している	自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している	その他	特に何もしていない	無回答
令和2年	1,161	59.6	25.7	16.0	14.3	13.3	10.9	1.2	1.8	16.9	2.0
令和元年	956	※	21.1	20.5	16.7	13.7	16.3	1.6	2.4	40.5	2.4
平成30年	1,056	※	19.8	19.6	14.7	13.3	11.6	1.5	3.9	42.1	2.1
平成29年	1,056	※	21.3	19.1	14.6	13.2	15.9	1.4	3.0	38.0	3.6
平成28年	1,036	※	19.8	20.3	15.2	13.5	15.5	1.2	2.2	41.0	2.6
平成27年	1,027	※	20.0	20.1	14.2	13.0	14.1	1.6	3.0	41.6	1.9
平成26年	1,041	※	17.5	19.5	13.6	14.4	14.9	1.2	3.7	41.6	3.2
平成25年	1,047	※	18.4	22.3	11.9	15.2	16.1	2.1	3.9	36.8	4.7
平成24年	1,123	※	19.6	20.1	12.0	16.3	15.2	1.6	2.8	40.5	2.4
平成23年	1,097	※	17.7	22.0	11.9	15.3	14.8	1.8	3.2	39.7	3.4
平成22年	1,004	※	20.3	27.5	14.0	19.2	19.2	2.6	2.8	33.0	2.1
平成21年	1,001	※	13.7	26.8	15.4	16.2	19.4	2.6	3.5	35.2	2.2
平成20年	1,065	※	12.7	29.8	14.1	17.2	19.7	3.4	3.3	36.2	2.3
平成19年	686	※	9.0	27.7	10.5	13.0	19.2	2.9	2.5	41.5	2.0

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

* 「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」の選択肢は、平成21年以前は「子ども安全安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」としていた。

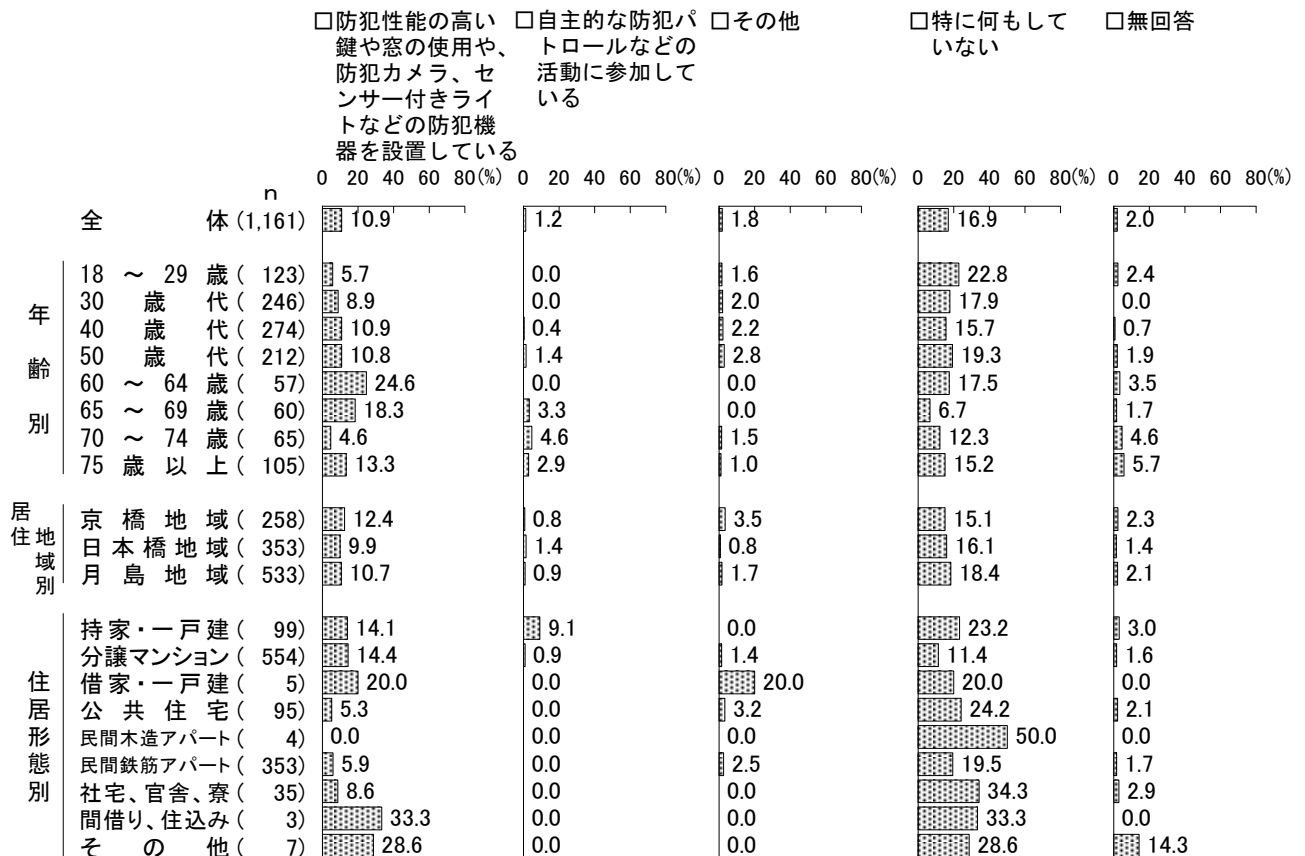
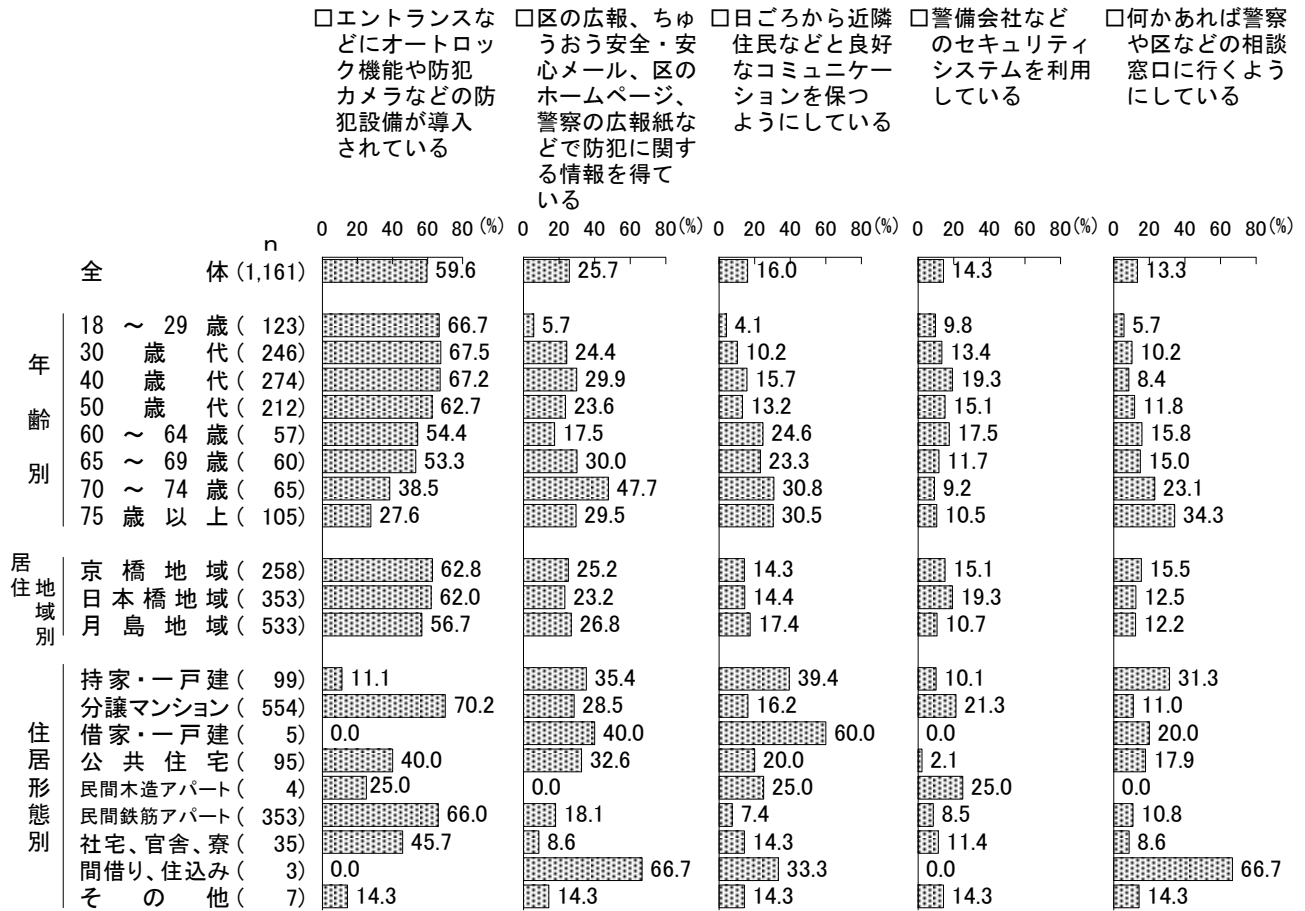
年齢別でみると、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」は70～74歳で5割近くと高くなっている。「何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている」は75歳以上で3割台半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」は月島地域で3割近くと高くなっている。

住居形態別でみると、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」は分譲マンションで7割、民間鉄筋アパートで6割台半ばと高くなっている。

(図表7-2-3)

図表 7-2-3 防犯のために行っていること一年齢別・居住地域別・住居形態別



(3) 区に特に力を入れてほしい施策

◇「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」が4割台半ば

問22 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(〇は2つまで)

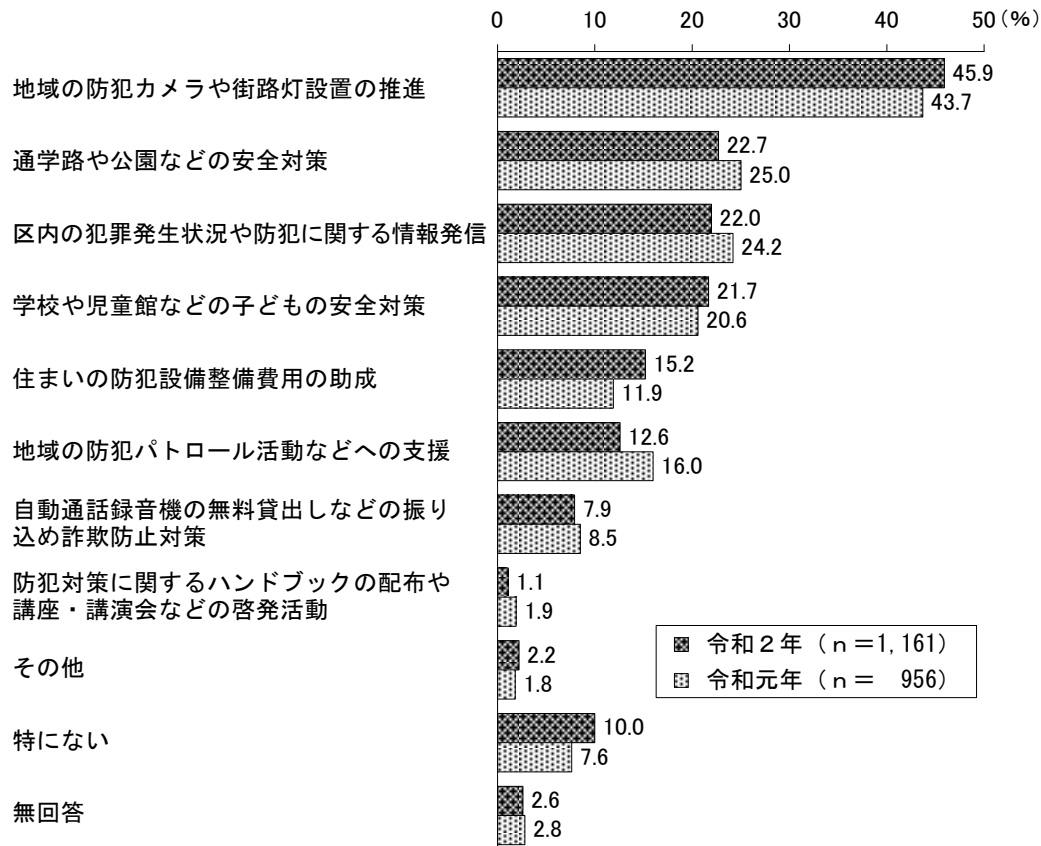
n = 1, 161

1	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	22.0%
2	住まいの防犯設備整備費用の助成	15.2
3	自動通話録音機の無料貸出しなどの振り込め詐欺防止対策	7.9
4	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	45.9
5	防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動	1.1
6	学校や児童館などの子どもの安全対策	21.7
7	通学路や公園などの安全対策	22.7
8	地域の防犯パトロール活動などへの支援	12.6
9	その他	2.2
10	特にない	10.0
	(無回答)	2.6

区に特に力を入れてほしい施策は、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」(45.9%)が4割台半ばで最も高くなっている。次いで、「通学路や公園などの安全対策」(22.7%)、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」(22.0%)、「学校や児童館などの子どもの安全対策」(21.7%)、「住まいの防犯設備整備費用の助成」(15.2%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「住まいの防犯設備整備費用の助成」は3.3ポイント増加している。一方、「地域の防犯パトロール活動などへの支援」は3.4ポイント減少している。(図表7-3-1)

図表7-3-1 区に特に力を入れてほしい施策(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は平成27年以降第1位となっている。また、「通学路や公園などの安全対策」は平成26年以前では第1位となっており、平成27年以降では第2位となっている。

(図表7-3-2)

図表 7-3-2 区に特に力を入れてほしい施策一過年度比較

(%)

調査年	n	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	通学路や公園などの安全対策	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	学校や児童館などの子どもの安全対策	住まいの防犯設備整備費用の助成	地域の支援防犯パトロール活動などへ	自動の振り込み詐欺防止対策 通話録音機の無料貸出しなど	防犯配布活動 対策や講座・講演会などの啓発	その他	特にない	無回答
令和2年	1,161	45.9	22.7	22.0	21.7	15.2	12.6	7.9	1.1	2.2	10.0	2.6
令和元年	956	43.7	25.0	24.2	20.6	11.9	16.0	8.5	1.9	1.8	7.6	2.8
平成30年	1,056	51.1	26.9	20.1	20.4	14.2	17.0	※	2.7	2.7	6.4	2.1
平成29年	1,056	47.1	26.2	24.1	22.1	11.7	16.3	※	2.5	2.1	8.0	4.5
平成28年	1,036	46.9	25.5	24.0	22.0	11.5	18.8	※	2.2	1.2	8.5	3.1
平成27年	1,027	50.6	30.1	21.3	23.5	12.8	22.1	※	2.9	2.4	5.6	2.7
平成26年	1,041	26.9	35.8	14.6	22.9	21.3	22.4	※	4.4	3.2	※	8.9
平成25年	1,047	30.7	34.4	14.9	19.5	23.3	21.0	※	4.6	3.5	※	8.3
平成24年	1,123	14.2	38.1	20.7	24.0	11.0	28.9	※	5.9	3.9	※	9.3
平成23年	1,097	13.7	38.6	15.6	24.2	12.4	30.8	※	5.7	4.6	※	10.6
平成22年	1,004	14.4	42.4	14.9	29.3	10.8	31.1	※	5.0	3.7	※	7.3
平成21年	1,001	16.3	39.3	14.5	23.6	11.4	28.6	※	5.0	7.1	※	9.0

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

* 「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」の選択肢は、平成25年から平成26年までは「町会、自治会などに対する防犯アドバイザーの派遣および防犯カメラなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「町会、自治会等に対する街の防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。

* 「地域の防犯パトロール活動などへの支援」の選択肢は、平成29年と平成27年では「地域の防犯パトロール活動への支援」、平成26年以前は「地域の自主的防犯パトロール活動や子ども見守り活動への支援」としていた。

* 「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」の選択肢は、平成26年以前は「メールによる犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」としていた。

* 「住まいの防犯設備整備費用の助成」の選択肢は、平成25年から平成26年までは「住まいの防犯アドバイザーの派遣および防犯性能の高い鍵やセンサー付きライトなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「住まいの防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。

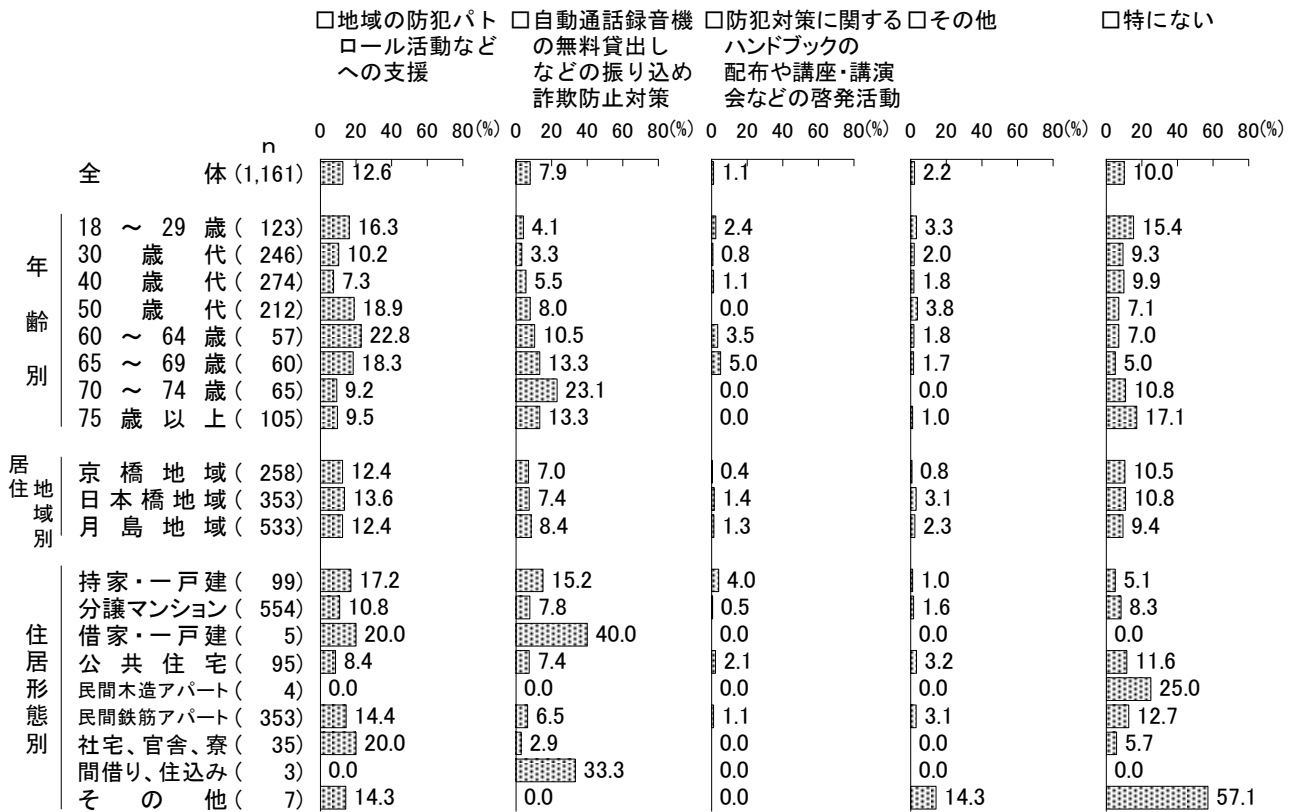
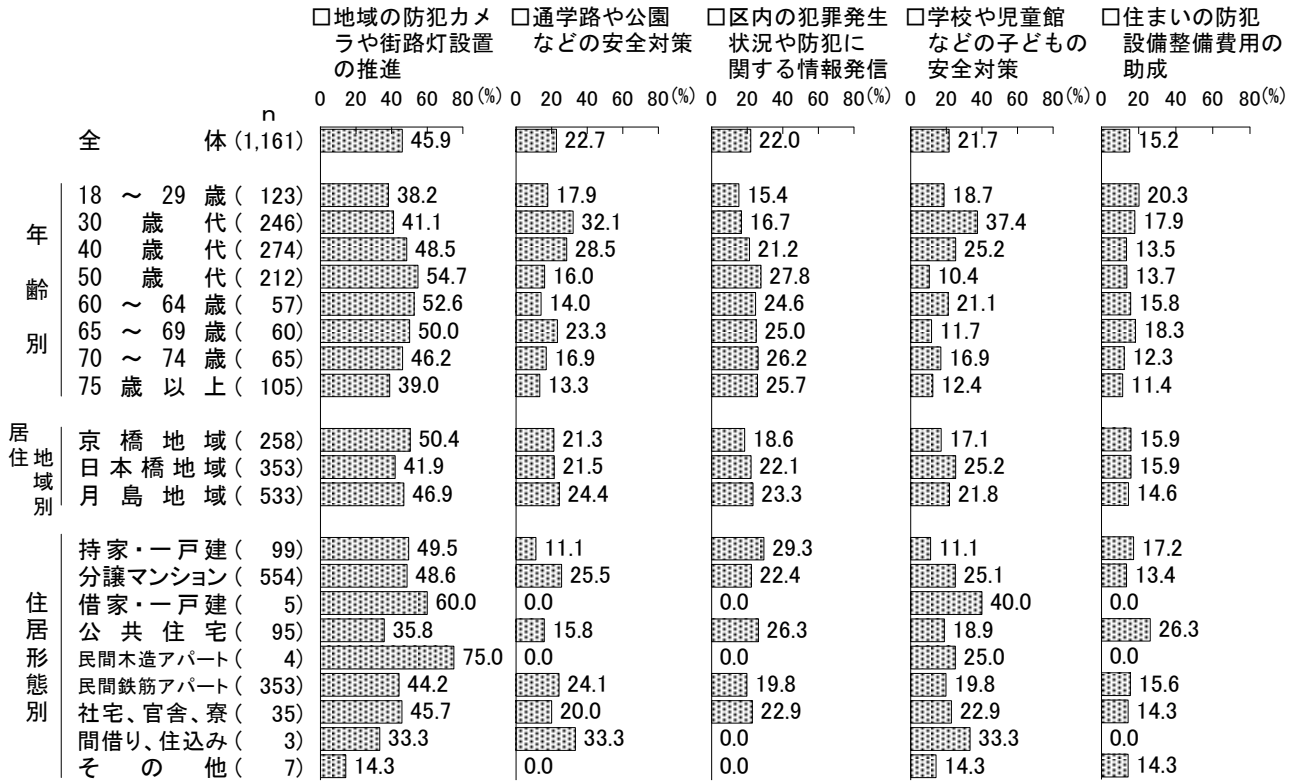
* 「防犯対策に関するハンドブックの配付や講座・講演会などの啓発活動」の選択肢は、平成26年以前は「防犯や子どもの安全に関する講座・講演会」としていた。

年齢別でみると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は50歳代で5割台半ばと高くなっている。「通学路や公園などの安全対策」は30歳代で3割を超えて高くなっている。「学校や児童館などの子どもの安全対策」は30歳代で4割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は京橋地域で5割と高くなっている。「学校や児童館などの子どもの安全対策」は日本橋地域で2割台半ばと高くなっている。

住居形態別でみると、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」は持家・一戸建で約3割と高くなっている。(図表 7-3-3)

図表 7-3-3 区に特に力を入れてほしい施策—年齢別・居住地域別・住居形態別



【8 スポーツ】

(1) 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類

◇「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が6割を超える

問23 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。（○はいくつでも）

※ 運動の量や時間の条件はありません。

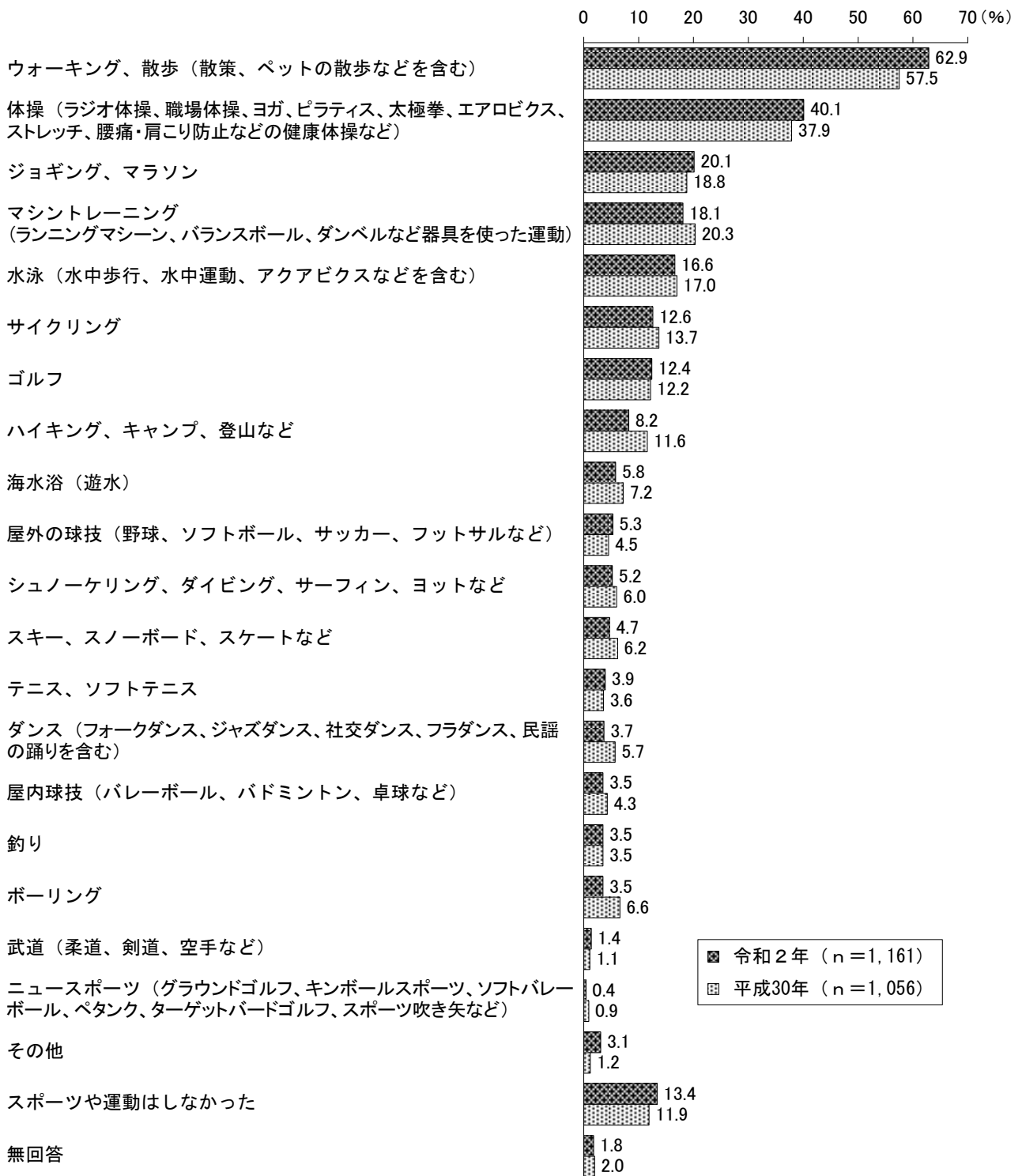
n = 1,161

1	水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）	16.6%
2	体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）	40.1
3	ジョギング、マラソン	20.1
4	ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）	62.9
5	マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）	18.1
6	武道（柔道、剣道、空手など）	1.4
7	テニス、ソフトテニス	3.9
8	屋内球技（バレーボール、バドミントン、卓球など）	3.5
9	屋外の球技（野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど）	5.3
10	ゴルフ	12.4
11	ハイキング、キャンプ、登山など	8.2
12	スキー、スノーボード、スケートなど	4.7
13	海水浴（遊水）	5.8
14	シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど	5.2
15	釣り	3.5
16	ボーリング	3.5
17	サイクリング	12.6
18	ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など）	0.4
19	ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む）	3.7
20	その他	3.1
21	スポーツや運動はしなかった （無回答）	13.4 1.8

過去1年間に行ったスポーツや運動の種類は、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」（62.9%）が6割を超えて最も高くなっている。次いで、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」（40.1%）、「ジョギング、マラソン」（20.1%）、「マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）」（18.1%）などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」は5.4ポイント増加している。一方、「ハイキング、キャンプ、登山など」は3.4ポイント、「ボーリング」は3.1ポイント、それぞれ減少している。（図表8-1-1）

図表8-1-1 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「ウォーキング、散歩」と「体操」が引き続き上位2項目となっている。(図表8-1-2)

図表8-1-2 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類－過年度比較

(%)

調査年	n	ウォーキング、散歩	体操	ジョギング、マラソン	マシントレーニング	水泳	サイクリング	ゴルフ	ハイキング、キャンプ、登山など	海水浴(遊水)	屋外の球技	シン、ヨットなど シュノーケリング、ダイビング、サーフィ	スキー、スノーボード、スケートなど	テニス、ソフトテニス	ダンス	屋内球技	釣り	ボウリング	武道(柔道、剣道、空手など)	ニュースポーツ	その他	スポーツや運動はしなかった	無回答
令和2年	1,161	62.9	40.1	20.1	18.1	16.6	12.6	12.4	8.2	5.8	5.3	5.2	4.7	3.9	3.7	3.5	3.5	3.5	1.4	0.4	3.1	13.4	1.8
平成30年	1,056	57.5	37.9	18.8	20.3	17.0	13.7	12.2	11.6	7.2	4.5	6.0	6.2	3.6	5.7	4.3	3.5	6.6	1.1	0.9	1.2	11.9	2.0
平成29年	1,056	56.7	40.0	16.4	17.4	17.6	13.0	12.7	11.2	8.6	4.9	5.6	6.0	4.4	5.8	5.6	3.9	6.7	1.3	1.0	0.9	12.7	3.5
平成28年	1,036	58.3	36.2	20.6	18.8	21.9	15.9	14.3	11.3	11.0	5.5	7.4	6.9	5.4	5.3	5.3	4.7	8.7	1.4	1.5	1.0	12.6	3.4
平成27年	1,027	50.2	30.0	16.8	14.0	16.9	10.2	15.1	8.3	6.2	3.9	5.1	7.4	3.8	3.3	3.3	3.1	4.6	1.5	0.9	1.8	15.5	2.8
平成26年	1,041	57.8	37.8	17.2	15.0	21.3	14.6	13.9	11.6	8.5	5.2	3.7	7.4	4.2	5.0	5.2	4.9	7.3	1.1	1.0	1.2	12.1	2.2
平成25年	1,047	57.0	36.1	15.6	14.3	20.9	12.3	13.0	9.6	7.6	5.2	4.9	5.9	5.3	5.3	4.8	4.2	7.1	1.3	1.1	1.5	12.1	2.7
平成24年	1,123	43.6	27.2	17.7	9.8	20.1	※	13.2	11.2	※	4.0	※	※	4.1	※	5.3	※	※	※	1.0	7.1	19.4	2.2

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

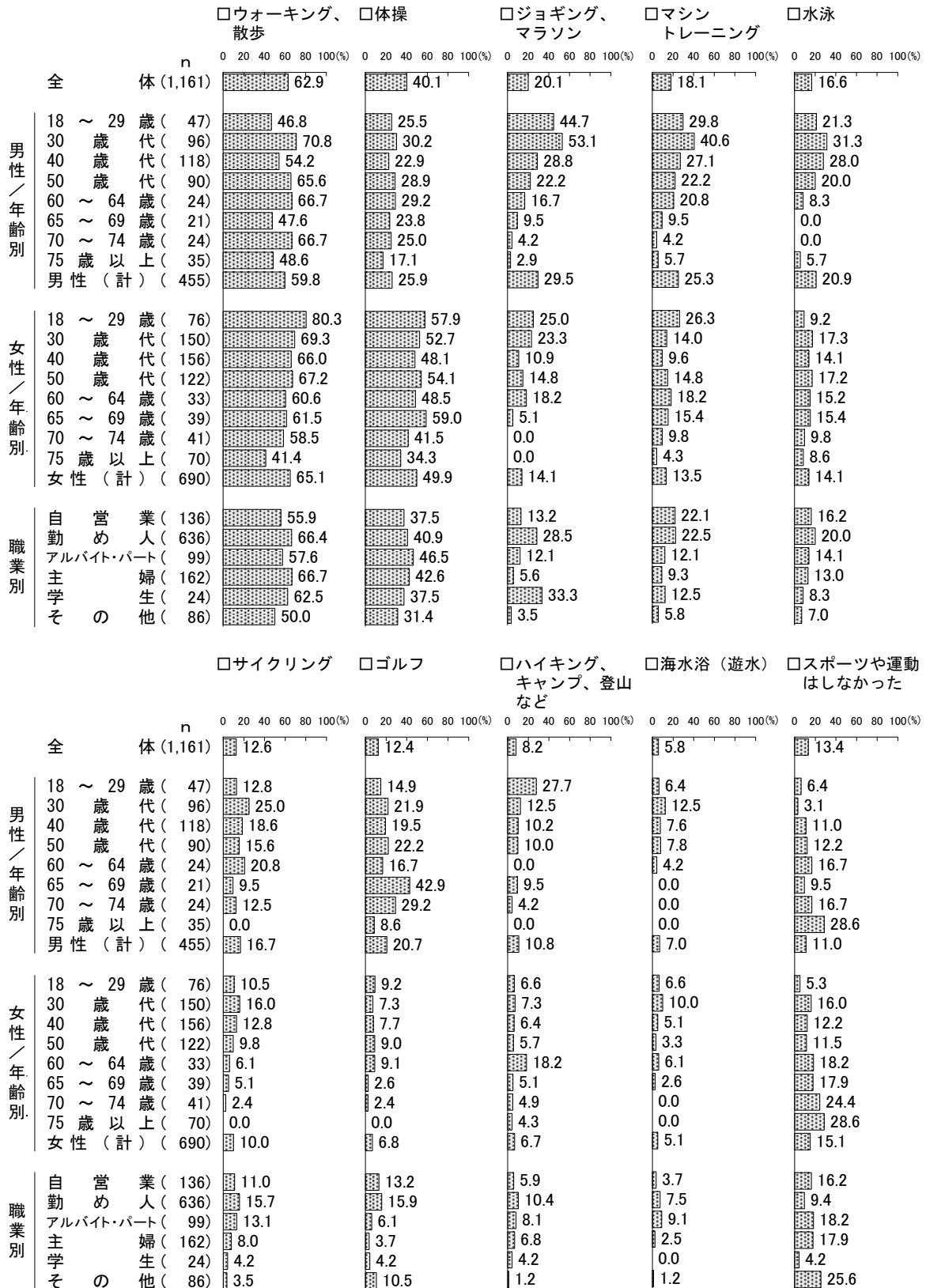
* 「ニュースポーツ(グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など)」の選択肢は、平成29年では「ニュースポーツ(グラウンドゴルフ、キンボール、ソフトバレー、ペタンク、スポーツ吹き矢など)」としていた。

性／年齢別でみると、「ウォーキング、散歩」は女性の18～29歳で8割、男性の30歳代で約7割と高くなっている。「体操」は女性の65～69歳で約6割と高くなっている。

職業別でみると、「体操」はアルバイト・パートタイマーで5割近くと高くなっている。

(図表8-1-3)

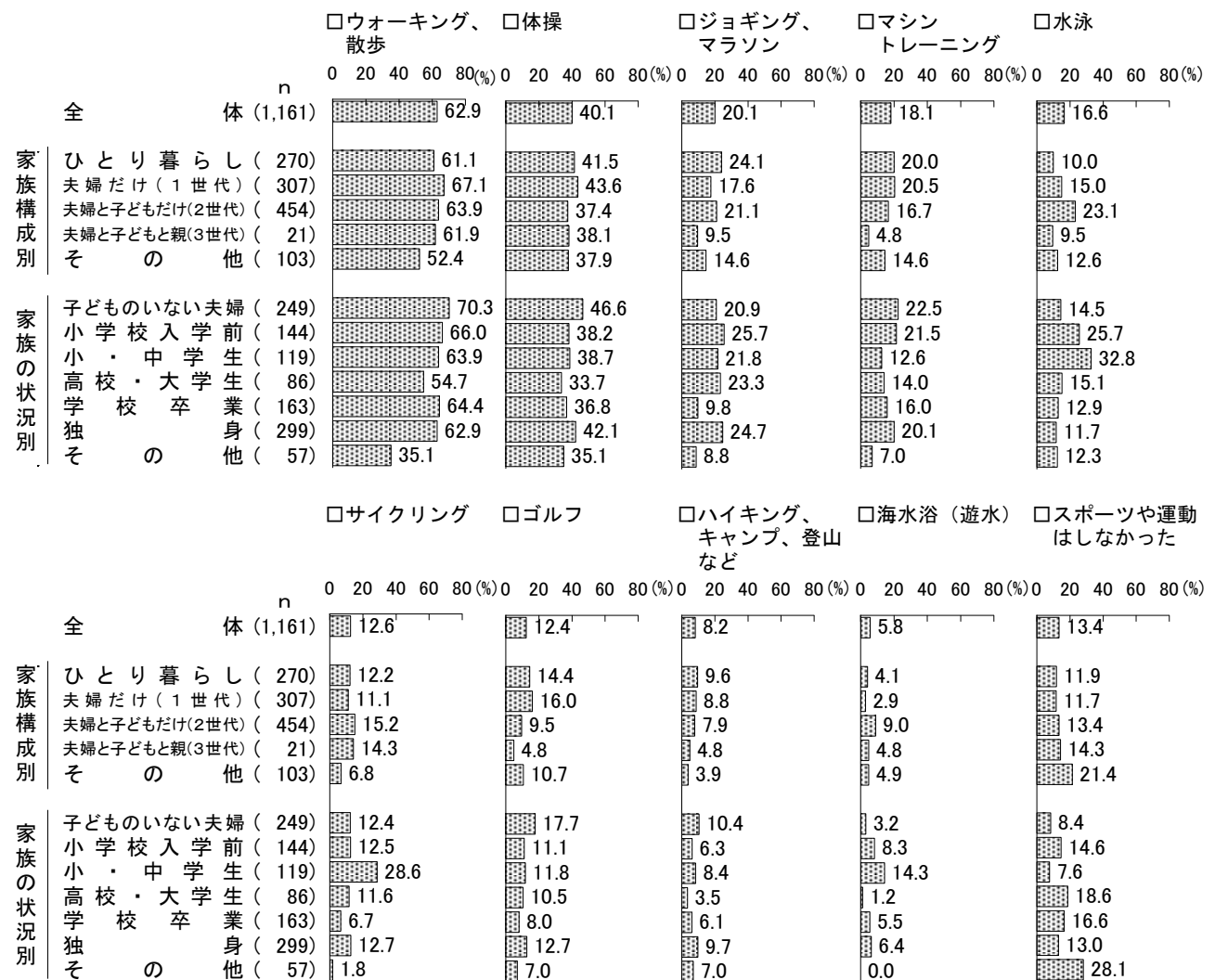
図表8-1-3 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類－性／年齢別・職業別（上位10項目）



家族構成別でみると、「ウォーキング、散歩」は夫婦だけ（1世代）で7割近くと高くなっている。「体操」は夫婦だけ（1世代）とひとり暮らしで4割を超えて高くなっている。

家族の状況別でみると、「ウォーキング、散歩」は子どものいない夫婦で7割と高くなっている。「体操」は子どものいない夫婦で5割近くと高くなっている。「水泳」が一番上の子どもが小・中学生の家族で3割を超えて高くなっている。（図表8-1-4）

図表8-1-4 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類—家族構成別・家族の状況別（上位10項目）



(2) 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度

◇「週に1～2日程度」が4割近く

(問23で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

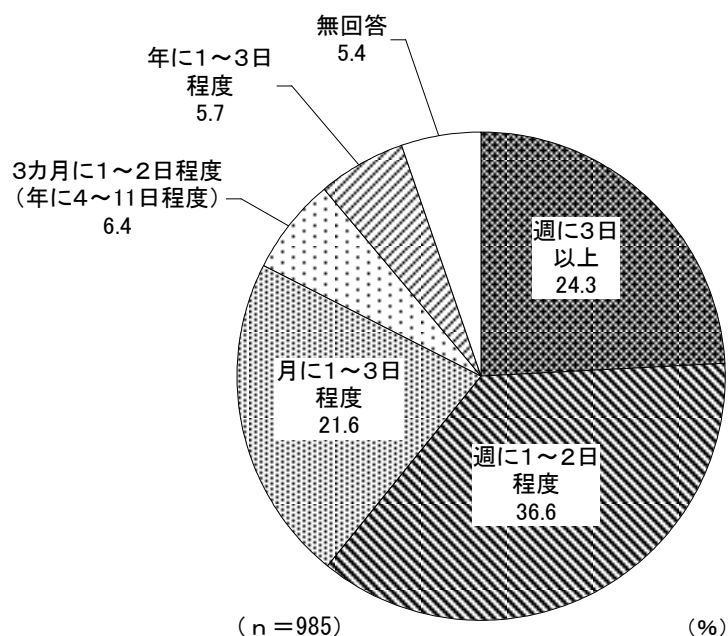
問23-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

n = 985

1 週に3日以上	24.3%
2 週に1～2日程度	36.6
3 月に1～3日程度	21.6
4 3カ月に1～2日程度 (年に4～11日程度)	6.4
5 年に1～3日程度	5.7
(無回答)	5.4

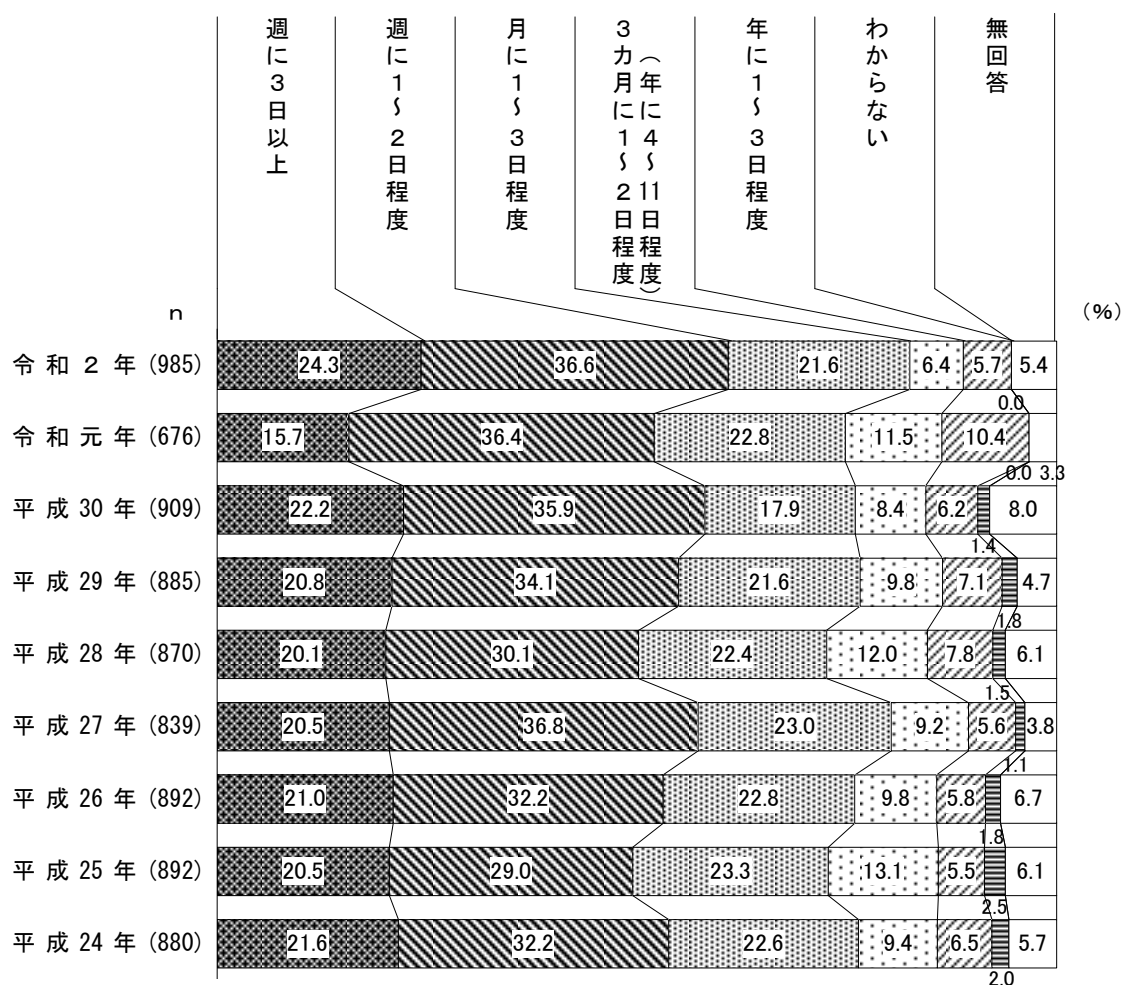
問23で、いずれかのスポーツや運動をしたことがあると回答した方の、過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度は、「週に1～2日程度」(36.6%)が4割近くで最も高くなっている。次いで、「週に3日以上」(24.3%)、「月に1～3日程度」(21.6%)、「3カ月に1～2日程度(年に4～11日程度)」(6.4%)などとなっている。(図表8-2-1)

図表8-2-1 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「週に3日以上」は令和元年と比べて8.6ポイント増加している。(図表8-2-2)

図表8-2-2 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－過年度比較

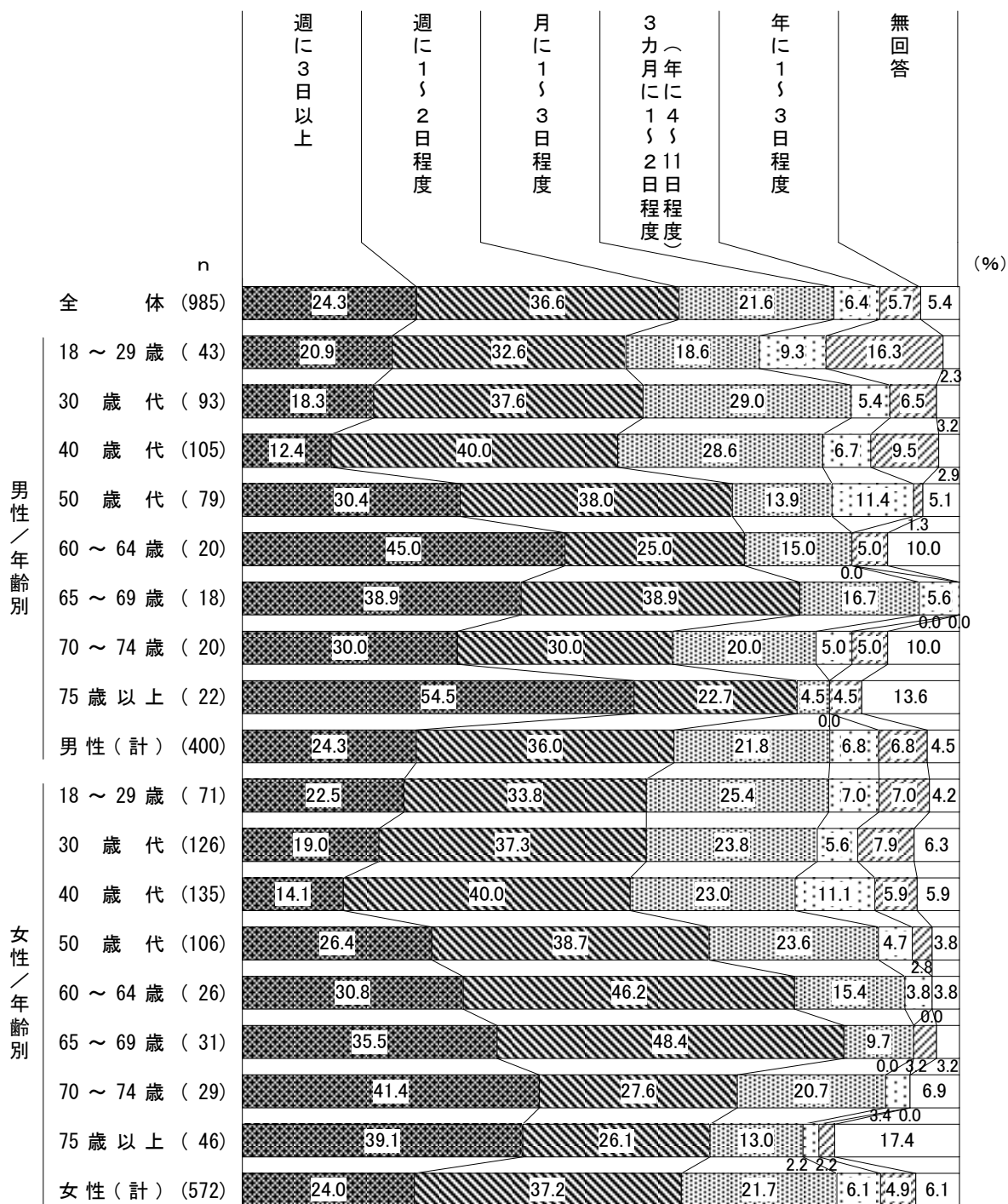


* 「わからない」は、令和元年調査から選択肢に含まれていない。

* 令和元年の調査では、「あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)」と全員に対してこの質問を聞いた。図表8-2-2における令和元年の比率は、「スポーツや運動はしなかった」と答えた数を除いて再計算した比率を示す。

性／年齢別でみると、「週に3日以上」は男性の75歳以上で5割台半ばと高くなっている。「週に1～2日程度」は女性の65～69歳で5割近くと高くなっている。「月に1～3日程度」は男性の30歳代で約3割と高くなっている。(図表8-2-3)

図表8-2-3 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－性／年齢別

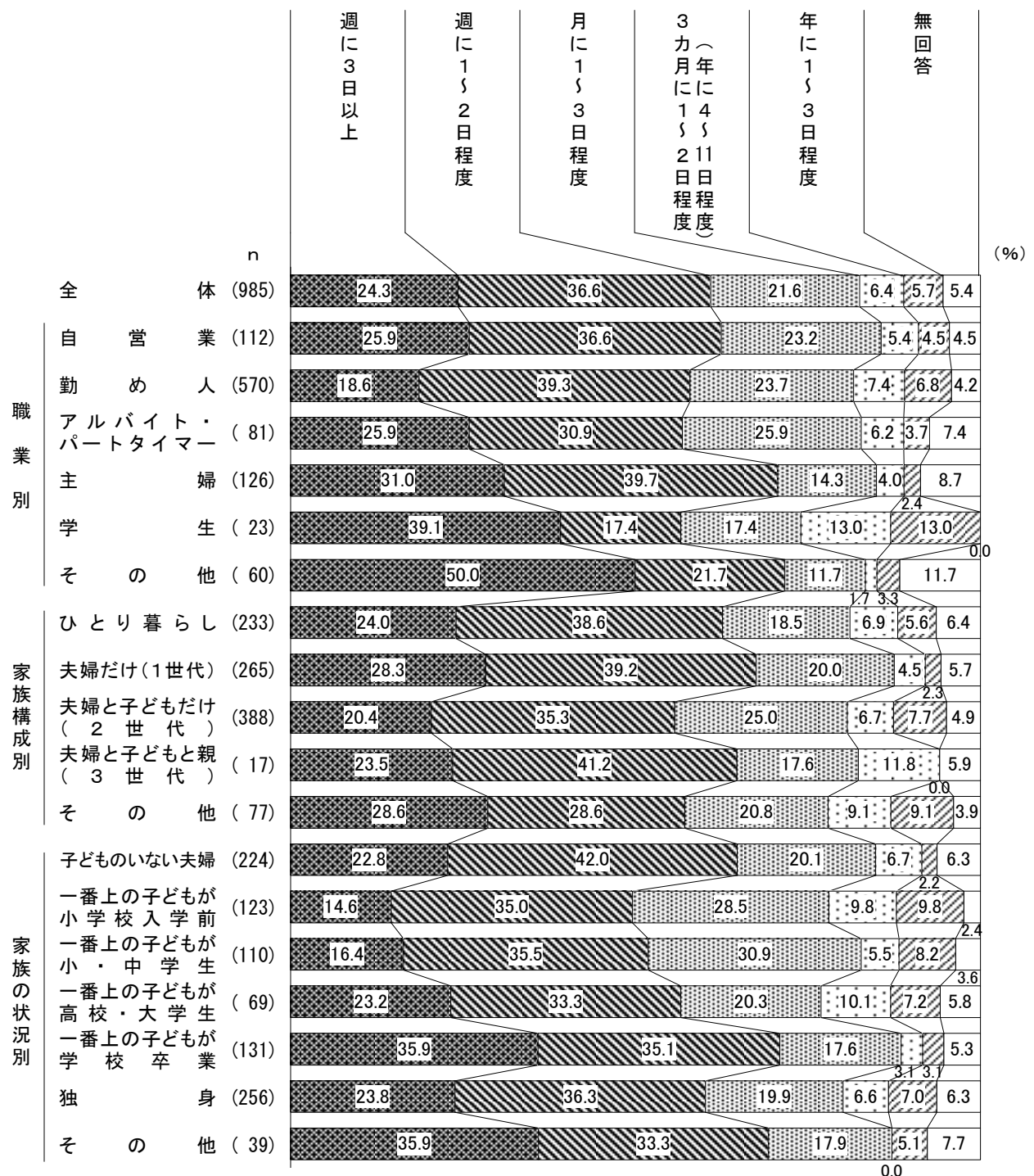


職業別でみると、「週に3日以上」はその他で5割と高くなっている。

家族構成別でみると、「週に1～2日程度」は夫婦と子どもと親（3世代）で4割を超えて高くなっている。

家族の状況別でみると、「週に3日以上」が一番上の子どもが学校卒業の家族とその他で3割台半ばと高くなっている。「週に1～2日程度」は子どものいない夫婦で4割を超えて高くなっている。（図表8-2-4）

図表8-2-4 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－職業別・家族構成別・家族の状況別



(3) スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと

◇「スポーツ施設の増設・充実」が5割

問24 あなたは、区民のスポーツへの参加の機会を増やすために、区は今後どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(〇は3つまで)

n = 1, 161

1	スポーツ施設の増設・充実	50.1%
2	学校体育施設の開放・整備	15.6
3	施設利用時間の拡大	19.8
4	スポーツ行事・大会・教室の開催	10.2
5	障害のある人を対象としたスポーツ教室や体験会の開催	2.3
6	地域スポーツクラブの設立や活動に対する支援	7.6
7	年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及	16.7
8	一人でも参加できるスポーツの場の提供	30.1
9	公共スポーツ施設での健康・体力相談体制の整備	4.9
10	区内のスポーツに関する情報発信	7.2
11	指導者・ボランティアなどスポーツ活動を「ささえる」人材の育成	4.0
12	スポーツ観戦の機会の提供など「みる」スポーツの推進	12.1
13	その他	4.0
14	わからない (無回答)	13.2 3.8

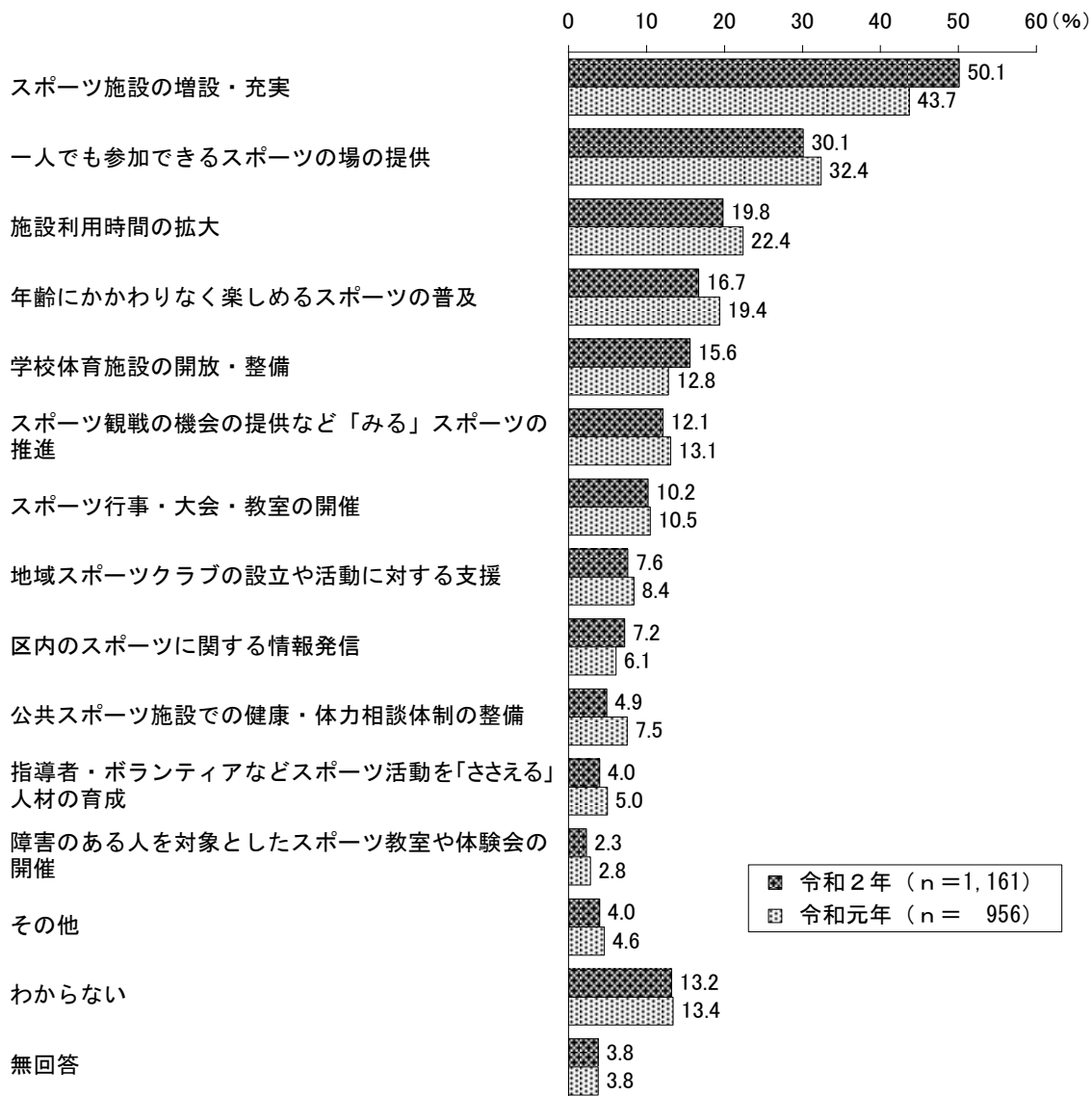
(※) 地域スポーツクラブ 地域が主体となって運営し、学校など身近な施設において子どもから大人まで誰もが気軽にスポーツ、レクリエーション、文化活動を楽しめるスポーツクラブです。地域の皆さんは、会員、運営スタッフ、指導者としてクラブに参加することができます。中央区では平成25年2月に月島地域を拠点とする「中央区地域スポーツクラブ大江戸月島」が設立されました。

スポーツへの参加機会を増やすために区に望むことは、「スポーツ施設の増設・充実」(50.1%)が5割で最も高くなっている。次いで、「一人でも参加できるスポーツの場の提供」(30.1%)、「施設利用時間の拡大」(19.8%)、「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」(16.7%)、「学校体育施設の開放・整備」(15.6%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、「スポーツ施設の増設・充実」は6.4ポイント増加している。

(図表 8-3-1)

図表 8-3-1 スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと (複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「スポーツ施設の増設・充実」と「一人でも参加できるスポーツの場の提供」、「施設利用時間の拡大」、「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」が引き続き上位4項目となっている。

(図表8-3-2)

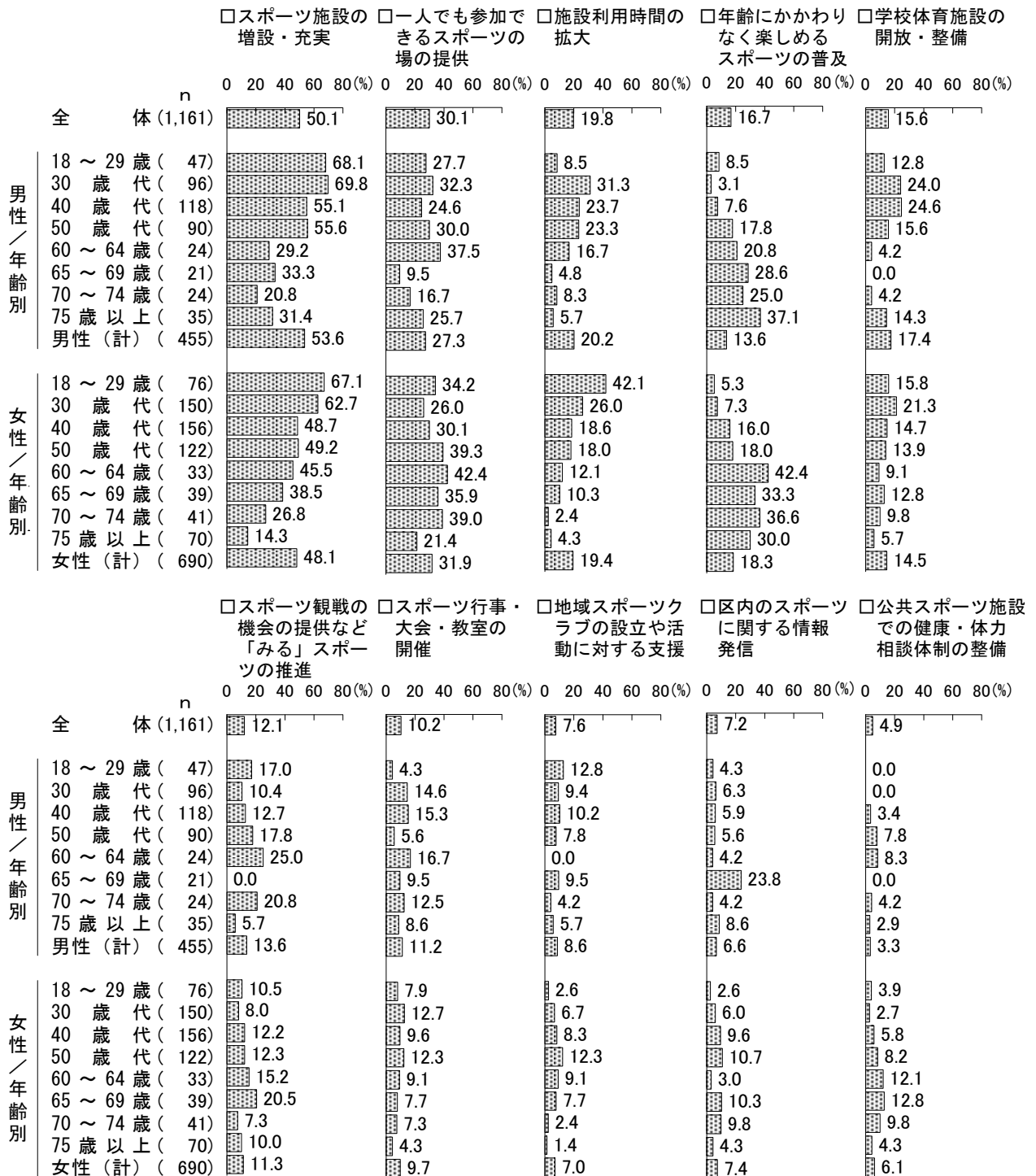
図表8-3-2 スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと一過年度比較

調査年	n	(%)														
		スポーツ施設の増設・充実	一人でも参加できるスポーツの場の提供	施設利用時間の拡大	年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及	学校体育施設の開放・整備	「みる」スポーツの観戦の機会提供など	スポーツ行事・大会・教室の開催	地域スポーツクラブの設立や活動に対する支援	区内のスポーツに関する情報発信	公共スポーツ施設での健康体力・相談体制の整備	指導者・ボランティアなど人材の育成	障害のある人を対象としたスポーツ	その他	わからない	無回答
令和2年	1,161	50.1	30.1	19.8	16.7	15.6	12.1	10.2	7.6	7.2	4.9	4.0	2.3	4.0	13.2	3.8
令和元年	956	43.7	32.4	22.4	19.4	12.8	13.1	10.5	8.4	6.1	7.5	5.0	2.8	4.6	13.4	3.8
平成30年	1,056	44.9	32.9	22.7	22.4	12.7	※	13.5	7.7	11.5	8.0	※	3.2	3.6	11.4	4.0
平成29年	1,056	42.4	34.2	20.9	21.5	15.0	※	13.6	6.9	12.8	8.2	※	3.6	2.8	11.8	4.8
平成28年	1,036	36.6	31.9	23.8	20.1	13.1	※	17.7	7.9	15.4	7.7	※	4.0	3.0	13.8	4.2
平成27年	1,027	44.4	31.5	23.1	21.1	14.2	※	12.4	7.6	13.7	8.7	※	2.1	3.9	11.6	4.5
平成26年	1,041	43.1	32.6	24.0	22.4	13.7	※	13.9	8.3	11.5	8.6	※	2.3	4.6	11.0	3.9
平成25年	1,047	44.8	31.6	26.1	22.5	14.6	※	12.3	9.6	11.3	8.4	※	2.1	3.2	10.3	5.3
平成24年	1,123	44.3	30.9	20.7	20.7	12.4	※	11.4	※	11.2	9.8	※	※	3.3	11.4	5.3

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

性／年齢別でみると、「スポーツ施設の増設・充実」は男性の30歳代で7割、男性の18～29歳と女性の18～29歳で7割近くと高くなっている。「一人でも参加できるスポーツの場の提供」は女性の60～64歳で4割を超えて高くなっている。「施設利用時間の拡大」は女性の18～29歳で4割を超えて高くなっている。「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」は女性の60～64歳で4割を超えて高くなっている。(図表8-3-3)

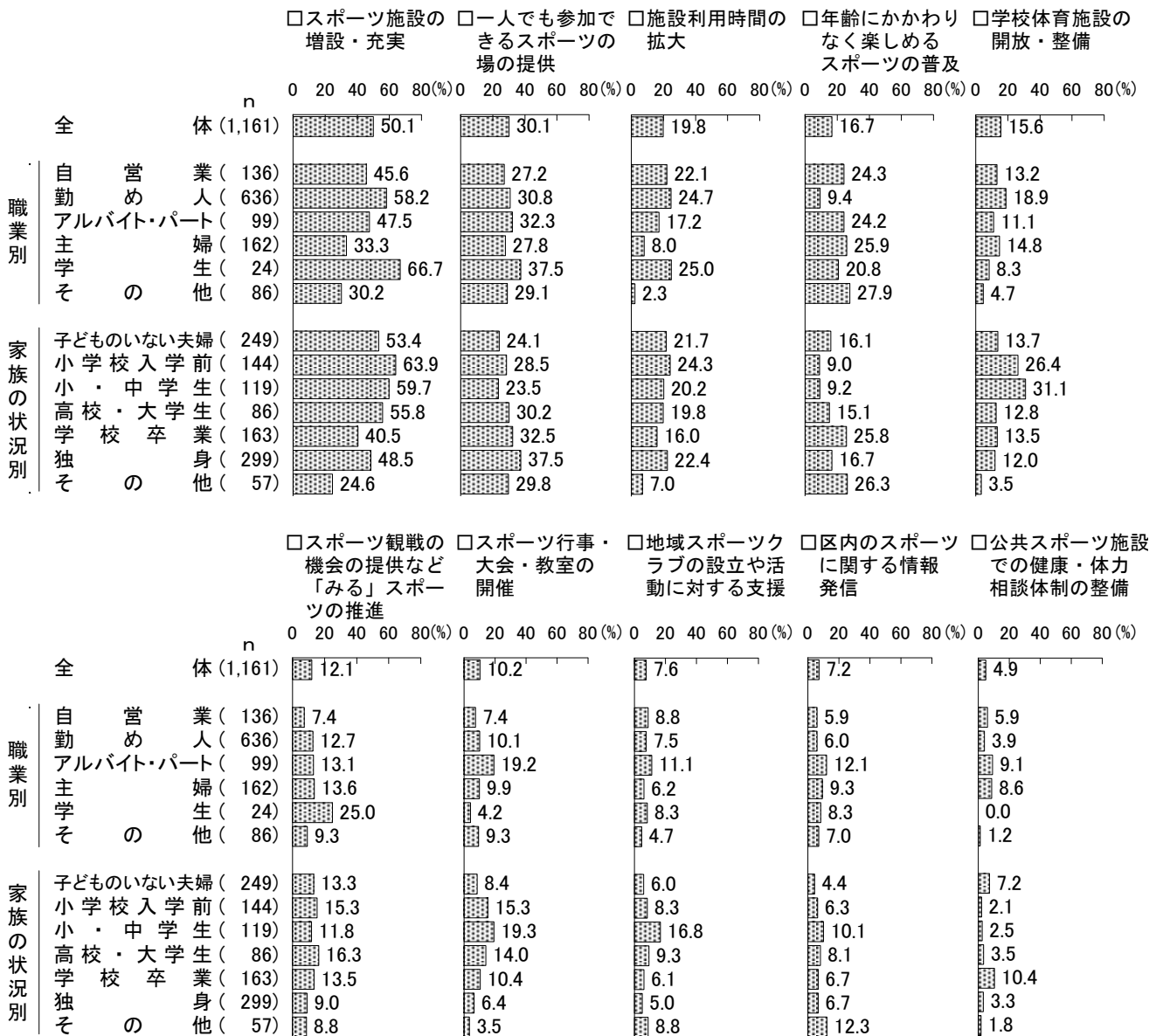
図表8-3-3 スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと一性／年齢別(上位10項目)



職業別でみると、「スポーツ施設の増設・充実」は学生で7割近く、勤め人で6割近くと高くなっている。「一人でも参加できるスポーツの場の提供」は学生で4割近くと高くなっている。

家族の状況別でみると、「スポーツ施設の増設・充実」が一番上の子どもが小学校入学前の家族で6割を超えて高くなっている。「一人でも参加できるスポーツの場の提供」は独身で4割近くと高くなっている。「学校体育施設の開放・整備」が一番上の子どもが小・中学生の家族で3割を超えて高くなっている。(図表8-3-4)

図表8-3-4 スポーツへの参加機会を増やすために区に望むことー職業別・家族の状況別 (上位10項目)



【9 築地魚河岸】

(※) 築地魚河岸 築地市場が移転しても築地の活気とにぎわいを絶やさないために、区が『食のプロに支持され、一般客・観光客にも親しまれる、食のまち「築地」のにぎわいの拠点となる施設』として築地場外に開設した生鮮市場です。目利きのプロが厳選した高品質の水産物や青果物などを販売しています。

(1) 「築地魚河岸」への来場経験

◇『来場経験あり』が5割を超える

問25 「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(○は1つ)

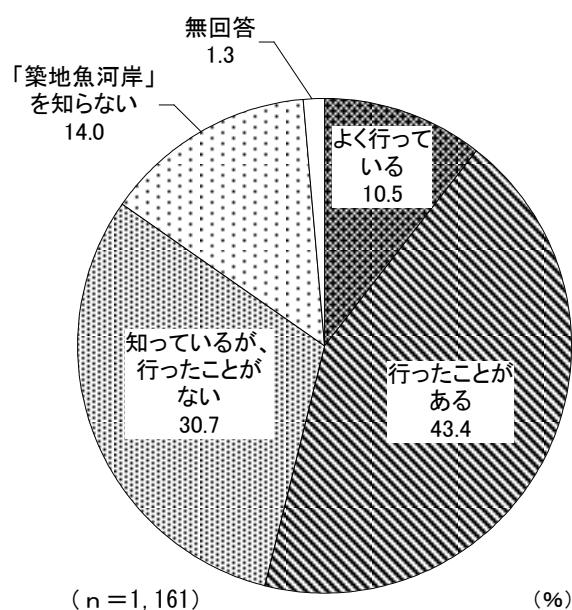
n = 1, 161

1	よく行っている	10.5%	3	知っているが、行ったことがない	30.7
2	行ったことがある	43.4	4	「築地魚河岸」を知らない	14.0
				(無回答)	1.3

「築地魚河岸」への来場経験は、「よく行っている」(10.5%)と「行ったことがある」(43.4%)を合わせた『来場経験あり』(53.9%)が5割を超えている。

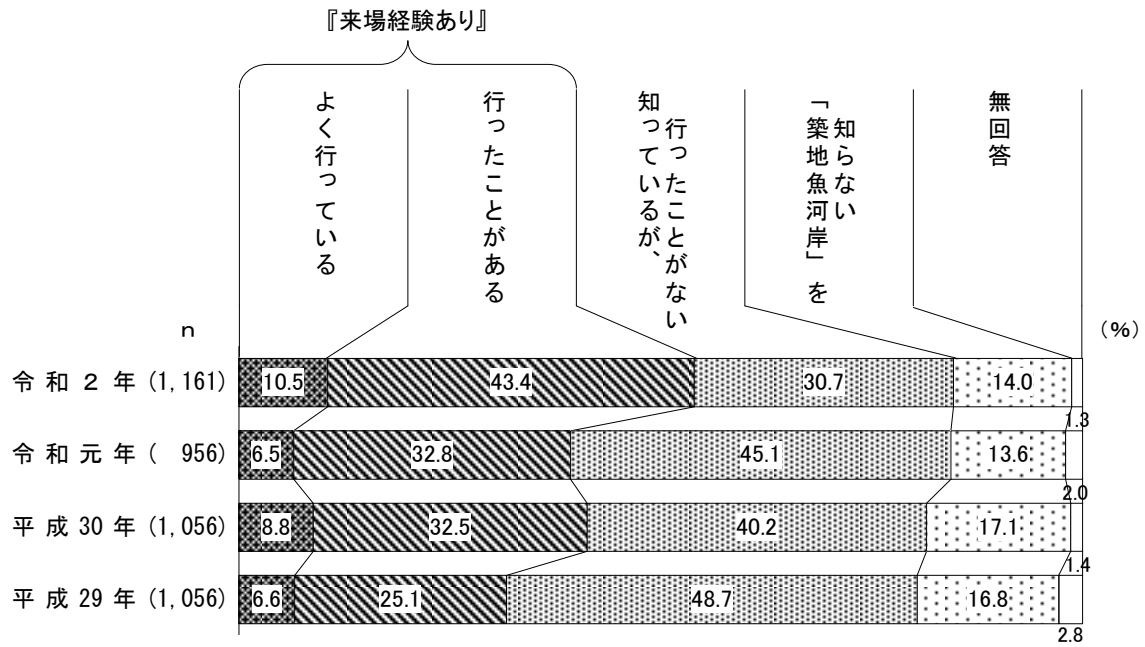
一方、「知っているが、行ったことがない」(30.7%)は約3割で、「『築地魚河岸』を知らない」(14.0%)は1割台半ばとなっている。(図表9-1-1)

図表9-1-1 「築地魚河岸」への来場経験



過去の調査結果と比較すると、『来場経験あり』は令和元年と比べて14.6ポイント増加しており、今回調査が過去最高の割合となっている。(図表9-1-2)

図表9-1-2 「築地魚河岸」への来場経験一過年度比較

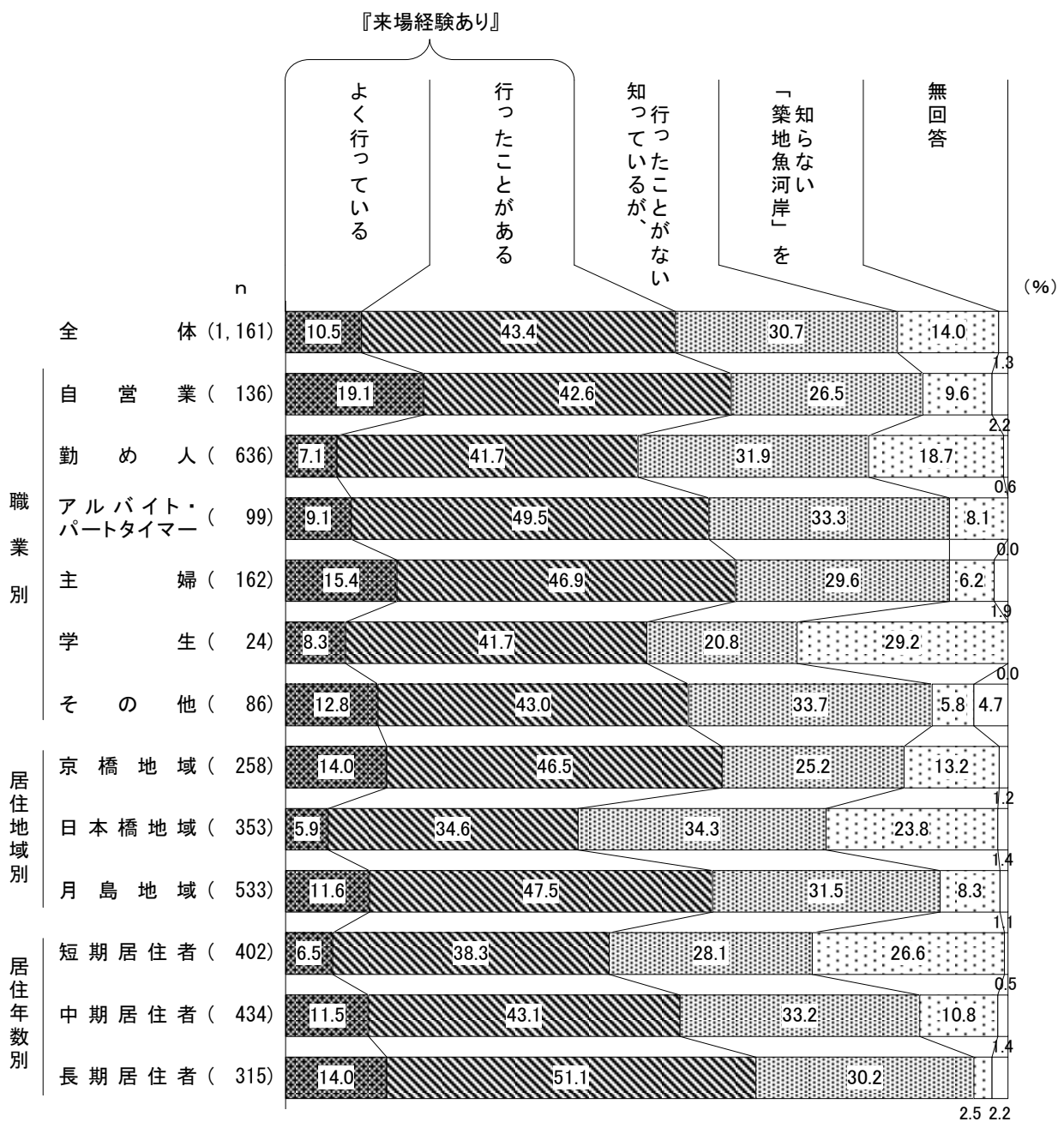


職業別でみると、『来場経験あり』は主婦と自営業で6割を超えて高くなっている。一方、『築地魚河岸』を知らない」は学生で約3割と高くなっている。

居住地域別でみると、『来場経験あり』は京橋地域で約6割と高くなっている。一方、『築地魚河岸』を知らない」は日本橋地域で2割を超えて高くなっている。

居住年数別でみると、『来場経験あり』は長期居住者で6割台半ばと高くなっている。一方、『築地魚河岸』を知らない」は短期居住者で3割近くと高くなっている。(図表9-1-3)

図表9-1-3 「築地魚河岸」への来場経験－職業別・居住地域別・居住年数別



(2) 「築地魚河岸」への来場目的

◇「1階の店舗で買い物をするため」が7割を超える

(問25で、「1 よく行っている」または「2 行ったことがある」とお答えの方に)
問25-1 「築地魚河岸」に行った目的は何ですか。(〇はいくつでも)

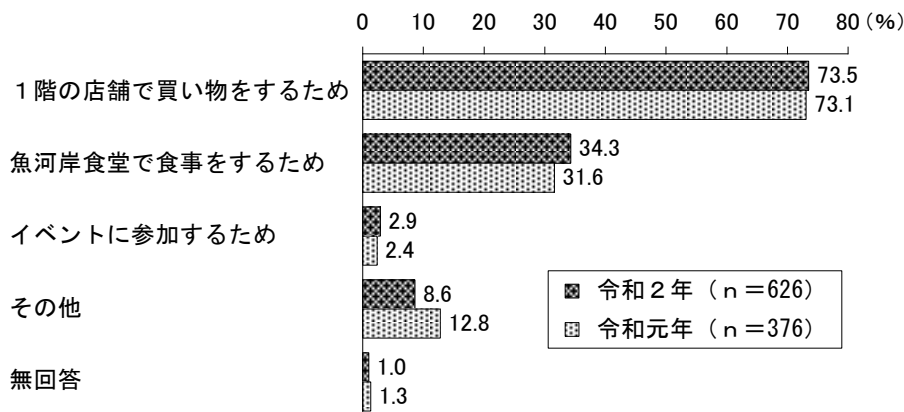
n=626

1	1階の店舗で買い物をするため	73.5%	3	イベントに参加するため	2.9
2	魚河岸食堂で食事をするため	34.3	4	その他	8.6
				(無回答)	1.0

問25で、「よく行っている」または「行ったことがある」と回答した方の、「築地魚河岸」への来場目的は、「1階の店舗で買い物をするため」(73.5%)が7割を超えて最も高くなっている。次いで、「魚河岸食堂で食事をするため」(34.3%)、「イベントに参加するため」(2.9%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表9-2-1)

図表9-2-1 「築地魚河岸」への来場目的(複数回答)



【10 広報】

(1) 広報紙の閲覧状況

◇『読んだことがある』が7割を超える

問26 区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」は月3回発行しています。あなたは広報紙を読んだことがありますか。(○は1つだけ)

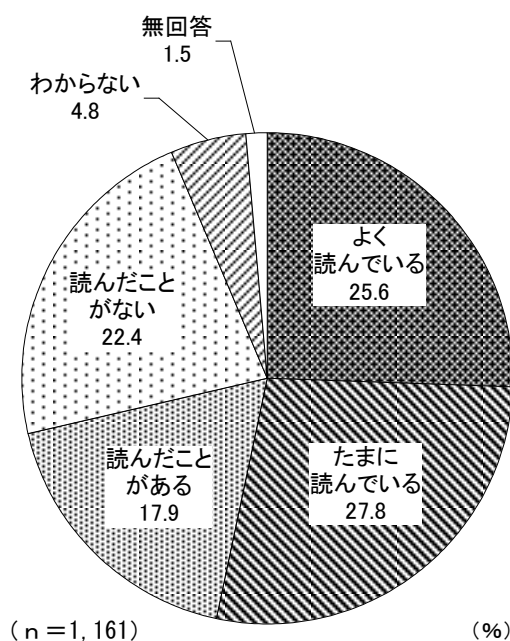
n = 1, 161

1	よく読んでいる	25.6%	4	読んだことがない	22.4
2	たまに読んでいる	27.8	5	わからない	4.8
3	読んだことがある	17.9		(無回答)	1.5

広報紙の閲覧状況は、「よく読んでいる」(25.6%)、「たまに読んでいる」(27.8%)、「読んだことがある」(17.9%)の3つを合わせた『読んだことがある』(71.3%)は7割を超えている。

一方、「読んだことがない」(22.4%)は2割を超えている。(図表10-1-1)

図表10-1-1 広報紙の閲覧状況

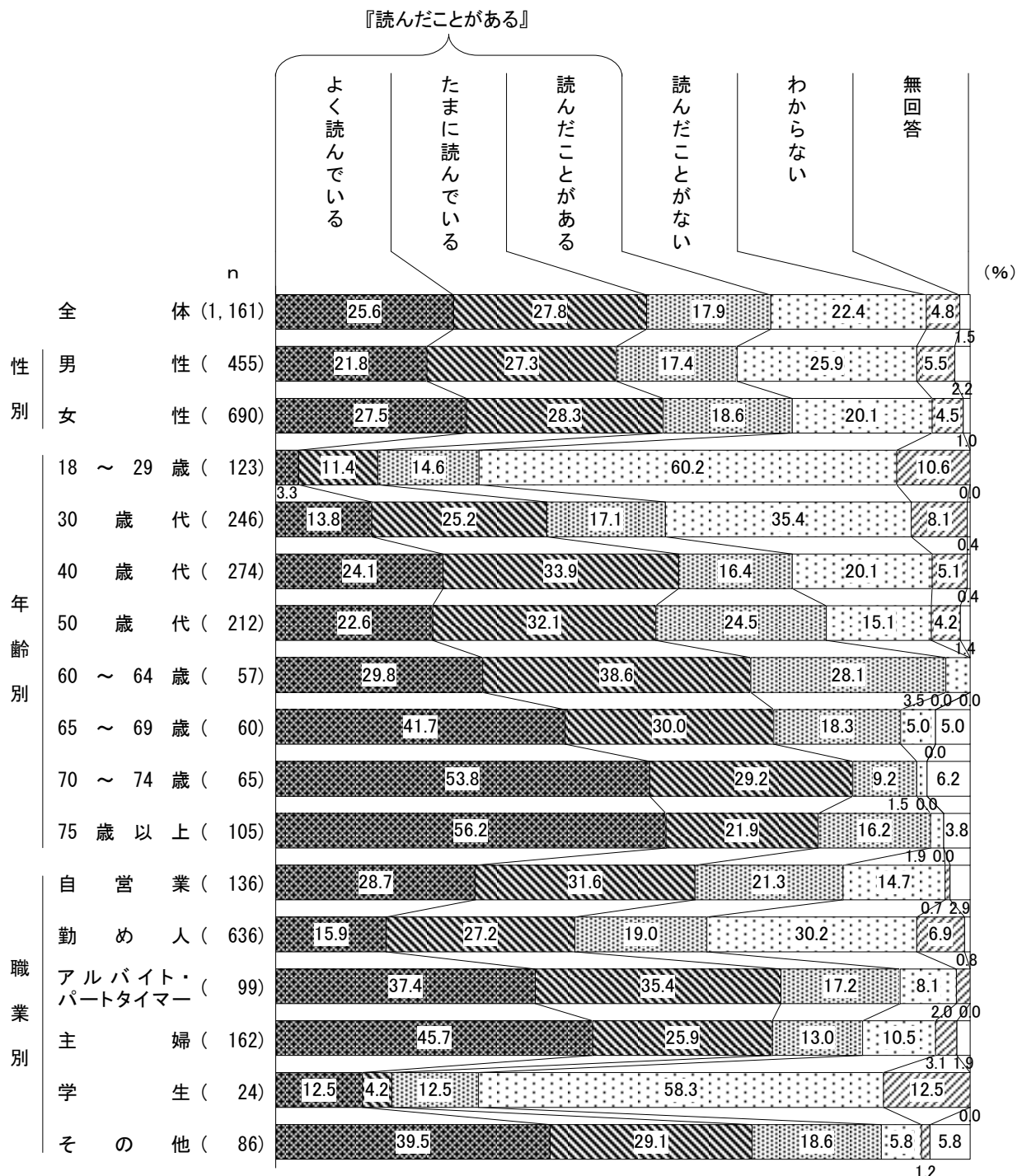


性別でみると、女性の方が男性よりも『読んだことがある』で7.9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、『読んだことがある』は60～64歳で10割近くと高くなっている。一方、「読んだことがない」はおおむね低い年代ほど割合が高くなっており、18～29歳で6割と高くなっている。

職業別でみると、『読んだことがある』はアルバイト・パートタイマーで9割と高くなっている。一方、「読んだことがない」は学生で6割近く、勤め人で3割と高くなっている。(図表10-1-2)

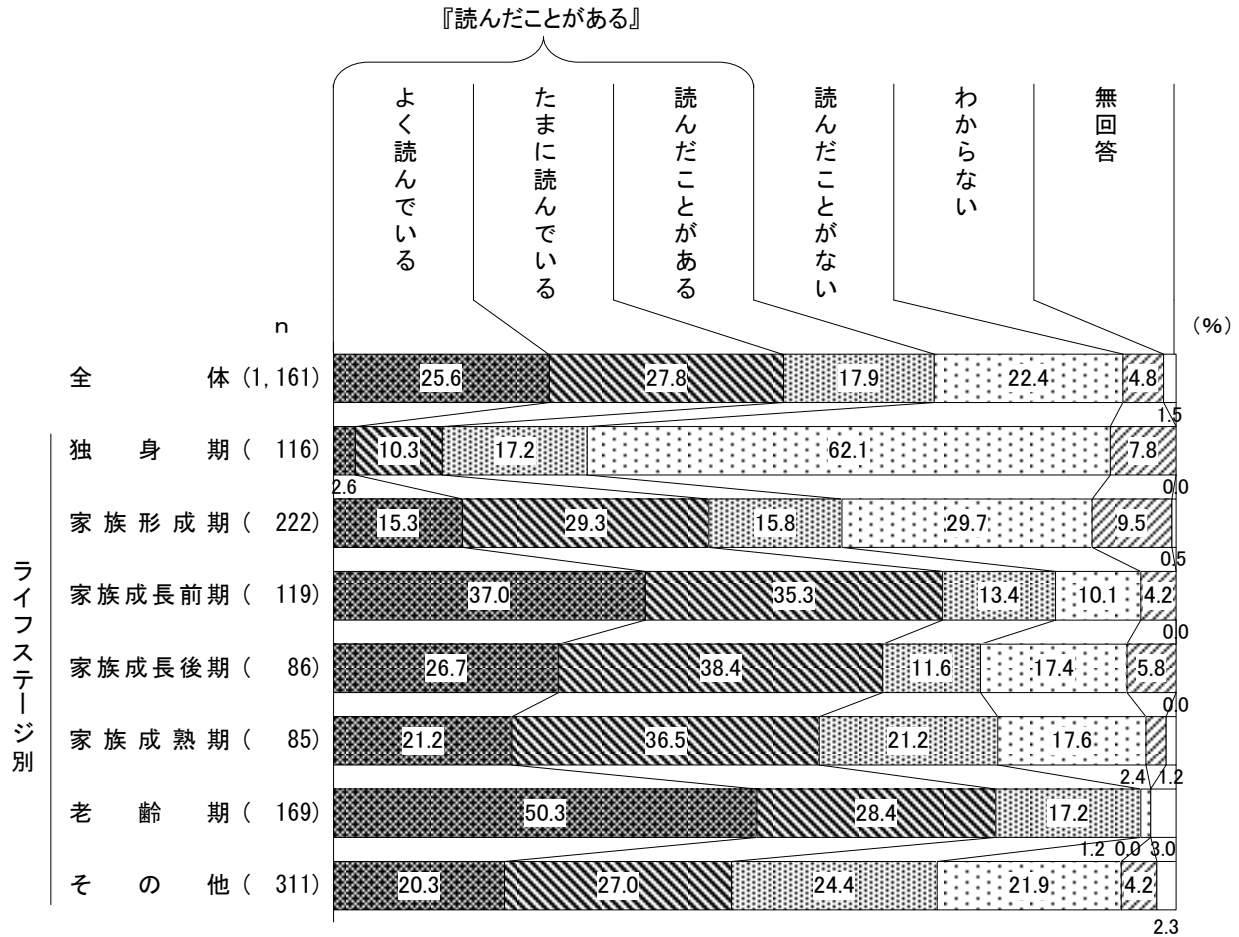
図表10-1-2 広報紙の閲覧状況－性別・年齢別・職業別



ライフステージ別で見ると、『読んだことがある』は老齢期で9割台半ば、家族成長前期で8割台半ばと高くなっている。一方、「読んだことがない」は独身期で6割を超えて高くなっている。

(図表10-1-3)

図表10-1-3 広報紙の閲覧状況－ライフステージ別



(2) 広報紙の入手方法

◇「紙媒体（町会・自治会配布、新聞折り込み、区施設や地下鉄駅などでの配布）」が9割台半ば

（問26で、「1 よく読んでいる」「2 たまに読んでいる」「3 読んだことがある」とお答えの方に）

問26-1 広報紙を何で読んでいますか。（○はいくつでも）

n = 828

1 紙媒体（町会・自治会配布、新聞折り込み、区施設や地下鉄駅などでの配布）	96.3%
2 電子媒体（区ホームページに掲載、スマートフォン用アプリ「中央区版 マイ広報紙」「マチイロ」で配信）	5.4
（無回答）	1.6

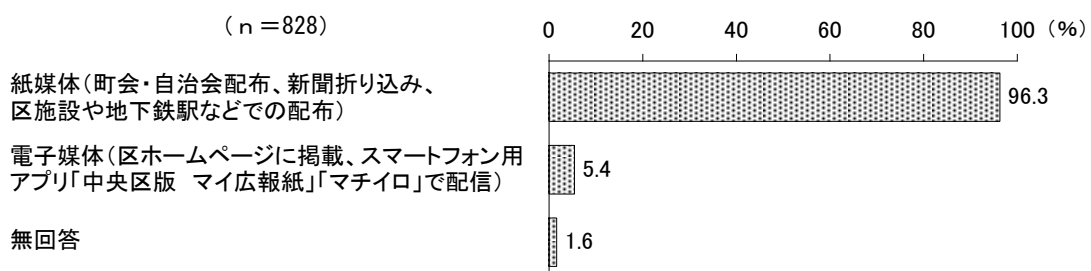
（※）中央区版 マイ広報紙 広報紙を記事ごとに文字データ化しているため、読みたい記事を簡単に探すことができます。

（※）マチイロ 広報紙を電子書籍として、そのままの形で読むことができます。

問26で、広報紙を「よく読んでいる」「たまに読んでいる」「読んだことがある」と回答した方の、広報紙の入手方法は、「紙媒体（町会・自治会配布、新聞折り込み、区施設や地下鉄駅などでの配布）」（96.3%）が9割台半ばとなっている。

また、「電子媒体（区ホームページに掲載、スマートフォン用アプリ『中央区版 マイ広報紙』『マチイロ』で配信）」（5.4%）は1割に満たない。（図表10-2-1）

図表10-2-1 広報紙の入手方法（複数回答）



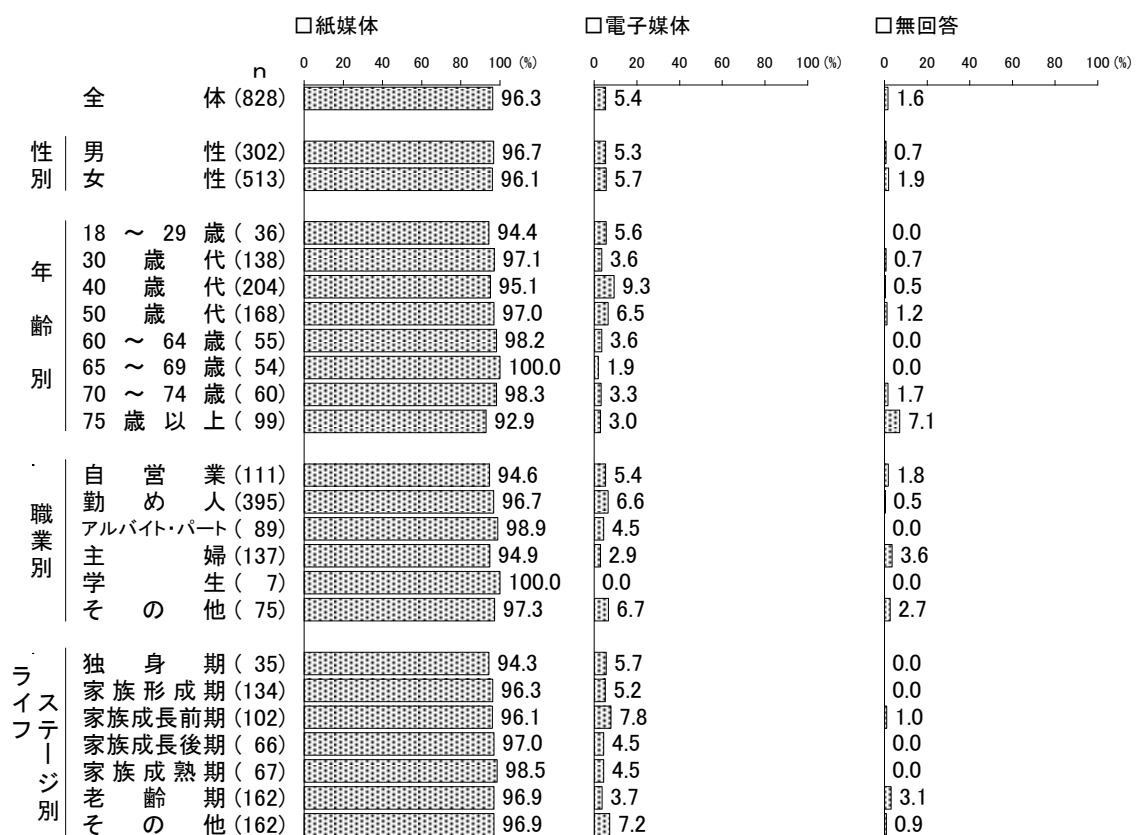
性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別でみると、「紙媒体（町会・自治会配布、新聞折り込み、区施設や地下鉄駅などでの配布）」は全ての年齢で9割以上と高くなっている。

職業別でみると、「紙媒体（町会・自治会配布、新聞折り込み、区施設や地下鉄駅などでの配布）」は全ての職業で9割以上と高くなっている。

ライフステージ別でみると、「紙媒体（町会・自治会配布、新聞折り込み、区施設や地下鉄駅などでの配布）」は全てのライフステージで9割台と高くなっている。（図表10-2-2）

図表10-2-2 広報紙の入手方法－性別・年齢別・職業別・ライフステージ別



(3) 広報紙を読まない理由

◇「広報紙の存在を知らないから」が5割近く

(問26で、「4 読んだことがない」とお答えの方に)

問26-2 読んだことがない理由は何ですか。(○はいくつでも)

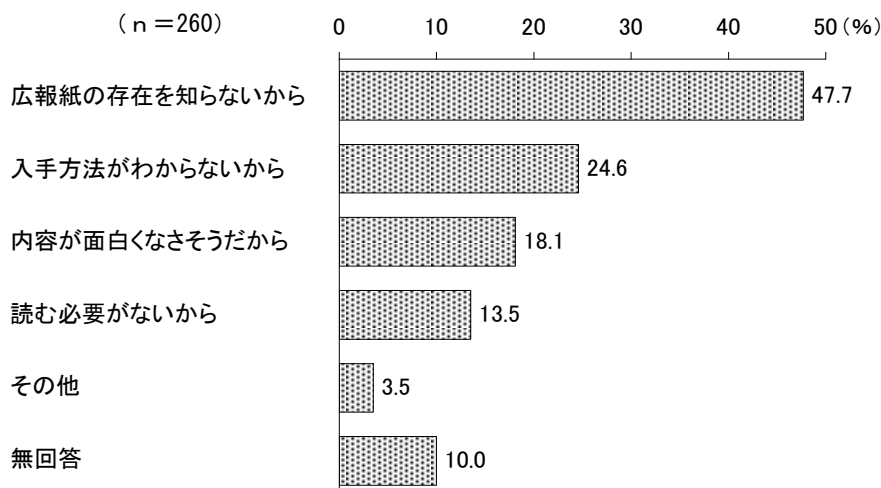
n = 260

1 広報紙の存在を知らないから	47.7%
2 入手方法がわからないから	24.6
3 読む必要がないから	13.5
4 内容が面白くなさそうだから	18.1
5 その他	3.5
(無回答)	10.0

問26で、広報紙を「読んだことがない」と回答した方の、その理由は、「広報紙の存在を知らないから」(47.7%)が5割近くで最も高くなっている。次いで、「入手方法がわからないから」(24.6%)、「内容が面白くなさそうだから」(18.1%)、「読む必要がないから」(13.5%)などとなっている。

(図表10-3-1)

図表10-3-1 広報紙を読まない理由(複数回答)



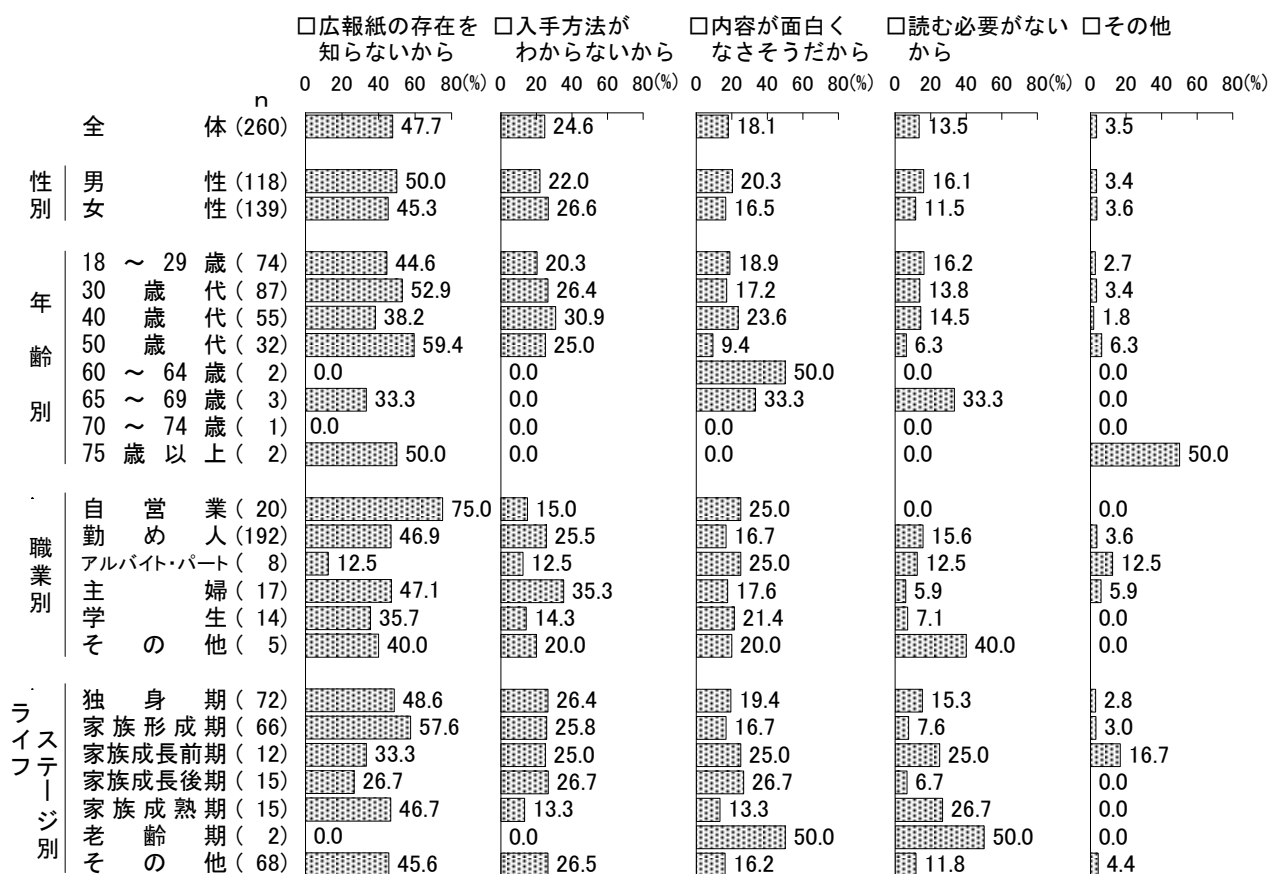
性別でみると、男性の方が女性よりも「広報紙の存在を知らないから」で4.7ポイント、「読む必要がないから」で4.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「入手方法がわからないから」で4.6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「広報紙の存在を知らないから」は50歳代で約6割と高くなっている。「入手方法がわからないから」は40歳代で約3割と高くなっている。

職業別でみると、「広報紙の存在を知らないから」は自営業で7割台半ばと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「広報紙の存在を知らないから」は家族形成期で6割近くと高くなっている。(図表10-3-2)

図表10-3-2 広報紙を読まない理由—性別・年齢別・職業別・ライフステージ別



(4) 区政情報を得る手段

◇「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』（紙版、電子版いずれも含まます）」が6割近く

問27 あなたは、区のサービスやイベントなどの区政情報をどのように入手していますか。

(○はいくつでも)

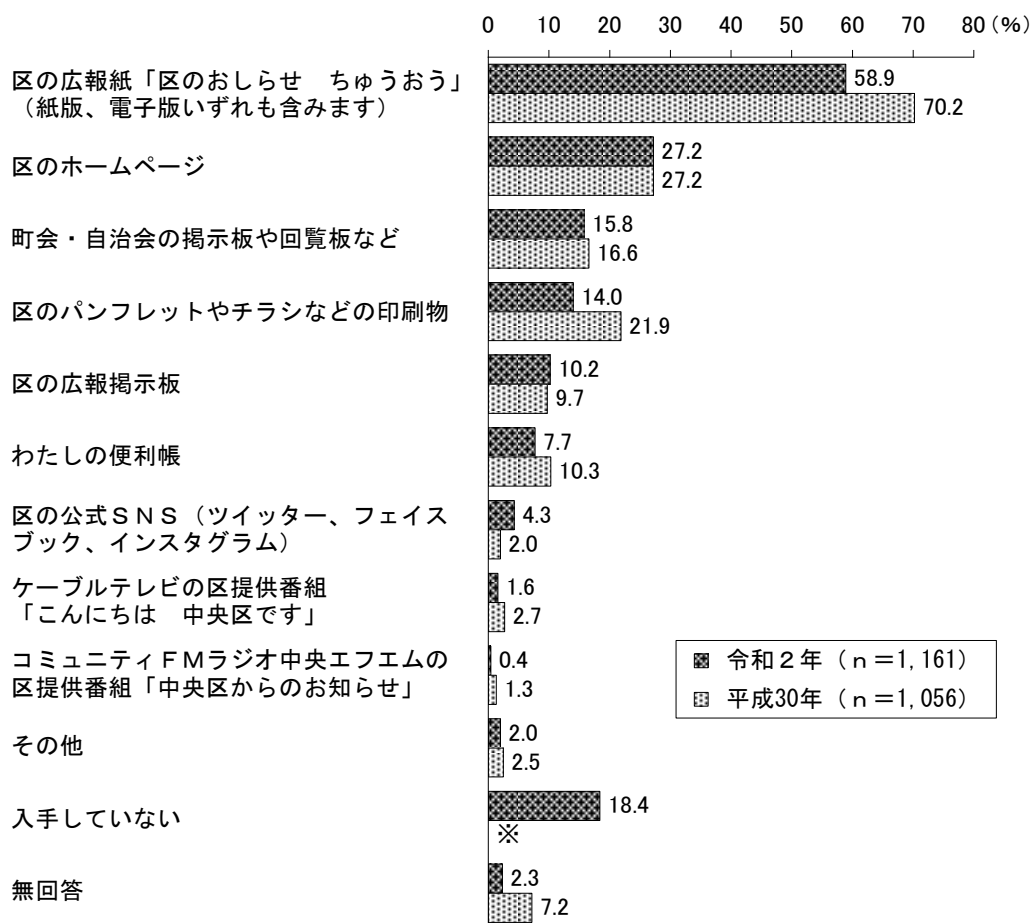
n = 1, 161

1	区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」（紙版、電子版いずれも含まます）	58.9%
2	わたしの便利帳	7.7
3	区のパンフレットやチラシなどの印刷物	14.0
4	区のホームページ	27.2
5	区の広報掲示板	10.2
6	町会・自治会の掲示板や回覧板など	15.8
7	ケーブルテレビの区提供番組「こんにちは 中央区です」	1.6
8	コミュニティFMラジオ中央エフエムの区提供番組「中央区からのお知らせ」	0.4
9	区の公式SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム）	4.3
10	その他	2.0
11	入手していない (無回答)	18.4 2.3

区政情報を得る手段は、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』（紙版、電子版いずれも含まます）」(58.9%)が6割近くで最も高くなっている。次いで、「区のホームページ」(27.2%)、「町会・自治会の掲示板や回覧板など」(15.8%)、「区のパンフレットやチラシなどの印刷物」(14.0%)、「区の広報掲示板」(10.2%)などとなっている。一方、「入手していない」(18.4%)は2割近くとなっている。

平成30年の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「区のパンフレットやチラシなどの印刷物」は7.9ポイント減少している。(図表10-4-1)

図表10-4-1 区政情報を得る手段(複数回答)



* ※印は、平成30年の調査では聞かれていない選択肢。

* 「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』(紙版、電子版いずれも含まず)」の選択肢は、平成30年では「区の広報紙『区のおしらせ 中央』」としていた。

過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』」と「町会・自治会の掲示板や回覧板など」、「わたしの便利帳」はそれぞれ減少傾向にある。(図表10-4-2)

図表10-4-2 区政情報を得る手段一過年度比較

調査年	n	(%)												
		区(紙版、電子版いずれも含まず)のおしらせ ちゅうおう	区のホームページ	町会・自治会の掲示板や回覧板など	区のパンフレットやチラシなどの印刷物	区の広報掲示板	わたしの便利帳	区の公式SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム)	ケーブ「こんてにはの提供番組」	区提供番組「M中央区からのお知らせ」	その他	入手していない	無回答	スマイ広報紙、用アプリ「中央区版」
令和2年	1,161	58.9	27.2	15.8	14.0	10.2	7.7	4.3	1.6	0.4	2.0	18.4	2.3	※
平成30年	1,056	70.2	27.2	16.6	21.9	9.7	10.3	2.0	2.7	1.3	2.5	※	7.2	1.9
平成28年	1,036	72.3	25.4	18.1	20.1	10.2	12.8	1.9	1.9	1.1	1.4	※	7.2	※
平成26年	1,041	75.0	28.0	19.1	20.2	10.3	18.7	※	4.1	1.2	1.5	※	5.8	※
平成24年	1,123	77.5	22.8	※	23.2	24.5	※	※	4.7	2.3	3.5	※	3.1	※

- * 太枠内が今回の調査の選択肢。
- * ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。
- * 「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』(紙版、電子版いずれも含まず)」の選択肢は、平成30年以前では「区の広報紙『区のおしらせ 中央』」としていた。
- * 「区の公式SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム)」の選択肢は、平成28年調査で追加した選択肢であり、平成28年では「区のツイッターやフェイスブック」としていた。

性別でみると、女性の方が男性よりも「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』」で8.4ポイント、「町会・自治会の掲示板や回覧板など」で5.9ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「区のホームページ」で3.6ポイント高くなっている。

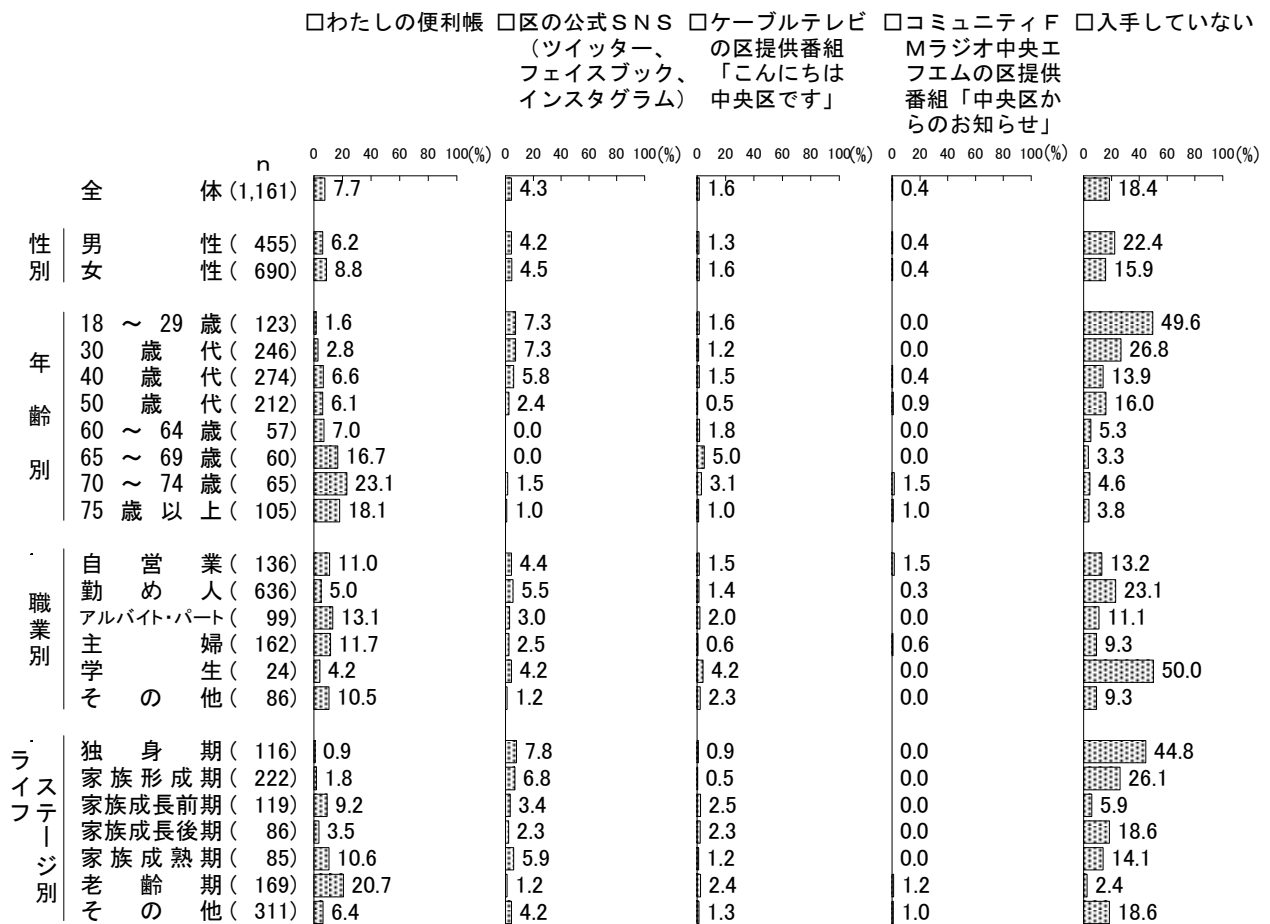
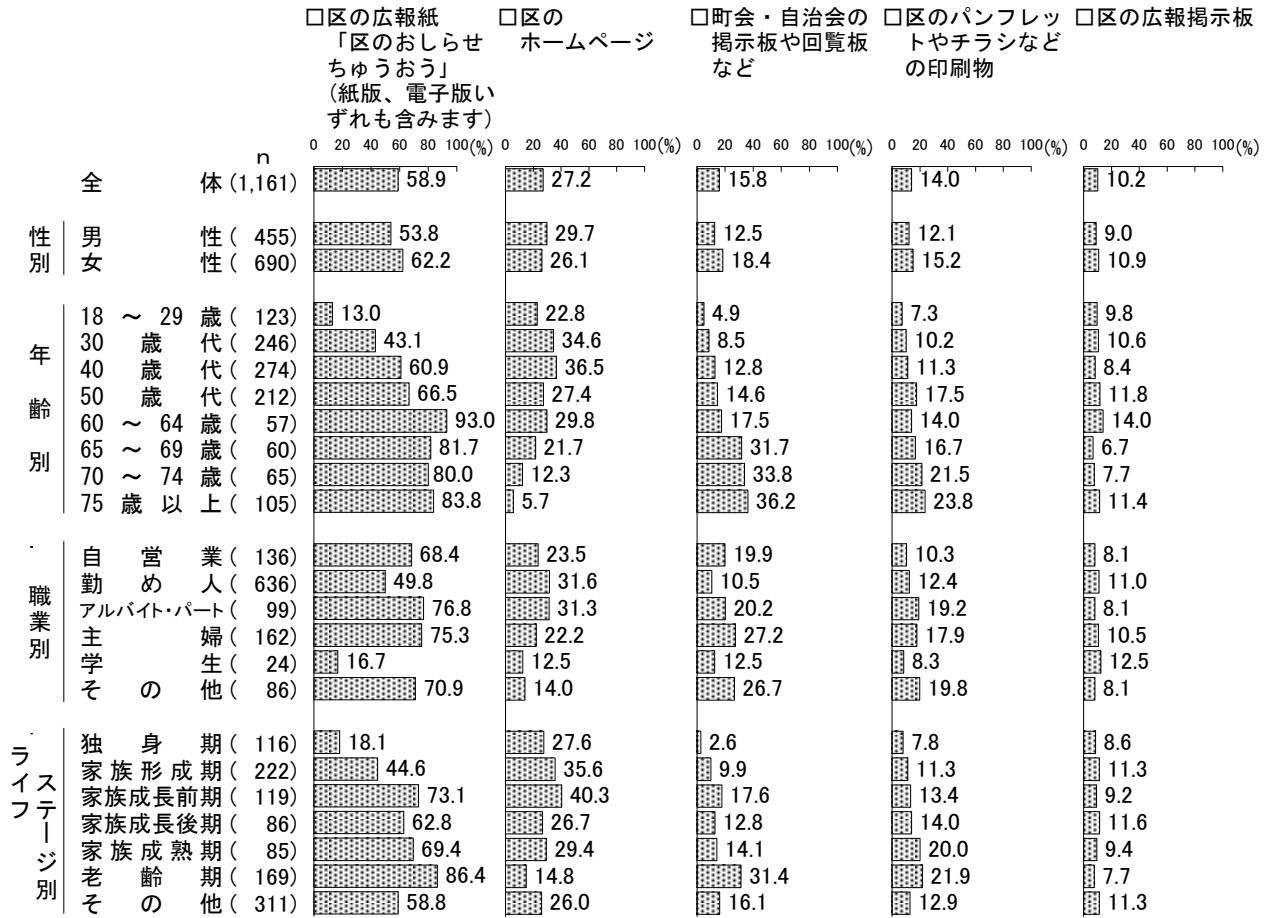
年齢別でみると、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』」は60～64歳で9割を超えて高くなっている。「町会・自治会の掲示板や回覧板など」は高い年代ほど割合が高くなっており、75歳以上で3割台半ばと高くなっている。

職業別でみると、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』」はアルバイト・パートタイマーで8割近く、主婦で7割台半ばと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』」は高齢期で8割台半ばと高くなっている。「区のホームページ」は家族成長前期で4割と高くなっている。

(図表10-4-3)

図表10-4-3 区政情報を得る手段—性別・年齢別・職業別・ライフステージ別（上位10項目）



【11 施策の要望・評価】

(1) 区の施策の満足度と重要度

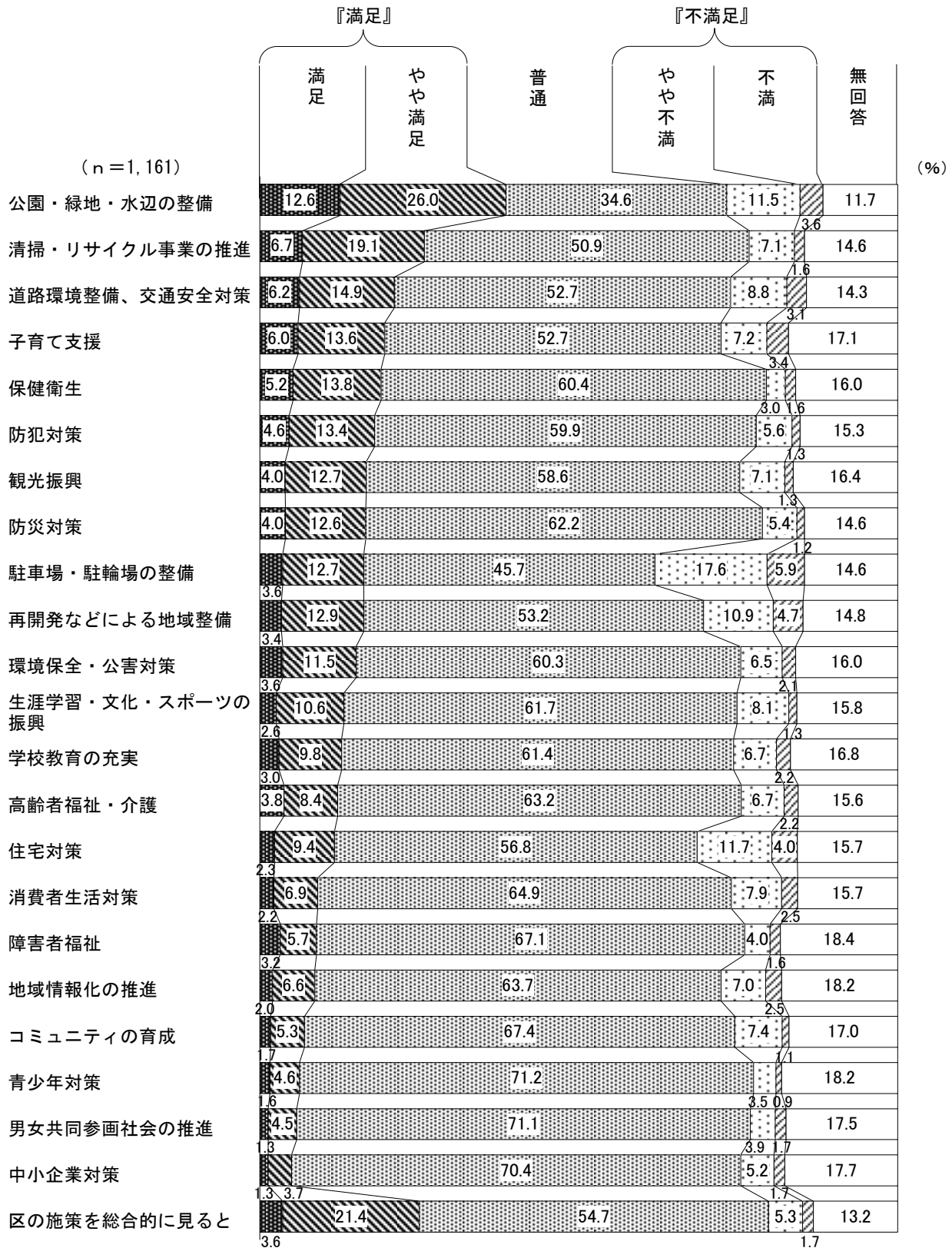
◇満足度が高いのは「公園・緑地・水辺の整備」、低いのは「駐車場・駐輪場の整備」

◇重要度が高いのは「子育て支援」、低いのは「男女共同参画社会の推進」

	満足度					無回答	重要度 (%)			
	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満		1 たいへん重要	2 比較的 重要	3 普通	無 回答
問28 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)										
n = 1, 161										
(1) 子育て支援	6.0	13.6	52.7	7.2	3.4	17.1	48.8	14.7	12.8	23.7
(2) 障害者福祉	3.2	5.7	67.1	4.0	1.6	18.4	28.4	26.9	20.4	24.3
(3) 高齢者福祉・介護	3.8	8.4	63.2	6.7	2.2	15.6	40.7	22.2	15.7	21.4
(4) 保健衛生	5.2	13.8	60.4	3.0	1.6	16.0	31.5	25.5	19.4	23.6
(5) 男女共同参画社会の推進	1.3	4.5	71.1	3.9	1.7	17.5	9.1	28.7	37.7	24.5
(6) 住宅対策	2.3	9.4	56.8	11.7	4.0	15.7	20.0	29.8	26.8	23.4
(7) 公園・緑地・水辺の整備	12.6	26.0	34.6	11.5	3.6	11.7	29.0	31.5	17.6	21.9
(8) 消費者生活対策	2.2	6.9	64.9	7.9	2.5	15.7	16.6	29.1	30.1	24.2
(9) 環境保全・公害対策	3.6	11.5	60.3	6.5	2.1	16.0	22.7	29.4	24.0	23.9
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	6.7	19.1	50.9	7.1	1.6	14.6	21.5	31.0	23.7	23.8
(11) 駐車場・駐輪場の整備	3.6	12.7	45.7	17.6	5.9	14.6	16.2	30.1	30.9	22.8
(12) 道路環境整備、交通安全対策	6.2	14.9	52.7	8.8	3.1	14.3	22.9	27.9	25.9	23.3
(13) 防災対策	4.0	12.6	62.2	5.4	1.2	14.6	41.9	20.9	14.7	22.5
(14) 防犯対策	4.6	13.4	59.9	5.6	1.3	15.3	35.8	25.3	16.4	22.5
(15) 再開発などによる地域整備	3.4	12.9	53.2	10.9	4.7	14.8	19.1	29.1	28.9	22.9
(16) 中小企業対策	1.3	3.7	70.4	5.2	1.7	17.7	11.9	26.0	37.0	25.2
(17) 学校教育の充実	3.0	9.8	61.4	6.7	2.2	16.8	31.4	21.6	22.4	24.6
(18) 青少年対策	1.6	4.6	71.2	3.5	0.9	18.2	17.5	26.6	30.7	25.2
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	2.6	10.6	61.7	8.1	1.3	15.8	13.8	30.7	31.5	23.9
(20) コミュニティの育成	1.7	5.3	67.4	7.4	1.1	17.0	10.3	27.9	37.5	24.3
(21) 観光振興	4.0	12.7	58.6	7.1	1.3	16.4	13.2	28.1	35.0	23.8
(22) 地域情報化の推進 (福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	2.0	6.6	63.7	7.0	2.5	18.2	13.5	29.7	31.4	25.3
(23) 区の施策を総合的に見ると	3.6	21.4	54.7	5.3	1.7	13.2				

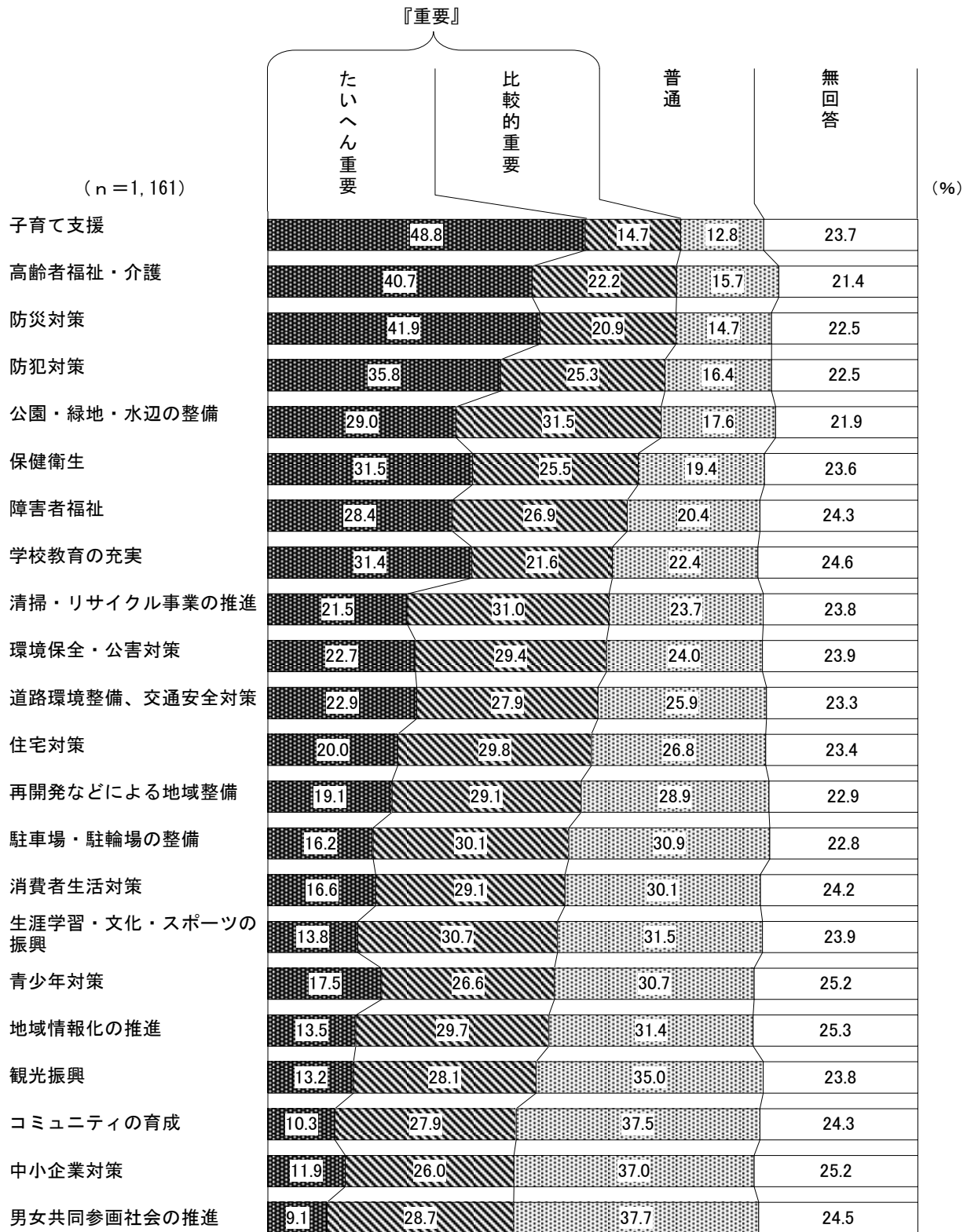
次のグラフは、「満足」と「やや満足」の合算で、高い順に並べたものである。「公園・緑地・水辺の整備」は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』(38.6%)が4割近くで最も高くなっている。一方、「駐車場・駐輪場の整備」は、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満足』(23.5%)が2割を超えて最も高くなっている。(図表11-1-1)

図表11-1-1 区の施策の満足度



次のグラフは、「たいへん重要」と「比較的重要」の合算で高い順に並べたものである。「子育て支援」は、「たいへん重要」と「比較的重要」を合わせた『重要』(63.5%)が6割を超えて最も高くなっている。一方、「男女共同参画社会の推進」は、「普通」(37.7%)が4割近くで最も高くなっている。(図表11-1-2)

図表11-1-2 区の施策の重要度



■満足度順位

「満足」と「やや満足」の合計を『満足』とし、「やや不満」と「不満」の合計を『不満足』とした場合の、それぞれの上位5項目は次のようになっている。

『満 足』		『不満足』	
①公園・緑地・水辺の整備	(38.6%)	①駐車場・駐輪場の整備	(23.5%)
②清掃・リサイクル事業の推進	(25.8%)	②住宅対策	(15.7%)
③道路環境整備、交通安全対策	(21.1%)	③再開発などによる地域整備	(15.6%)
④子育て支援	(19.6%)	④公園・緑地・水辺の整備	(15.1%)
⑤保健衛生	(19.0%)	⑤道路環境整備、交通安全対策	(11.9%)

■重要度順位

「たいへん重要」と「比較的重要」の合計を『重要』とした場合の、上位5項目と下位5項目は次のようになっている。

上 位		下 位	
①子育て支援	(63.5%)	①男女共同参画社会の推進	(37.8%)
②高齢者福祉・介護	(62.9%)	②中小企業対策	(37.9%)
③防災対策	(62.8%)	③コミュニティの育成	(38.2%)
④防犯対策	(61.1%)	④観光振興	(41.3%)
⑤公園・緑地・水辺の整備	(60.5%)	⑤地域情報化の推進	(43.2%)

満足度・重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

$$\text{満足度評価点} = (\text{「満足」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times -5 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -10 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数})$$

$$\text{重要度評価点} = (\text{「たいへん重要」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「比較的重要」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数})$$

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、+10.00点～-10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に-10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。一方、重要度は、+10.00点～0.00点の間に分布することになる。

以上の算出方法による評価点の上位5項目、下位5項目は次のようになっている。

【満足度】

上 位		下 位	
①公園・緑地・水辺の整備	(1.84)	①駐車場・駐輪場の整備	(-0.54)
②清掃・リサイクル事業の推進	(1.31)	②住宅対策	(-0.34)
③保健衛生	(1.06)	③中小企業対策	(-0.14)
④防犯対策	(0.84)	④消費者生活対策	(-0.10)
⑤防災対策	(0.74)	⑤地域情報化の推進	(-0.08)

【重要度】

上 位		下 位	
①子育て支援	(7.35)	①男女共同参画社会の推進	(3.11)
②防災対策	(6.75)	②コミュニティの育成	(3.21)
③高齢者福祉・介護	(6.59)	③中小企業対策	(3.33)
④防犯対策	(6.26)	④観光振興	(3.57)
⑤保健衛生	(5.79)	⑤地域情報化の推進	(3.80)

居住地域別に満足度をみると、京橋地域では、「公園・緑地・水辺の整備」(2.51)、「清掃・リサイクル事業の推進」(1.71)、「保健衛生」(1.48)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.84)、「住宅対策」(-0.19)が比較的低くなっている。

日本橋地域では、「清掃・リサイクル事業の推進」(1.27)、「公園・緑地・水辺の整備」(1.23)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.51)、「住宅対策」(-0.16)が比較的低くなっている。

月島地域では、「公園・緑地・水辺の整備」(1.94)、「清掃・リサイクル事業の推進」(1.16)が比較的高くなっている。また、「住宅対策」(-0.53)、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.43)、「消費者生活対策」(-0.34)が比較的低くなっている。

居住地域別に重要度をみると、「子育て支援」は全ての地域で第1位となっている。「防災対策」は京橋地域と月島地域で第2位、日本橋地域で第3位となっている。「高齢者福祉・介護」は日本橋地域で第2位、京橋地域と月島地域で第3位となっている。(図表11-1-3)

図表11-1-3 区の施策の満足度評価点と重要度評価点－居住地域別

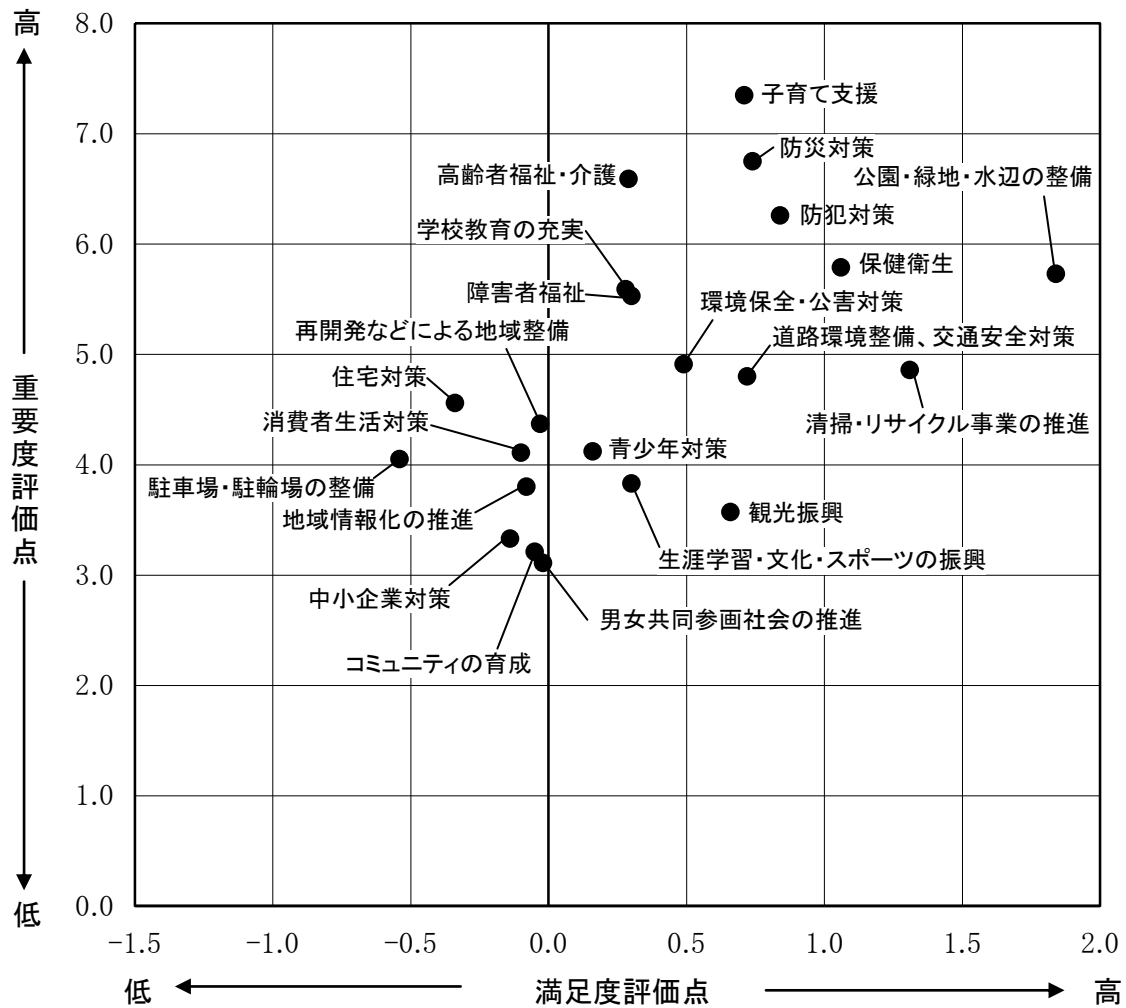
項目	満足度				重要度			
	全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域	全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域
(1) 子育て支援	0.71	1.03	0.38	0.78	7.35	7.14	7.60	7.28
(2) 障害者福祉	0.30	0.40	0.18	0.34	5.53	5.48	5.53	5.55
(3) 高齢者福祉・介護	0.29	0.62	0.26	0.15	6.59	6.32	6.65	6.67
(4) 保健衛生	1.06	1.48	1.08	0.86	5.79	5.53	6.07	5.72
(5) 男女共同参画社会の推進	-0.02	-0.07	-0.02	0.01	3.11	3.25	3.17	3.00
(6) 住宅対策	-0.34	-0.19	-0.16	-0.53	4.56	4.34	4.43	4.74
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1.84	2.51	1.23	1.94	5.73	5.72	5.84	5.67
(8) 消費者生活対策	-0.10	0.12	0.10	-0.34	4.11	4.12	4.04	4.16
(9) 環境保全・公害対策	0.49	0.79	0.58	0.28	4.91	4.92	4.72	5.04
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1.31	1.71	1.27	1.16	4.86	5.11	4.73	4.83
(11) 駐車場・駐輪場の整備	-0.54	-0.84	-0.51	-0.43	4.05	4.27	4.02	3.96
(12) 道路環境整備、交通安全対策	0.72	1.00	0.70	0.60	4.80	4.95	4.61	4.87
(13) 防災対策	0.74	1.06	0.77	0.58	6.75	6.80	6.44	6.94
(14) 防犯対策	0.84	0.96	0.96	0.71	6.26	5.97	6.26	6.38
(15) 再開発などによる地域整備	-0.03	0.14	0.16	-0.23	4.37	4.53	3.78	4.69
(16) 中小企業対策	-0.14	-0.05	-0.11	-0.20	3.33	3.37	3.47	3.21
(17) 学校教育の充実	0.28	0.73	0.20	0.13	5.59	5.43	5.64	5.63
(18) 青少年対策	0.16	0.34	0.21	0.03	4.12	4.13	3.99	4.20
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	0.30	0.24	0.81	-0.01	3.83	3.56	3.95	3.88
(20) コミュニティの育成	-0.05	-0.15	0.21	-0.19	3.21	2.96	3.27	3.28
(21) 観光振興	0.66	0.70	1.04	0.39	3.57	3.52	3.83	3.42
(22) 地域情報化の推進	-0.08	0.02	0.05	-0.22	3.80	3.83	3.69	3.86

次の図表は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。

右に位置するほど満足度が高く、上に位置するほど重要度が高いといえる。満足度評価点が低く、重要度評価点が高い領域（左上方）にある項目が、住民ニーズの高いものと考えられる。

(図表11-1-4)

図表11-1-4 区の施策の満足度評価点と重要度評価点の相関



(2) 区の施策への要望

◇「子育て支援」が3割台半ば

問29 問28の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1～22までの番号)

	(%)			
	第1位	第2位	第3位	全体
n = 1, 161				
(1) 子育て支援	21.4	8.2	4.7	34.4
(2) 障害者福祉	2.0	3.3	1.6	6.9
(3) 高齢者福祉・介護	14.9	7.2	8.2	30.3
(4) 保健衛生	2.1	4.8	4.0	10.9
(5) 男女共同参画社会の推進	1.4	0.5	0.9	2.8
(6) 住宅対策	3.2	3.4	3.1	9.7
(7) 公園・緑地・水辺の整備	4.9	8.7	8.5	22.1
(8) 消費者生活対策	2.2	3.4	2.6	8.2
(9) 環境保全・公害対策	1.4	3.0	2.1	6.5
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1.1	2.3	2.4	5.9
(11) 駐車場・駐輪場の整備	2.3	3.5	3.1	9.0
(12) 道路環境整備、交通安全対策	2.1	3.1	3.5	8.7
(13) 防災対策	8.7	9.6	8.2	26.4
(14) 防犯対策	4.1	6.0	7.7	17.8
(15) 再開発などによる地域整備	3.3	2.6	4.7	10.5
(16) 中小企業対策	1.4	1.2	1.3	3.9
(17) 学校教育の充実	5.0	5.7	4.4	15.1
(18) 青少年対策	0.2	1.0	0.9	2.2
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1.7	2.4	4.0	8.2
(20) コミュニティの育成	0.1	1.0	1.1	2.2
(21) 観光振興	0.8	1.7	2.6	5.1
(22) 地域情報化の推進 (福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス 情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1.5	0.8	2.1	4.3
(無回答)	14.4	16.4	18.3	14.4

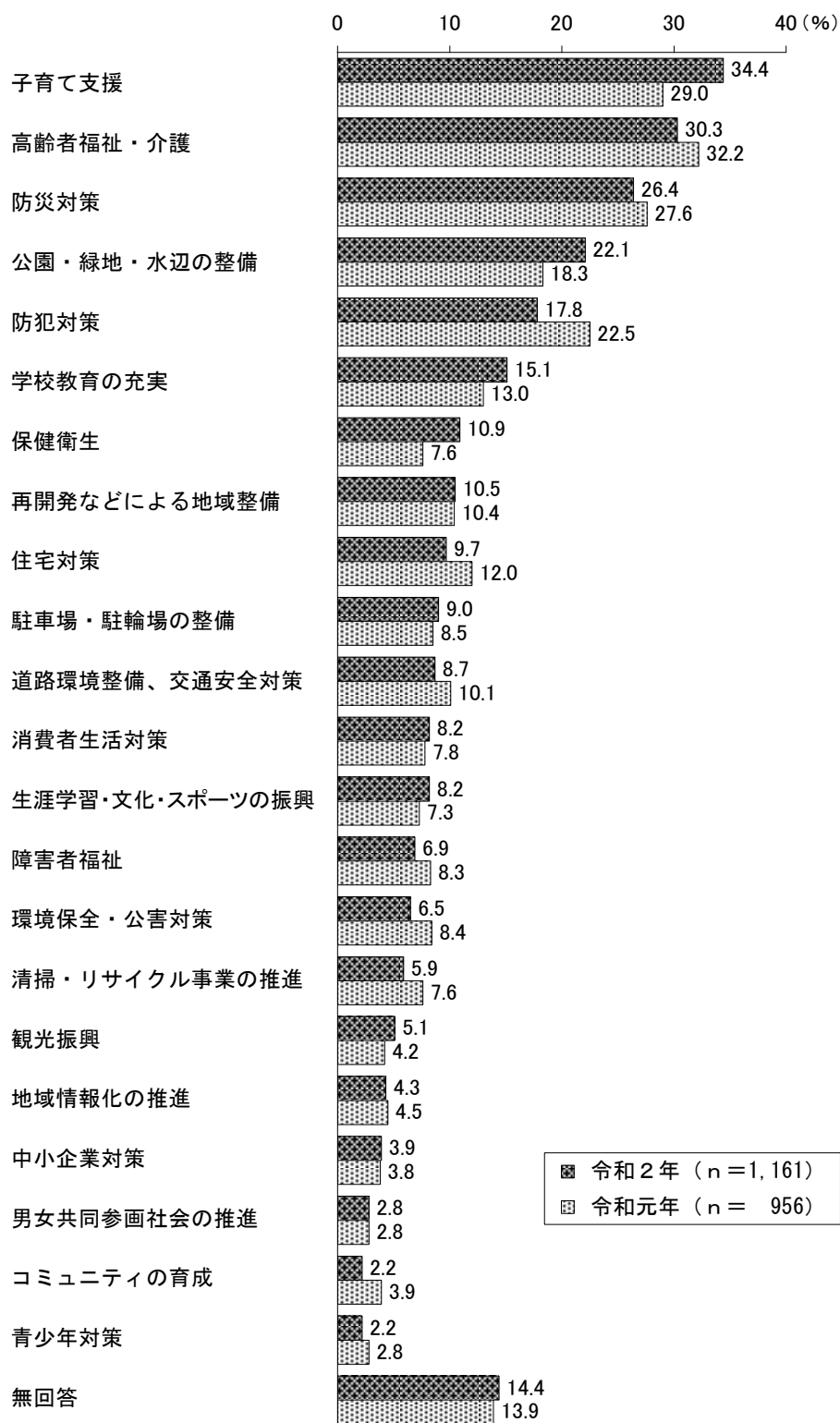
* 全体の無回答の割合は、第1位の割合とした。

区の施策への要望としては、「子育て支援」(34.4%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「高齢者福祉・介護」(30.3%)、「防災対策」(26.4%)、「公園・緑地・水辺の整備」(22.1%)、「防犯対策」(17.8%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「子育て支援」は5.4ポイント、「公園・緑地・水辺の整備」は3.8ポイント、それぞれ増加している。一方、「防犯対策」は4.7ポイント減少している。

(図表11-2-1)

図表11-2-1 区の施策への要望（複数回答）



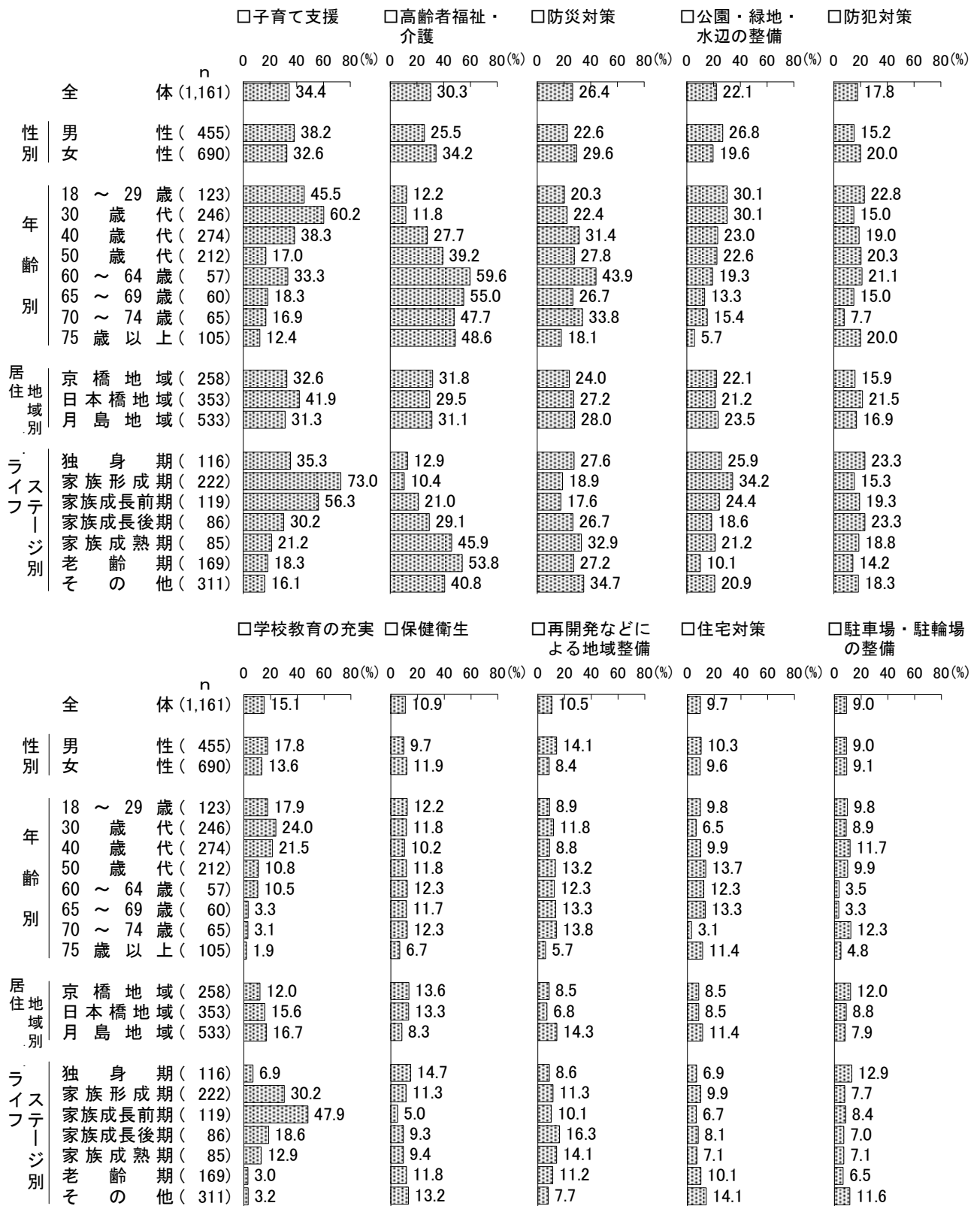
性別でみると、女性の方が男性よりも「高齢者福祉・介護」で8.7ポイント、「防災対策」で7.0ポイント、「防犯対策」で4.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「公園・緑地・水辺の整備」で7.2ポイント、「再開発などによる地域整備」で5.7ポイント、「子育て支援」で5.6ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「子育て支援」は30歳代で6割と高くなっている。「高齢者福祉・介護」は60～64歳で6割と高くなっている。「防災対策」は60～64歳で4割を超えて高くなっている。

居住地域別でみると、「子育て支援」は日本橋地域で4割を超えて高くなっている。「防犯対策」は日本橋地域で2割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「子育て支援」は家族形成期で7割を超え、家族成長前期で5割台半ばと高くなっている。「高齢者福祉・介護」は老齢期で5割を超えて高くなっている。「学校教育の充実」は家族成長前期で5割近くと高くなっている。(図表11-2-2)

図表11-2-2 区の施策への要望－性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別（上位10項目）



上位5項目にあげられた施策を性別でみると、「子育て支援」は男性で第1位となっており、「高齢者福祉・介護」は女性で第1位となっている。

年齢別でみると、「子育て支援」は40歳代以下の年代で第1位となっており、「高齢者福祉・介護」は50歳代以上の年代で第1位となっている。

居住地域別でみると、全ての地域で「子育て支援」が第1位、「高齢者福祉・介護」が第2位、「防災対策」が第3位となっている。

ライフステージ別でみると、「子育て支援」は独身期と家族形成期、家族成長前期、家族成長後期で第1位となっている。「高齢者福祉・介護」は家族成熟期と老齢期、その他で第1位となっている。(図表11-2-3)

図表11-2-3 区の施策への要望—性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別(上位5項目)

(%)

属性		順位	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体			1,161	子育て支援 34.4	高齢者福祉・介護 30.3	防災対策 26.4	公園・緑地・水辺の整備 22.1	防犯対策 17.8
性 別	男 性		455	子育て支援 38.2	公園・緑地・水辺の整備 26.8	高齢者福祉・介護 25.5	防災対策 22.6	学校教育の充実 17.8
	女 性		690	高齢者福祉・介護 34.2	子育て支援 32.6	防災対策 29.6	防犯対策 20.0	公園・緑地・水辺の整備 19.6
年 齢 別	18~29歳		123	子育て支援 45.5	公園・緑地・水辺の整備 30.1	防犯対策 22.8	防災対策 20.3	学校教育の充実 17.9
	30歳代		246	子育て支援 60.2	公園・緑地・水辺の整備 30.1	学校教育の充実 24.0	防災対策 22.4	防犯対策 15.0
	40歳代		274	子育て支援 38.3	防災対策 31.4	高齢者福祉・介護 27.7	公園・緑地・水辺の整備 23.0	学校教育の充実 21.5
	50歳代		212	高齢者福祉・介護 39.2	防災対策 27.8	公園・緑地・水辺の整備 22.6	防犯対策 20.3	子育て支援 17.0
	60~64歳		57	高齢者福祉・介護 59.6	防災対策 43.9	子育て支援 33.3	防犯対策 21.1	公園・緑地・水辺の整備 19.3
	65~69歳		60	高齢者福祉・介護 55.0	防災対策 26.7	子育て支援 18.3	消費者生活対策/防犯対策 15.0	
	70~74歳		65	高齢者福祉・介護 47.7	防災対策 33.8	子育て支援 16.9	公園・緑地・水辺の整備/ 消費者生活対策 15.4	
	75歳以上		105	高齢者福祉・介護 48.6	防犯対策 20.0	防災対策 18.1	子育て支援 12.4	障害者福祉/ 住宅対策 11.4
居 住 地 域 別	京橋地域		258	子育て支援 32.6	高齢者福祉・介護 31.8	防災対策 24.0	公園・緑地・水辺の整備 22.1	防犯対策 15.9
	日本橋地域		353	子育て支援 41.9	高齢者福祉・介護 29.5	防災対策 27.2	防犯対策 21.5	公園・緑地・水辺の整備 21.2
	月島地域		533	子育て支援 31.3	高齢者福祉・介護 31.1	防災対策 28.0	公園・緑地・水辺の整備 23.5	防犯対策 16.9
ラ イ フ ス テ ー ジ 別	独 身 期		116	子育て支援 35.3	防災対策 27.6	公園・緑地・水辺の整備 25.9	防犯対策 23.3	保健衛生 14.7
	家族形成期		222	子育て支援 73.0	公園・緑地・水辺の整備 34.2	学校教育の充実 30.2	防災対策 18.9	防犯対策 15.3
	家族成長前期		119	子育て支援 56.3	学校教育の充実 47.9	公園・緑地・水辺の整備 24.4	高齢者福祉・介護 21.0	防犯対策 19.3
	家族成長後期		86	子育て支援 30.2	高齢者福祉・介護 29.1	防災対策 26.7	防犯対策 23.3	公園・緑地・水辺の整備/ 学校教育の充実 18.6
	家族成熟期		85	高齢者福祉・介護 45.9	防災対策 32.9	子育て支援/公園・緑地・水辺の整備 21.2		防犯対策 18.8
	老 齢 期		169	高齢者福祉・介護 53.8	防災対策 27.2	子育て支援 18.3	防犯対策 14.2	消費者生活対策 12.4
	そ の 他		311	高齢者福祉・介護 40.8	防災対策 34.7	公園・緑地・水辺の整備 20.9	防犯対策 18.3	子育て支援 16.1

V 結果の数表

V 結果の数表

1 定住性

上段：件数
下段：%

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。（〇は1つ）

全 体	3 年 未 満	3 ～ 6 年 未 満	6 ～ 1 0 年 未 満	1 0 ～ 1 5 年 未 満	1 5 ～ 2 0 年 未 満	2 0 年 以 上	生 ま れ て か ら ず つ と	無 回 答	『 短 期 居 住 者 』	『 中 期 居 住 者 』	『 長 期 居 住 者 』
1,161 100.0	213 18.3	189 16.3	147 12.7	161 13.9	126 10.9	235 20.2	80 6.9	10 0.9	402 34.6	434 37.4	315 27.1

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。（〇は1つ）

全 体	非 常 に 感 じ る	少 し は 感 じ る	あ ま り 感 じ な い	感 じ な い	わ か ら な い	無 回 答
1,161 100.0	460 39.6	493 42.5	118 10.2	35 3.0	44 3.8	11 0.9

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。（〇は1つ）

全 体	住 み 続 け た い	で き れ ば 住 み 続 け た い	で き れ ば 転 出 し た い	転 出 し た い	わ か ら な い	無 回 答
1,161 100.0	555 47.8	398 34.3	27 2.3	14 1.2	157 13.5	10 0.9

2 防災対策

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。（〇はいくつでも）

全 体	食 料 の 備 蓄 （ 1 人 1 日 3 食 分 ）	飲 料 水 の 備 蓄 （ 1 人 1 日 3 0 分 ）	簡 易 ト イ レ の 備 蓄	家 具 類 の 転 倒 防 止	消 火 器 ・ 救 急 セ ツ ト な ど の 備 え	バ ー ル や ハ ン マ ー な ど の 救 助 用 工 具 の 備 え	貴 重 品 を 持 ち 出 す 準 備	風 呂 な ど へ の 水 の た め 置 き	救 命 救 助 の 講 習 会 へ の 参 加	町 会 ・ 自 治 会 な ど の 地 域 の 防 災 訓 練 へ の 参 加	避 難 方 法 、 避 難 場 所 の 確 認	家 庭 で の 連 絡 方 法 な ど の 話 し 合 い	建 物 の 補 強	そ の 他	特 に な い	無 回 答
1,161 100.0	756 65.1	802 69.1	466 40.1	383 33.0	527 45.4	135 11.6	234 20.2	204 17.6	108 9.3	158 13.6	399 34.4	321 27.6	49 4.2	24 2.1	137 11.8	15 1.3

(問4で、「1 食料の備蓄」「2 飲料水の備蓄」「3 簡易トイレの備蓄」とお答えの方に)
 問4-1 災害に対する備蓄量

上段：件数
 下段：%

	全 体	1 日 分 以下	2 日 分	3 日 分	4 ～ 6 日 分	1 週 間 分 以上	無 回 答	平均 備 蓄 (日 数)	最 小 備 蓄 (日 数)	最 大 備 蓄 (日 数)
食料の備蓄	756 100.0	96 12.7	161 21.3	290 38.4	89 11.8	99 13.1	21 2.8	3.57	0.3	30
飲料水の備蓄	802 100.0	98 12.2	141 17.6	239 29.8	128 16.0	163 20.3	33 4.1	4.34	0.5	30
簡易トイレの備蓄	466 100.0	75 16.1	76 16.3	115 24.7	56 12.0	105 22.5	39 8.4	5.10	0.5	100

問5 大地震が発生した場合、家具の転倒やガラスの飛散により大けがをすることがあります。
 あなたのご自宅では、どのような備えを行っていますか。(〇はいくつでも)

全 体	た ん す い 、 よ う 書 棚 な ど が 倒 れ て い る	テ レ ビ 、 パ ソ コ ン な ど が 落 ち て い る	窓 や 食 器 棚 な ど の ガ ラ ス が 飛 散 し て い る	食 器 棚 な ど に 止 め 金 具 を 付 け て い る	家 具 の 配 置 を 工 夫 し て い る	家 具 類 が な い た め に 固 定 し て い る	特 に 何 も し て い な い	無 回 答
1,161 100.0	326 28.1	237 20.4	57 4.9	192 16.5	362 31.2	46 4.0	428 36.9	22 1.9

問6 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。
 あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(〇は1つ)

全 体	知 っ て い る	知 っ て い る が 、 場 所 は わ か ら な い	知 ら な い	無 回 答
1,161 100.0	704 60.6	124 10.7	309 26.6	24 2.1

(問6で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)

問6-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(〇は1つ)

全 体	知 っ て い る	知 っ て い る が 、 内 容 は わ か ら な い	知 ら な い	無 回 答
828 100.0	173 20.9	297 35.9	340 41.1	18 2.2

問7 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。
(○はいくつでも)

上段：件数
下段：%

全体	水・食料	トイレ	プライバシー	家族・友人・知人などの安否	災害状況・対策などの情報	携帯電話などの充電設備	医療・医薬品	高齢者介護や乳幼児保育	スペースの確保	暑さ寒さ対策	ペットの世話	その他	特にない	わからない	無回答
1,161 100.0	708 61.0	820 70.6	614 52.9	588 50.6	370 31.9	565 48.7	464 40.0	222 19.1	563 48.5	593 51.1	137 11.8	79 6.8	12 1.0	7 0.6	19 1.6

問8 大地震などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力したいと思う活動には何がありますか。(○はいくつでも)

全体	負傷者の応急手当	倒壊家屋などからの救出・救助	初期の消火活動	避難所での被災者の世話	救援物資の仕分けなどの防災活動への協力	外国語通訳・専門的技術の活用	度判した活動	インターネットによる情報収集	その他の支援活動	協力したくない	わからない	無回答
1,161 100.0	333 28.7	235 20.2	286 24.6	370 31.9	613 52.8	131 11.3	315 27.1	43 3.7	22 1.9	165 14.2	32 2.8	

問9 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(○はいくつでも)

全体	区のホームページ	防災マップアプリ	ちゅうおう安全・安心メール	インターネット	ツイッターやフェイスブックなど	防災行政無線(屋外スピーカー)	緊急告知ラジオ	ケーブルテレビ	その他	無回答
1,161 100.0	416 35.8	287 24.7	255 22.0	653 56.2	472 40.7	383 33.0	378 32.6	45 3.9	15 1.3	29 2.5

上段：件数
下段：%

問10 区では、災害時に被災した区民が犬や猫のペットと一緒に避難所（防災拠点）に避難できる「ペット同行避難」の取り組みを進めています。あなたのご自宅ではペットを飼っていますか。（〇はいくつでも）

全 体	犬を飼っている	猫を飼っている	犬、猫以外を飼っている	飼っていない	無回答
1,161 100.0	81 7.0	56 4.8	38 3.3	976 84.1	24 2.1

（問10で、「1 犬を飼っている」または「2 猫を飼っている」とお答えの方に）

問10-1 ペットの飼育数

	全 体	1 匹	2 匹	3 匹	4 匹	5 匹以上	無 回 答	平均飼育数 (匹)	最小飼育数 (匹)	最大飼育数 (匹)
犬	81 100.0	67 82.7	13 16.0	1 1.2	- -	- -	- -	1.19	1	3
猫	56 100.0	33 58.9	13 23.2	5 8.9	3 5.4	1 1.8	1 1.8	1.65	1	5

3 健康診査

問11 あなたが加入している健康保険は次のどれですか。（〇は1つ）

全 体	中央区国民健康保険	国民健康保険組合（自営業者などに入する健康保険）	健康保険組合	協会けんぽ（全国健康保険協会）	共済組合	後期高齢者医療制度	その他	無回答
1,161 100.0	123 10.6	124 10.7	563 48.5	141 12.1	65 5.6	108 9.3	24 2.1	13 1.1

問12 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。（〇はいくつでも）

全 体	区で実施している健康診査を受けた	勤務先（含む）で実施した健康診査を受けた	加入している健康保険組合などで実施した健康診査を受けた	個人で人間ドックなどを受けた	学校で実施する健康診査を受けた	その他で受けた	健康診査は受けていない	無回答
1,161 100.0	221 19.0	522 45.0	118 10.2	84 7.2	13 1.1	41 3.5	247 21.3	10 0.9

上段：件数
下段：%

(問12で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に)
問12-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

全 体	勤務先(家族の勤務先を含む)などでの実施	受診方法がわからない	必要がない	時間がない	面倒である	健康に自信がある	病気で医者にかかって	検査がいや	病気と診断されるのが怖い	費用がかかる	その他	無回答
247 100.0	26 10.5	11 4.5	10 4.0	71 28.7	46 18.6	18 7.3	43 17.4	28 11.3	19 7.7	17 6.9	78 31.6	2 0.8

問13 あなたは、この1年間(婦人科は2年間)にがん検診を受けましたか。(〇はいくつでも)

全 体	区で実施しているがん検診	勤務先(家族の勤務先を含む)で実施したがん検診	加入している健康保険組などでの実施したがん検診	個人で人間ドックなどを受けた	学校で実施するがん検診	その他で受けた	がん検診は受けていない	無回答
1,161 100.0	289 24.9	187 16.1	72 6.2	92 7.9	- -	53 4.6	517 44.5	23 2.0

(問13で、「1」から「6」のがん検診を受けた」とお答えの方に)
問13-1 がん検診の内容は次のどれですか。(〇はいくつでも)

全 体	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん	前立腺がん	その他	無回答
621 100.0	307 49.4	173 27.9	251 40.4	333 53.6	299 48.1	62 10.0	15 2.4	17 2.7

(問13で、「7 がん検診は受けていない」とお答えの方に)
問13-2 あなたががん検診を受けなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

全 体	勤務先(家族の勤務先を含む)などでの実施していない	受診方法がわからない	必要がない	時間がない	面倒である	健康に自信がある	病気で医者にかかっている	検査がいや	病気と診断されるのが怖い	費用がかかる	その他	無回答
517 100.0	173 33.5	48 9.3	47 9.1	111 21.5	84 16.2	31 6.0	40 7.7	51 9.9	24 4.6	46 8.9	74 14.3	6 1.2

4 高齢者施策

問14 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。
(もっとも近い考え1つに○)

全 体	主に家族の介護を受けたいが、ら、自宅で暮らしたくない	主に介護サービスなどを利用	高齢者向け住宅に住み替えたい	特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	介護付き有料老人ホームに入りたい	その他	わからない	無回答
1,161 100.0	93 8.0	412 35.5	257 22.1	102 8.8	129 11.1	12 1.0	146 12.6	10 0.9

問15 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思えますか。(○はいくつでも)

全 体	健康づくり・介護予防の充実	就労・社会参加の促進	在宅サービス(医療・介護・福祉)の充実	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームの整備・誘致	高齢者向け住宅の整備・誘致	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	低所得者への経済的支援	特になし	無回答
1,161 100.0	411 35.4	329 28.3	601 51.8	421 36.3	459 39.5	537 46.3	270 23.3	49 4.2	13 1.1

5 子育て支援

問16 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(○は2つまで)

全 体	配偶者・パートナー	その他の親族	職場の人	隣近所の人、知人、友人	保育園・学校の保護者の仲間	保育園・認定こども園・幼稚園	子ども家庭支援センター、児童館、子育て支援施設	(健診センターの担当者、保健所、保)	その他	特に相談しない	子育てを経験していない	無回答
1,161 100.0	410 35.3	211 18.2	41 3.5	90 7.8	38 3.3	38 3.3	12 1.0	16 1.4	15 1.3	95 8.2	486 41.9	76 6.5

問17 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。
 (○は2つまで) また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んで
 ください。(○はいくつでも)

上段：件数
 下段：%

重要と考えるもの (○は2つまで)

全 体	保 育 園 ・ 認 定 こ ど も 園 ・ 地 域	保 育 の 施 設 整 備 ・ 幼 稚 園 な ど	一 時 預 かり 保 育 、 延 長 保 育 、 病 児 支 援 サ ー ビ ス な ど	子 育 て 仲 間 が 交 流 し 、 情 報 交 換 の 場	子 ど も の 健 や か な 成 長 の た め	放 課 後 な ど に お け る 児 童 の 遊 び や 生 活 の 場	情 報 の 提 供 や 相 談 サ ー ビ ス	公 園 の 整 備 な ど 、 子 ど も が 安 心 し て 育 て る こ と が で き る	母 親 と 乳 幼 児 な ど の 健 康 の 確 保 お よ び 増 進	職 業 の 支 援 と 家 庭 生 活 と の 両 立	児 童 虐 待 防 止 対 策	経 済 的 な 支 援	特 に な い	無 回 答
1,161 100.0	450 38.8	391 33.7	51 4.4	137 11.8	137 11.8	48 4.1	141 12.1	22 1.9	175 15.1	105 9.0	142 12.2	56 4.8	171 14.7	

さらに充実を図る必要があると考えるもの (○はいくつでも)

全 体	保 育 園 ・ 認 定 こ ど も 園 ・ 地 域	保 育 の 施 設 整 備 ・ 幼 稚 園 な ど	一 時 預 かり 保 育 、 延 長 保 育 、 病 児 支 援 サ ー ビ ス な ど	子 育 て 仲 間 が 交 流 し 、 情 報 交 換 の 場	子 ど も の 健 や か な 成 長 の た め	放 課 後 な ど に お け る 児 童 の 遊 び や 生 活 の 場	情 報 の 提 供 や 相 談 サ ー ビ ス	公 園 の 整 備 な ど 、 子 ど も が 安 心 し て 育 て る こ と が で き る	母 親 と 乳 幼 児 な ど の 健 康 の 確 保 お よ び 増 進	職 業 の 支 援 と 家 庭 生 活 と の 両 立	児 童 虐 待 防 止 対 策	経 済 的 な 支 援	特 に な い	無 回 答
1,161 100.0	339 29.2	393 33.9	122 10.5	272 23.4	329 28.3	150 12.9	336 28.9	133 11.5	320 27.6	246 21.2	238 20.5	60 5.2	273 23.5	

6 男女共同参画社会

問18 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	全 体	女 性 が 優 遇 さ れ て い る	ど ち ら が 優 遇 さ れ て い る 性	平 等 に な っ て い る	ど ち ら が 優 遇 さ れ て い る 性	男 性 が 優 遇 さ れ て い る	無 回 答
(1) 家庭では	1,161 100.0	42 3.6	93 8.0	563 48.5	282 24.3	92 7.9	89 7.7
(2) 職場では	1,161 100.0	18 1.6	87 7.5	397 34.2	380 32.7	161 13.9	118 10.2
(3) 学校教育の場では	1,161 100.0	6 0.5	28 2.4	741 63.8	164 14.1	51 4.4	171 14.7
(4) 政治の場では	1,161 100.0	4 0.3	19 1.6	128 11.0	427 36.8	488 42.0	95 8.2
(5) 法律や制度では	1,161 100.0	10 0.9	52 4.5	435 37.5	376 32.4	176 15.2	112 9.6
(6) 社会通念・慣習・しきたりでは	1,161 100.0	3 0.3	30 2.6	184 15.8	543 46.8	297 25.6	104 9.0
(7) 自治会やPTAなどの地域活動では	1,161 100.0	20 1.7	111 9.6	477 41.1	298 25.7	95 8.2	160 13.8
(8) 社会全体では	1,161 100.0	10 0.9	47 4.0	249 21.4	598 51.5	165 14.2	92 7.9

問19 あなた自身の「仕事」と「家庭生活」について、現状は次のどれにあてはまりますか。
(○は1つ)

上段：件数
下段：%

全 体	仕事を優先している	どちらかといえば仕事優先している	両立させている 仕事と家庭生活を同じように	どちらかといえば仕事よりも 家庭生活を優先している	現在仕事をしていない	その他	無回答
1,161 100.0	178 15.3	228 19.6	300 25.8	171 14.7	223 19.2	17 1.5	44 3.8

7 防犯対策

問20 あなたの住む地域で不安を感じる具体的犯罪は何ですか。(○は2つまで)

全 体	ひったくり	空き巣	強盗	すり・置き引き	自動車(自転車) 泥棒・	振り込め詐欺	傷害・暴行	放火	痴漢・強制わいせつ	少年犯罪	子どもの誘拐・連れ去り	暴力団員による犯罪	悪質な客引き	その他	特にない	無回答
1,161 100.0	83 7.1	206 17.7	101 8.7	43 3.7	107 9.2	230 19.8	68 5.9	45 3.9	167 14.4	28 2.4	128 11.0	8 0.7	15 1.3	46 4.0	375 32.3	26 2.2

問21 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。(○はいくつでも)

全 体	自主的な防犯パトロールなどの活動に 参加している	区の広報、ホームページ、安心メール など、防犯に関する情報の広報紙	何かあれば警察や区などの相談窓口に行 く	日ごろから近隣住民などと良好なコミュ ニケーションを保つようにしている	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カ メラ、センサーライトなどの防犯	警備会社などのセキュリティシステムを 利用している	エンタメなどの防犯設備が導入され トラブンスなどにオートロック機能や	その他	特に何もしていない	無回答
1,161 100.0	14 1.2	298 25.7	154 13.3	186 16.0	127 10.9	166 14.3	692 59.6	21 1.8	196 16.9	23 2.0

問22 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(〇は2つまで)

上段：件数
下段：%

全 体	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	住まの防犯設備整備費用の助成	自動通話録音機の無料貸出しなどの振り込み詐欺防止対策	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	防犯の配布や講座・講演会などの啓発活動に関するハンドブック	学校や児童館などの子どもの安全対策	通学路や公園などの安全対策	地域への防犯パトロール活動など	その他	特にない	無回答
1,161 100.0	256 22.0	177 15.2	92 7.9	533 45.9	13 1.1	252 21.7	263 22.7	146 12.6	25 2.2	116 10.0	30 2.6

8 スポーツ

問23 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。(〇はいくつでも)

全 体	水泳(水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む)	ピラティス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など	ジョギング、マラソン	ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩などを含む)	マシントレーニング(ランニング、ダンベル)	武道(柔道、剣道、空手など)	テニス、ソフトテニス	屋内球技(バレーボール、バドミントン、卓球など)	屋外の球技(野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど)	ゴルフ	ハイキング、キャンプ、登山など	スキー、スノーボード、スケートなど	海水浴(遊水)	フィン、ヨットなど シュノーケリング、ダイビング、サーフ
1,161 100.0	193 16.6	466 40.1	233 20.1	730 62.9	210 18.1	16 1.4	45 3.9	41 3.5	62 5.3	144 12.4	95 8.2	54 4.7	67 5.8	60 5.2
釣り	ボーリング	サイクリング	フットボール、ゴルフ、バレーボール、ペタンク、トランプ、ボードゴルフ	ダンス(フォークダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む)	その他	スポーツや運動はしなかった	無回答							
41 3.5	41 3.5	146 12.6	5 0.4	43 3.7	36 3.1	155 13.4	21 1.8							

上段：件数
下段：%

(問23で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

問23-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

全 体	週 に 3 日 以 上	週 に 1 〜 2 日 程 度	月 に 1 〜 3 日 程 度	3 カ 月 に 1 〜 2 日 程 度	年 に 1 〜 3 日 程 度	無 回 答
985 100.0	239 24.3	361 36.6	213 21.6	63 6.4	56 5.7	53 5.4

問24 あなたは、区民のスポーツへの参加の機会を増やすために、区は今後どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(○は3つまで)

全 体	ス ポ ー ツ 施 設 の 増 設 ・ 充 実	学 校 体 育 施 設 の 開 放 ・ 整 備	施 設 利 用 時 間 の 拡 大	ス ポ ー ツ 開 催 の 行 事 ・ 大 会 ・ 教 室 の 開 催	障 害 の 有 る 人 を 対 象 と し た ス ポ ー ツ 開 催	地 域 活 動 に 対 す る 支 援 の 設 立 や ス ポ ー ツ ク ラ ブ の 設 立 や	年 齢 に か か わ り な く 楽 し め る ス ポ ー ツ の 普 及	一 人 で も 参 加 で き る ス ポ ー ツ の 提 供	公 共 ス ポ ー ツ 施 設 で の 健 康 ・ 体 力 相 談 体 制 の 整 備	区 内 の ス ポ ー ツ に 関 す る 情 報 の 発 信	指 導 者 ・ ス ポ ー ツ 活 動 を 「 さ さ え 」 と し て の 人 材 の 育 成	ス ポ ー ツ 観 戦 の 機 会 の 提 供	推 進 の 機 会 の 提 供	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
1,161 100.0	582 50.1	181 15.6	230 19.8	119 10.2	27 2.3	88 7.6	194 16.7	349 30.1	57 4.9	84 7.2	47 4.0	141 12.1	47 4.0	153 13.2	44 3.8	

9 築地魚河岸

問25 「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(○は1つ)

全 体	よ く 行 っ て い る	行 っ た こ と が あ る	知 っ て い る が 、 行 っ て い な い	「 築 地 魚 河 岸 」 を 知 ら な い	無 回 答
1,161 100.0	122 10.5	504 43.4	357 30.7	163 14.0	15 1.3

(問25で、「1 よく行っている」または「2 行ったことがある」とお答えの方に)

問25-1 「築地魚河岸」に行った目的は何ですか。(○はいくつでも)

全 体	1 階 の 店 舗 で 買 い 物 を	魚 河 岸 食 堂 で 食 事 を	イ ベ ン ト に 参 加 す る	そ の 他	無 回 答
626 100.0	460 73.5	215 34.3	18 2.9	54 8.6	6 1.0

11 施策の要望・評価

上段：件数
下段：%

問28 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。満足度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

	全 体	満 足	や や 満 足	普 通	や や 不 満	不 満	無 回 答	評 価 点 (点 数)
(1) 子育て支援	1,161 100.0	70 6.0	158 13.6	612 52.7	84 7.2	39 3.4	198 17.1	0.71
(2) 障害者福祉	1,161 100.0	37 3.2	66 5.7	779 67.1	47 4.0	18 1.6	214 18.4	0.30
(3) 高齢者福祉・介護	1,161 100.0	44 3.8	98 8.4	734 63.2	78 6.7	26 2.2	181 15.6	0.29
(4) 保健衛生	1,161 100.0	60 5.2	160 13.8	701 60.4	35 3.0	19 1.6	186 16.0	1.06
(5) 男女共同参画社会の推進	1,161 100.0	15 1.3	52 4.5	826 71.1	45 3.9	20 1.7	203 17.5	-0.02
(6) 住宅対策	1,161 100.0	27 2.3	109 9.4	660 56.8	136 11.7	47 4.0	182 15.7	-0.34
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1,161 100.0	146 12.6	302 26.0	402 34.6	133 11.5	42 3.6	136 11.7	1.84
(8) 消費者生活対策	1,161 100.0	25 2.2	80 6.9	753 64.9	92 7.9	29 2.5	182 15.7	-0.10
(9) 環境保全・公害対策	1,161 100.0	42 3.6	134 11.5	700 60.3	75 6.5	24 2.1	186 16.0	0.49
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1,161 100.0	78 6.7	222 19.1	591 50.9	82 7.1	18 1.6	170 14.6	1.31
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1,161 100.0	42 3.6	148 12.7	530 45.7	204 17.6	68 5.9	169 14.6	-0.54
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1,161 100.0	72 6.2	173 14.9	612 52.7	102 8.8	36 3.1	166 14.3	0.72
(13) 防災対策	1,161 100.0	46 4.0	146 12.6	722 62.2	63 5.4	14 1.2	170 14.6	0.74
(14) 防犯対策	1,161 100.0	53 4.6	155 13.4	695 59.9	65 5.6	15 1.3	178 15.3	0.84
(15) 再開発などによる地域整備	1,161 100.0	40 3.4	150 12.9	618 53.2	126 10.9	55 4.7	172 14.8	-0.03
(16) 中小企業対策	1,161 100.0	15 1.3	43 3.7	817 70.4	60 5.2	20 1.7	206 17.7	-0.14
(17) 学校教育の充実	1,161 100.0	35 3.0	114 9.8	713 61.4	78 6.7	26 2.2	195 16.8	0.28
(18) 青少年対策	1,161 100.0	19 1.6	53 4.6	827 71.2	41 3.5	10 0.9	211 18.2	0.16
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1,161 100.0	30 2.6	123 10.6	716 61.7	94 8.1	15 1.3	183 15.8	0.30
(20) コミュニティの育成	1,161 100.0	20 1.7	62 5.3	783 67.4	86 7.4	13 1.1	197 17.0	-0.05
(21) 観光振興	1,161 100.0	47 4.0	147 12.7	680 58.6	82 7.1	15 1.3	190 16.4	0.66
(22) 地域情報化の推進(福祉・医療・生涯学習などさまざまな 区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1,161 100.0	23 2.0	77 6.6	740 63.7	81 7.0	29 2.5	211 18.2	-0.08
(23) 区の施策を総合的に見ると	1,161 100.0	42 3.6	249 21.4	635 54.7	62 5.3	20 1.7	153 13.2	1.15

満足度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

満足度評価点 = (「満足」の回答者数×10点 + 「やや満足」の回答者数×5点 + 「普通」の回答者数×0点
+ 「やや不満」の回答者数×-5点 + 「不満」の回答者数×-10点) ÷ (回答者数 - 無回答者数)

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、+10.00点～-10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、
+10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に-10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。

問28 あなたは、区の施策についてどの程度重視していますか。重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

上段：件数
下段：%

	全 体	た い へ ん 重 要	比 較 的 重 要	普 通	無 回 答	評 価 点 (点 数)
(1) 子育て支援	1,161 100.0	566 48.8	171 14.7	149 12.8	275 23.7	7.35
(2) 障害者福祉	1,161 100.0	330 28.4	312 26.9	237 20.4	282 24.3	5.53
(3) 高齢者福祉・介護	1,161 100.0	472 40.7	258 22.2	182 15.7	249 21.4	6.59
(4) 保健衛生	1,161 100.0	366 31.5	296 25.5	225 19.4	274 23.6	5.79
(5) 男女共同参画社会の推進	1,161 100.0	106 9.1	333 28.7	438 37.7	284 24.5	3.11
(6) 住宅対策	1,161 100.0	232 20.0	346 29.8	311 26.8	272 23.4	4.56
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1,161 100.0	337 29.0	366 31.5	204 17.6	254 21.9	5.73
(8) 消費者生活対策	1,161 100.0	193 16.6	338 29.1	349 30.1	281 24.2	4.11
(9) 環境保全・公害対策	1,161 100.0	263 22.7	341 29.4	279 24.0	278 23.9	4.91
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1,161 100.0	250 21.5	360 31.0	275 23.7	276 23.8	4.86
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1,161 100.0	188 16.2	349 30.1	359 30.9	265 22.8	4.05
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1,161 100.0	266 22.9	324 27.9	301 25.9	270 23.3	4.80
(13) 防災対策	1,161 100.0	486 41.9	243 20.9	171 14.7	261 22.5	6.75
(14) 防犯対策	1,161 100.0	416 35.8	294 25.3	190 16.4	261 22.5	6.26
(15) 再開発などによる地域整備	1,161 100.0	222 19.1	338 29.1	335 28.9	266 22.9	4.37
(16) 中小企業対策	1,161 100.0	138 11.9	302 26.0	429 37.0	292 25.2	3.33
(17) 学校教育の充実	1,161 100.0	364 31.4	251 21.6	260 22.4	286 24.6	5.59
(18) 青少年対策	1,161 100.0	203 17.5	309 26.6	356 30.7	293 25.2	4.12
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1,161 100.0	160 13.8	357 30.7	366 31.5	278 23.9	3.83
(20) コミュニティの育成	1,161 100.0	120 10.3	324 27.9	435 37.5	282 24.3	3.21
(21) 観光振興	1,161 100.0	153 13.2	326 28.1	406 35.0	276 23.8	3.57
(22) 地域情報化の推進(福祉・医療・生涯学習などさまざまな 区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1,161 100.0	157 13.5	345 29.7	365 31.4	294 25.3	3.80

重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

重要度評価点 = (「たいへん重要」の回答者数×10点 + 「比較的重要」の回答者数×5点
+ 「普通」の回答者数×0点) ÷ (回答者数 - 無回答者数)

この計算方法では、重要度の場合の評価点は、+10.00点～0点の間に分布し、+10.00点に近くなるほど重要度が高くなる。

問29 問28の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1～22までの番号)

上段：件数
下段：%

	全 体	(1) 子育て支援	(2) 障害者福祉	(3) 高齢者福祉・介護	(4) 保健衛生	(5) 男女共同参画社会の推進	(6) 住宅対策	(7) 公園・緑地・水辺の整備	(8) 消費者生活対策	(9) 環境保全・公害対策	(10) 清掃・リサイクル事業の推進	(11) 駐車場・駐輪場の整備	(12) 道路環境整備、交通安全対策	(13) 防災対策
第1位～第3位の累計	1,161 100.0	399 34.4	80 6.9	352 30.3	126 10.9	32 2.8	113 9.7	257 22.1	95 8.2	75 6.5	68 5.9	104 9.0	101 8.7	307 26.4
第1位	1,161 100.0	249 21.4	23 2.0	173 14.9	24 2.1	16 1.4	37 3.2	57 4.9	25 2.2	16 1.4	13 1.1	27 2.3	24 2.1	101 8.7
第2位	1,161 100.0	95 8.2	38 3.3	84 7.2	56 4.8	6 0.5	40 3.4	101 8.7	40 3.4	35 3.0	27 2.3	41 3.5	36 3.1	111 9.6
第3位	1,161 100.0	55 4.7	19 1.6	95 8.2	46 4.0	10 0.9	36 3.1	99 8.5	30 2.6	24 2.1	28 2.4	36 3.1	41 3.5	95 8.2
	(14) 防犯対策	(15) 再開発などによる地域整備	(16) 中小企業対策	(17) 学校教育の充実	(18) 青少年対策	(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	(20) コミュニティの育成	(21) 観光振興	(22) 地域生涯学習の情報化の推進(福祉・医療・)	無回答				
第1位～第3位の累計	207 17.8	122 10.5	45 3.9	175 15.1	25 2.2	95 8.2	26 2.2	59 5.1	50 4.3	167 14.4				
第1位	48 4.1	38 3.3	16 1.4	58 5.0	2 0.2	20 1.7	1 0.1	9 0.8	17 1.5	167 14.4				
第2位	70 6.0	30 2.6	14 1.2	66 5.7	12 1.0	28 2.4	12 1.0	20 1.7	9 0.8	190 16.4				
第3位	89 7.7	54 4.7	15 1.3	51 4.4	11 0.9	47 4.0	13 1.1	30 2.6	24 2.1	213 18.3				

*第1位～第3位の累計の無回答は第1位の値とした

上段：件数
下段：%

12 フェイスシート

F 1 性別（○は1つ）

全 体	男 性	女 性	無 回 答
1,161 100.0	455 39.2	690 59.4	16 1.4

F 2 年齢（○は1つ）

全 体	1 8 ～ 2 9 歳	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳	7 5 歳 以上	無 回 答
1,161 100.0	123 10.6	246 21.2	274 23.6	212 18.3	57 4.9	60 5.2	65 5.6	105 9.0	19 1.6

性／年齢別

全 体	男 性								女 性							性 別 ま た は 年 齢 無 回 答	
	1 8 ～ 2 9 歳	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳	7 5 歳 以上	1 8 ～ 2 9 歳	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳		7 5 歳 以上
1,161 100.0	47 4.0	96 8.3	118 10.2	90 7.8	24 2.1	21 1.8	24 2.1	35 3.0	76 6.5	150 12.9	156 13.4	122 10.5	33 2.8	39 3.4	41 3.5	70 6.0	19 1.6

F 3 あなたの職業は何ですか。（○は1つ）

全 体	自 営 業 （ 家 族 従 業 を 含 む ）	勤 め 人	ア ル バ イ ト ・ パ ー ト タ イ マ ー	無 職 （ 主 婦 ）	無 職 （ 学 生 ）	無 職 （ そ の 他 ）	無 回 答
1,161 100.0	136 11.7	636 54.8	99 8.5	162 14.0	24 2.1	86 7.4	18 1.6

上段：件数
下段：%

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。（〇は1つ）

全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域	無 回 答
1,161 100.0	258 22.2	353 30.4	533 45.9	17 1.5

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。（〇は1つ）

全 体	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	「6 具 体 的 人 数 以 上」 に 回 答 し て	無 回 答
1,161 100.0	286 24.6	380 32.7	280 24.1	160 13.8	31 2.7	3 0.3	2 0.2	19 1.6

F 6 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。（〇は1つ）

全 体	持 家		借 家						そ の 他	無 回 答
	一 戸 建	分 譲 マ ン シ ヨ ン	一 戸 建	公 共 住 宅 （ 区 立 、 区 営 、 都 営 、 公 社 、 都 市 再 生 機 構 （ 旧 公 団 ） ）	民 間 木 造 ア パ ー ト	民 間 鉄 筋 ア パ ー ト 、 マ ン シ ヨ ン	社 宅 、 官 舎 、 寮	間 借 り 、 住 込 み		
1,161 100.0	99 8.5	554 47.7	5 0.4	95 8.2	4 0.3	353 30.4	35 3.0	3 0.3	7 0.6	6 0.5

(F6で、「2 分譲マンション」「4 公共住宅」「5 民間木造アパート」「6 民間鉄筋アパート、マンション」「7 社宅、官舎、寮」とお答えの方に)

上段：件数
下段：%

F6-1 お住まいの階層

	全 体	1 階	2 階	3 階	4 階	5 階	6 階	7 階	8 階	9 階	1 0 階 以上	無 回 答	1 ～ 5 階	6 ～ 9 階	1 0 階 以上
分譲マンション	554 100.0	3 0.5	35 6.3	33 6.0	38 6.9	37 6.7	35 6.3	35 6.3	41 7.4	17 3.1	216 39.0	64 11.6	146 26.4	128 23.1	216 39.0
公共住宅	95 100.0	- -	4 4.2	3 3.2	3 3.2	3 3.2	5 5.3	3 3.2	2 2.1	2 2.1	44 46.3	26 27.4	13 13.7	12 12.6	44 46.3
民間木造アパート	4 100.0	1 25.0	2 50.0	- -	- -	1 25.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	4 100.0	- -	- -
民間鉄筋アパート、 マンション	353 100.0	4 1.1	27 7.6	30 8.5	30 8.5	27 7.6	30 8.5	24 6.8	28 7.9	23 6.5	98 27.8	32 9.1	118 33.4	105 29.7	98 27.8
社宅、官舎、寮	35 100.0	1 2.9	3 8.6	3 8.6	2 5.7	4 11.4	1 2.9	3 8.6	2 5.7	4 11.4	6 17.1	6 17.1	13 37.1	10 28.6	6 17.1

F7 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

全 体	ひとり暮らし	夫婦だけ(1世代)	夫婦と子どもだけ(2世代)	夫婦と子どもと親(3世代)	その他	無回答
1,161 100.0	270 23.3	307 26.4	454 39.1	21 1.8	103 8.9	6 0.5

F8 あなたの家族の状況は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

全 体	子どものいない夫婦	一番入学前の子どものみが小学校	一番小学生の子どものみが小・中	一番大学生の子どものみが高校・	一番卒業の子どものみが学校	独身	その他	無回答
1,161 100.0	249 21.4	144 12.4	119 10.2	86 7.4	163 14.0	299 25.8	57 4.9	44 3.8

ライフステージ

全 体	独身期	家族形成期	家族成長前期	家族成長後期	家族成熟期	老齡期	その他	無回答
1,161 100.0	116 10.0	222 19.1	119 10.2	86 7.4	85 7.3	169 14.6	311 26.8	53 4.6

VI 使用した調査票

区政世論調査ご協力をお願い

日頃から区政の推進にご理解・ご協力いただきまして、ありがとうございます。

このたび中央区では、「第50回区政世論調査」を行うことといたしました。

今回も、満18歳以上の区民の皆さま2,000人を対象に、防災対策、高齢者施策、子育て支援などについてご意見を伺い、今後の区政推進の基礎資料とするために実施するものです。

現在、社会全体が新型コロナウイルス感染症によりさまざまな影響を受けている状況ではありますが、区民の皆さまから区政に対するご意見をいただくことは、過去のデータとの比較をする上でも必要な調査となりますので、ご協力をお願いします。

調査は無記名で行い、結果は統計的数値としてまとめますので、個人のお名前や回答内容が外部に漏れるなど、ご迷惑をお掛けすることはありません。

また、今回、あなたにこの調査票をお送りしましたのは、区の住民基本台帳から統計的手法によって無作為に選ばせていただいた結果です。

調査の趣旨をご理解の上、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

令和2年9月

中央区企画部広報課

☆ご記入にあたってのお願い

- ◇ 調査票には、**宛名のご本人**がご記入ください。
- ◇ 濃いえんぴつ、ボールペンまたは万年筆でご記入ください。
- ◇ お答えは、あてはまる回答の番号に○を付けてください。なお、複数回答もごさいますので、○は（ ）の中に指定した個数まで付けてください。
- ◇ お答えの中で「その他」を選んだときは、その内容をできるだけ具体的に（ ）の中にご記入ください。
- ◇ 設問によってご回答いただく方が限られる場合がありますので、説明文や矢印に従ってご回答ください。特に説明のない場合は、次の設問にお進みください。

ご記入後の調査票は、同封の返信用封筒に入れて、10月14日(水)までにポストに投函してください。切手は不要です。

この調査についてご不明な点等がございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。



中央区役所 企画部 広報課 広聴係

〒104-8404 中央区築地1-1-1

電話 03-3546-5222 (直通)

第 50 回 区 政 世 論 調 査

1 定住性

問 1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|-------------|
| 1 3年未満 | 4 10～15年未満 | 6 20年以上 |
| 2 3～6年未満 | 5 15～20年未満 | 7 生まれてからずっと |
| 3 6～10年未満 | | |

問 2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|-----------|---------|
| 1 非常に感じる | 3 あまり感じない | 5 わからない |
| 2 少しは感じる | 4 感じない | |

問 3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|-------------|---------|
| 1 住み続けたい | 3 できれば転出したい | 5 わからない |
| 2 できれば住み続けたい | 4 転出したい | |

2 防災対策

問 4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------|
| 1 食料の備蓄 → () 日分 (1人1日3食分) |
| 2 飲料水の備蓄 → () 日分 (1人1日3ℓ分) |
| 3 簡易トイレの備蓄 → () 日分 |
| 4 家具類の転倒防止 |
| 5 消火器・救急セットなどの備え |
| 6 バールやハンマーなどの救助用工具の備え |
| 7 貴重品を持ち出す準備 |
| 8 風呂などへの水のため置き |
| 9 救命救助の講習会への参加 |
| 10 町会・自治会などの地域の防災訓練への参加 |
| 11 避難方法、避難場所の確認 |
| 12 家庭での連絡方法などの話し合い |
| 13 建物の補強 |
| 14 その他 (具体的に) |
| 15 特にない |

問5 大地震が発生した場合、家具の転倒やガラスの飛散により大けがをすることがあります。
あなたのご自宅では、どのような備えを行っていますか。(〇はいくつでも)

- 1 たんす、書棚など転倒しないよう固定している
- 2 テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している
- 3 窓や食器棚などのガラス面に飛散防止フィルムを貼っている
- 4 食器棚などに止め金具を付けている
- 5 家具の配置を工夫している
- 6 家具類がないため固定する必要がない
- 7 特に何もしていない

問6 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。
あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っている
- 2 知っているが、場所はわからない
- 3 知らない

(問6で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)

→ 問6-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が
防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、
災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っている
- 2 知っているが、活動内容はよくわからない
- 3 知らない

問7 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1 水・食料 | 9 スペースの確保 |
| 2 トイレ | 10 暑さ寒さ対策 |
| 3 プライバシー | 11 ペットの世話 |
| 4 家族・友人・知人などの安否 | 12 その他 |
| 5 災害状況・対策などの情報 | (具体的に) |
| 6 携帯電話などの充電設備 | 13 特にない |
| 7 医療・医薬品 | 14 わからない |
| 8 高齢者介護や乳幼児保育 | |

問8 大地震などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力したいと思う活動には何がありますか。(〇はいくつでも)

- 1 負傷者の応急手当
- 2 倒壊家屋などからの救出・救助
- 3 初期の消火活動
- 4 避難所での被災者の世話
- 5 救援物資の仕分けなどの防災活動への協力
- 6 外国語通訳・手話・建物の危険度判定など専門的技能を活用した活動
- 7 インターネットによる情報収集や伝達
- 8 その他の支援活動(具体的に)
- 9 協力したくない
- 10 わからない

問9 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 区のホームページ
- 2 防災マップアプリ
- 3 ちゅうおう安全・安心メール
- 4 インターネット
- 5 ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)
- 6 防災行政無線(屋外スピーカー)
- 7 緊急告知ラジオ
- 8 ケーブルテレビ
- 9 その他(具体的に)

※ 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、地域コミュニティFM放送局(中央エフエム)を活用して災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さんへ有償頒布を実施しています。

問10 区では、災害時に被災した区民が犬や猫のペットと一緒に避難所(防災拠点)に避難できる「ペット同行避難」の取り組みを進めています。あなたのご自宅ではペットを飼っていますか。

(〇はいくつでも)

- 1 犬を飼っている → (匹)
- 2 猫を飼っている → (匹)
- 3 犬、猫以外を飼っている → (ペットの種類)
- 4 飼っていない

3 健康診査

※ 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。

問11 あなたが加入している健康保険は次のどれですか。(○は1つ)

- 1 中央区国民健康保険
- 2 国民健康保険組合（自営業などの業種ごとに加入する健康保険）
- 3 健康保険組合
- 4 協会けんぽ（全国健康保険協会）
- 5 共済組合
- 6 後期高齢者医療制度
- 7 その他（具体的に)

問12 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。(○はいくつでも)

- 1 区で実施している健康診査を受けた
- 2 勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた
- 3 加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた
- 4 個人で人間ドックなどを受けた
- 5 学校で実施する健康診査を受けた
- 6 その他で受けた
- 7 健康診査は受けていない

（問12で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に）

→ 問12-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない
- 2 受診方法がわからない
- 3 必要がない
- 4 時間がない
- 5 面倒である
- 6 健康に自信がある
- 7 病気で医者にかかっている
- 8 検査がいや
- 9 病気と診断されるのが怖い
- 10 費用がかかる
- 11 その他（具体的に)

問13 あなたは、この1年間（婦人科は2年間）にがん検診を受けましたか。（○はいくつでも）

- 1 区で実施しているがん検診を受けた
- 2 勤務先（家族の勤務先を含む）で実施するがん検診を受けた
- 3 加入している健康保険組合などで実施するがん検診を受けた
- 4 個人で人間ドックなどを受けた
- 5 学校で実施するがん検診を受けた
- 6 その他で受けた
- 7 がん検診は受けていない

（問13で、「1」から「6」のがん検診を受けたとお答えの方に）

→ 問13-1 がん検診の内容は次のどれですか。（○はいくつでも）

- 1 胃がん
- 2 肺がん
- 3 大腸がん
- 4 子宮頸がん
- 5 乳がん
- 6 前立腺がん
- 7 その他（具体的に)

（問13で、「7 がん検診は受けていない」とお答えの方に）

---> 問13-2 あなたががん検診を受けなかった理由は何ですか。（○はいくつでも）

- 1 勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない
- 2 受診方法がわからない
- 3 必要がない
- 4 時間がない
- 5 面倒である
- 6 健康に自信がある
- 7 病気で医者にかかっている
- 8 検査がいや
- 9 病気と診断されるのが怖い
- 10 費用がかかる
- 11 その他（具体的に)

4 高齢者施策

問14 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

(もっとも近い考え1つに○)

- | | | |
|---|-------------------------------------|---|
| 1 | 主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい | |
| 2 | 主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい | |
| 3 | 高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい | |
| 4 | 特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい | |
| 5 | 介護付き有料老人ホームに入りたい | |
| 6 | その他（具体的に |) |
| 7 | わからない | |

問15 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---|------------------------------------|
| 1 | 健康づくり・介護予防の充実 |
| 2 | 就労・社会参加の促進 |
| 3 | 在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実 |
| 4 | 特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致 |
| 5 | 高齢者向け住宅の整備・誘致 |
| 6 | ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援 |
| 7 | 低所得者への経済的支援 |
| 8 | 特になし |

問15-1 問15で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

--

5 子育て支援

問16 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(○は2つまで)

1	配偶者・パートナー
2	その他の親族
3	職場の人
4	隣近所の人、知人、友人
5	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間
6	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生
7	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設
8	(健診時などで) 保健所、保健センターの担当者
9	その他 (具体的に _____)
10	特に相談しない
11	子育てを経験していない

※ 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

問17 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。(○は2つまで)
また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。(○はいくつでも)

	重要と考えるもの (○は2つまで)	さらに充実を図る必要 があるとするもの (○はいくつでも)
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9
10	10	10
11	11	11
12	12	12

※ 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。
(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

問17-1 あなたが問17で重要と考えるものに○をした選択肢も含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

6 男女共同参画社会

※ 男女共同参画社会 男女が、その人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会です。

問18 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。

(○はそれぞれ1つつ)

	1 女性が優遇されている	2 どちらかといえは 女性が優遇されている	3 平等になっている	4 どちらかといえは 男性が優遇されている	5 男性が優遇されている
(記入例) (1) 家庭では	1	2	③	4	5
(1) 家庭では	1	2	3	4	5
(2) 職場では	1	2	3	4	5
(3) 学校教育の場では	1	2	3	4	5
(4) 政治の場では	1	2	3	4	5
(5) 法律や制度では	1	2	3	4	5
(6) 社会通念・慣習・しきたりでは	1	2	3	4	5
(7) 自治会やPTAなどの地域活動では	1	2	3	4	5
(8) 社会全体では	1	2	3	4	5

問19 あなた自身の「仕事」と「家庭生活」について、現状は次のどれにあてはまりますか。

(○は1つ)

※ 仕事と家庭生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

仕事と仕事以外の家庭生活とのバランスを図ることにより、家庭や地域活動などに参加できる時間を確保しながら充実した生活を送ることが重要であるという考え方です。

- | | | |
|---|--------------------------|---|
| 1 | 仕事を優先している | |
| 2 | どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している | |
| 3 | 仕事と家庭生活を同じように両立させている | |
| 4 | どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している | |
| 5 | 現在仕事をしていない | |
| 6 | その他（具体的に |) |

7 防犯対策

問20 あなたの住む地域で不安に感じる具体的犯罪は何ですか。(○は2つまで)

- | | | | |
|---|------------------|----|-------------|
| 1 | ひったくり | 9 | 痴漢・強制わいせつ |
| 2 | 空き巣 | 10 | 少年犯罪 |
| 3 | 強盗 | 11 | 子どもの誘拐・連れ去り |
| 4 | すり・置き引き | 12 | 暴力団員による犯罪 |
| 5 | 自動車（自転車）泥棒・車上ねらい | 13 | 悪質な客引き |
| 6 | 振り込め詐欺 | 14 | その他 |
| 7 | 傷害・暴行 | | (具体的に |
| 8 | 放火 | 15 | 特にない |

問21 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している
- 2 区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている
- 3 何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている
- 4 日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている
- 5 防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している
- 6 警備会社などのセキュリティシステムを利用している
- 7 エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている
- 8 その他 (具体的に)
- 9 特に何もしていない

問22 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(○は2つまで)

- 1 区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信
- 2 住まいの防犯設備整備費用の助成
- 3 自動通話録音機の無料貸出しなどの振り込め詐欺防止対策
- 4 地域の防犯カメラや街路灯設置の推進
- 5 防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動
- 6 学校や児童館などの子どもの安全対策
- 7 通学路や公園などの安全対策
- 8 地域の防犯パトロール活動などへの支援
- 9 その他 (具体的に)
- 10 特にない

8 スポーツ

問23 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。(〇はいくつでも)

※ 運動の量や時間の条件はありません。

- 1 水泳 (水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む)
- 2 体操 (ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など)
- 3 ジョギング、マラソン
- 4 ウォーキング、散歩 (散策、ペットの散歩などを含む)
- 5 マシントレーニング (ランニングマシーン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動)
- 6 武道 (柔道、剣道、空手など)
- 7 テニス、ソフトテニス
- 8 屋内球技 (バレーボール、バドミントン、卓球など)
- 9 屋外の球技 (野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど)
- 10 ゴルフ
- 11 ハイキング、キャンプ、登山など
- 12 スキー、スノーボード、スケートなど
- 13 海水浴 (遊水)
- 14 シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど
- 15 釣り
- 16 ボーリング
- 17 サイクリング
- 18 ニュースポーツ (グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など)
- 19 ダンス (フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む)
- 20 その他 (具体的に)
- 21 スポーツや運動はしなかった

(問23で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

-> 問23-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(〇は1つ)

- | | |
|------------|--------------------------|
| 1 週に3日以上 | 4 3カ月に1～2日程度 (年に4～11日程度) |
| 2 週に1～2日程度 | 5 年に1～3日程度 |
| 3 月に1～3日程度 | |

問24 あなたは、区民のスポーツへの参加の機会を増やすために、区は今後どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(○は3つまで)

- | | |
|----|--------------------------------|
| 1 | スポーツ施設の増設・充実 |
| 2 | 学校体育施設の開放・整備 |
| 3 | 施設利用時間の拡大 |
| 4 | スポーツ行事・大会・教室の開催 |
| 5 | 障害のある人を対象としたスポーツ教室や体験会の開催 |
| 6 | 地域スポーツクラブの設立や活動に対する支援 |
| 7 | 年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及 |
| 8 | 一人でも参加できるスポーツの場の提供 |
| 9 | 公共スポーツ施設での健康・体力相談体制の整備 |
| 10 | 区内のスポーツに関する情報発信 |
| 11 | 指導者・ボランティアなどスポーツ活動を「ささえる」人材の育成 |
| 12 | スポーツ観戦の機会の提供など「みる」スポーツの推進 |
| 13 | その他 (具体的に _____) |
| 14 | わからない |

※ 地域スポーツクラブ 地域が主体となって運営し、学校など身近な施設において子どもから大人まで誰もが気軽にスポーツ、レクリエーション、文化活動を楽しめるスポーツクラブです。地域の皆さんは、会員、運営スタッフ、指導者としてクラブに参加することができます。中央区では平成25年2月に月島地域を拠点とする「中央区地域スポーツクラブ大江戸月島」が設立されました。

9 築地魚河岸

※ 築地魚河岸 築地市場が移転しても築地の活気とにぎわいを絶やさないために、区が『食のプロに支持され、一般客・観光客にも親しまれる、食のまち「築地」のにぎわいの拠点となる施設』として築地場外に開設した生鮮市場です。目利きのプロである54の事業者が厳選した高品質の水産物や青果物を販売しています。

問25 「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------------|
| 1 よく行っている | 3 知っているが、行ったことがない |
| 2 行ったことがある | 4 「築地魚河岸」を知らない |

(問25で、「1 よく行っている」または「2 行ったことがある」とお答えの方に)

→ 問25-1 「築地魚河岸」に行った目的は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 1階の店舗で買い物をするため | 3 イベントに参加するため |
| 2 魚河岸食堂で食事をするため | 4 その他 (具体的に _____) |

10 広報

問26 区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」は月3回発行しています。

あなたは広報紙を読んだことがありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|------------|
| 1 よく読んでいる | 4 読んだことがない |
| 2 たまに読んでいる | 5 わからない |
| 3 読んだことがある | → 問27へ |

(問26で、「1 よく読んでいる」「2 たまに読んでいる」「3 読んだことがある」とお答えの方に)

→ 問26-1 広報紙を何で読んでいますか。(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1 紙媒体(町会・自治会配布、新聞折り込み、区施設や地下鉄駅などでの配布) |
| 2 電子媒体(区ホームページに掲載、スマートフォン用アプリ「中央区版 マイ広報紙」「マチイロ」で配信) |

※ 中央区版 マイ広報紙 広報紙を記事ごとに文字データ化しているため、読みたい記事を簡単に探すことができます。

※ マチイロ 広報紙を電子書籍として、そのままの形で読むことができます。

(問26で、「4 読んだことがない」とお答えの方に)

--> 問26-2 読んだことがない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 広報紙の存在を知らないから | 4 内容が面白くなさそうだから |
| 2 入手方法がわからないから | 5 その他 |
| 3 読む必要がないから | (具体的に) |

問27 あなたは、区のサービスやイベントなどの区政情報をどのように入手していますか。

(○はいくつでも)

- | |
|---------------------------------------|
| 1 区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」(紙版、電子版いずれも含みます) |
| 2 わたしの便利帳 |
| 3 区のパンフレットやチラシなどの印刷物 |
| 4 区のホームページ |
| 5 区の広報掲示板 |
| 6 町会・自治会の掲示板や回覧板など |
| 7 ケーブルテレビの区提供番組「こんにちは 中央区です」 |
| 8 コミュニティFMラジオ中央エフエムの区提供番組「中央区からのお知らせ」 |
| 9 区の公式SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム) |
| 10 その他(具体的に) |
| 11 入手していない |

11 施策の要望・評価

問28 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	満 足 度					重 要 度		
	1 満 足	2 やや 満足	3 普 通	4 やや 不満	5 不 満	1 たい へん 重要	2 比 較 的 重要	3 普 通
(記入例) (1) 子育て支援	①	2	3	4	5	①	2	3
(1) 子育て支援	1	2	3	4	5	1	2	3
(2) 障害者福祉	1	2	3	4	5	1	2	3
(3) 高齢者福祉・介護	1	2	3	4	5	1	2	3
(4) 保健衛生	1	2	3	4	5	1	2	3
(5) 男女共同参画社会の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(6) 住宅対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(8) 消費者生活対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(9) 環境保全・公害対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(13) 防災対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(14) 防犯対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(15) 再開発などによる地域整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(16) 中小企業対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(17) 学校教育の充実	1	2	3	4	5	1	2	3
(18) 青少年対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(20) コミュニティの育成	1	2	3	4	5	1	2	3
(21) 観光振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(22) 地域情報化の推進 〔福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など〕	1	2	3	4	5	1	2	3
(23) 区の施策を総合的に見ると	1	2	3	4	5			

問29 問28の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。

1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1～22までの番号)

第 1 位	第 2 位	第 3 位

<フェイスシート>

多くの設問にお答えいただきありがとうございました。あと少しお聞かせください。

これからお聞きすることは、これまでのお答えの内容を統計的に分類するためのものです。
ご協力をお願いします。

F 1 性別 (○は1つ)

1 男性	2 女性
------	------

F 2 年齢 (○は1つ)

1 18～29歳	3 40歳代	5 60～64歳	7 70～74歳
2 30歳代	4 50歳代	6 65～69歳	8 75歳以上

F 3 あなたの職業は何ですか。(○は1つ)

1 自営業 (家族従業を含む)	3 アルバイト・パートタイマー	5 無職 (学生)
2 勤め人	4 無職 (主婦)	6 無職 (その他)

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 京橋地域 (八重洲2丁目、京橋、銀座、新富、入船、湊、明石町、築地、浜離宮庭園、八丁堀、新川)
2 日本橋地域 (本石町、室町、本町、小舟町、小伝馬町、大伝馬町、堀留町、富沢町、人形町、小網町、蛸殻町、箱崎町、馬喰町、横山町、東日本橋、久松町、浜町、中洲、八重洲1丁目、日本橋、茅場町、兜町)
3 月島地域 (佃、月島、勝どき、豊海町、晴海)

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つ)

1 1人	3 3人	5 5人
2 2人	4 4人	6 6人以上 (人)

F 6 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

持家	1	一戸建	
	2	分譲マンション (階)	
借家	3	一戸建	
	4	公共住宅 (区立、区営、都営、公社、都市再生機構 (旧公団)) (階)	
家	5	民間木造アパート (階)	
	6	民間鉄筋アパート、マンション (階)	
	7	社宅、官舎、寮 (階)	
	8	間借り、住込み	
	9	その他 (具体的に)	

F 7 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1	ひとり暮らし	
2	夫婦だけ (1世代)	
3	夫婦と子どもだけ (2世代)	
4	夫婦と子どもと親 (3世代)	
5	その他 (具体的に)	

F 8 あなたの家族の状況は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1	子どものいない夫婦	
2	一番上の子どもが小学校入学前	
3	一番上の子どもが小・中学生	
4	一番上の子どもが高校・大学生	
5	一番上の子どもが学校卒業	
6	独身	
7	その他 (具体的に)	

※ご協力ありがとうございました。

調査結果は、中央区ホームページで公表いたします。

調査結果の概要版が必要な方は、以下の欄に住所・氏名をご記入ください。

概要版ができ次第、送付いたします。(令和3年2月下旬予定)

住 所 中央区 _____

氏 名 _____

第50回 中央区政世論調査 報告書

令和3年2月

刊行物登録番号

02-085

- 発行 中央区企画部広報課
中央区築地1丁目1番1号
電話 03(3546)5222(直通)
- 実施 株式会社エスピー研
千代田区飯田橋3丁目11番20号
電話 03(3239)0071(代表)
-